男女共同参画に関する意識調査報告書

令和２年１月

福　　島　　市

目　　次

Ⅰ．調査の概要---------- 1

Ⅱ．調査結果の概要---------- 7

Ⅲ．調査結果の分析---------- 19

１　男女平等意識について---------- 19

２　家庭・結婚観、地域活動について---------- 42

３　女性活躍の推進について---------- 79

４　職業・就労について---------- 88

５　子どもの教育について---------- 100

６　介護について---------- 108

７　人権について---------- 114

８　防災について---------- 150

９　男女共同参画に関する施策について ---------- 152

１０　自由意見のまとめ ---------- 168

資料編---------- 173

Ⅰ．調査の概要

Ⅰ．調査の概要

１．調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識及びニーズについて、前回の意識調査（平成２６年度実施）、国（内閣府）及び福島県と比較検討し、市民の意識や実態を把握することにより、「男女共同参画ふくしまプラン」の推進及び今後実施する本市における男女共同参画施策を効果的に進めるための基礎資料とすることを目的とする。

２．調査の項目

（１）属性（性別、年齢、職業、婚姻、共働き状況）
（２）男女平等意識について
（３）家庭・結婚観、地域活動について
（４）女性活躍の推進について
（５）職業・就労について
（６）子どもの教育について
（７）介護について
（８）人権について
（９）防災について
（１０）男女共同参画に関する施策について

３．調査の設計

（１）調査地域　福島市全域
（２）調査対象　福島市在住の満１８歳以上の男女
（３）調査対象数　２，５００人（男女各１，２５０人）
（４）抽出方法　福島市内に住所のある方から無作為抽出
（５）調査方法　郵送による配布・回収（礼状兼督促状１回送付）
（６）調査期間　令和元年７月８日～　７月３１日

４．回収結果

（１）標本数　　２，５００人（男性１，２５０人、女性１，２５０人）
（２）回収数　　１，０２６人
（３）有効回収数　　１，０２６人
（４）有効回収率　４１．０％（＝１，０２６人／２，５００人）
（５）無効回収数　２人（締め切り日後に回収）

５．数値の基本的な取扱について

（１）比率はすべて百分率で表し、小数点第 2 位以下を四捨五入している。したがって、その合計が 100%にならないことがある。

（２）基礎となるべき実数は“ｎ＝○○○”として掲載し、各比率はｎを 100%として算出している。

（３）１人の回答者が２つ以上の回答ができる質問（複数回答）では、回答率の合計が 100%を超える。

（４）全国調査結果と比較した図表では、全国調査に合わせて「無回答」を省略した部分があるため、区分ごとの実数の合計（ｎの値）が全体の標本数と一致しないことがある。

６．その他の欄および自由記入欄一覧

設問の中で「その他」に記入された具体的な書込みと、自由記入欄への意見等については、巻末にそれぞれ一覧表として整理している。

７．比較を行った調査の概要

本調査の分析にあたり、比較できる項目について、次の調査結果との比較を行っている。

（Ⅰ）『男女共同参画に関する意識調査』・・・福島市（平成 26 年度実施）

（１）調査地域　　福島市全域
（２）調査対象　　福島市在住の満 20 歳以上の男女
（３）調査対象者数　2,600 人
（４）抽出方法　　福島市住民基本台帳より無作為抽出
（５）調査方法　　郵送による配布・回収、礼状兼督促状１回送付
（６）調査期間　　平成 26 年 7 月 9 日～　7 月 31 日
（７）有効回収数　986 人
（８）有効回収率　37.9%

なお、本調査では、以降「前回調査」と表記。

（Ⅱ）『男女共同参画・配偶者等からの暴力に関する意識調査』・・・福島県（平成 26 年度実施）

（１）調査地域　　福島県全域（34 市町村を抽出）
（２）調査対象　　20 歳以上の男女個人
（３）調査対象数　2,000 人
（４）抽出方法　　層化二段無作為抽出法
（５）調査方法　　郵送法（配布・回収とも郵送）による自記式のアンケート調査
（６）調査期間　　平成 27 年 1 月 5 日～　1 月 16 日
（７）有効回収数　744 人
（８）有効回収率　37.2%

なお、本調査では、以降「福島県調査」と表記。

（Ⅲ）「男女共同参画社会に関する世論調査」・・・内閣府（平成 28 年度実施）

（１）調査対象　　①母集団　　全国 18 歳以上の日本国籍を有する者

②標本数　　5,000 人

（２）調査期間　　平成 28 年 8 月 25 日～9 月 11 日

（３）調査方法　　調査員による個別面接聴取

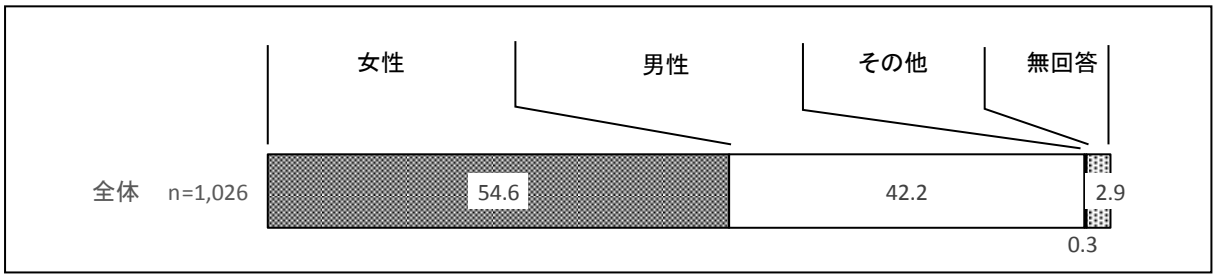
（４）回収結果　　①有効回収数　3,059 人

②回収率　　61.2％

８．回答者の構成

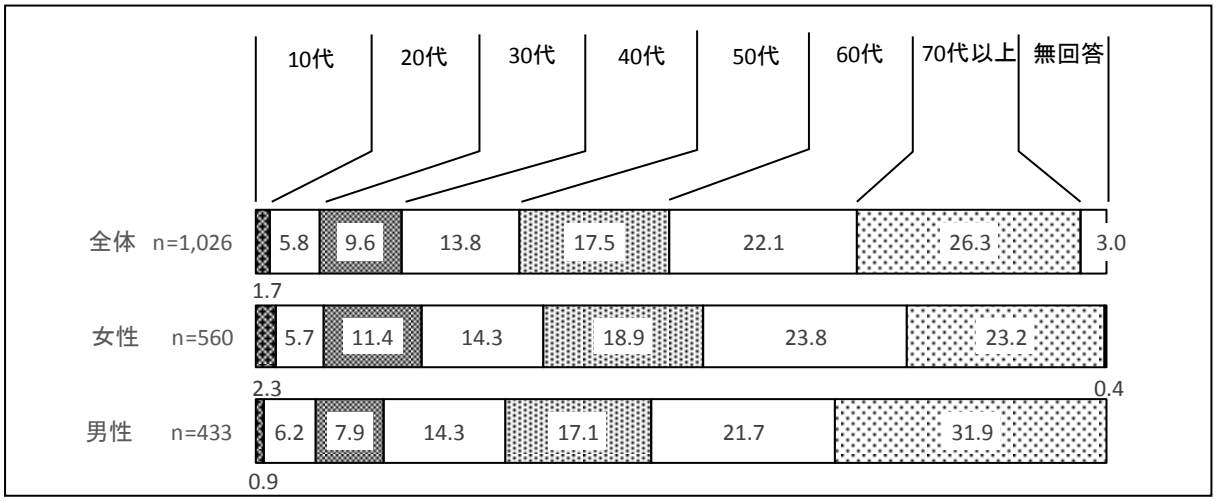
（１）性別

回答者 1,026 人については、「女性」が 54.6％、「男性」42.2％、「その他」0.3％、「無回答」2.9％である。



（２）年齢

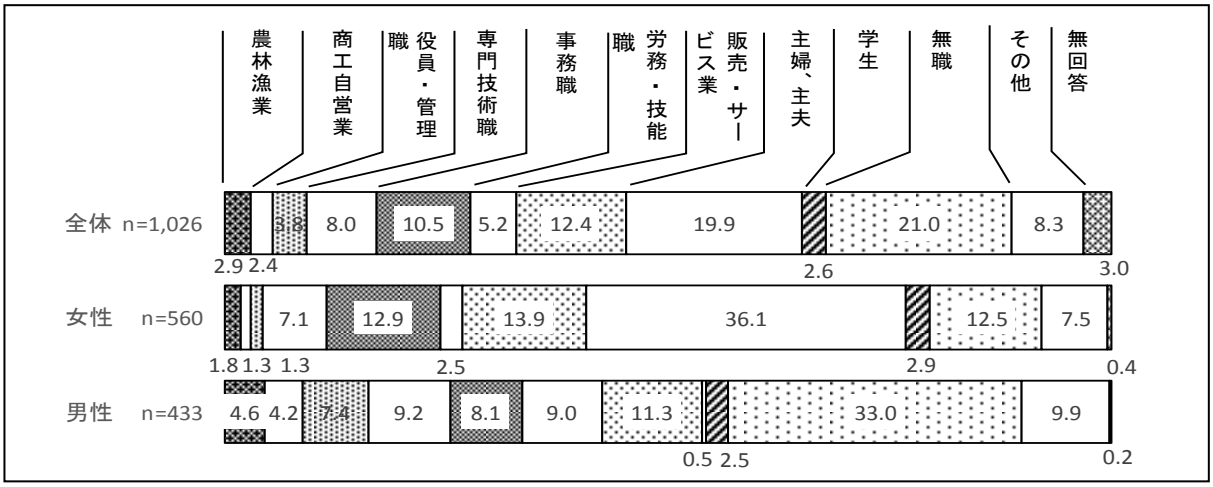
全体としては、最も多いのが「70 代以上」の 26.3％、最も少ないのが「10 代」で 1.7％である。性別でみると、女性では「60 代」の 23.8％と「70 代以上」の 23.2％、男性は「70 代以上」の 31.9％が最も多い。



（３）職業

全体では、「無職」の 21.0%が最も多く、以下、「主婦・主夫」の 19.9%、「販売・サービス業」の 12.4%、「事務職」の 10.5%と続く。

性別でみると、女性は「主婦・主夫」の 36.1%、男性は「無職」の 33.0%が最も多い。



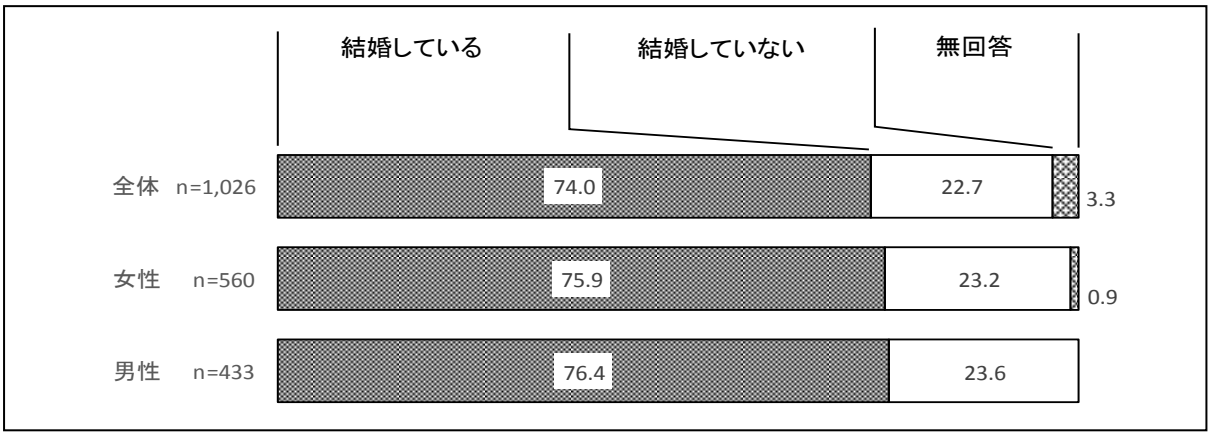
年代別でみると、「無職」は男女ともに 70 代以上が中心であり、「主婦・主夫」は女性の 60 代、70 代以上の過半数を占める。また、「事務職」は女性の 20 代から 40 代に多く、「専門技術職」は男性の 20 代、30 代に多い。

＜女性＞		合計	農林漁業	商工自営業	役員・管理職	専門技術職	事務職	労務・技能職	販売・サービス業	主婦、主夫	学生	無職	その他	無回答
全体		560	1.8	1.3	1.3	7.1	12.9	2.5	13.9	36.1	2.9	12.5	7.5	0.4
年齢別	10代	13	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0
	20代	32	－	－	－	9.4	31.3	6.3	31.3	6.3	15.6	－	－	－
	30代	64	－	－	－	14.1	21.9	－	21.9	31.3	－	3.1	7.8	－
	40代	80	－	－	－	11.3	26.3	3.8	22.5	23.8	－	3.8	8.8	－
	50代	106	1.9	2.8	3.8	11.3	16.0	5.7	16.0	27.4	－	4.7	10.4	－
	60代	133	4.5	1.5	－	3.8	6.8	0.8	11.3	50.4	－	9.8	10.5	0.8
	70代以上	130	1.5	1.5	2.3	1.5	0.8	0.8	2.3	50.0	－	35.4	3.8	0.0

＜男性＞		合計	農林漁業	商工自営業	役員・管理職	専門技術職	事務職	労務・技能職	販売・サービス業	主婦、主夫	学生	無職	その他	無回答
全体		433	4.6	4.2	7.4	9.2	8.1	9.0	11.3	0.5	2.5	33.0	9.9	0.2
年齢別	10代	4	－	－	－	－	－	－	－	－	75.0	－	25.0	－
	20代	27	3.7	－	－	22.2	11.1	11.1	14.8	－	29.6	－	7.4	－
	30代	34	2.9	－	2.9	29.4	20.6	5.9	23.5	－	－	－	14.7	－
	40代	62	－	1.6	12.9	14.5	17.7	16.1	21.0	1.6	－	－	14.5	－
	50代	74	－	5.4	20.3	14.9	10.8	14.9	16.2	－	－	8.1	9.5	－
	60代	94	5.3	10.6	6.4	3.2	5.3	13.8	6.4	1.1	－	38.3	9.6	－
	70代以上	138	9.4	2.2	1.4	0.7	0.7	－	4.3	－	－	73.2	7.2	0.7

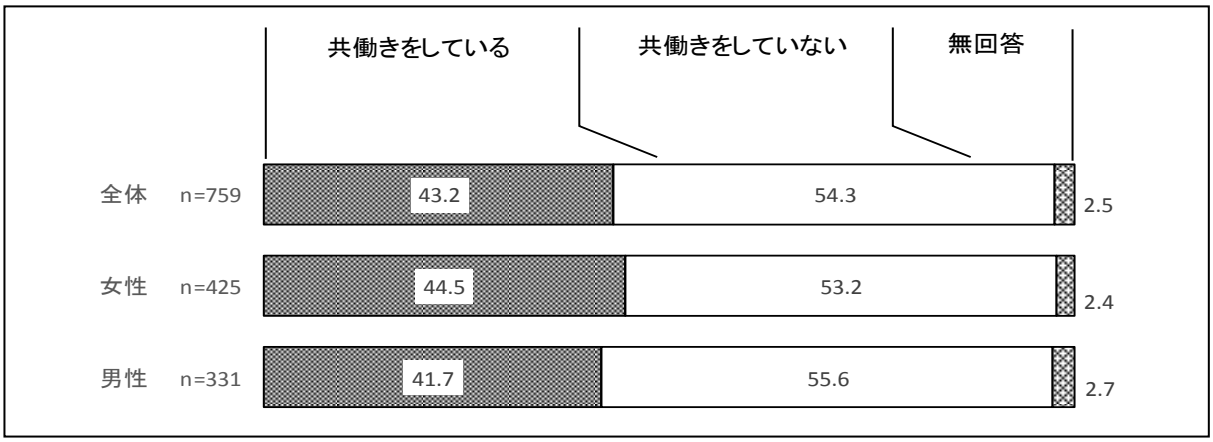
（４）婚姻状況

「結婚している」が約７割、「結婚していない」が約２割である。



（５）共働き状況

結婚している方のうち、「共働き」の人は４割強、「共働きしていない」人は過半数を占める。



Ⅱ．調査結果の概要

Ⅱ．調査結果の概要

１．男女平等意識について

（１）男女の地位の平等に関する意識

“男性優遇※”の割合が特に高いのが、「社会通念、慣習、しきたり」（79.3%）、「政治の場」（73.7%）、「社会全体」（73.3%）の分野で、次いで、「職場」（55.5%）、「家庭生活」（55.1%）が５割前後で続く。

一方、“男女平等である”の割合は、「学校教育の場」（50.8%）が最も高く、以下、「地域活動の場」・「法律や制度上」、「家庭生活」が３割前後で続く。

なお、“女性優遇※”の割合は、いずれの分野でも１割未満と少ない。

（※“男性優遇”とは、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合の合計。“女性優遇”とは、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」の割合の合計。）

男女別で見ると、「家庭生活」、「地域活動の場」、「法律や制度上」、「政治の場」、「社会全体」などは女性の“男性優遇”割合が男性を大きく上回り、一方、「地域活動の場」や「法律や制度上」、「政治の場」における“男女平等である”の割合が男性の方が大きい。

年代別でみると、“男性優遇”は全体的に中高年代の方の割合が高く、特に、「家庭生活」や「職場」、「地域活動の場」、「法律や制度上」、「社会全体」で顕著である。

「家庭生活」と「社会通念、慣習、しきたり」における、“男性優遇”の割合は全国と福島県を上回り、「地域活動の場」でも全国を上回る。

（２）女性が職業を持つことについて

「子どもができても、ずっと職業を続けるほうが良い」（48.3%）が最も多く、次いで、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうが良い」（28.0%）で、回答はこの両者が大半を占める。

「子どもができても、ずっと職業を続けるほうが良い」は、性別や年代に関わらず一様に高い割合を示し、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうが良い」は、60 代、70 代以上の高年代での割合が特に多い。

（３）女性がもっと増えたほうが良いと思う職業や役職

「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」（42.8%）をトップに、以下、「都道府県、市町村の首長」（31.0%）、「企業の管理職」（27.7%）、「医師・歯科医師」（27.2%）と続き、上位を占める。

性別でみると、「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」や「都道府県、市町村の首長「企業の管理職」の割合は男女ともほぼ同じであるが、「医師・歯科医師」は女性が、「自治会長・町内会長」は男性がそれぞれ大きく上回る。

年代別では、「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」の場合、どの年代も 4 割以上と多く、「都道府県、市町村の首長」では 30 代～50 代の中年代の割合が多い。

２．家庭・結婚観、地域活動について

（１）結婚、家庭、離婚に関する考え方

“賛成派※”の割合は、「結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである」（86.5%）に続き、「男性も育休を積極的にとるべきである」（74.0%）、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」（65.9%）が上位にある。一方、“反対派※”の大きいのは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」（61.3%）で、また、“賛成派”と“反対派”に分かれているのが、「女性が仕事を持つのはよいが、家事・育児等と両立させるべきである」と「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」である。

（※“賛成派”とは、「賛成（そう思う）」と「どちらかといえば賛成（そう思う）」の割合の合計。“反対派”とは、「反対（そう思わない）」と「どちらかといえば反対（そう思わない）」の割合の合計。）

「結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである」の“賛成派”は、女性の割合が男性を上回り、また、どの年代も一様に高い。

「男性も育休を積極的にとるべきである」では、女性と男性の割合はほぼ同じで、かつ 10 代、20 代の若い年代で特に高く、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」では、女性の割合が男性を上回るとともに、10 代～40 代の若い年代ほど高い。

（２）家庭における家事、育児や介護等の役割分担

“主に妻”の割合が、最も大きいのが「食事の用意」（70.6%）、次いで「洗濯」（66.2%）である。また、「あとかたづけ」と「掃除」も過半数を占める。

一方、“夫婦で”の割合が大きいのは、「地域の行事参加や近所とのつきあい」（31.0%）や「日常の買い物」（28.7%）、「子どもの世話や教育」（28.3%）であり、“主に夫”は、「地域の行事参加や近所とのつきあい」（20.6%）に多い。

“主に妻”とする割合が、男女で差があり、女性が男性を上回るのが「あとかたづけ」、「掃除」、「日常の買い物」、「家族の世話や介護」で、男女ともほぼ同じ割合にあるのが「食事の用意」と「洗濯」である。

年代別でみると、「食事の用意」では“主に妻”とする割合がどの年代でも高く、また、「洗濯」では 50 代以上の中高年代で、「日常の買い物」では、10 代及び 30 代、40 代の中年代に多い。

（３）男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(66.5%) が最も多く、以下、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(58.0%)、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを普及させ、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」(48.2%)、「社会の中で、男性の家事、育児、介護、地域活動などについても、その評価を高めること」(47.2%) が上位を占める。

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は、それぞれ女性の割合が男性を上回るとともに、10 代と 20 代、50 代の割合が特に高くなっている。

（４）職業以外におこなっている活動

「特にない」(50.9%) が、ほぼ半数で最も多い。以下、「趣味、サークル、スポーツ等の活動」(29.0%)、「自治会、町内会の役員」(12.9%) が続き、「各種ボランティア、ＮＰＯ」(5.8%) などこの他の活動は少ない。

男女別でみると、「特にない」と「趣味、サークル、スポーツ等の活動」は、男女ともほぼ同じ割合であるが、「自治会、町内会の役員」は、男性の割合が女性を大きく上回る。

年代別でみると、「趣味、サークル、スポーツ等の活動」は、10 代と 60 代、70 代以上の高年代で、「自治会、町内会の役員」は中高年代の割合が多い。

（５）職業以外の活動に参加していない理由

「仕事が忙しく時間がないから」(26.2%) が最も多く、以下、「特に理由はない」(20.1%)、「健康に自信がないから」(12.9%)、「やりたい活動がないから」(10.6%) が続く。

また、その他の欄への記入では、「身体に障害有り・療養中」、「高齢のため」、「孫の面倒をみているため」等が多い。

性別でみると、「仕事が忙しく時間がないから」の割合は、男性が女性を大きく上回り、「特に理由はない」は女性と男性がほぼ同じ、「健康に自信がないから」や「介護の必要な家族がいるため」では、女性の方の割合が高い。

年代別では、「仕事が忙しく時間がないから」は、40 代が最も多く、「特に理由はない」は若い年代に、「健康に自信がないから」は 70 代以上で特に多い。

３．女性活躍の推進について

（１）女性の活躍状況

“活躍派※”(60.0%) が“活躍していない派※”(34.0%) を 26.0 ポイントと大きく上回る。

（※“活躍派”とは、「活躍している」と「どちらかといえば活躍している」の割合の合計、“活躍していない派”とは、「活躍していない」と「どちらかといえば活躍していない」の割合の合計。）

性別でみると、“活躍派”の割合は、男性が女性を 4.5 ポイント上回るなど、男女での評価に差がある。

また、どの年代も、“活躍派”の割合が“活躍していない派”を上回るとともに、“活躍派”は 10 代～40 代の若い年代で、“活躍していない派”は、60 代、70 代以上の高年代での割合が大きい。

（２）活躍していると感じる理由

「管理職でないが活躍する女性が増えている」(53.6%) が過半数を占め圧倒的に多く、以下、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」(27.9%)、「女性のキャリア意識が広がっている」(25.0%) が続く。

性別でみると、「管理職でないが活躍する女性が増えている」や「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」、「女性のキャリア意識が広がっている」の割合は、女性の方が男性より多い。

年代別では、「管理職でないが活躍する女性が増えている」は、10 代と 20 代（60.9%）及び 40 代（63.6%）と 50 代で特に多く、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」は、30 代～50 代の子育て世代に多い。

（３）活躍していないと感じる理由

「男性優位の考え方が変わっていない」(39.0%) をトップに、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」(31.1%)、「女性の職域が限定的である」(28.2%) が上位を占める。

性別でみると、「男性優位の考え方が変わっていない」と「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」は、女性の割合が男性よりやや多いが、「女性の職域が限定的である」と「女性の経営者や管理職が少ない」、「女性のキャリア意識が向上していない」では、男性が女性を大きく上回る。

年代別では、「男性優位の考え方が変わっていない」は、20 代が最も多く、50 代と 60 代(43.2%) がこれに続く。また、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」は、10 代（50.0%)、20 代（57.1%）の若い年代で特に高い。

（４）女性の活躍に必要なこと

「女性の育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」(49.2%) が最も多く、以下、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」(38.9%)、「保育施設、保育サービスが充実していること」(36.9%) が続く。

性別でみると、「女性の育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」をはじめ、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」、「保育施設、保育サービスが充実していること」、「男性が家事・育児に参加すること」は、いずれも女性の割合が

男性より多い。

年代別では、「女性の育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」とする割合は、70 代以上を除く全ての年代で 5 割台と高く、また、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」は、どの世代も 3 割～4 割を占める。

４．職業・就労について

（１）仕事と生活についての考え方（理想）と現実（現状）

「考え方（理想）」は、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を全てバランス良く行う”（32.1%）と“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”（29.6%）に集中している。

一方、「現実（現状）」では、“「仕事」を優先”（35.7%）が最も多く、次いで“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”（15.5%）、“「家庭生活」を優先”（15.2%）が続く。

○考え方（理想）

男女別でみると、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を全てバランス良く行う”と“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”の割合は、男女でほとんど差はない。

年代別では、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を全てバランス良く行う”は、40 代～60 代の中年代の割合が多く、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”は、10 代～30 代の若い年代の割合が高い。

○現実（現状）

性別でみると、“「仕事」を優先”の割合は、男性（48.0%）が女性（26.4%）を大きく 21.6 ポイント上回り、“「家庭生活」を優先”は、女性（21.3%）が男性（8.3%）を 13.0 ポイント上回る。また、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”は、女性と男性がほぼ同じである。

年代別では、“「仕事」を優先”の割合は、40 代（46.5%）、20 代（43.3%）、50 代（42.2%）が高く、“「家庭生活」を優先”は、30 代（27.3%）が特に多い。また、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”は、20 代と 40 代、50 代が約 2 割を占める。

（２）仕事や待遇面での男女差別

「そのようなことはないと思う」が 36.9%で最も多く、「女性が差別されていると思う」が 12.5%、「男性が差別されていると思う」は 2.4%と少ない。

性別でみると、「そのようなことはないと思う」の割合は、男性（40.6%）が女性（34.6%）を 6.0 ポイント上回り、「女性が差別されていると思う」も、わずかであるが男性の方が多い。

年代別では、「そのようなことはないと思う」は、20 代～50 代の各年代で 5 割を占め「女性が差別されていると思う」は、20 代（21.7%）と 40 代に多い。

（３）男女差別の具体的内容

「賃金に差がある」（49.7%）と「昇進、昇格に差別がある」（47.1%）が、ともに回答者の5割近く占め、また、「能力を正当に評価しない」と「結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある」は3割台である。

性別でみると、「賃金に差がある」と「能力を正当に評価しない」、「結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある」は、いずれも女性の割合が男性より多いが、「昇進、昇格に差別がある」は、男性（57.1%）が女性（37.3%）を19.8ポイントと大きく上回る。

年代別でみると、「賃金に差がある」は、50代～70代以上の中高年代の割合が高く、「昇進、昇格に差別がある」は、40代と50代の割合が特に高い。

（４）女性が働き続けるために必要なこと

「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働環境とする」（40.8%）が最も多く、以下、「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」（29.1%）、「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」（28.9%）、「パート、派遣労働等の労働条件を改善する」（25.1%）などが続く。

性別でみると、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働環境とする」は、女性と男性の割合がほぼ同じであるが、「家事、育児、介護は女性がするものという社会の意識を改める」は女性の方が、「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」は男性の方が多い。

年代別では、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働環境とする」の割合は、20代（55.0%）や30代（46.5%）、50代（46.1%）が多い。

５．子どもの教育について

（１）子どもに受けさせたい教育程度

“男の子”の場合は、「大学」が67.6%と圧倒的に多く、以下、「各種学校・専修学校」の6.6%、「大学院」の6.0%、「高等学校」の5.4%の順。“女の子”では、「大学」が59.5%に続いて「各種学校・専修学校」の9.9%、「短期大学」の7.8%、「高等学校」の5.8%の順となっている。

○男の子

「大学」とする割合は、女性（68.9%）と男性（68.1%）がほぼ同じ割合であり、また、20代（80.0%）が最も多く、次いで30代～70代以上の各年代でも7割前後と高い。

○女の子

「大学」は、女性（61.1%）が男性（59.8%）より多く、「各種学校・専修学校」は、女性（11.3%）が男性（7.9%）を3.4ポイント上回る。

「大学」は、20 代（73.3%）や 50 代（67.2%）で高く、「各種学校・専修学校」は、30 代（14.1%）と 40 代（11.3%）の中年代で多い。

（２）子どもに対する人権や男女平等等の意識の育成

「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」（60.0%）が最も多く、以下、「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」（55.6%）、「学校において、人権や男女平等に関する授業を行なう」（41.5%）等が上位を占める。

性別でみると、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」と「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」は、ともに女性と男性の割合が同じである。

年代別では、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」の場合、20 代をはじめ、30 代～60 代の割合が高い。

６．介護について

（１）家族の介護に対する考え

“考え方（理想）”では、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」（39.7%）と「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」（37.2%）に分かれ、“現実（現状）”では、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」（30.5%）が、「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」（20.9%）を上回る。

○考え方（理想）

性別でみると、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」と「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」の割合は、女性が男性をやや上回る。

年代別では、「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」は、30 代～60 代の各年代とも 4 割台を占め、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」は、20 代（43.3%）をトップに、60 代、70 代以上の高年代で多い。

○現実（現状）

性別でみると、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」と「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」の割合は、女性と男性でほぼ同じである。

年代別では、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介

護している（したい）」は 50 代（37.2%）と 60 代（38.3%）が、「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」は、60 代（26.0%）が最も多い。

（２）自宅での介護の場合の主たる担当者

「主に、自分が介護すると思う（している）」（43.2%）が最も多く、次いで「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」（20.2%）が続く。

性別で見ると、「主に、自分が介護すると思う（している）」は女性（59.1%）が特に高く、「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」は男性（40.0%）に多い。

年代別では、「主に、自分が介護すると思う（している）」は、50 代（55.6%）、40 代（45.8%）に多く、「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」は、60 代（28.6%）、70 代以上（24.4%）の高年代に多い。

７．人権について

（１）人権に関する言葉と意味の認知度

「言葉も意味も知っている」とする割合は、レズビアン（87.4%）とゲイ（88.5%）が特に高く、以下、カミングアウト（62.9%）、バイセクシュアル（57.5%）が続く。

「言葉は知っているが、意味は知らない」は、セクシュアル・マイノリティ（24.9%）、トランスジェンダー（21.2%）が多い。

一方、「知らない」とする割合は、ＳＯＧＩ（81.2%）とアウティング（74.0%）が圧倒的に多い。

（２）人権侵害に関する認識と被害状況

「自分が受けた」は、パワハラ（15.4%）が最も多く、次いでモラハラ（9.6%）、セクハラ（8.6%）と続く。

「身近で見聞きした」は、パワハラ（32.3%）が最も多く、以下、セクハラ（25.0%）、モラハラ（21.7%）、ＤＶ（20.6%）、ストーカー（20.1%）などが多い。

「マスコミ等で聞いたことがある」は、ストーカー（65.0%）、マタハラ（63.7%）、ＤＶ（62.2%）の割合が高く、また、セクシャル・マイノリティ（56.3%）、セクハラ（54.2%）、モラハラ（50.9%）も過半数を占め多い。

（３）人権侵害を受けた方の相談状況

「相談した」が 11.9%で、「どこ（誰）にも相談しなかった」が 12.7%である。

性別でみると、「相談した」は、女性（14.8%）が男性（7.4%）を上回り、「どこ（誰）にも相談しなかった」も同様、女性（14.3%）が男性（11.3%）を上回る。

年代別では、「相談した」は、20 代（20.0%）や 40 代（21.1%）が最も多く、また、「どこ（誰）にも相談しなかった」は、40 代と 50 代（ともに 18.3%）に多い。

（４）どこ（誰）にも相談しなかった理由

「相談しても無駄だと思ったから」(56.8%）が圧倒的に多く、次いで「自分さえ我慢すればいいと思ったから」(28.0%)、「相談するほどのことではないと思ったから」(25.8%）が続く。

性別でみると、「相談しても無駄だと思ったから」は、男性（61.2%）が女性（54.9%）を上回り、一方、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」は、ともに女性の割合の方がわずかに多い。

年代別では、「相談しても無駄だと思ったから」は、30 代（68.8%)、40 代（61.5%）が特に高く、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」は 60 代（35.7%)、「相談するほどのことではないと思ったから」は、40 代（38.5%）が最も多い。

（５）性的少数者が感じていると思われる問題

「学校や職場でいじめにあう可能性があること」(56.2%）と「セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること」(52.5%）が上位にある。「就職、職場で不利な扱いを受けること」(46.7%）や「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(41.5%）の割合も多い。

性別でみると、「学校や職場でいじめにあう可能性があること」と「セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること」などは、女性の割合が男性を上回り、「就職、職場で不利な扱いを受けること」と「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は、女性と男性の割合がほぼ同じである。

年代別では、「学校や職場でいじめにあう可能性があること」は、10 代（88.2%）をはじめ、20 代（76.7%)、30 代（66.7%）と若い年代の割合が高く、また、「セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること」では、10 代（76.5%)、40 代（69.0%)、20 代（68.3%）で多い。

（６）男性、女性に関しての考えや気持ち

“そう思う派※”は、「同性を好きになることも性の多様性として認めるべきである」(64.7%)、「女性には男性のような服装をする自由がある」(62.5%)、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」(60.2%）の割合が特に高く、“そう思わない派※”は、「男性のような女性には違和感がある」(57.7%)、「女性が女性に恋愛感情を抱くのはおかしい」(54.2%)、「男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい」(51.4%）が上位にある。

（※“そう思う派”とは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合の合計、“そう思わない派”とは、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合の合計。）

「同性を好きになることも性の多様性として認めるべきである」の場合、“そう思う派”は、女性（70.8%）が男性（57.0%）を 13.8 ポイント、“そう思わない派”は、男性（37.2%）が女性（22.7%）を 14.5 ポイントとそれぞれ大きく上回る。また、“そう思う派”は、10 代～40 代の若い年代の割合が高く、“そう思わない派”は、70 代以上（50.8%）が最も多い。

一方、「男性のような女性には違和感がある」の場合、“そう思う派”は、男性（44.4%）が

女性（29.3%）を 15.1 ポイント、“そう思わない派”は、女性（64.3%）が男性（50.1%）を 14.2 ポイントそれぞれ大きく上回り、また、“そう思う派”は、60 代、70 代以上の高年代に多く、“そう思わない派”は、10 代が最も多い。

８． 防災について

（１）防災における男女共同参画について

「男女がともに安心して利用できる避難所運営マニュアルの作成」（59.2%）が最も多く、次いで「福島市地域防災計画に、性別や年齢等に関わらず多様な市民の意見を反映させる」（47.0%）が続く。また、「防災に関する学習機会の提供」や「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」、「災害時における女性の相談体制の整備」においても、いずれも 3 割前後の割合と多い。

性別でみると、「男女がともに安心して利用できる避難所運営マニュアルの作成」は、女性（62.3%）が男性（55.9%）より多く、「福島市地域防災計画に、性別や年齢等に関わらず多様な市民の意見を反映させる」では、男性（49.9%）が女性（45.7%）を上回る。

年代別では、「男女がともに安心して利用できる避難所運営マニュアルの作成」は、10 代（70.6%）の割合が最も高いが、他のいずれの年代も 5 割～6 割と多い。また、「福島市地域防災計画に、性別や年齢等に関わらず多様な市民の意見を反映させる」は、70 代以上（55.9%）をはじめ、中高年代の割合が高い。

９．男女共同参画に関する施策について

（１）男女共同参画を進めるために力を入れるべきこと

「労働時間の短縮や保育・介護サービスの充実など、男女ともに働きやすい環境を整える」（62.0%）が最も多く、次いで「子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する」（47.3%）である。

性別で見ると、「労働時間の短縮や保育・介護サービスの充実など、男女ともに働きやすい環境を整える」は、女性（66.3%）が男性（58.4%）を 7.9 ポイント上回り、「子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する」では、男性（50.1%）が女性（46.4%）より多い。

年代別では、「労働時間の短縮や保育・介護サービスの充実など、男女ともに働きやすい環境を整える」は、20 代（75・0%）をはじめ、30 代～60 代の割合も 6 割台と高く、「子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する」は、10 代（82.4%）の割合が特に高い。

（２）福島市の男女共同参画推進の取り組みに対する認知度

“内容までよく知っている”は、「男女共同参画について」でわずか 4.2%であり、その他はさらに少ない。また、“聞いたことはある”は、「男女共同参画について」（48.8%）が最も多く、以下、「福島市男女共生セミナーなどの講座の開催」（29.4%）、「福島市男女共同参画推進条例」（26.6%）が続く。

一方、「知らない」は、「おとう飯」と「男女共同参画情報紙（さんかくＢｏｏｋ）」が８割以上と高い。

「男女共同参画について」の場合、「内容までよく知っている」と「聞いたことはある」は、ともに女性と男性の割合はほぼ同じであり、「内容までよく知っている」は、10 代（29.4%）と 20 代（13.3%）の若い年代の割合が高い。また、「聞いたことはある」は、10 代をはじめ、50 代～70 代以上の中高年代で過半数を占める。

「福島市男女共生セミナーなどの講座の開催」の場合は、「内容までよく知っている」は、女性、男性（ともに 1.8%）の割合は同じで、「聞いたことはある」は、女性（33.0%）が男性（24.9%）を上回る。

また、「内容までよく知っている」は、30 代、50 代、60 代で 3%ほど見られるが、10 代、20 代ではゼロである。また、「聞いたことはある」は、50 代（35.6%）、60 代（33.9%）が他の年代を上回る。「知らない」は、20 代（78.3%）を中心に若い年代の割合が高く、60 代（56.4%）が最も低い。

（３）男女共同参画センターへの認知度等

「利用したことがある」は 5.3%、「知っているが、利用したことはない」が 31.8%で、「知らない」が 57.4%と多い。

性別でみると、「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」は、両方とも女性の割合が男性より多く、「利用したことがある」は、50 代～70 代以上の中高年代に多い。

（４）「ウィズ・もとまち」充実への要望

「相談機能」（37.3%）をトップに、「セミナーや講座の充実」（34.7%）、「市民団体の交流、活動機能」（30.9%）、「図書・情報収集、提供」（25.1%）の順となっている。

性別でみると、「相談機能」は女性（39.3%）が男性（34.6%）を上回り、「セミナーや講座の充実」も、女性（36.8%）が男性（32.3%）より多い。

一方、「市民団体の交流、活動機能」と「図書・情報収集、提供」では、女性と男性がほぼ同じ割合である。

年代別では、「相談機能」は 20 代（48.3%）の割合が最も多く、以下、40 代（41.5%）、10 代（41.2%）と続く。また、「セミナーや講座の充実」は 50 代（44.4%）と 60 代（39.6%）で多く、「市民団体の交流、活動機能」は 10 代（35.3%）、「図書・情報収集、提供」では 30 代（35.4%）や 40 代（32.4%）の割合が多い。

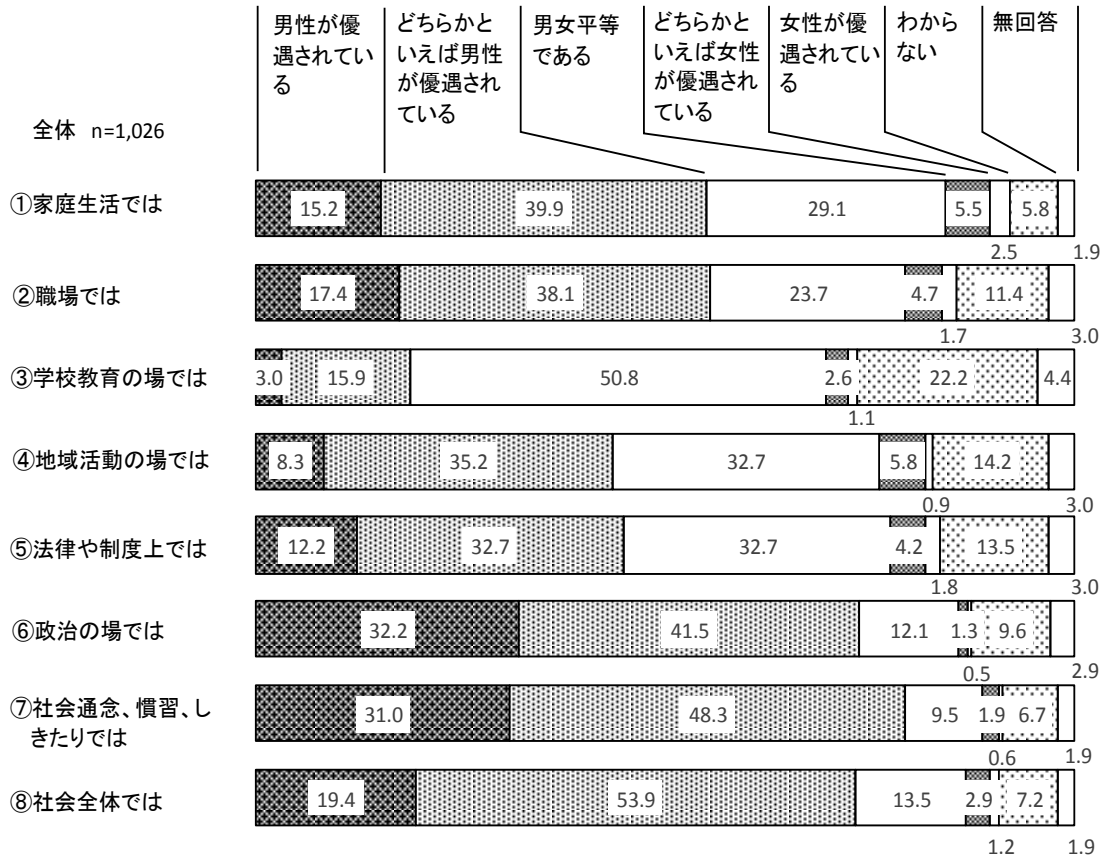
Ⅲ．調査結果の分析

Ⅲ．調査結果の分析

１　男女平等意識について

（１）男女の地位の平等に関する意識

問５	次の各分野での男女の地位が平等だと思いますか。



- 「学校教育の場」以外は、“男性優遇”の割合が最も高く、特に、「政治の場」や「社会通念、慣習、しきたり」、「社会全体」では 7～8 割と著しい。
- “男女平等である”とする割合は、「学校教育の場」（50.8%）が最も高く、以下、「地域活動の場」や「法律や制度上」、「家庭生活」が 3 割前後で続く。
- “女性優遇”の割合は少なく、「家庭生活」（8.0%）以下、いずれも 1 割未満となっている。

※“男性優遇”とは「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合の合計。“女性優遇”とは、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の割合の合計。

◇全体ランキング

ランキング別でみると、“男女平等である”とする割合は、「学校教育の場」をトップに、「地域活動の場」、「法律や制度上」、「家庭生活」が上位にあり、「社会通念、慣習、しきたり」が最下位となっている。

“女性優遇”とする割合は、「家庭生活」や「地域活動の場」、「職場」が上位にあり、「社会通念、慣習、しきたり」や「政治の場」が下位にある。

“男性優遇”では、「社会通念、慣習、しきたり」や「政治の場」、「社会全体」が７割台で上位を占め、「学校教育の場」が最下位にある。

全体ランキング

（%）

項目	順位	「平等である」
学校教育の場	1	50.8
地域活動の場	2	32.7
法律や制度上		32.7
家庭生活	4	29.1
職場	5	23.7
社会全体	6	13.5
政治の場	7	12.1
社会通念、慣習・しきたり	8	9.5

（%）

項目	順位	″女性優遇″
家庭生活	1	8.0
地域活動の場	2	6.7
職場	3	6.4
法律や制度上	4	6.0
社会全体	5	4.1
学校教育の場	6	3.7
社会通念、慣習・しきたり	7	2.5
政治の場	8	1.8

（%）

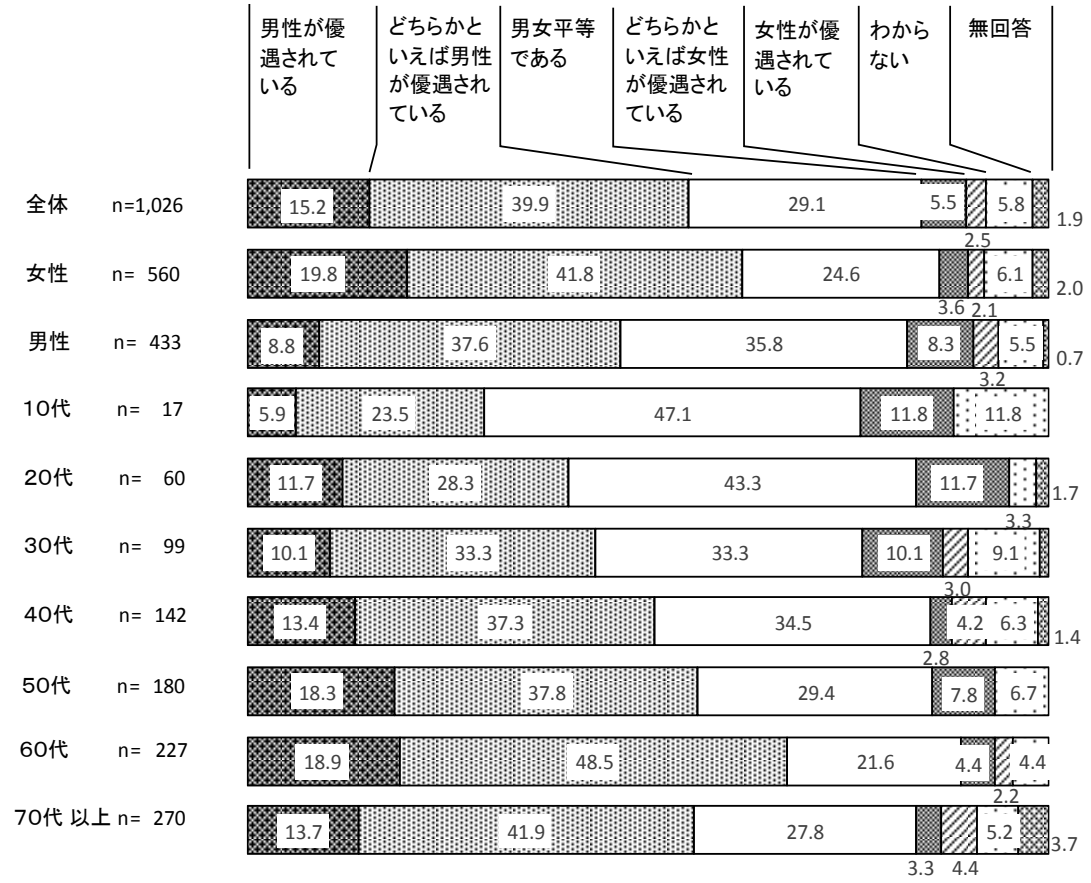
項目	順位	″男性優遇″
社会通念、慣習・しきたり	1	79.3
政治の場	2	73.7
社会全体	3	73.3
職場	4	55.5
家庭生活	5	55.1
法律や制度上	6	44.9
地域活動の場	7	43.5
学校教育の場	8	18.9

（※“男性優遇”＝「男性が優遇されている」＋「どちらかちいえば男性が優遇されている」、
“女性優遇”＝「女性が優遇されている」＋「どちらかちいえば女性が優遇されている」）

①家庭生活

◇全体

“男性優遇”55.1%　＞　「男女平等である」29.1%　＞　“女性優遇”8.0%



●全体では、“男性優遇”が 55.1%、“男女平等である”が 29.1%、“女性優遇”は 8.0%である。

●“男性優遇”とする割合は、過半数を占める女性が男性を上回り、年齢別では、最も多い 60 代（67.4%）を中心に、50 代～70 代以上の中高年代での割合が高い。

●“男女平等である”は、男性（35.8%）が女性（24.6%）を上回り、年齢別では 10 代と 20 代（ともに 4 割台）の若い年代で特に高い。

●“女性優遇”は、男性及び 10 代～30 代でそれぞれ 1 割強、それ以外は 1 割未満と少ない。

◇性別

“男性優遇”の割合は、女性（61.6%）が男性（46.4%）を 15.2 ポイント上回り、“男女平等である”の割合は、男性（35.8%）が女性（24.6%）を 11.2 ポイント上回る。

また、“女性優遇”では、男性（11.5%）が女性（5.7%）より 5.8 ポイント高い。

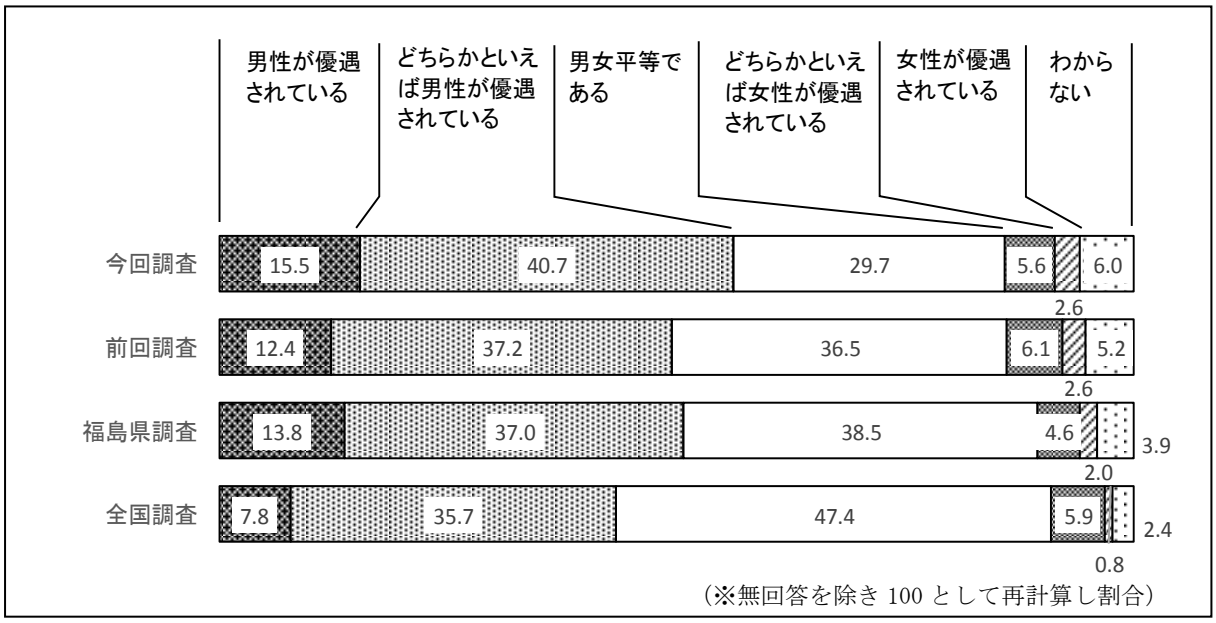
◇年齢別

“男性優遇”の割合は、60 代（67.4%）をトップに、50 代、70 代以上、40 代と続くなど年代が上がるにつれて高くなる。一方、“男女平等である”は 10 代 20 代が高く（ともに 4 割強）、“女性優遇”は、10 代～30 代の若い年代での割合が高い（ともに 1 割強）。

（%）		″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
女性	n=560	61.6	24.6	5.7
男性	n=433	46.4	35.8	11.5
10代	n= 17	29.4	47.1	11.8
20代	n= 60	40.0	43.3	11.7
30代	n= 99	43.4	33.3	13.1
40代	n=142	50.7	34.5	7.0
50代	n=180	56.1	29.4	7.8
60代	n=227	67.4	21.6	6.6
70代以上	n=270	55.6	27.8	7.8

◆前回調査・福島県調査・全国調査との比較

“男女平等である”の割合は全国が半数近くで最も高く、福島市（今回調査）を 17.7 ポイントと大きく上回る。一方、“男性優遇”は福島市（同上）が過半数を占め、全国、福島県を上回るとともに、前回調査よりもさらに 6.6 ポイント増加している。“女性優遇”はいずれも 1 割未満と少ないが、福島市は福島県や全国をわずかに上回る。

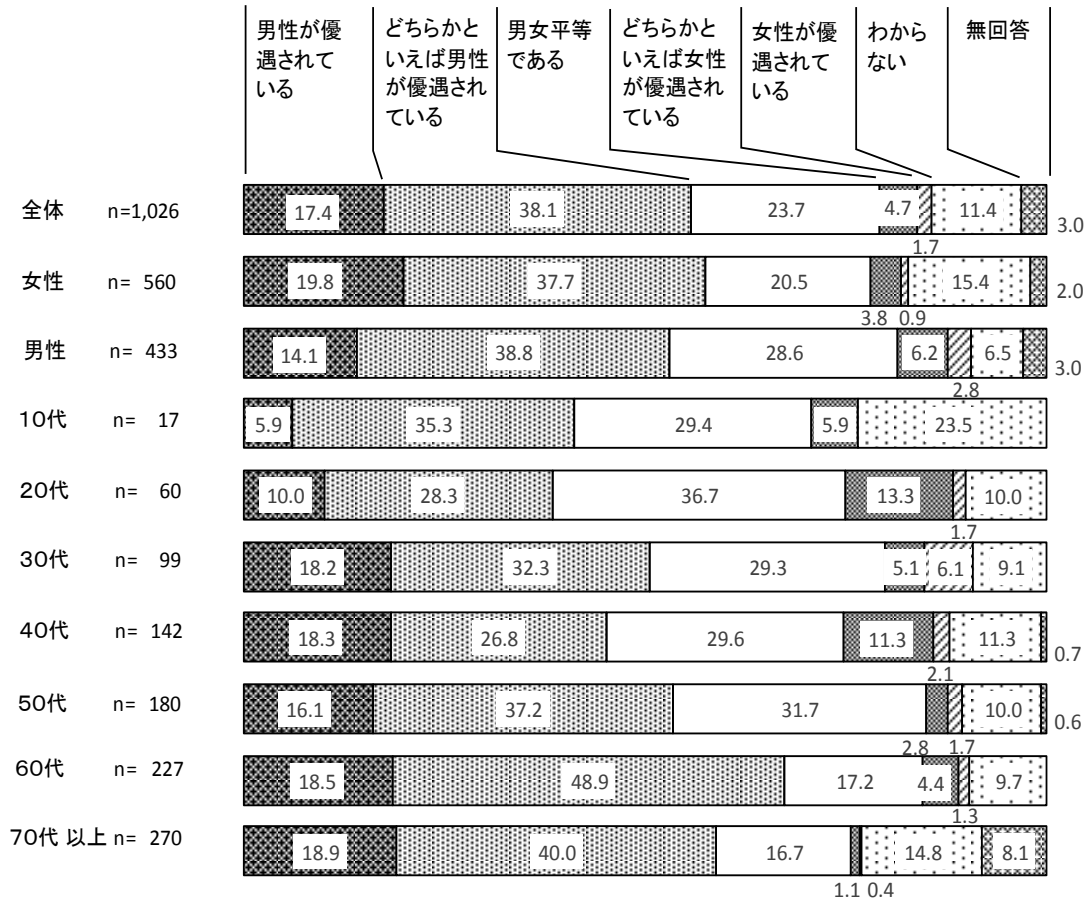


（%）	″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
今回調査	56.2	29.7	8.2
前回調査	49.6	36.5	8.7
福島県調査	50.8	38.5	6.6
全国調査	43.5	47.4	6.7

②職場

◇全体

“男性優遇”55.5%　＞　「男女平等である」23.7%　＞　“女性優遇”6.4%



●全体では、“男性優遇”が 55.5%、“男女平等である”が 23.7%、“女性優遇”は 6.4%である。

●“男性優遇”の割合は、男女とも過半数を占めるとともに、女性が男性を若干上回る。

●“男女平等である”は、男性が女性を上回り、年代別では最も多い 20 代を中心とする 10 代～50 代に比べて、60 代以上の高年代の割合は少ない。

●“女性優遇”の割合は、20 代～40 代でそれぞれ 1 割強となっている。

◇性別

“男性優遇”は、女性（57.5%）が男性（52.9%）を 4.6 ポイント上回り、反対に、“男女平等である”と“女性優遇”の割合は、男性が女性をそれぞれ 8.1 ポイント、4.4 ポイント上回る。

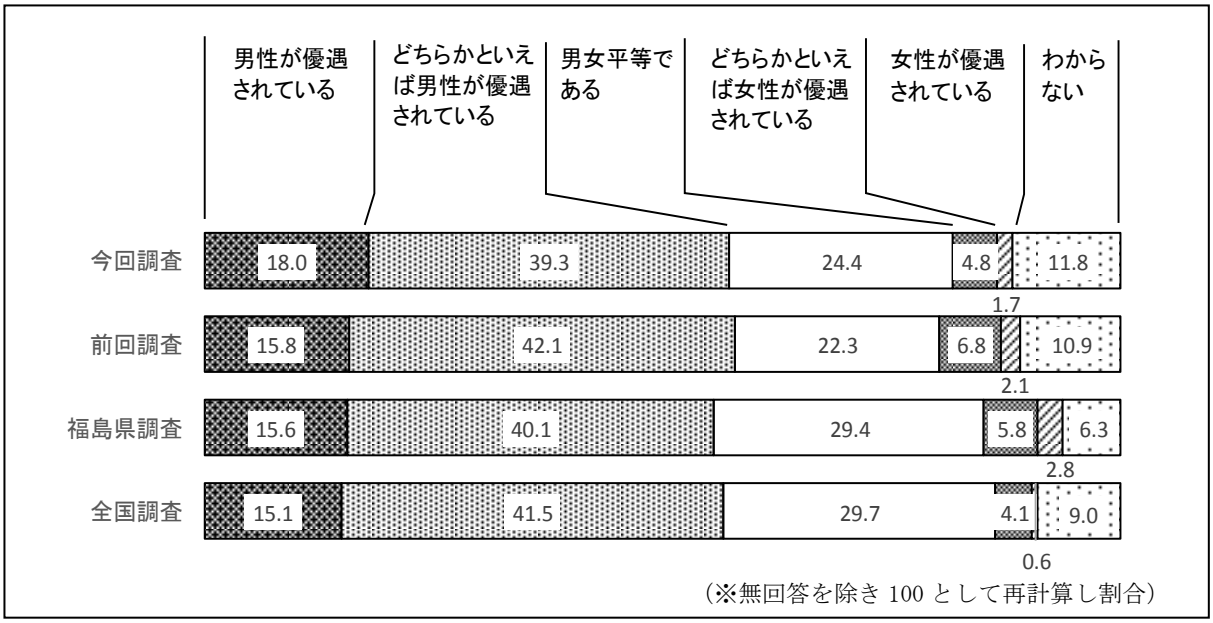
◇年齢別

“男性優遇”は、60 代（67.4%）をトップに、70 代以上と 50 代の中高年の割合が高い。一方、“男女平等である”は、10 代～50 代の 3 割前後に対して 60 代以上の高年代は 1 割台と低く、また、“女性優遇”は 20 代～40 代が 1 割台でそれ以外は 1 割未満と少ない。

（%）		″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
女性	n＝560	57.5	20.5	4.6
男性	n＝433	52.9	28.6	9.0
10代	n＝ 17	41.2	29.4	5.9
20代	n＝ 60	38.3	36.7	15.0
30代	n＝ 99	50.5	29.3	11.1
40代	n＝142	45.1	29.6	13.4
50代	n＝180	53.3	31.7	4.4
60代	n＝227	67.4	17.2	5.7
70代以上	n＝270	58.9	16.7	1.5

◆前回調査・福島県調査・全国調査との比較

“男性優遇”は、福島市（今回調査）をはじめいずれも 6 割近くでほぼ同じ割合にある。一方、“男女平等である”は、福島県や全国を約 5.0 ポイント下回る。また、“女性優遇”の割合は、福島県よりは低いものの全国を若干上回るが、前回調査より 2.4 ポイント減少している。

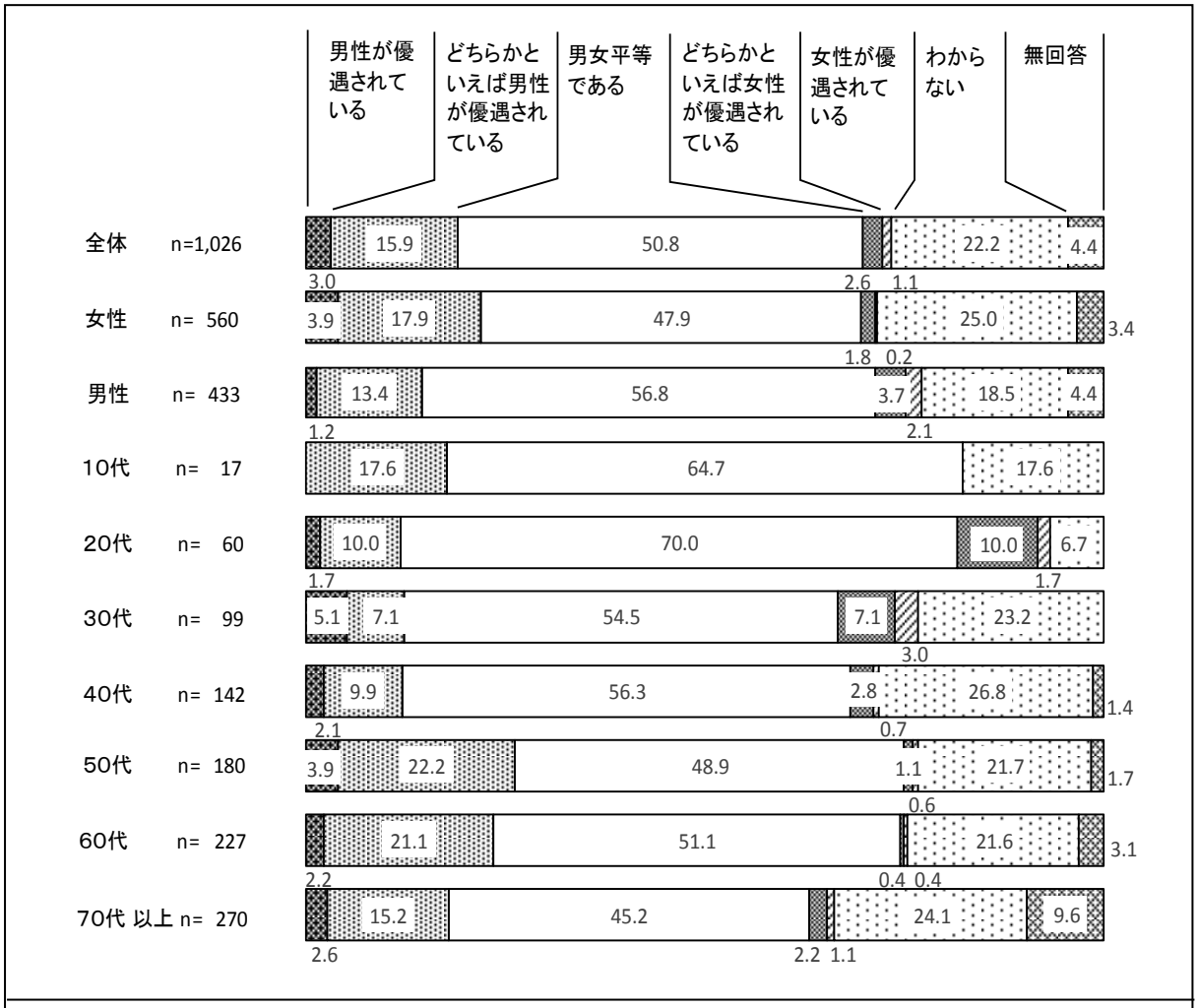


（%）	″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
今回調査	57.3	24.4	6.5
前回調査	57.9	22.3	8.9
福島県調査	55.7	29.4	8.7
全国調査	56.6	29.7	4.7

③学校教育の場

◇全体

「男女平等である」50.8%　＞　“男性優遇”18.9%　＞　“女性優遇”3.7%



●全体では、“男女平等である”が 50.8%、“男性優遇”が 18.9%、“女性優遇”は 3.7%である。

●“男女平等である”の割合は、男性が女性を上回り、年代別では、10 代と 20 代の若い年代で特に高い。

●“男性優遇”は、女性が男性を上回り、年代別では 50 代、60 代（いずれも 2 割台）に多い。一方、“女性優遇”は、20 代と 30 代の 1 割程度以外は極端に少ない。

◇性別

“男女平等である”は、男性（56.8%）が女性（47.9%）を 8.9 ポイント上回り、“男性優遇”の割合は、女性（21.8%）が男性（14.5%）を 7.3 ポイント上回る。“女性優遇”は、男女ともに割合が小さい。

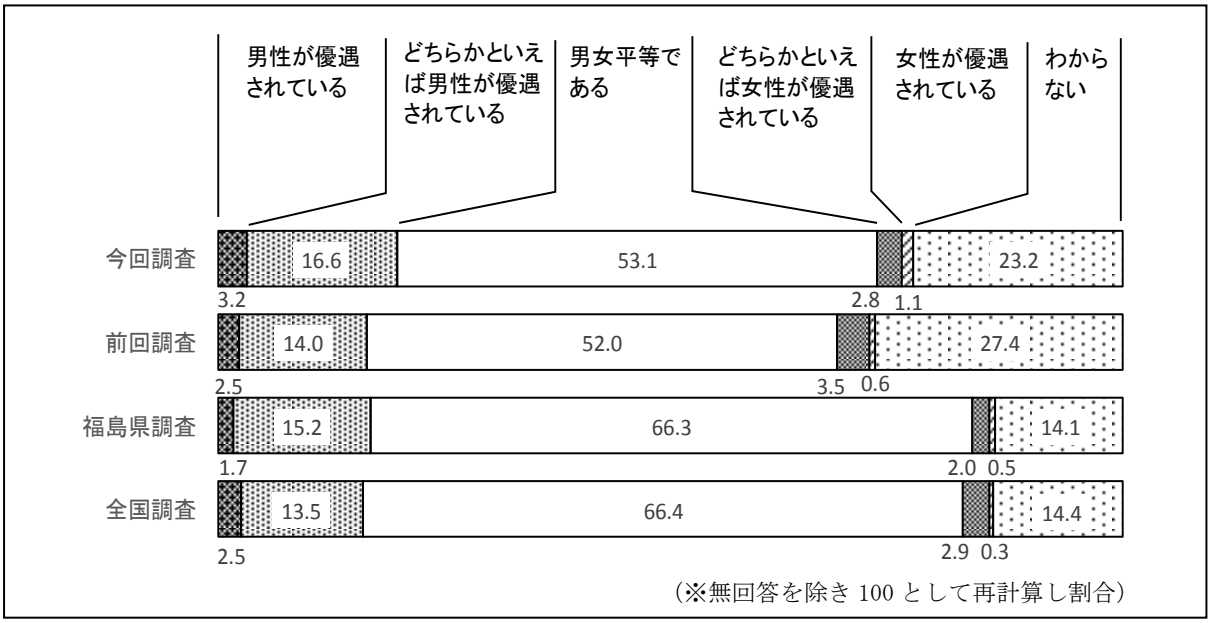
◇年齢別

“男女平等である”は、各年代で高い割合にあるが、特に、20 代（70.0%）と 10 代（64.7%）の若い世代で高くなっている。また、“男性優遇”は、50 代（26.1%）と 60 代（23.3%）、“女性優遇”では、20 代（11.7%）と 30 代（10.1%）で約 1 割となっている。

（%）		″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
女性	n=560	21.8	47.9	2.0
男性	n=433	14.5	56.8	5.8
10代	n= 17	17.6	64.7	0.0
20代	n= 60	11.7	70.0	11.7
30代	n= 99	12.1	54.5	10.1
40代	n=142	12.0	56.3	3.5
50代	n=180	26.1	48.9	1.7
60代	n=227	23.3	51.1	0.9
70代以上	n=270	17.8	45.2	3.3

◆前回調査・福島県調査・全国調査との比較

いずれの場合も“男女平等である”の割合が最も高いものの、福島市（今回調査）は福島県や全国と比べて約 13.0 ポイント低い。一方、“男性優遇”は、福島市（同上）が、福島県や全国をわずかではあるが上回り、また、前回調査よりも 3.4 ポイント多い。

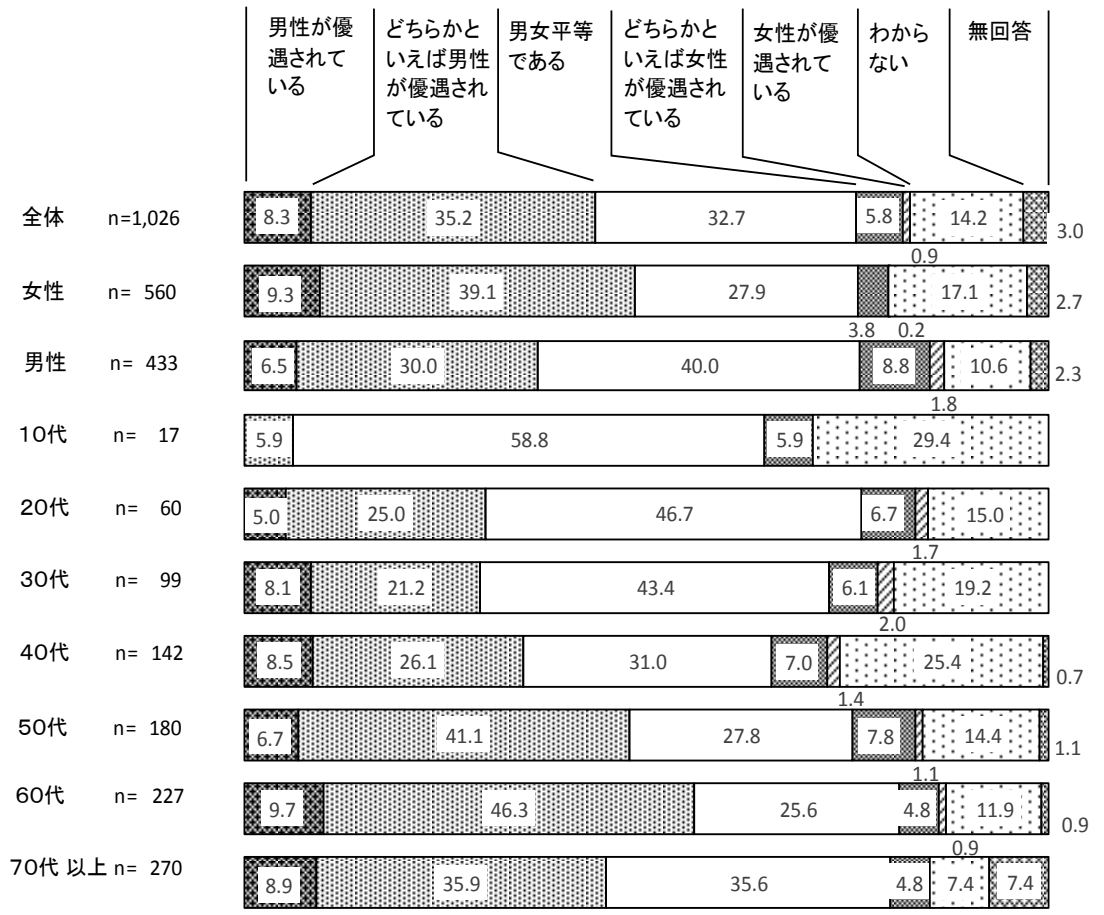


（%）	″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
今回調査	19.8	53.1	3.9
前回調査	16.4	52.0	4.2
福島県調査	16.9	66.3	2.6
全国調査	16.0	66.4	3.2

④地域活動の場

◇全体

“男性優遇”43.5%　＞　「男女平等である」32.7%　＞　“女性優遇”6.7%



●全体では、“男性優遇”が 43.5%、“男女平等である”が 32.7%、“女性優遇”が 6.7%である。

●“男性優遇”は、女性が男性を上回り、年齢別では 50 代以上の中高年代の割合が高い。
“男女平等である”は、男性が女性を上回り、年齢別では、10 代～30 代の若い年代の割合が高い。

●“男性優遇”と“男女平等である”の割合が同程度なのは、男性と 40 代である。

●“女性優遇”の割合は、男性の約 1 割を除き、それ以外は 1 割未満と低い。

◇性別

“男性優遇”は、女性（48.4%）が男性（36.5%）を 11.9 ポイント上回り、“男女平等である”は、男性（40.0%）が女性（27.9%）を 12.1 ポイント上回る。

一方、“女性優遇”は、男性（10.6%）が女性（3.9%）を 6.7 ポイント上回る。

◇年齢別

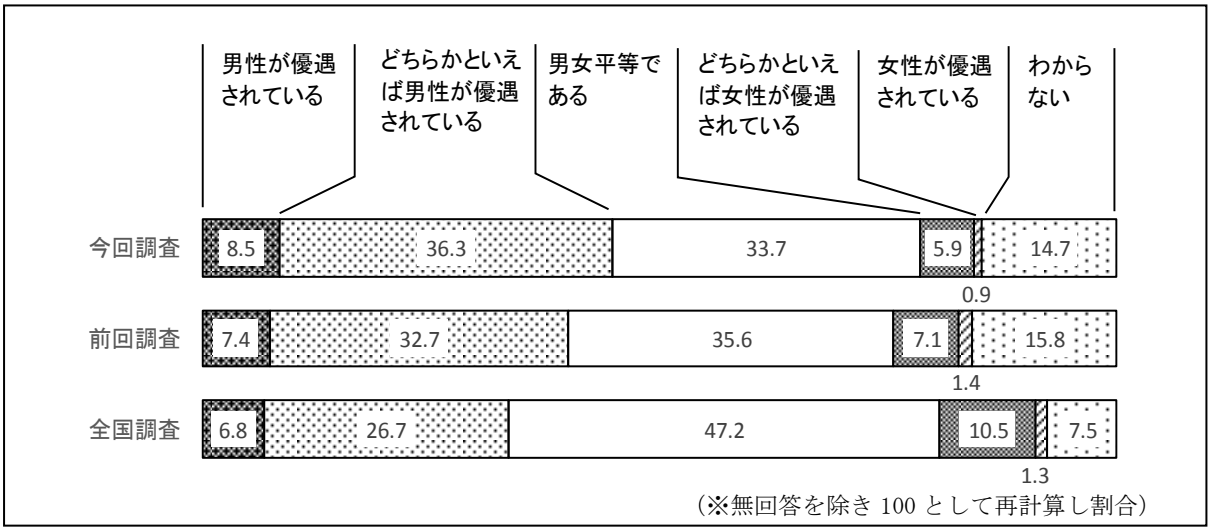
“男性優遇”は、60 代（55.9%）をトップに 50 代（47.8%）、70 代以上（44.8%）の中高年代の割合が高く、反対に、“男女平等である”は 10 代～30 代の若い年代に多い。

“女性優遇”は、いずれの年代も 1 割以下と低い。

（%）		″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
女性	n＝560	48.4	27.9	3.9
男性	n＝433	36.5	40.0	10.6
10代	n＝ 17	5.9	58.8	5.9
20代	n＝ 60	30.0	46.7	8.3
30代	n＝ 99	29.3	43.4	8.1
40代	n＝142	34.5	31.0	8.5
50代	n＝180	47.8	27.8	8.9
60代	n＝227	55.9	25.6	5.7
70代以上	n＝270	44.8	35.6	4.8

◆前回調査・全国調査との比較

“男性優遇”の割合は、福島市（今回調査）が全国を 11.3 ポイント上回るが、一方、“男女平等である”は、全国の方が 13.5 ポイント多い。また、“女性優遇”は、全国から 5.0 ポイント下回るとともに、前回調査よりも 1.6 ポイント減少している。

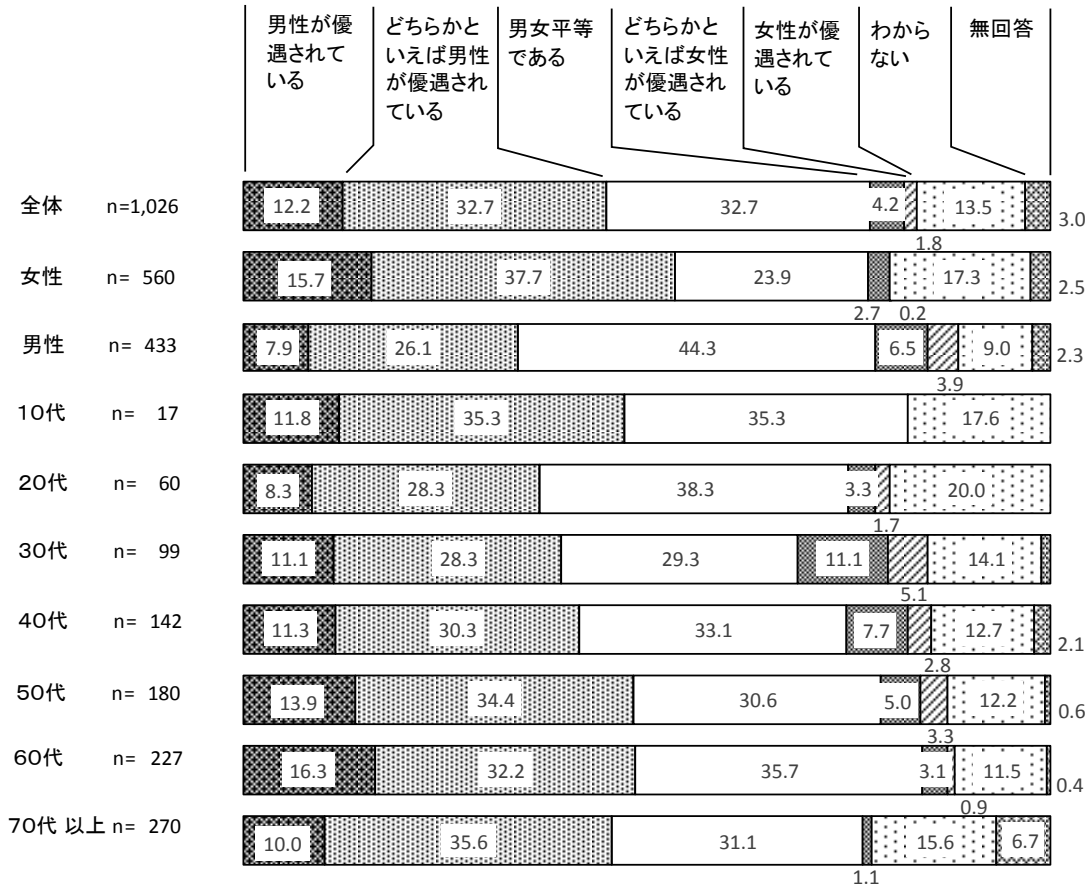


（%）	″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
今回調査	44.8	33.7	6.8
前回調査	40.1	35.6	8.4
全国調査	33.5	47.2	11.8

⑤法律や制度上

◇全体

“男性優遇”44.9%　＞　「男女平等である」32.7%　＞　“女性優遇”6.0%



●全体では、“男性優遇”が 44.9%、“男女平等である”が 32.7%、“女性優遇”は 6.0%。

●“男性優遇”は、女性が男性を上回り、年齢別では、10 代と 50 代以上の中高年代の割合が高い。

●“男女平等である”は、男性が女性を上回り、年齢別では、どの年代でも 3 割台を占める。また、“男性優遇”の割合が“男女平等である”を上回るのは、女性の場合と 20 代を除く全ての年代となっている。

●“女性優遇”は、男性が女性を上回り、年齢別では、30 代、40 代が 1 割台を占める以外は 1 割未満と少ない。

◇性別

“男性優遇”は、女性（53.4%）が男性（33.9%）を 19.5 ポイントと大きく上回り、反対に、“男女平等である”は男性（44.3%）が女性（23.9%）を 20.4 ポイント上回っている。

また、“女性優遇”は、男性（10.4%）が女性（2.9%）を 7.5 ポイント上回る。

◇年齢別

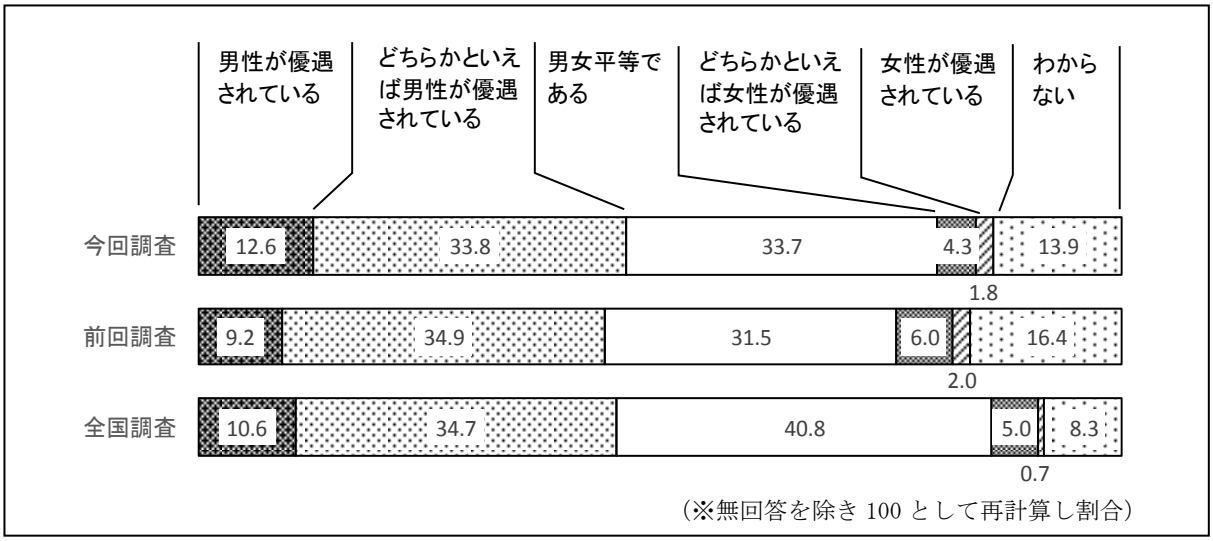
“男性優遇”は、どの年代も4割前後から5割近い割合にあり、特に、10代（47.1%）及び50代（48.3%）、60代（48.5%）の割合が高い。また、“男女平等である”も、各年代とも3割台を占め同程度にある。

“女性優遇”は、30代（16.2%）と40代（10.6%）以外は1割未満と少ない。

（%）		″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
女性	n=560	53.4	23.9	2.9
男性	n=433	33.9	44.3	10.4
10代	n= 17	47.1	35.3	0.0
20代	n= 60	36.7	38.3	5.0
30代	n= 99	39.4	29.3	16.2
40代	n=142	41.5	33.1	10.6
50代	n=180	48.3	30.6	8.3
60代	n=227	48.5	35.7	4.0
70代以上	n=270	45.6	31.1	1.1

◆前回調査・全国調査との比較

“男性優遇”の割合は、全国とほぼ同じであるが、“男女平等である”は全国を7.1ポイント下回る。一方、“女性優遇”は、全国とほぼ同じで少なく、また、前回調査より1.9ポイント減少している。

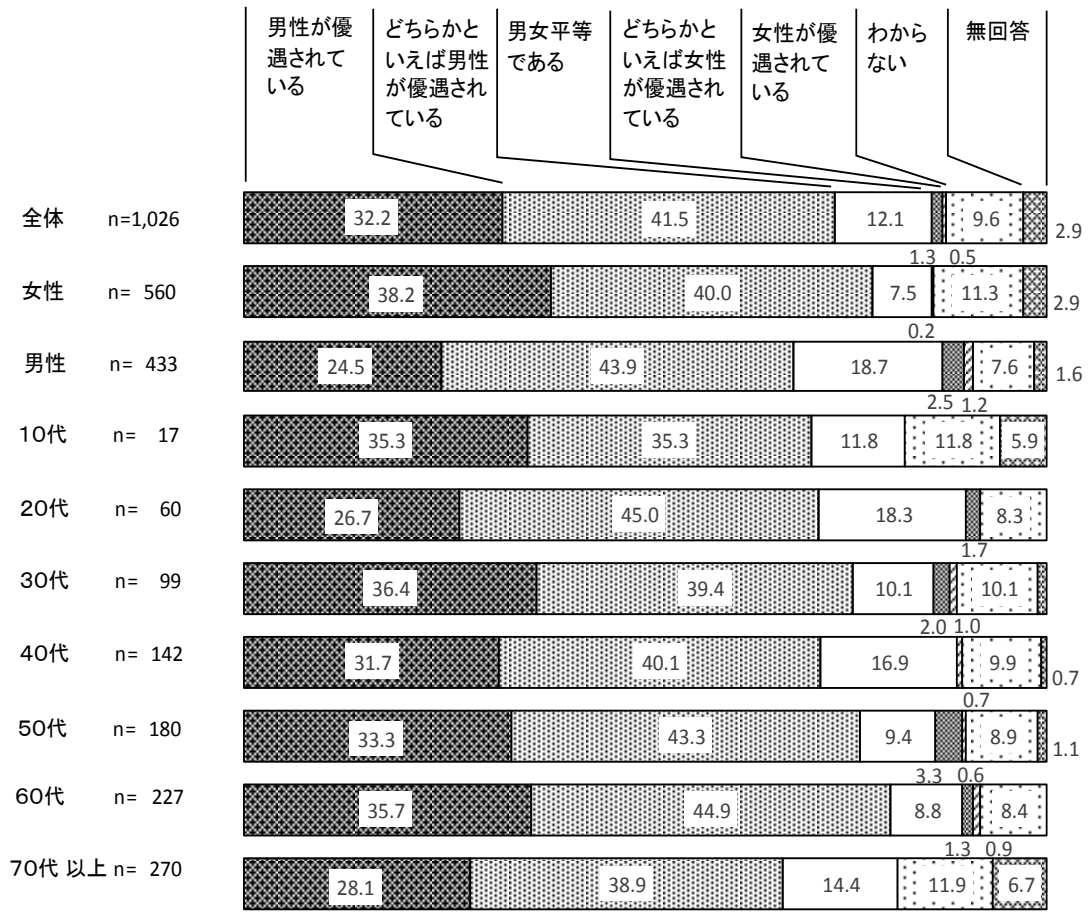


（%）	″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
今回調査	46.3	33.7	6.1
前回調査	44.1	31.5	8.0
全国調査	45.3	40.8	5.7

⑥政治の場

◇全体

“男性優遇”73.7%　＞　「男女平等である」12.1%　＞　“女性優遇”1.8%



●全体では、“男性優遇”が 73.7%と高く、“男女平等である”は 12.1%、“女性優遇”は 1.8%。

●“男性優遇”は、男女、各年代とも 7 割前後から 8 割程度と高く、中でも、女性（78.2%）と 60 代（80.6%）、50 代（76.7%）などが上位にある。一方、“女性優遇”は、いずれも数パーセント以下と極端に少ない。

●“男女平等である”は、男性が女性を上回り、年齢別では、10 代～40 代と 70 代以上で 1 割台である。

◇性別

“男性優遇”の割合は、女性（78.2%）が男性（68.4%）より 9.8 ポイント多く、“男女平等である”は、反対に男性（18.7%）が女性（7.5%）を 11.2 ポイント上回る。

一方、“女性優遇”の割合は、女性（0.2%）、男性（3.7%）ともにわずかである。

◇年齢別

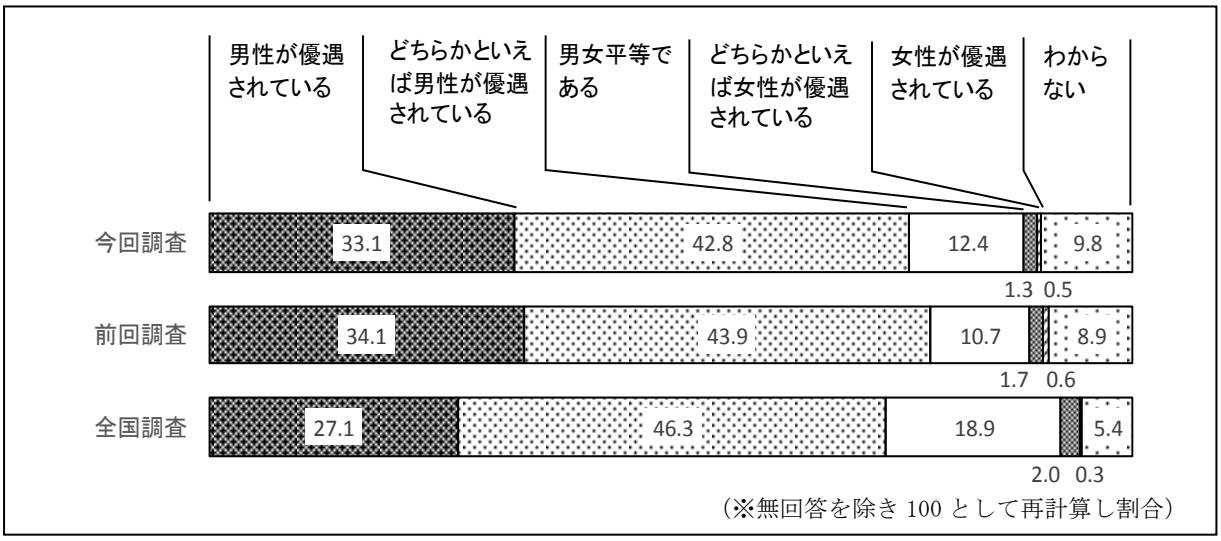
“男性優遇”の割合は、いずれの年代も7割前後から8割と高く、特に、60代（80.6%）をトップに50代（76.7%）、30代（75.8%）が上位にある。

“男女平等である”は、最も多いのが20代（18.3%）で、以下、40代（16.9%）、70代以上（14.4%）が続く。また、“女性優遇”はいずれも数パーセント以下と少ない。

（%）		″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
女性	n=560	78.2	7.5	0.2
男性	n=433	68.4	18.7	3.7
10代	n= 17	70.6	11.8	0.0
20代	n= 60	71.7	18.3	1.7
30代	n= 99	75.8	10.1	3.0
40代	n=142	71.8	16.9	0.7
50代	n=180	76.7	9.4	3.9
60代	n=227	80.6	8.8	2.2
70代以上	n=270	67.0	14.4	0.0

◆前回調査・全国調査との比較

7割以上と高い割合の“男性優遇”は、福島市（今回調査）が全国をわずかに上回るが、前回調査よりは2.1ポイント減少している。一方、“男女平等である”は全国が6.5ポイント上回り、また、“女性優遇”はともにわずかと少ない。

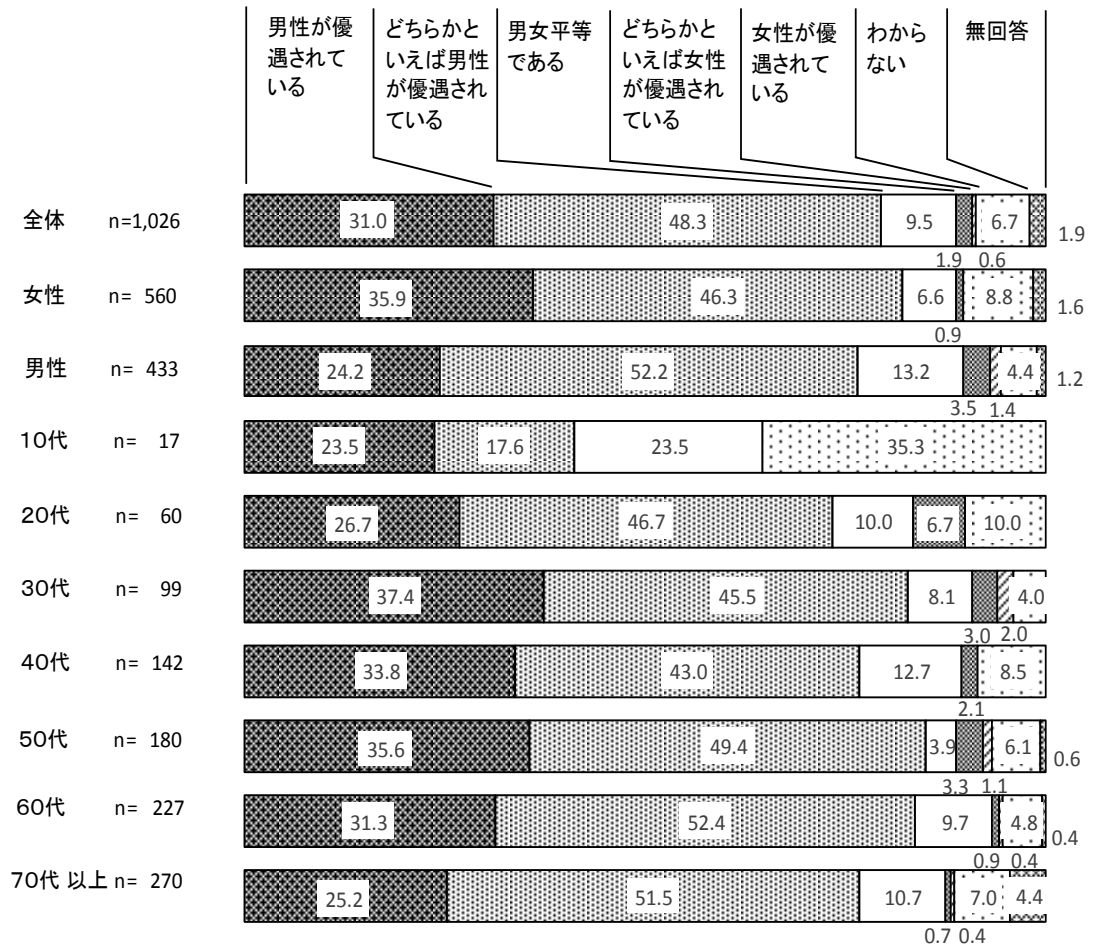


（%）	″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
今回調査	75.9	12.4	1.8
前回調査	78.0	10.7	2.3
全国調査	73.4	18.9	2.3

⑦社会通念、慣習・しきたり

◇全体

“男性優遇”79.3%　＞　「男女平等である」9.5%　＞　“女性優遇”2.5%



●全体では、“男性優遇”（79.3%）が圧倒的に高く、“男女平等である”は 9.5%、“女性優遇”は 2.5%である。

●“男性優遇”は、男女とも高い割合にあってかつ女性が男性を上回る。年齢別では、10 代を除くいずれの年代も高い割合にある中で、50 代と 60 代、30 代などが上位にある。

●“男女平等である”は、10 代（23.5%）が最も多く、以下、40 代、70 代以上、20 代の 1 割台が続く。また、“女性優遇”は、いずれも 1 割未満と少ない。

◇性別

“男性優遇”の割合は、女性（82.1%）が男性（76.4%）を 5.7 ポイント上回り、反対に“男女平等である”は男性（13.2%）が女性（6.6%）を 6.6 ポイント上回る。

“女性優遇”の割合は、男性（4.8%）、女性（0.9%）ともにわずかである。

◇年齢別

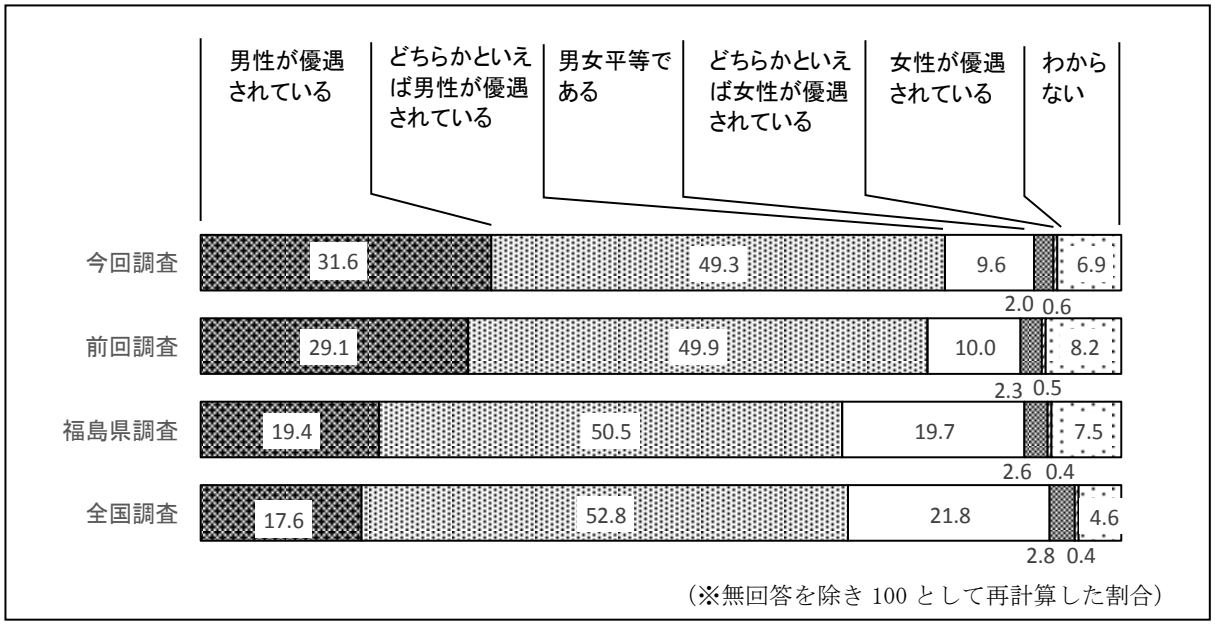
“男性優遇”の割合は、10 代（41.2%）を除きいずれの年代も 7 割以上を占めて高く、その中で 50 代（85.0%）、60 代（83.7%）、30 代（82.8%）が上位にある。

“男女平等である”は、10 代（23.5）をトップに、40 代（12.7%）、70 代（10.7%）が続き、“女性優遇”はいずれも 1 割未満と少ない。

（%）		″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
女性	n=560	82.1	6.6	0.9
男性	n=433	76.4	13.2	4.8
10代	n= 17	41.2	23.5	0.0
20代	n= 60	73.3	10.0	6.7
30代	n= 99	82.8	8.1	5.1
40代	n=142	76.8	12.7	2.1
50代	n=180	85.0	3.9	4.4
60代	n=227	83.7	9.7	1.3
70代以上	n=270	76.7	10.7	1.1

◆前回調査・福島県調査・全国調査との比較

“男性優遇”の割合は、福島市（今回調査）が最も高く、福島県及び全国を 10 ポイント程度上回るが、“男女平等である”は、反対に全国並びに福島県より 10～12 ポイント低い。また、“女性優遇”はいずれの場合も少ない。

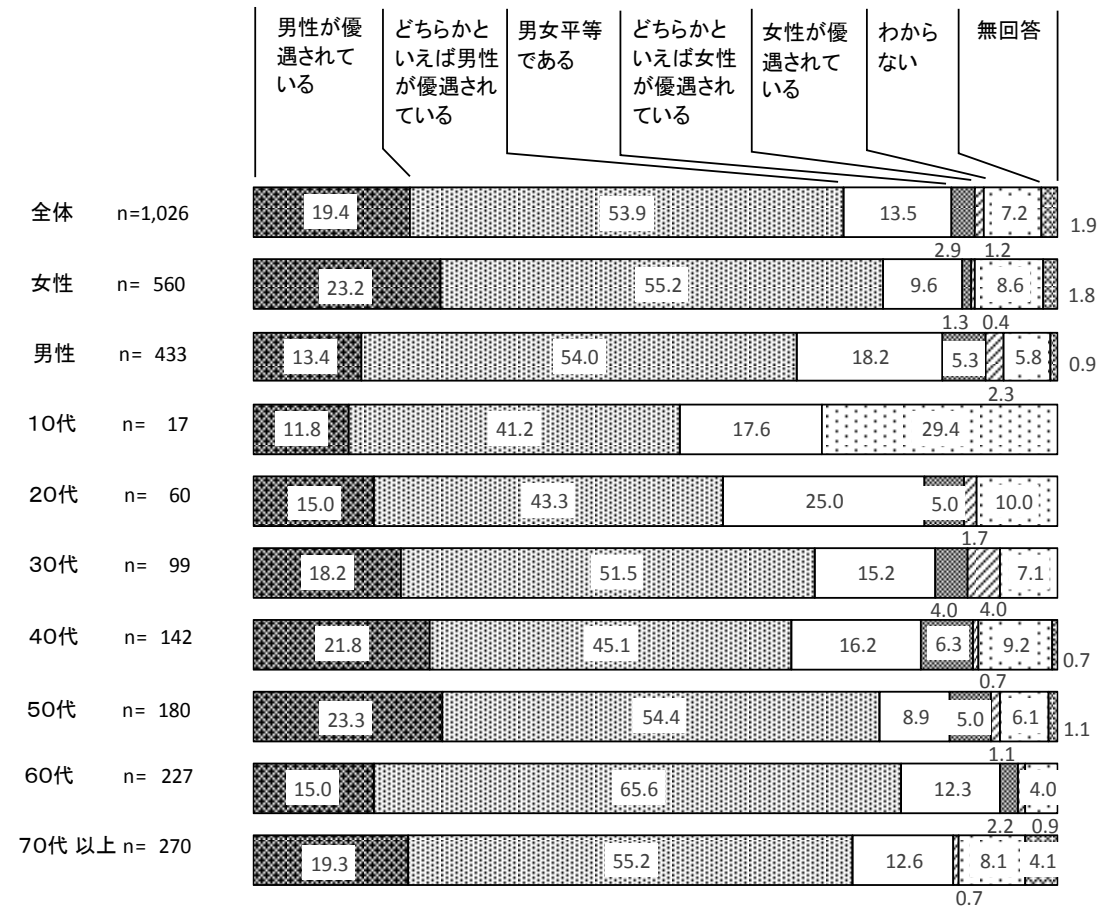


（%）	″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
今回調査	80.9	9.6	2.6
前回調査	79.0	10.0	2.8
福島県調査	69.8	19.7	3.0
全国調査	70.4	21.8	3.2

⑧社会全体

◇全体

“男性優遇”73.3%　＞　「男女平等である」13.5%　＞　“女性優遇”4.1%



●全体では、“男性優遇”が 73.3%、“男女平等である”が 13.5%、“女性優遇”は 4.1%。

●“男性優遇”は、男女ともに高い割合にあってかつ女性が男性を上回り、年代別では、最も高い割合の 60 代（80.6%）を中心に 50 代、70 代以上の中高年代で特に高い。

●“男女平等である”は、男性が女性を上回り、年代別では 20 代（25.0%）をトップに、以下、10 代、40 代、30 代の 1 割台が続く。

●“女性優遇”は、いずれも 1 割未満と少ない。

◇性別

“男性優遇”の割合は、女性（78.4%）が男性（67.4%）を 11.0 ポイント上回り、“男女平等である”は、男性（18.2%）が女性（9.6%）を 8.6 ポイント上回る。また、“女性優遇”は、男女とも 1 割未満と少ない。

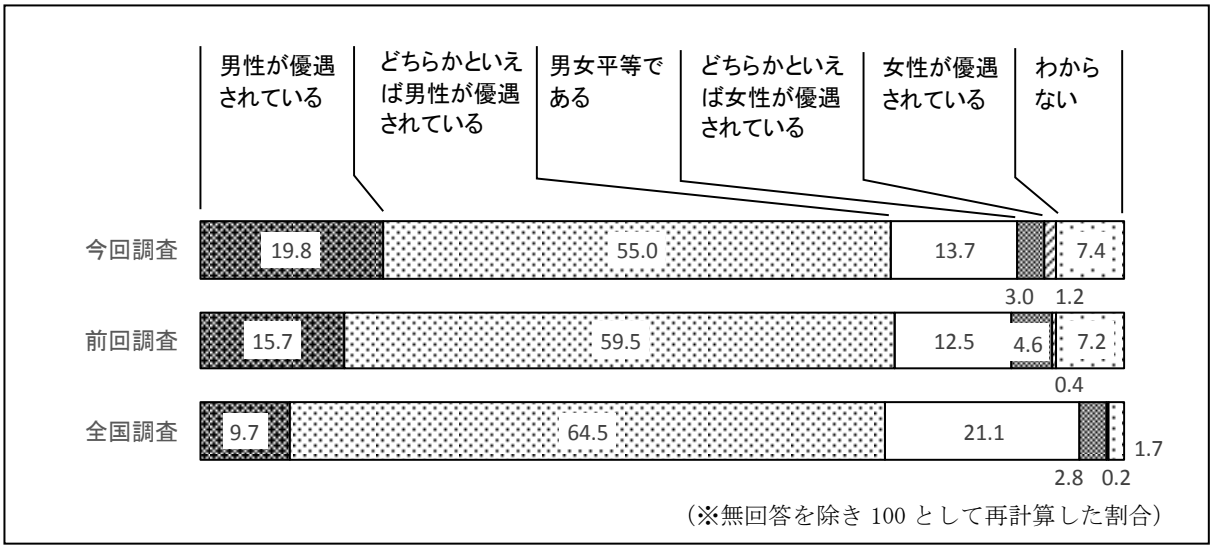
◇年齢別

“男性優遇”の割合は、60 代（80.6%）をトップに 50 代（77.8%）、70 代以上（74.4%）の中高年代が続き、“男女平等である”は、20 代(25.0%)をはじめ、10 代(17.6%)、40 代(16.2%)、30 代（15.2%）の若い年代が上位にある。また、“女性優遇”は、どの年代も 1 割未満と少ない。

（%）		″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
女性	n=560	78.4	9.6	1.6
男性	n=433	67.4	18.2	7.6
10代	n= 17	52.9	17.6	0.0
20代	n= 60	58.3	25.0	6.7
30代	n= 99	69.7	15.2	8.1
40代	n=142	66.9	16.2	7.0
50代	n=180	77.8	8.9	6.1
60代	n=227	80.6	12.3	3.1
70代以上	n=270	74.4	12.6	0.7

◆前回調査・全国調査との比較

“男性優遇”の割合は、福島市（今回調査）、全国とも 7 割以上でかつ同水準にあり、また、前回調査ともほぼ同じである。一方、“男女平等である”は、全国から 7.4 ポイント下回り、“女性優遇”の割合は、全国と同様少ない。

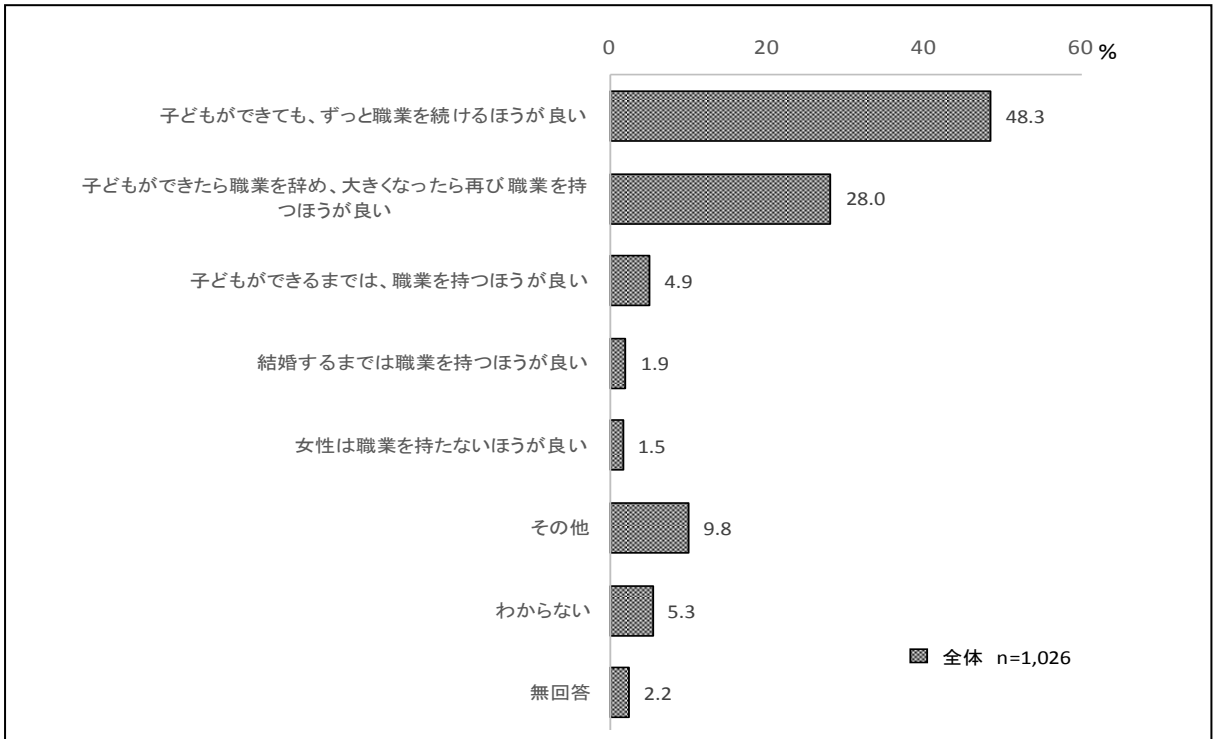


（%）	″男性優遇″	「平等である」	″女性優遇″
今回調査	74.8	13.7	4.2
前回調査	75.3	12.5	5.0
全国調査	74.2	21.1	3.0

（２）女性が職業を持つことについて

問６	あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。（複数回答）

◇全体



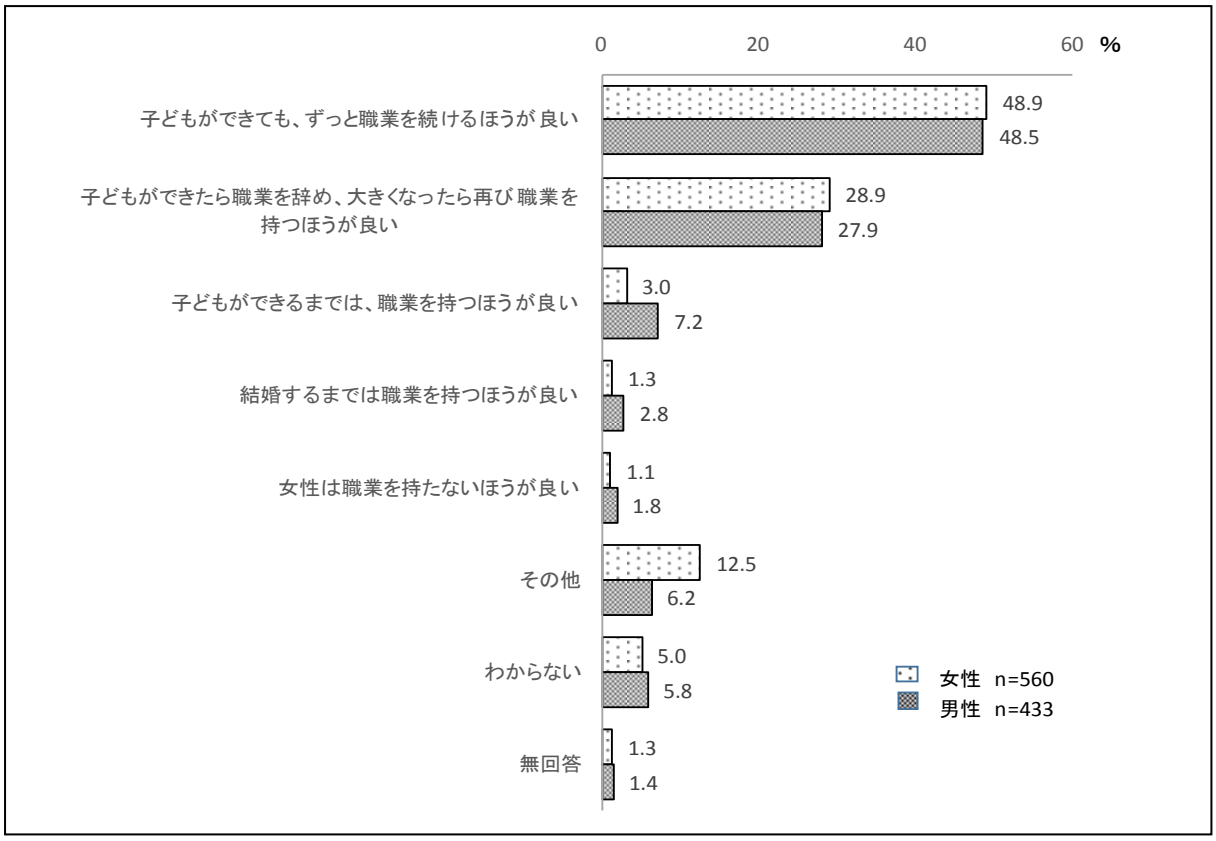
●「子どもができても、ずっと職業を続けるほうが良い」（48.3%）が、回答者の半数近くを占めて最も多く、次いで「子どもができたら職業を辞め、大きくなったら再び職業を持つほうが良い」（28.0%）である。

●なお、「子どもができるまでは、職業を持つほうが良い」（4.9%）など、他の項目の割合は少ない。

◇性別

「子どもができても、ずっと職業を続けるほうが良い」と「子どもができたら職業を辞め、大きくなったら再び職業を持つほうが良い」とも、女性と男性の割合はほぼ同じである。

一方、割合は少ないが、「子どもができるまでは、職業を持つほうが良い」の場合は、男性の割合が女性をわずかに上回っている。



◇年齢別

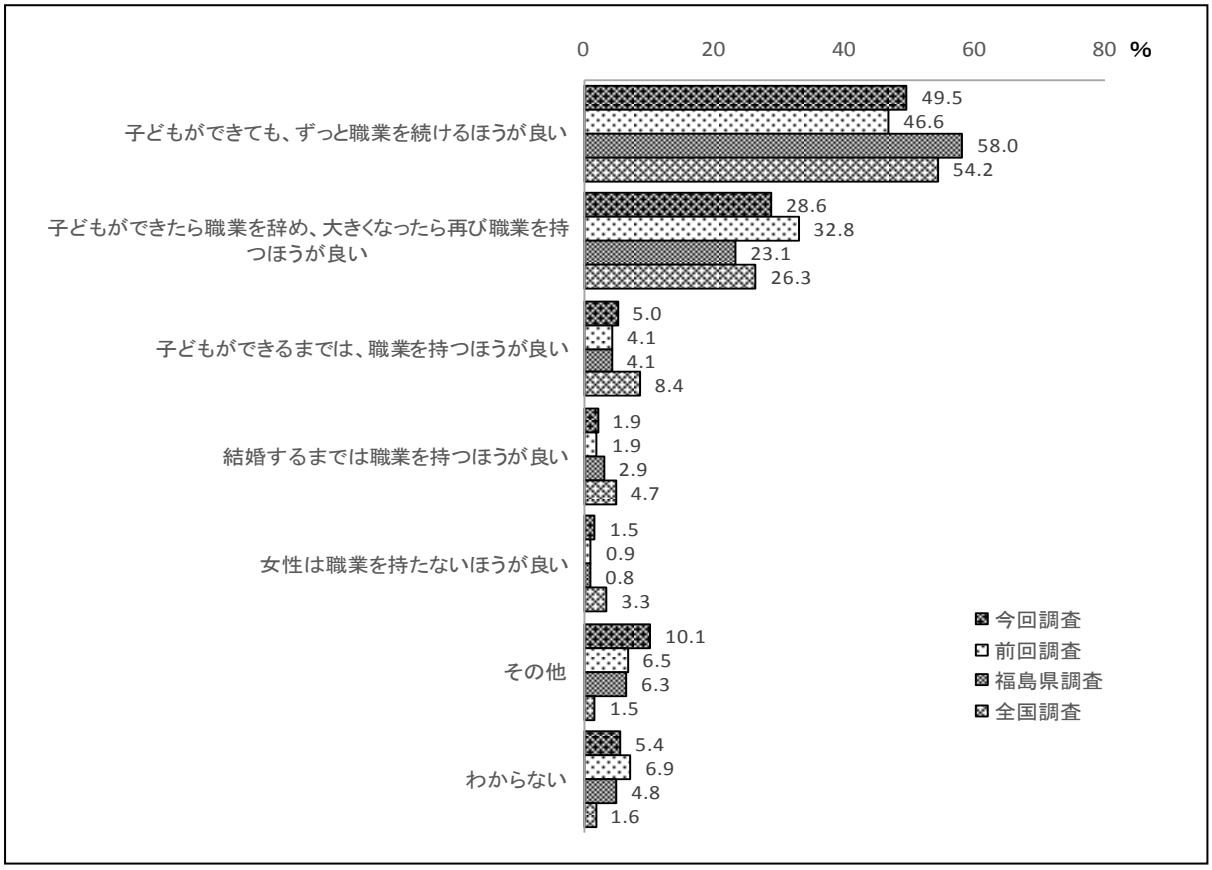
「子どもができても、ずっと職業を続けるほうが良い」は、40 代～60 代の各年代で過半数を占め、また、10 代～30 代も半数近くと、どの年代も一様に高い割合にある。一方、「子どもができたら職業を辞め、大きくなったら再び職業を持つほうが良い」は、60 代（30.8%）、70 代以上（36.7%）の高年代の割合が多く、10 代（11.8%）が最も低い。

		合計	女性は職業を持たないほうが良い	結婚するまでは職業を持つほうが良い	子どもができるまでは、職業を持つほうが良い	子どもができたら職業を辞め、大きくなったら再び職業を持つほうが良い	子どもができても、ずっと職業を続けるほうが良い	その他	わからない	無回答
全体		1,026	1.5	1.9	4.9	28.0	48.3	9.8	5.3	2.2
年齢別	10代	17		5.9	5.9	11.8	47.1	29.4		
	20代	60		1.7	8.3	26.7	48.3	13.3	1.7	
	30代	99	2.0		2.0	22.2	46.5	20.2	8.1	
	40代	142		0.7	1.4	22.5	54.2	14.8	7.0	0.7
	50代	180	1.7	1.1	2.2	23.9	54.4	10.0	6.1	0.6
	60代	227	2.2	1.3	4.8	30.8	50.2	7.5	4.0	0.4
	70代以上	270	1.5	4.1	8.9	36.7	41.5	3.0	4.8	4.1

◆前回調査・福島県調査・全国調査との比較

「子どもができても、ずっと職業を続けるほうがよい」は、いずれの場合も最も高い割合にあるが、福島市（今回調査）は福島県より 8.5 ポイント、全国からは 4.7 ポイント下回り、一方、前回調査より 2.9 ポイント増加している。

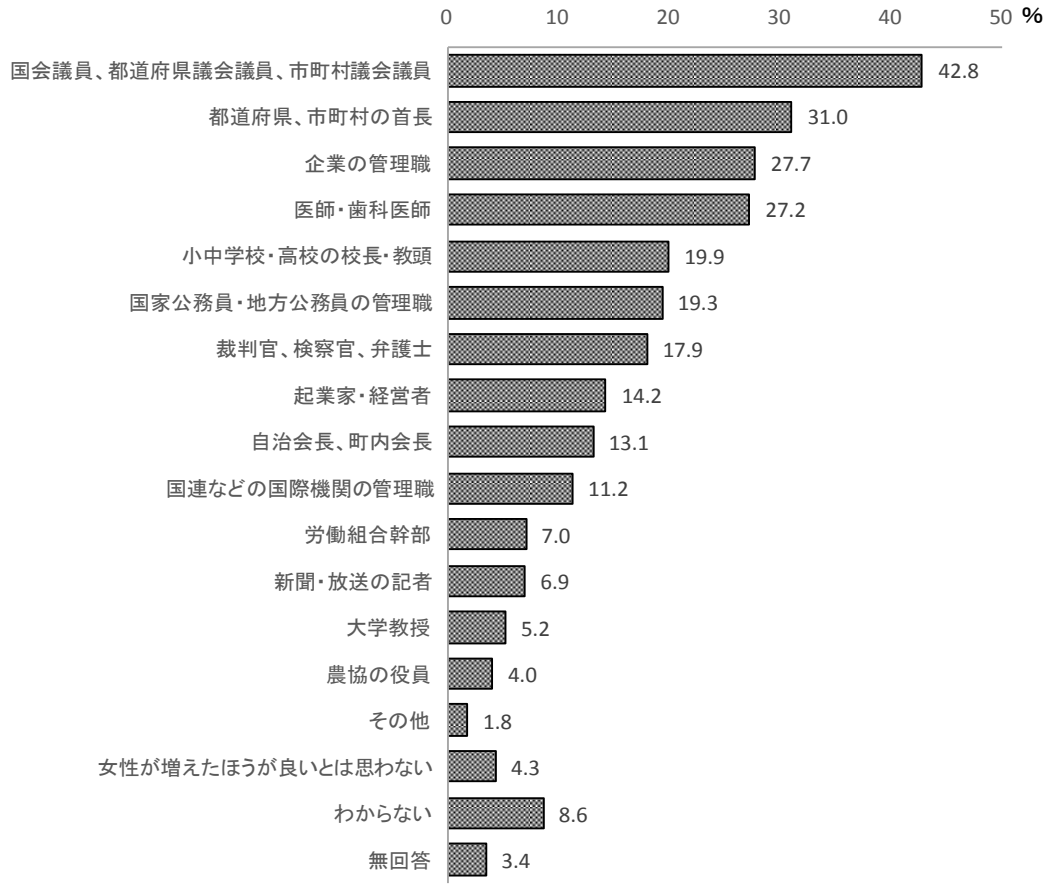
また、「子どもができたら職業を辞め、大きくなったら再び職業を持つほうが良い」では、福島市（今回調査）が福島県、全国の割合を若干上回るが、前回調査からは 4.2 ポイント減少している。



（３）女性がもっと増えたほうが良いと思う職業や役職

問７	あなたが、次にあげる職業や役職で女性がもっと増えたほうが良いと思うものはどれですか。

◇全体



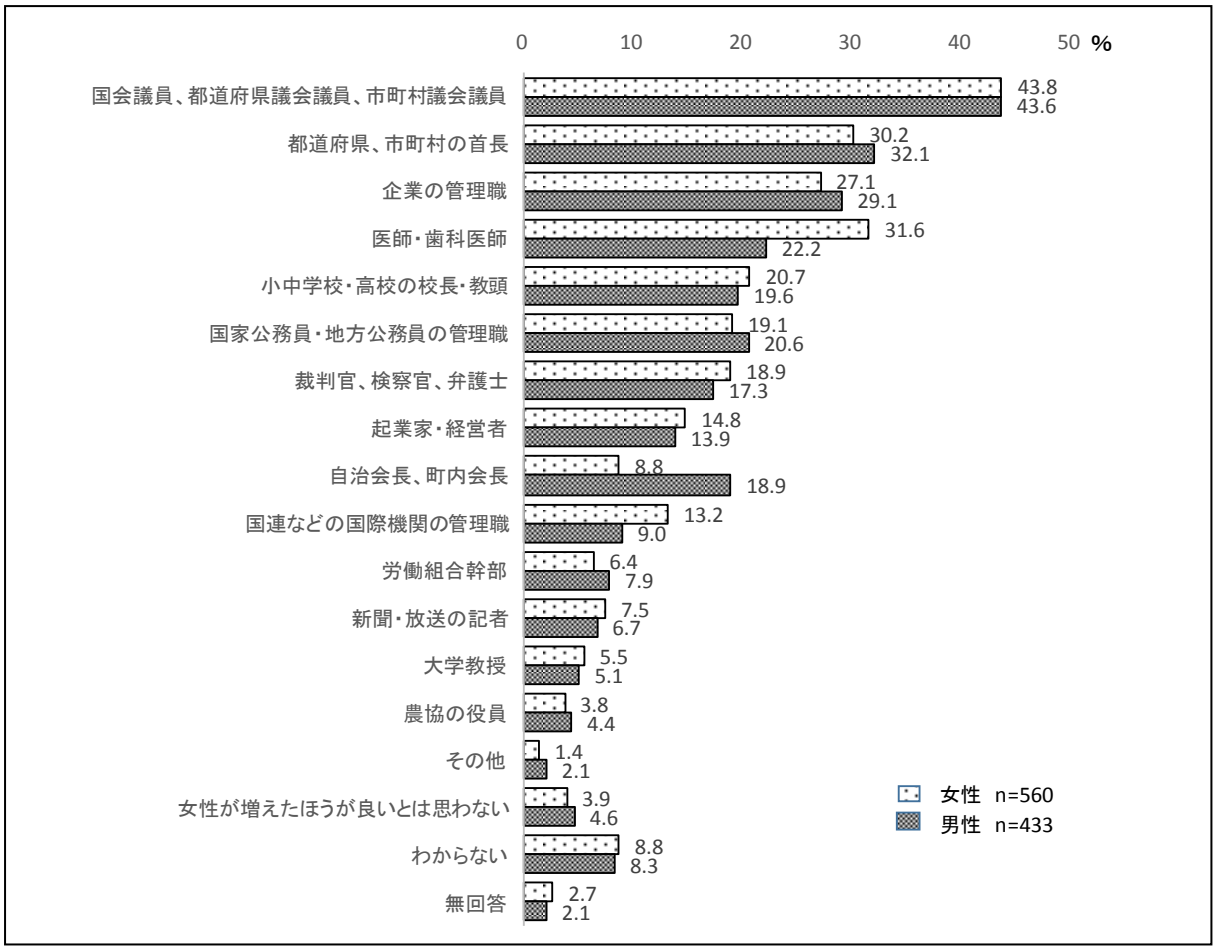
●「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」（42.8%）が最も多く、以下、「都道府県、市町村の首長」（31.0%）、「企業の管理職」（27.7%）、「医師・歯科医師」（27.2%）が続き、上位を占める。

●一方、「農協の役員」や「大学教授」などの割合が低い。

◇性別

「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」は、女性と男性の割合がほぼ同じ。一方、「都道府県、市町村の首長」と「企業の管理職」は、男性が女性よりわずかに多く、「医師・歯科医師」では、女性が男性を 9.4 ポイント上回る。

女性の割合が男性より大きいのは、「医師・歯科医師」と「国連など国際機関の管理職」、反対に、男性が女性より多いのは、「自治会長、町内会長」である。



◇年齢別

「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」は、どの年代も 4 割以上と多く、「都道府県、市町村の首長」は、30 代～50 代の中高年の割合が多い。また、「企業の管理職」は 50 代と 10 代で、「医師・歯科医師」は、20 代と 40 代で多い。

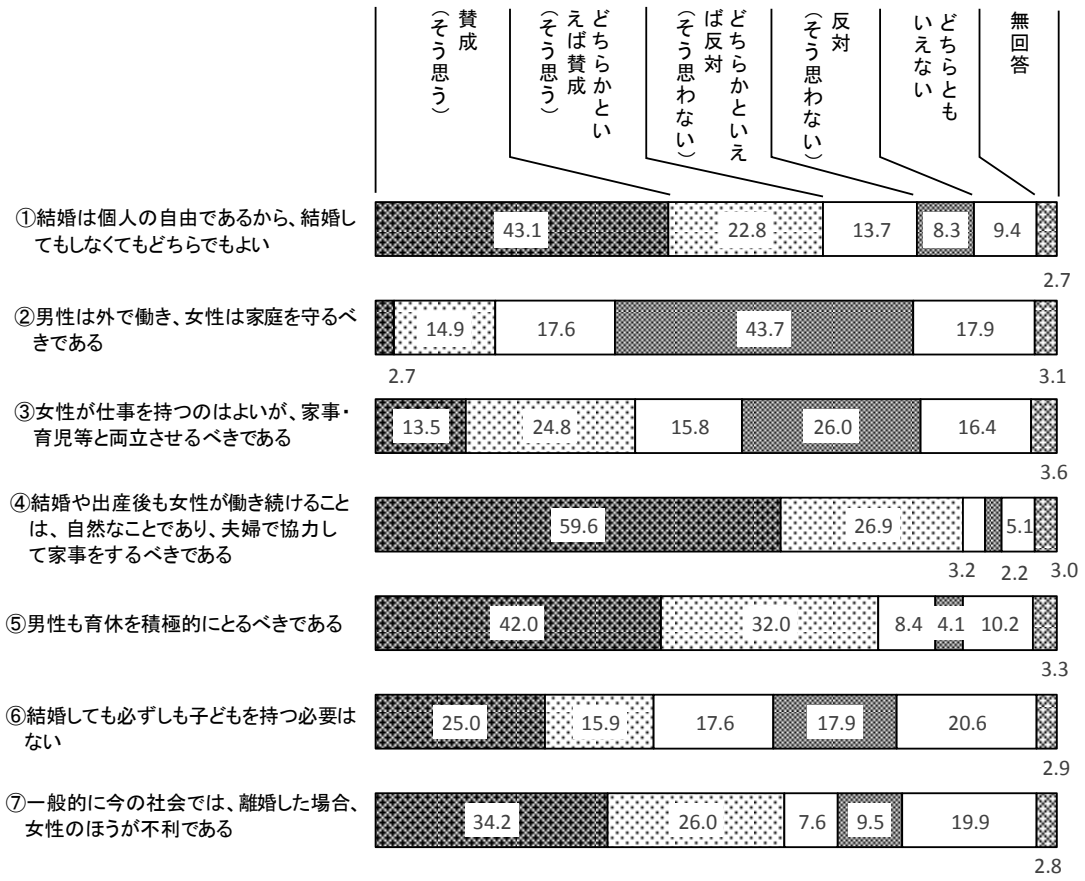
		合計	都道府県、市町村の首長	国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員	国家公務員・地方公務員の管理職	裁判官、検察官、弁護士	大学教授	小中学校・高校の校長・教頭	国連などの国際機関の管理職	企業の管理職	起業家・経営者	医師・歯科医師	労働組合幹部	農協の役員	新聞・放送の記者	自治会長、町内会長	その他	女性が増えたほうが良いとは思わない	わからない	無回答
全体		1,026	31.0	42.8	19.3	17.9	5.2	19.9	11.2	27.7	14.2	27.2	7.0	4.0	6.9	13.1	1.8	4.3	8.6	3.4
年齢別	10代	17	23.5	47.1	11.8	23.5		17.6	17.6	35.3	17.6	23.5	5.9	5.9	5.9	5.9			17.6	
	20代	60	25.0	46.7	23.3	25.0	6.7	11.7	6.7	25.0	13.3	35.0	8.3	1.7	1.7	1.7	1.7	5.0	8.3	1.7
	30代	99	35.4	45.5	21.2	15.2	8.1	26.3	13.1	30.3	14.1	28.3	7.1	3.0	3.0	8.1	1.0	7.1	7.1	1.0
	40代	142	32.4	40.8	18.3	19.0	4.2	19.7	9.2	28.9	18.3	31.0	9.9	6.3	6.3	9.2	4.2	2.8	9.2	0.7
	50代	180	32.8	43.3	17.8	23.3	8.3	17.2	13.9	36.1	16.1	20.6	5.6	3.9	3.3	10.6	1.7	4.4	8.3	0.6
	60代	227	30.8	46.7	20.7	18.5	2.2	17.6	12.3	27.3	11.9	30.0	7.9	3.1	7.5	15.0	1.3	5.3	7.5	3.1
	70代以上	270	30.8	46.7	20.7	18.5	2.2	17.6	12.3	27.3	11.9	30.0	7.9	3.1	7.5	15.0	1.3	5.3	7.5	3.1

２　家庭・結婚観、地域活動について

（１）結婚、家庭、離婚に関する考え方

問８	あなたは、結婚、家庭、離婚に関する次のような考え方をどう思いますか。

◇全体

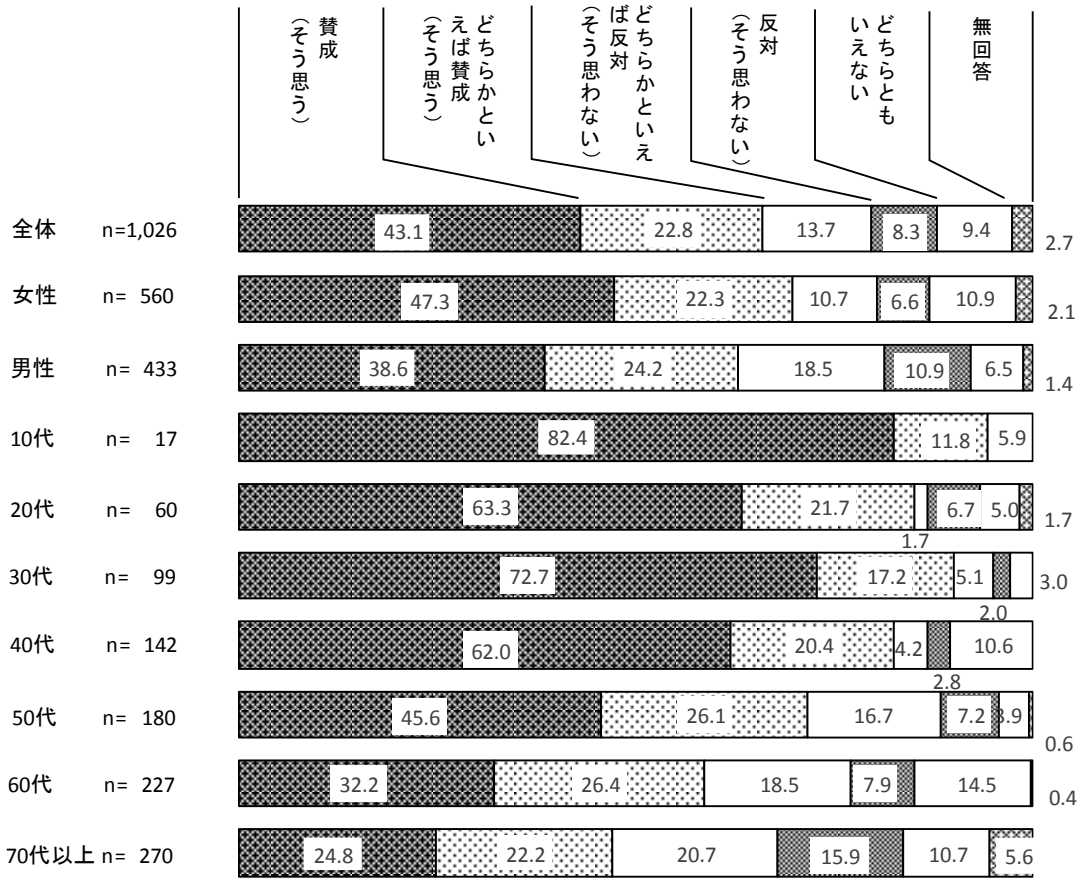


- “賛成派”の割合は、「結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである」（86.5%）、「男性も育休を積極的にとるべきである」（74.0%）、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」（65.9%）、「一般的に今の社会では、離婚した場合、女性のほうが不利である」（60.2%）の順である。
- “反対派”の大きいのは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」（61.3%）。
- “賛成派”と“反対派”に分かれているのが、「女性が仕事を持つのはよいが、家事・育児等と両立させるべきである」と「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」である。

※“賛成派”とは、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合の合計。
“反対派”とは、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

◇全体



●全体では、“賛成派”が 65.9%、“反対派”が 22.0%、“どちらともいえない”が 9.4%。

●“賛成派”は、女性が男性を上回る。年齢別では、10 代をはじめ、30 代、20 代、40 代など若い世代の割合が特に大きい。

●“反対派”は、男性が女性を上回り、年齢別では、50 代～70 代以上の中高年代に多い。

●“賛成派”と“反対派”に割合が分かれているのは、70 代以上である。

◇性別

“賛成派”は、女性（69.6%）が男性（62.8%）を 6.8 ポイント上回る。“反対派”は、男性（29.4%）が女性（17.3%）を 12.1%上回る。

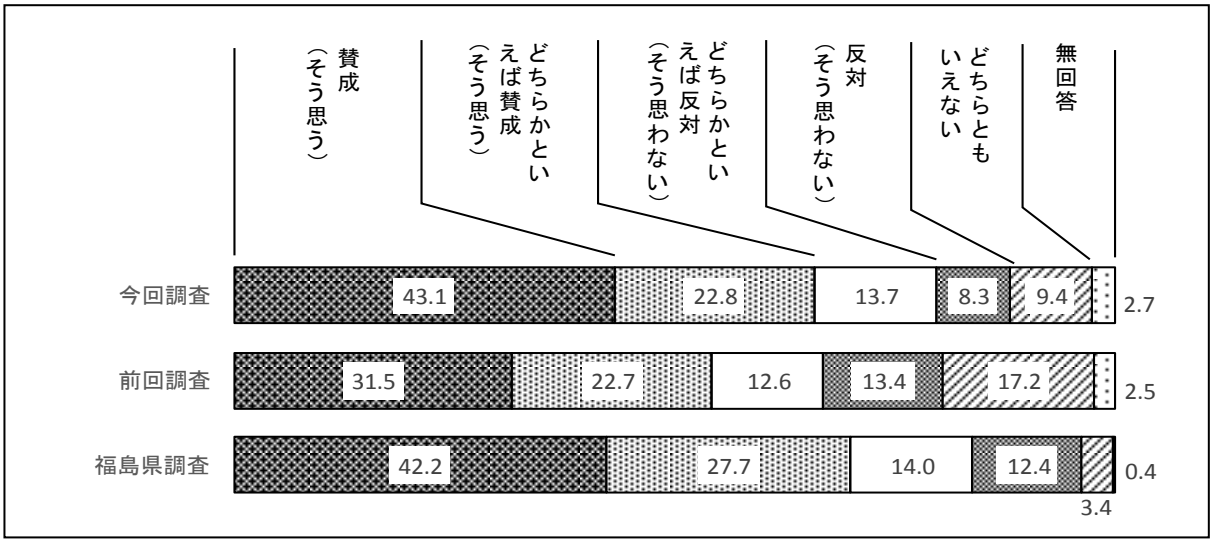
◇年齢別

“賛成派”は、10 代（94.2%）、30 代（89.9%）、20 代（85.0%）、40 代（82.4%）と若い年代での割合が大きい。“反対派”は、70 代以上（36.6%）、60 代（26.4%）、50 代（23.9%）と中高年代に多い。70 代以上では、“賛成派”（47.0%）と“反対派”（36.6%）に分かれている。

◆前回調査・福島県調査との比較

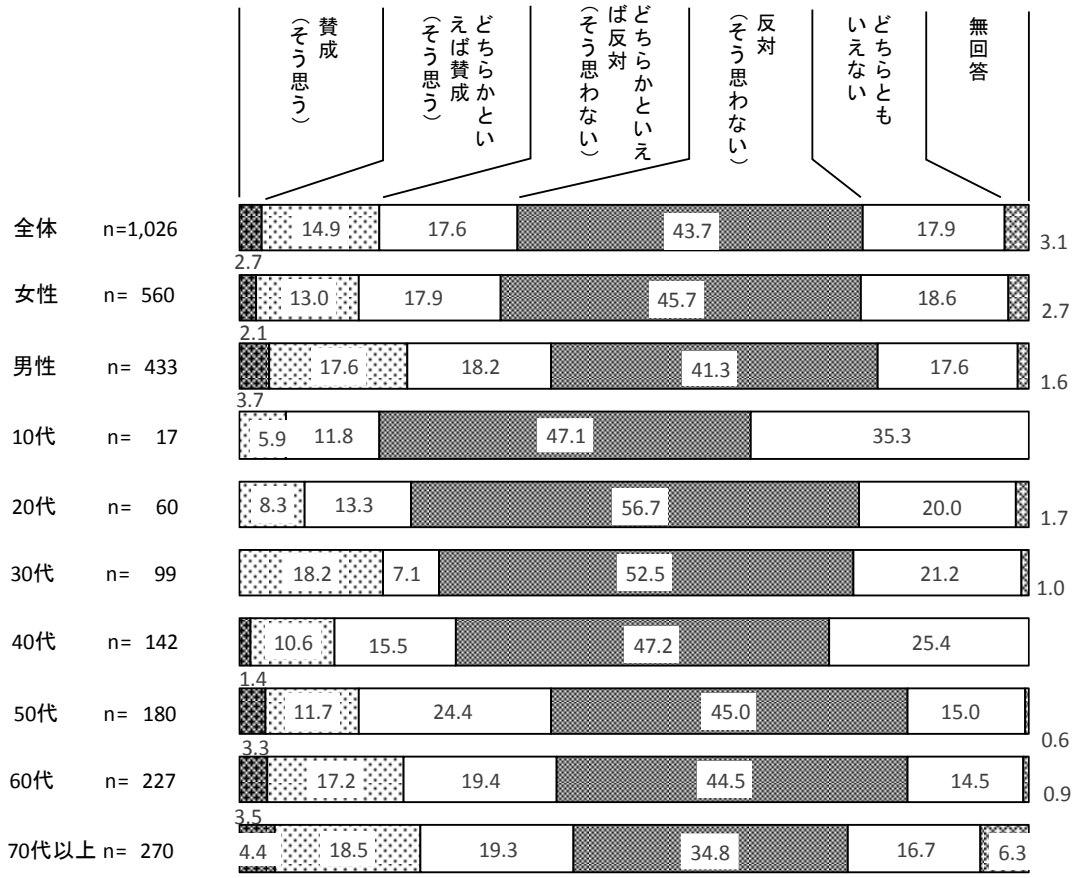
“賛成派”は、福島県が福島市（今回調査）より 4 ポイント多く、“反対派”は、逆に福島市（今回調査）が 4.4 ポイント上回る。

また、前回調査に比べて、“賛成派”は 11.7 ポイントと大きく増加し、“反対派”は 4.0 ポイント減少している。



②男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである

◇全体



●全体では、“反対派”が 61.3%、“賛成派”が 17.6%、“どちらともいえない”が 17.9%。

●性別では、男性、女性ともに“賛成派”と“反対派”の割合は同程度である。

●年代別では、どの年代も“反対派”が“賛成派”を大きく上回る。その中で、“反対派”の割合が特に高いのが 20 代（70.0%）と 50 代（69.4%）である。

●“どちらともいえない”は、10 代（35.3%）をはじめ、若い年代に多い。

◇性別

“反対派”は、女性（63.6%）が男性（59.5%）を 4.1 ポイント上回る。一方、“賛成派”は、男性（21.3%）が女性（15.1%）を 6.2 ポイント上回る。

◇年齢別

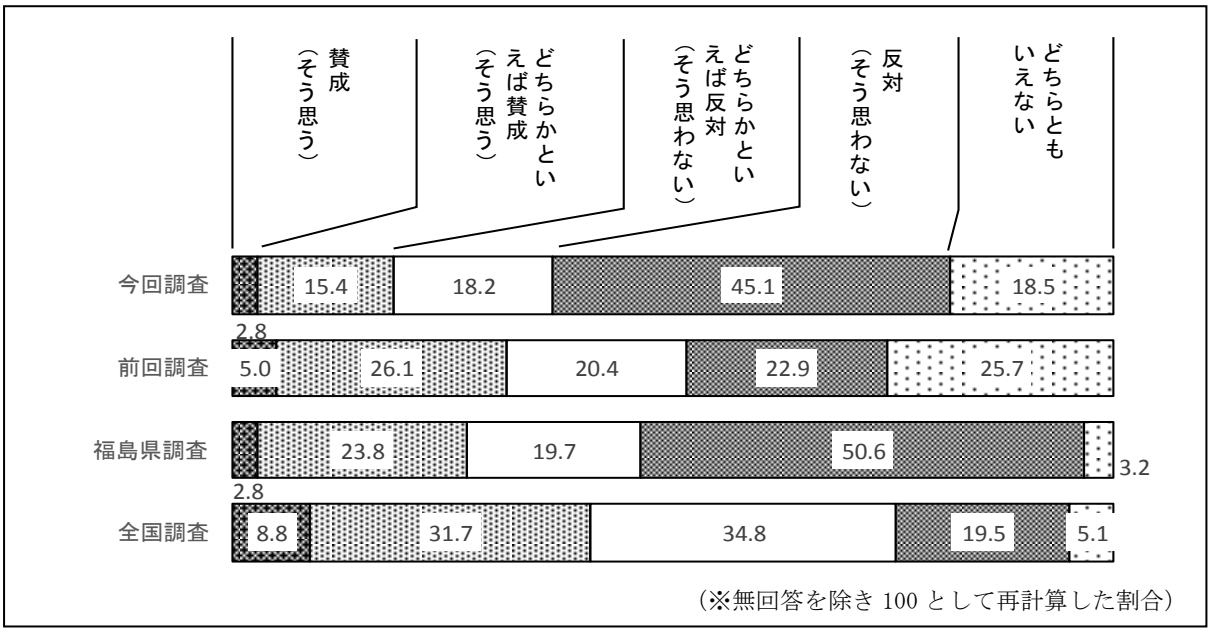
“反対派”の割合は、20 代（70.0%）をはじめ、50 代（69.4%）、60 代（63.9%）、40 代（62.7%）が上位にある。一方、“賛成派”は、70 代以上（22.9%）や 60 代（20.7%）の高年代に多い。

また、“どちらともいえない”は、10 代（35.3%）など若い年代の割合が多い。

◆前回調査・福島県調査・全国調査との比較

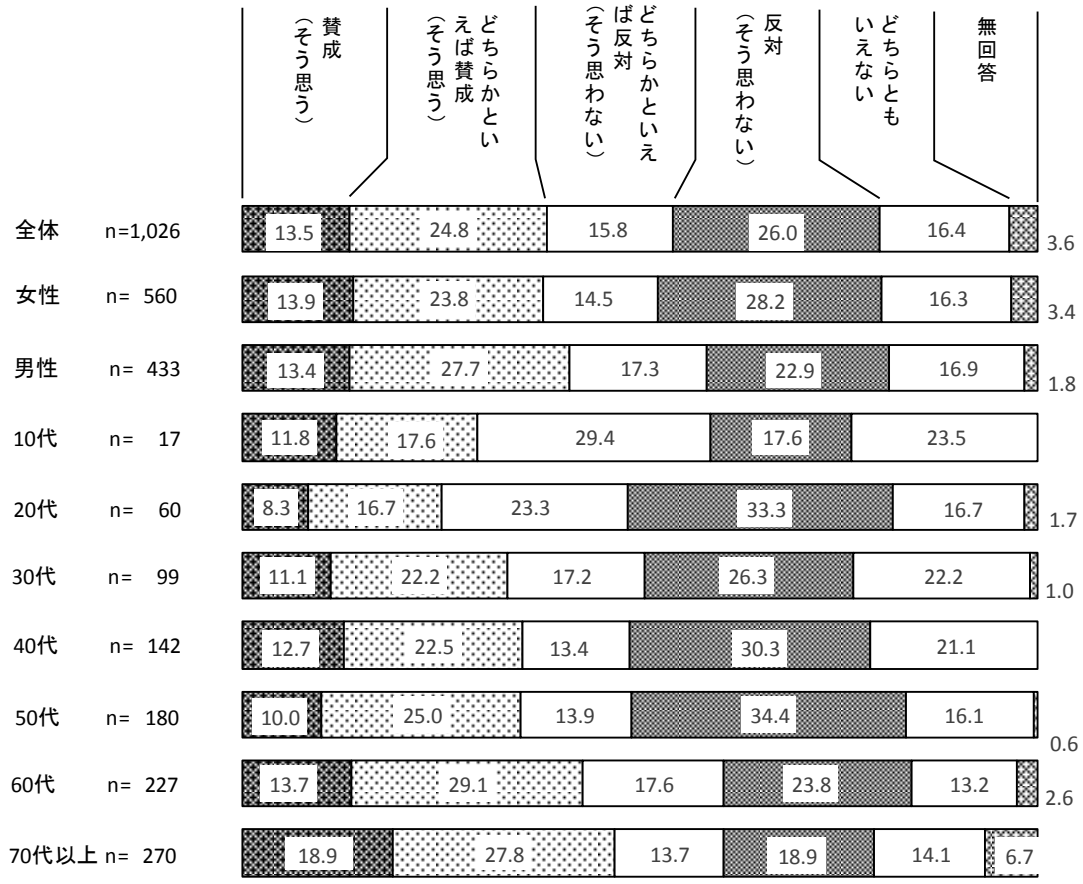
“賛成派”の割合が最も多いのが全国で、福島市（今回調査）を 22.3 ポイント上回り、同じく福島県は福島市（同上）より 8.4 ポイント多い。また、“反対派”は、福島県が最も多く、次いで福島市（同上）、全国の順となっている。

一方、前回調査と比較すると、“賛成派”は 12.9 ポイント減少し、“反対派”は 20.0 ポイントと大きく増加している。



③女性が仕事を持つのはよいが、家事・育児等と両立させるべきである

◇全体



●全体では、“賛成派”が 38.3%、“反対派”が 41.8%、“どちらともいえない”が 16.4%。

●“賛成派”の割合は、男性が 41.1%で女性が 37.7%、“反対派”は、女性が 42.7%で男性が 40.2%と、ほぼ同程度にある。

●“反対派”の割合が高いのは、10 代や 20 代、50 代。また、“賛成派”が“反対派”を上回るのは 60 代と 70 代以上のみである。

●“どちらともいえない”は、10 代や 30 代、40 代など若い年代の方が多い。

◇性別

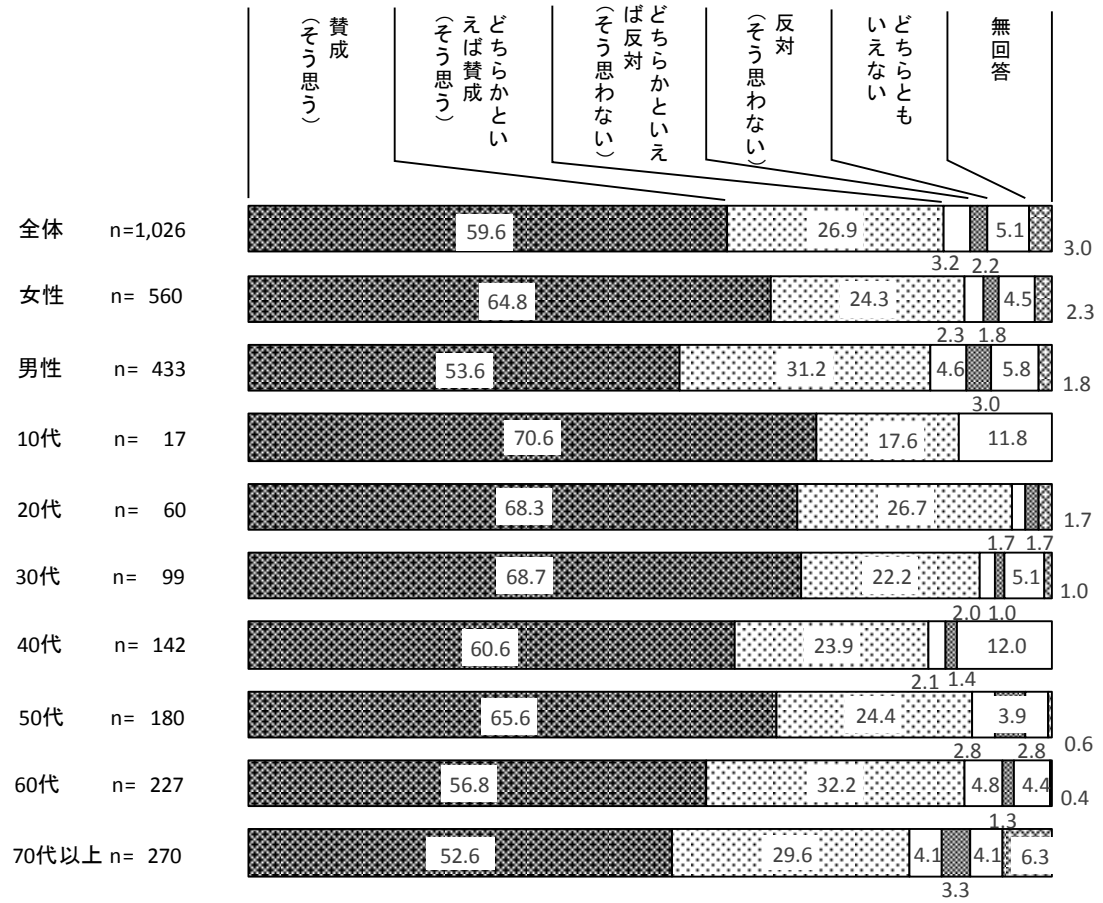
“賛成派”は、男性（41.1%）が女性（37.7%）を 3.4 ポイント上回り、“反対派”は、女性（42.7%）が男性（40.2%）をわずか 2.5 ポイント上回る。

◇年齢別

“反対派”割合が上位にあるのは、20 代（56.6%）と 50 代（48.3%）、10 代（47.0%）であり、“賛成派”の割合が高いのは 70 代以上（46.7%）と 60 代（42.8%）の高年代である。また、“賛成派”の割合が“反対派を上回るのは、60 代と 70 代以上のみである。

④結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである

◇全体



●全体では、“賛成派”が 86.5%と大勢を占め、“反対派”は 5.4%、“どちらともいえない”が 5.1%である。

●“賛成派”は、女性（89.1%）、男性（84.8%）ともに高い割合にある。

●“賛成派”は、全ての年代で 8 割以上と高く、その中で 20 代（95.0%）が最も多い。一方、“反対派”は、10 代（11.8%）以外は全て 1 割未満である。

◇性別

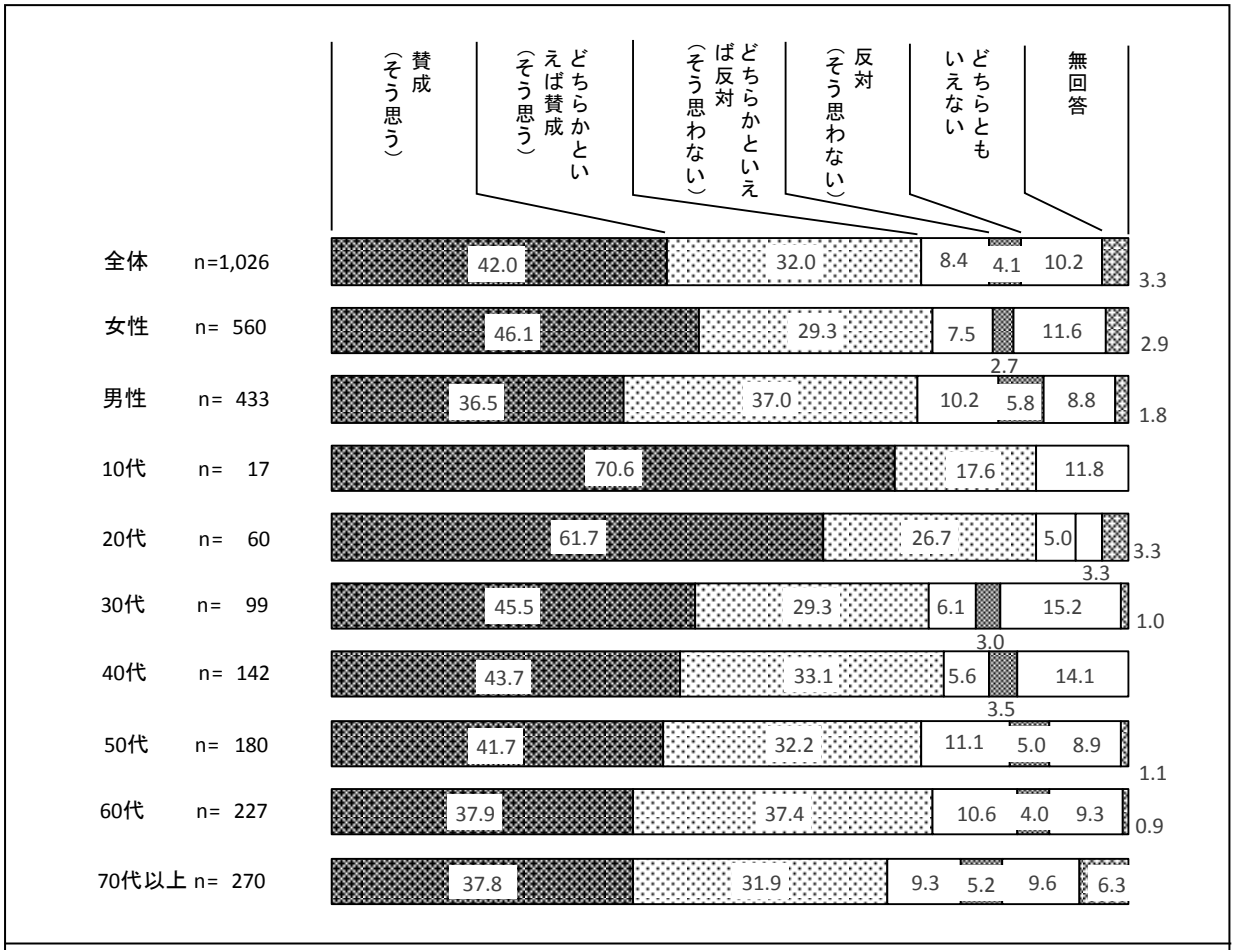
“賛成派”は、女性（89.1%）が男性（84.8%）を 4.3 ポイント上回る。“反対派”は、男性（7.6%）が女性（4.1%）を 3.5 ポイント上回る。

◇年齢別

“賛成派”は、20 代（95.0%）をトップに、30 代（90.9%）、50 代（90.0%）が上位にあり、最も低いのが 70 代以上（82.2%）である。“反対派”は、10 代（11.8%）以外は 1 割未満である。

⑤男性も育休を積極的にとるべきである

◇全体



●全体では、“賛成派”が 74.0%、“反対派”が 12.5%、“どちらともいえない”が 10.2%。

●“賛成派”は、女性（75.4%）と男性（73.5%）で近似。“反対派”は男性（16.0%）が女性（10.2%）を上回る。

●どの年代も“賛成派”が 7 割以上と高く、その中でも、10 代と 20 代の若い年代の割合が特に大きい。一方、“反対派”は、50 代以上の中高年代と 10 代で 1 割台となっている。

◇性別

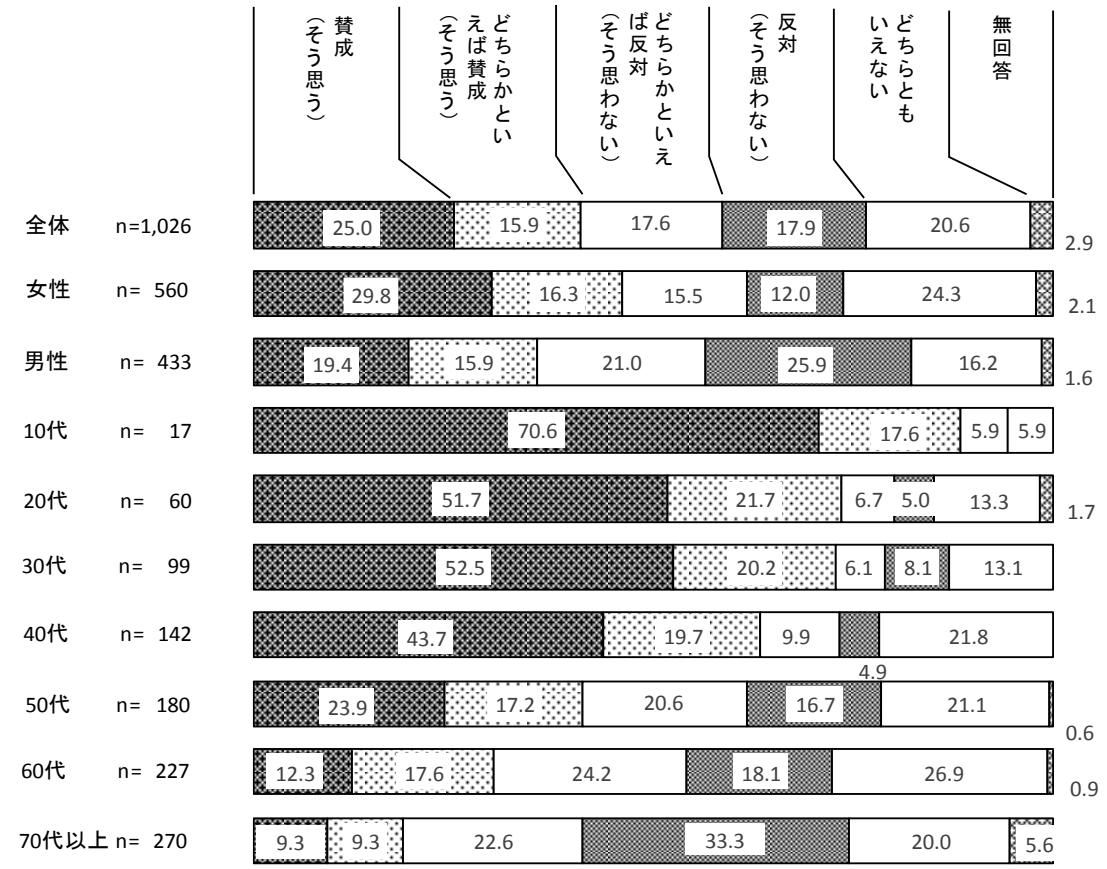
“賛成派”は、女性（75.4%）、男性（73.5%）でほぼ同じ。“反対派”は、男性（16.0%）が女性（10.2%）を 5.8 ポイント上回る。

◇年齢別

“賛成派”は、10 代（88.2%）と 20 代（88.4%）の若い年代が特に高く、70 代以上（69.7%）が最も少ない。“反対派”は 50 代（16.1%）と 60 代（14.6%）、70 代以上（14.5%）の中高年代に多い。

⑥結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

◇全体



●全体では、“賛成派”が 40.9%、“反対派”が 35.5%、“どちらともいえない”が 20.6%。

●“賛成派”は、女性が男性を上回り、“反対派”は男性が女性を上回る。

●“賛成派”は、10 代（88.2%）が最も高く、年代が上がるに伴い減少し 70 代以上（18.6%）が最も低い。一方、“反対派”は年代が上がるにともない割合も増え、70 代以上（55.9%）が最も多い。また、50 代では“賛成派”と“反対派”が拮抗し、この 50 代を境に、若い年代では“賛成派”が上回り、高年代では“反対派”の割合が上回る。

◇性別

“賛成派”は、女性（46.1%）が男性（35.3%）を 10.8 ポイント上回り、“反対派”は、男性（46.9%）が女性（27.5%）を 19.4 ポイント上回る。

◇年齢別

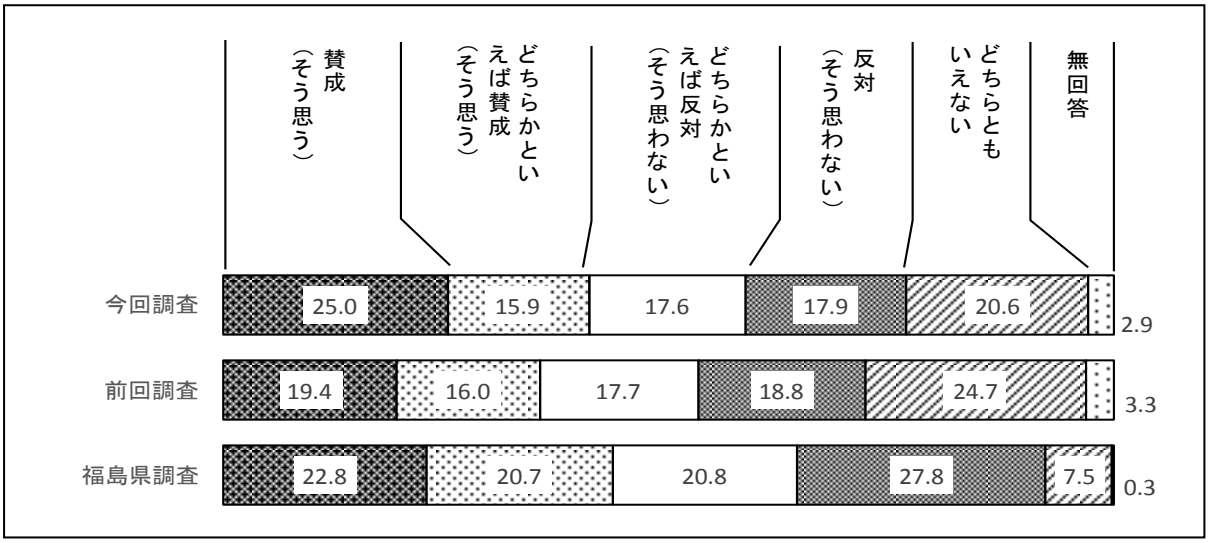
“賛成派”の割合は、10 代（88.2%）～40 代（63.4%）の若い年代で高く、“賛成派”と“反対派”に分かれる 50 代を境に、60 代、70 代以上では“反対派”の割合が“賛成派”を上回る。

◆前回調査・福島県調査との比較

福島市（今回調査）は、“賛成派”の割合が“反対派”より 5.4 ポイント多いが、福島県の場合は、“反対派”の方が“賛成派”を 5.1 ポイント上回る。

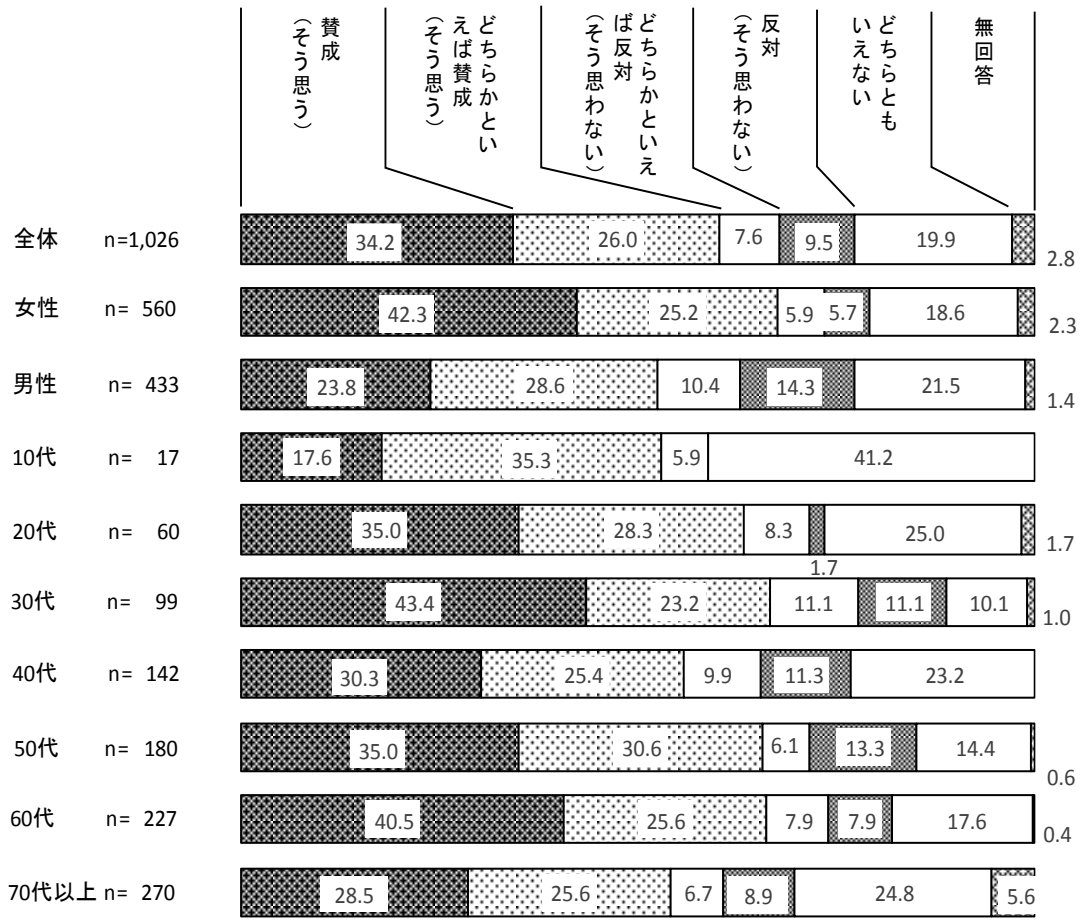
“賛成派”においては、福島県の方が福島市（今回調査）よりわずかに多く、“反対派”では同じく福島県が 13.1 ポイントと大きく上回る。

前回調査と比べると、“賛成派”の割合は、福島市（今回調査）の方が 5.5 ポイント多く、“反対派”はほぼ同じ割合である。



⑦一般的に今の社会では、離婚した場合、女性のほうが不利である

◇全体



●全体では、“賛成派”が 60.2%、“反対派”が 17.1%、“どちらともいえない”が 19.9%。

●“賛成派”は、女性が男性を上回り、“反対派”は、男性が女性を上回る。

●どの年代も“賛成派”が“反対派”を大きく上回り、また、“賛成派”の割合は、最高の 30 代（66.6%）と最低の 10 代（52.9%）間に集中している。一方、“反対派”は、30 代（22, 2%）が最も多い。

◇性別

“賛成派”は、女性（67.5%）が男性（52.4%）を 15.1 ポイント上回り、“反対派”は、男性（24.7%）が女性（11.6%）を 13.1 ポイント上回る。

◇年齢別

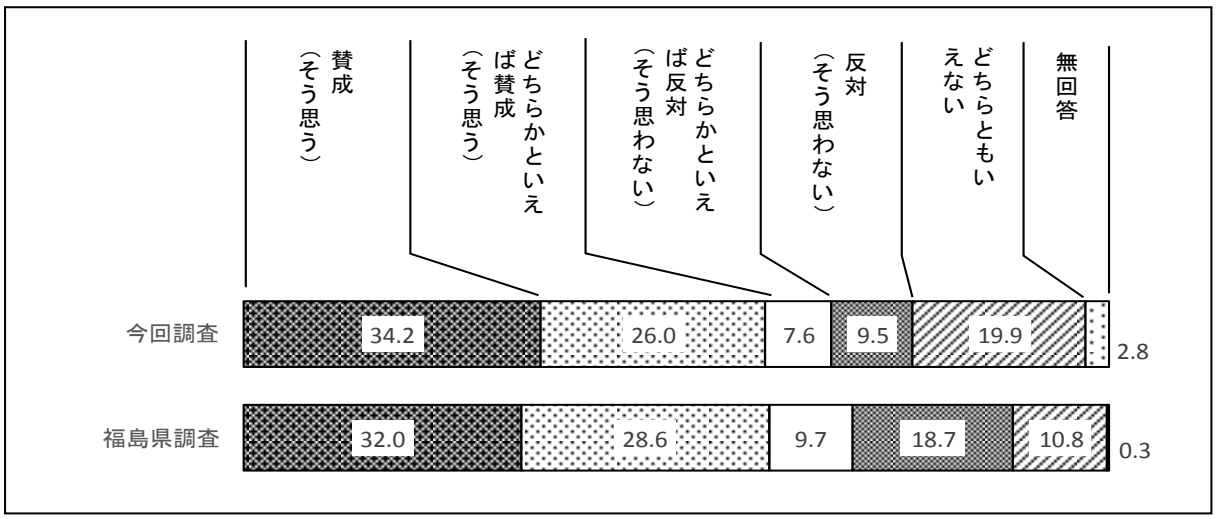
“賛成派”の割合が大きいのが、30 代（66.6%）と 60 代（66.1%）、50 代（65.6%）など。“反対派”は 30 代（22.2%）や 40 代（21.1%）で多い。また、“どちらともいえない”は、10

代（41.2%）で極端に多い。

◆福島県調査との比較

福島市（今回調査）も福島県も“賛成派”の割合が“反対派”を大きく上回る。

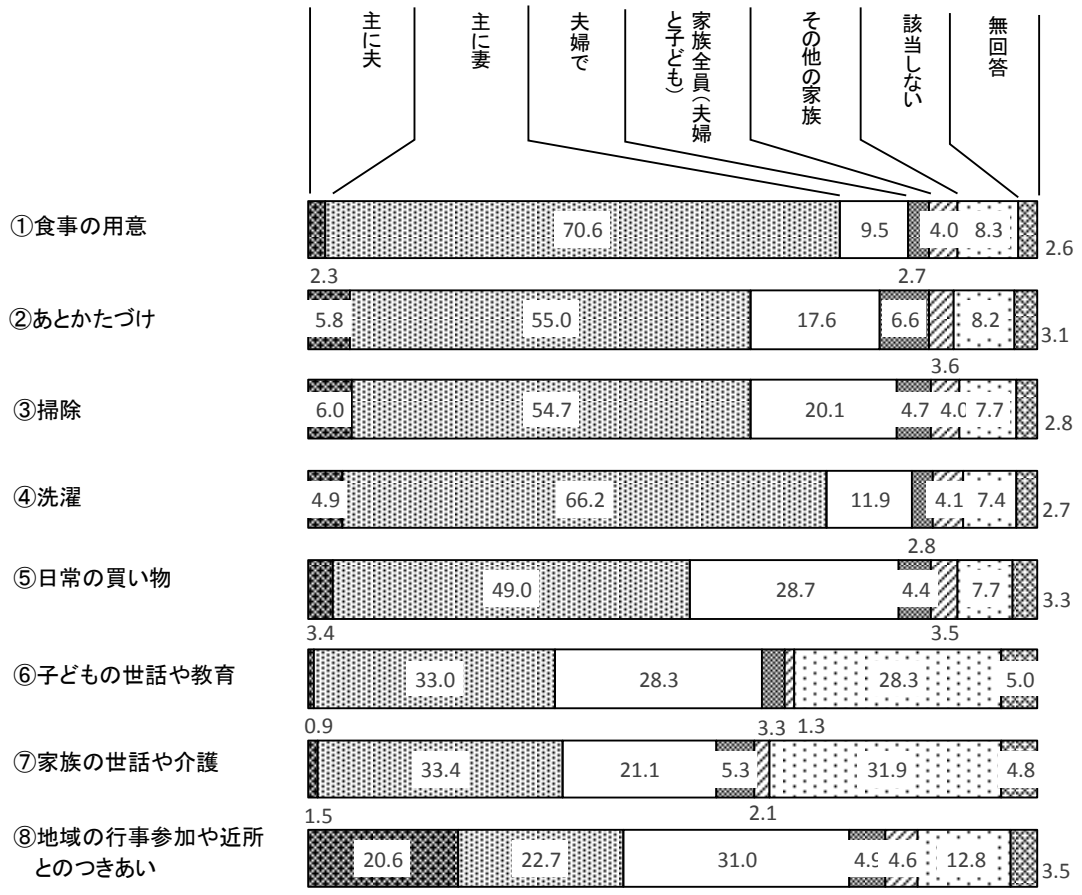
また、“賛成派”の割合は、福島市（今回調査）と福島県はほぼ同じであるが、“反対派”は、福島県が 11.3 ポイント上回る



（２）家事、育児や介護等における役割分担

問９	あなたの家庭では、次にあげるような家事、育児や介護等を、主にどなたがおこなっていますか。

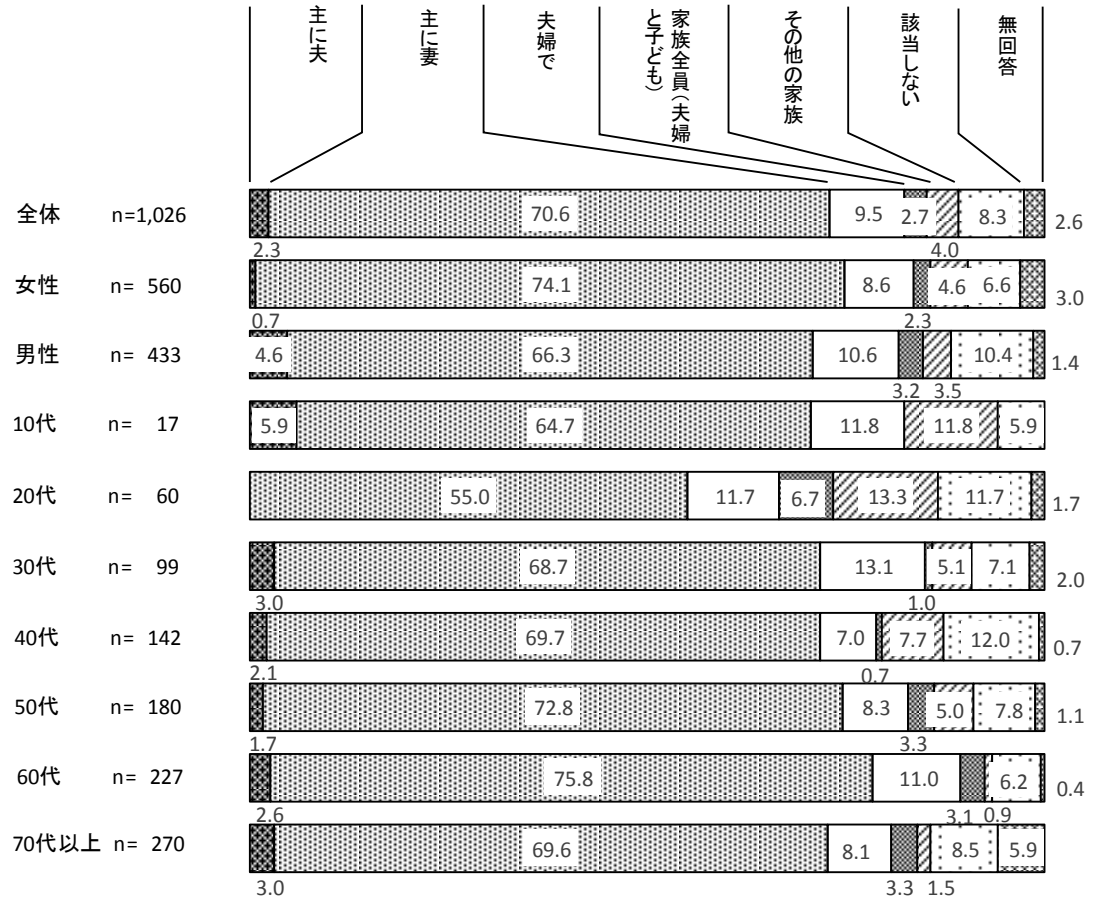
◇全体



- “主に妻”の割合が、最も大きいのが「食事の用意」（70.6%）、次いで「洗濯」（66.2%）である。「あとかたづけ」と「掃除」も過半数を占める。
- “夫婦で”の割合が大きいのは、「地域の行事参加や近所とのつきあい」（31.0%）や「日常の買い物」（28.7%）、「子どもの世話や教育」（28.3%）である。
- “主に夫”は、「地域の行事参加や近所とのつきあい」（20.6%）に多く、また、“家族全員（夫婦と子ども）”は、「あとかたづけ」や「家族の世話や介護」などに少し見られる。

①食事の用意

◇全体



●全体では、“主に妻”とする割合が 70.6%と圧倒的に多く、“夫婦で”は 9.5%である。

●“主に妻”は、女性が男性を上回り、“夫婦で”は、男性が女性をわずかに上回る。

●“主に妻”の割合が最も高いのが 60 代（75.8%）で、最も低いのが 20 代（55.0%）である。一方、“夫婦で”の割合は、10 代～30 代（いずれも 1 割強）の若い世代にやや多い。

◇性別

“主に妻”とする割合は、女性（74.1%）が男性（66.3%）を 7.8 ポイント上回り、“夫婦で”は、男性（10.6%）が女性（8.6%）を 2.0 ポイント上回る。

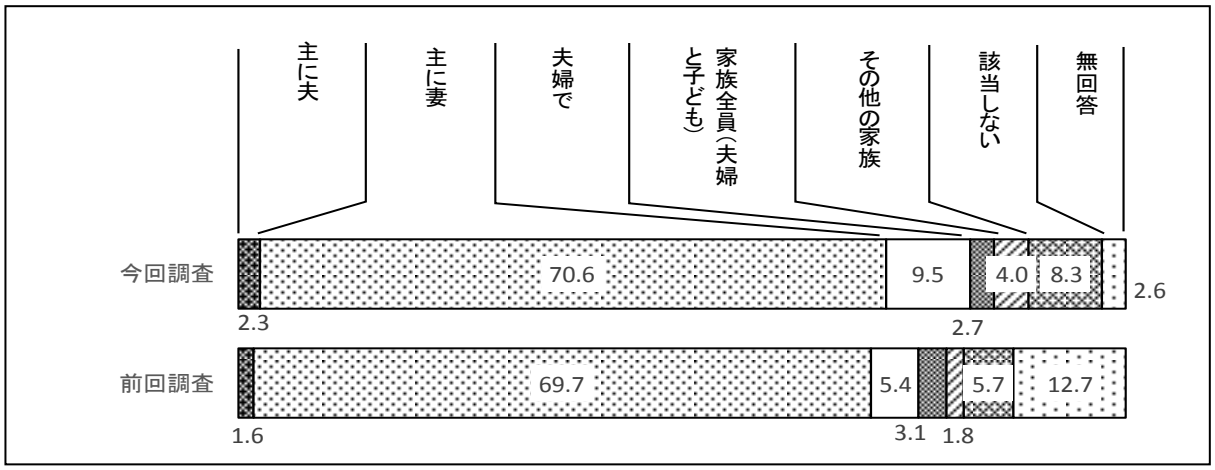
◇年齢別

“主に妻”の割合は、最も高いのが 60 代（75.8%）、次いで 50 代（72.8%）、最も低いのが 20 代（55.0%）である。また、“夫婦で”の割合は 30 代（13.1%）が最も多い。

◆前回調査との比較

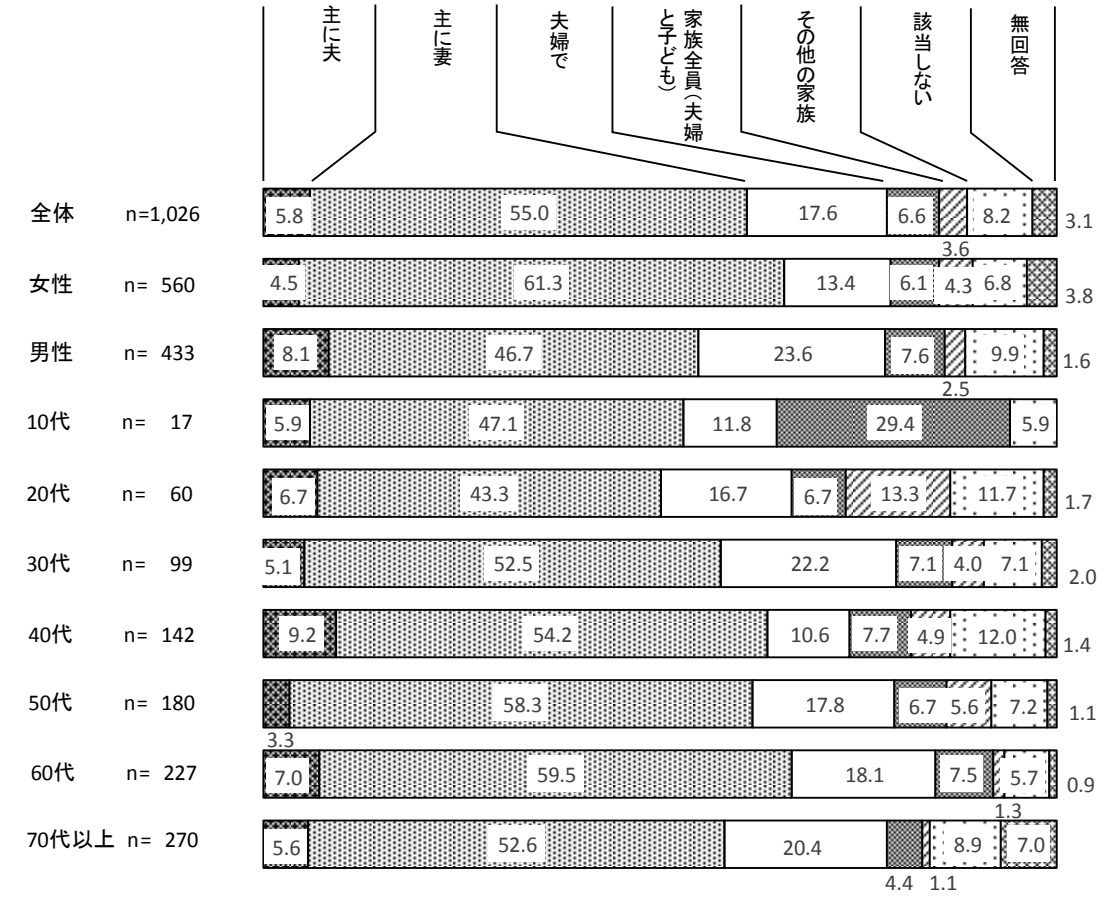
“主に妻”の割合は、前回調査とほぼ変わらず、約 7 割で圧倒的に多い。

一方、“夫婦で”は、今回調査が前回調査を 4.1 ポイント上回る以外は、大きな変化は見られない。



②あとかたづけ

◇全体



●全体では、“主に妻”が 55.0%、“夫婦で”が 17.6%、“家族全員（夫婦と子ども）”と“主に夫”はともに 1 割未満である。

●“主に妻”は、女性が男性を上回り、“夫婦で”は、男性が女性を上回る。

●“主に妻”の割合はどの年代でも多く、60 代（59.5%）、50 代（58.3%）で特に多い。また、“夫婦で”は、どの年代も 1 割～2 割程度。“家族全員（夫婦と子ども）”は、10 代（29.4%）で著しい。

◇性別

“主に妻”は、女性（61.3%）が男性（46.7%）を 14.6 ポイント上回り、“夫婦で”は男性（23.6%）が女性（13.4%）を 10.2 ポイント上回る。

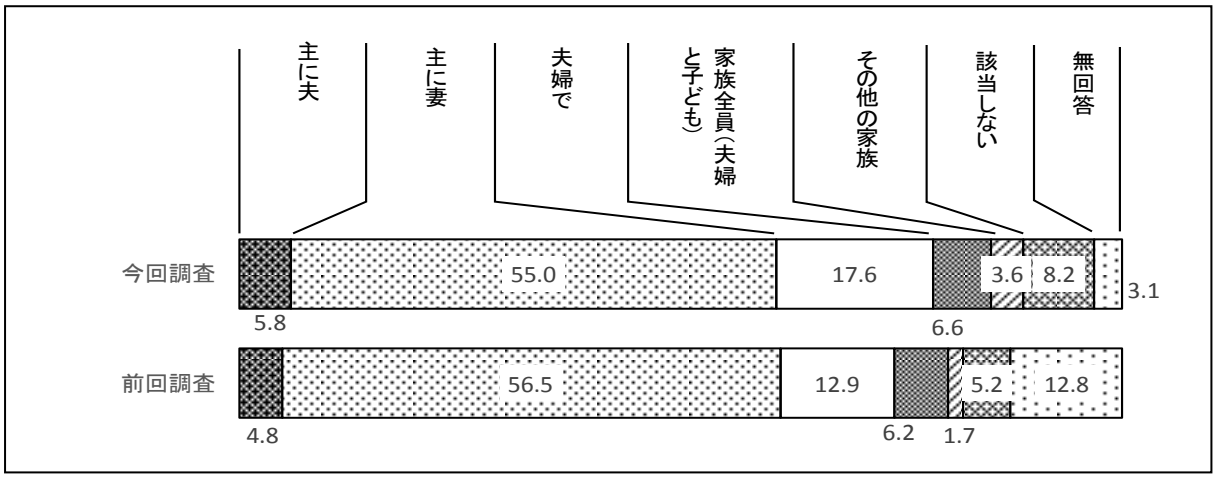
◇年齢別

“主に妻”の割合は、60 代（59.5%）、50 代（58.3%）が上位にあり、20 代（43.3%）が最も少ない。“夫婦で”は、30 代（22.2%）と 70 代以上（20.4%）に多く、“家族全員（夫婦と

子ども)”は、10 代（29.4%）がひと際多い。

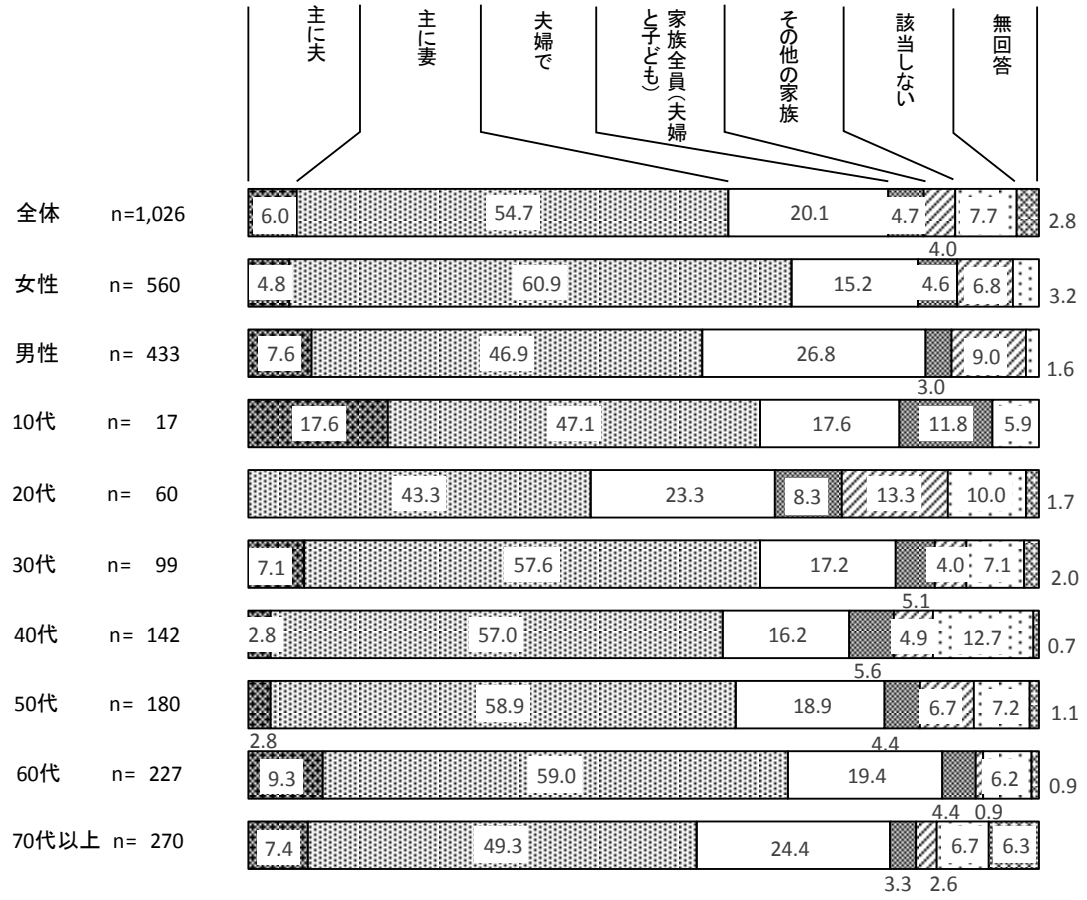
◆前回調査との比較

“主に妻”の割合は、今回調査が前回調査よりわずか 1.5 ポイント下回る程度で、大きな変化はない。一方、“夫婦で”は、今回調査が前回調査より 4.7 ポイント、“その他の家族”が 1.9 ポイントそれぞれ増加した以外は、ほぼ同じである。



③掃除

◇全体



●全体では、“主に妻”が 54.7%、“夫婦で”が 20.1%、“主に夫”と“家族全員（夫婦と子ども）” がともに 1 割未満である。

●“主に妻”は、女性が男性を上回り、“夫婦で”は、男性が女性を上回る。また、男女の割合にはやや開きがある。

●“主に妻”は、特に 30 代～60 代の割合が高い。また、“夫婦で”は 70 代以上と 20 代、“主に夫”は 10 代、“家族全員（夫婦と子ども）”は 10 代、“その他の家族”は 20 台が多い。

◇性別

“主に妻”は、女性（60.9%）が男性（46.9%）を 14 ポイント上回り、“夫婦で”は、男性（26.8%）が女性（15.2%）を 11.6 ポイント上回る。

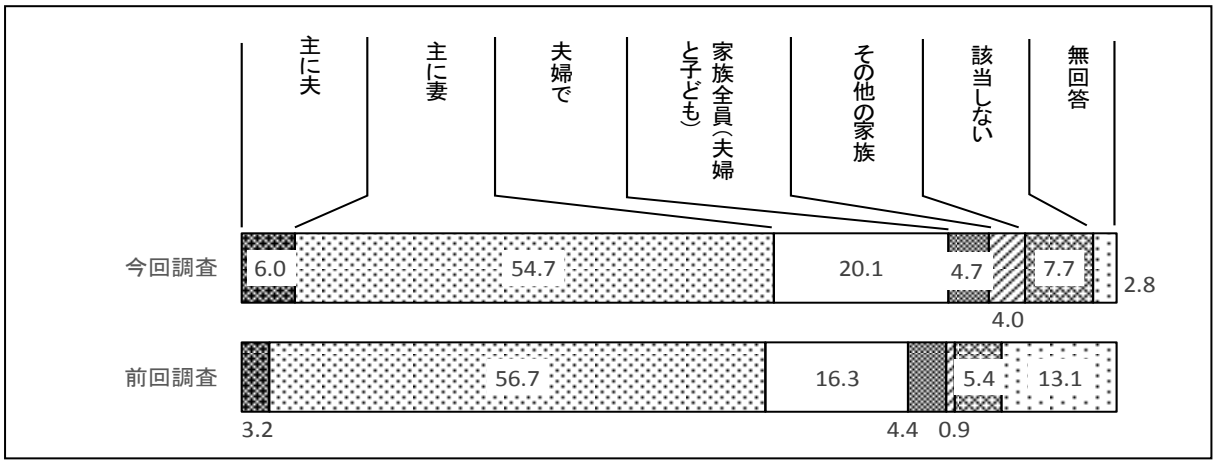
◇年齢別

“主に妻”は、60 代（59.0%）をトップに 50 代、30 代、40 代が上位を占める。また、“夫婦で”は、70 代以上（24.4%）と 20 代（23.3%）、“主に夫”は 10 代（17.6%）が特に多い。

◆前回調査との比較

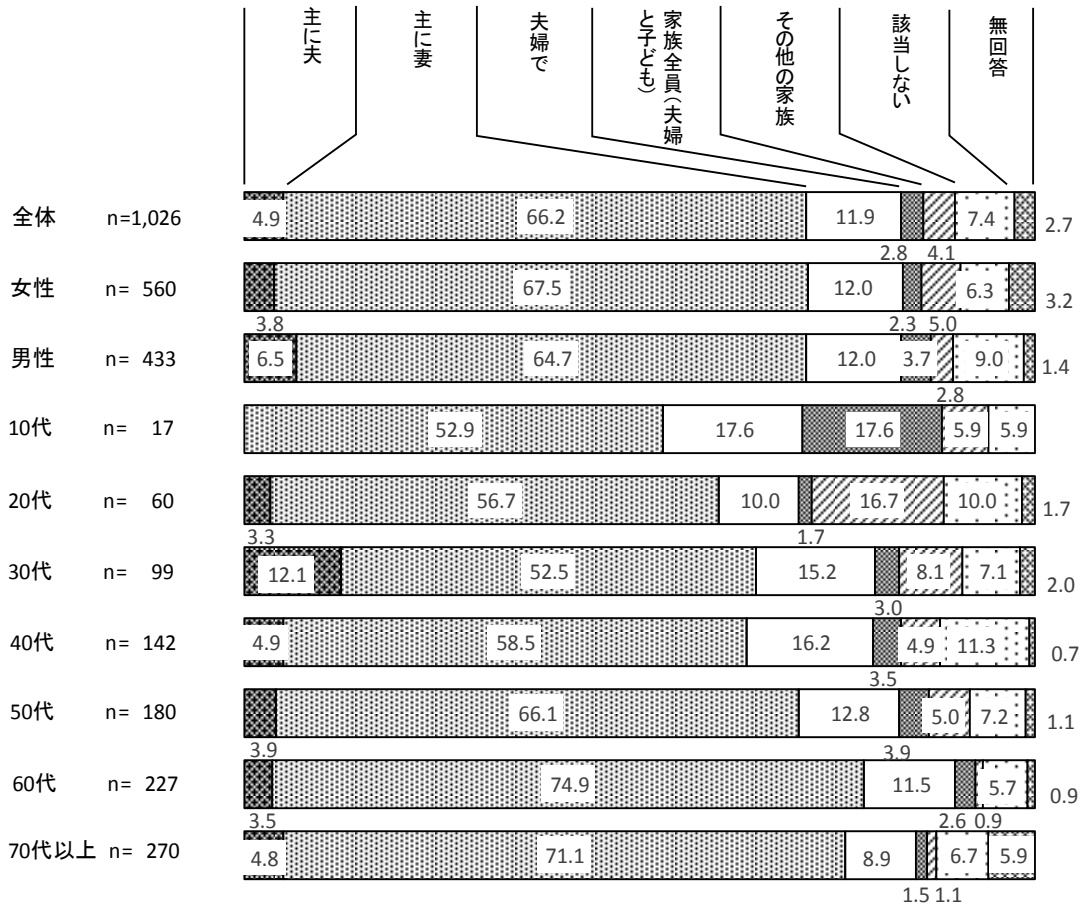
“主に妻”の割合は、今回調査が前回調査より 2 ポイントの減少と大きな変化はない。

一方、“夫婦で”は 3.8 ポイント、“主に夫”は 2.8 ポイント、“その他の家族”が 3.1 ポイントそれぞれ前回調査より多い。



④洗濯

◇全体



●全体では、“主に妻”が 66.2%と圧倒的に多く、“夫婦で”は 11.9%、“主に夫”は 4.9%。

●“主に妻”と“夫婦で”の割合に、男性と女性で差はない。

●“主に妻”は、どの年代も 5 割以上を占めるとともに、60 代、70 代以上の高年代の割合が特に多い。一方、“夫婦で”は 10 代と 30 代、40 代に多く、“家族全員（夫婦と子ども）”は 10 代、“その他の家族”は 20 代で特化している。

◇性別

“主に妻”は、女性が 67.5%で男性が 64.7%、“夫婦で”は、女性、男性ともに 12.0%と、男女の差はない。

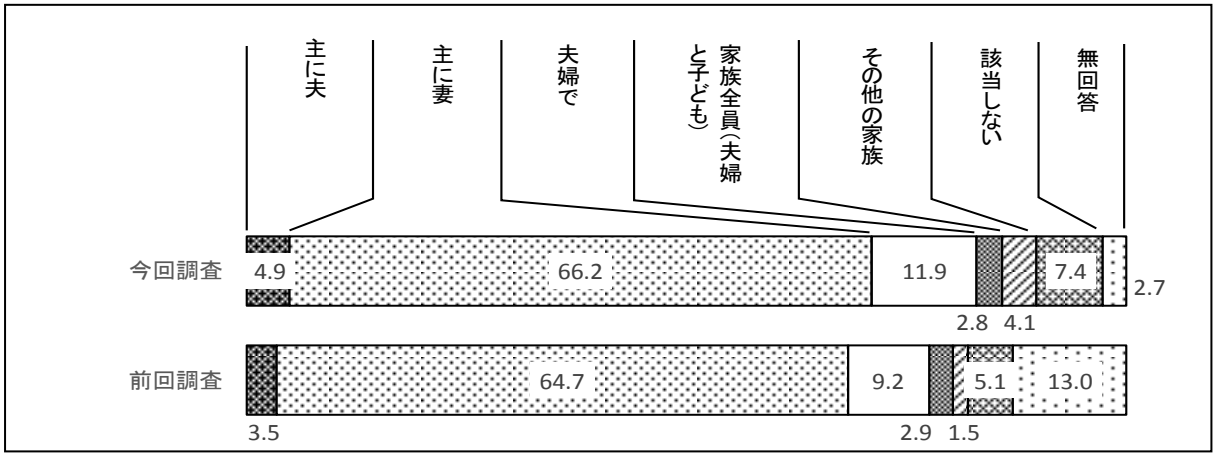
◇年齢別

“主に妻”は、70 代以上（71.1%）をトップに、60 代（74.9%）、50 代（66.1%）の中高年代が上位を占め、30 代(52.5%)が最も低い。また、“夫婦で”は、10 代(17.6%)や 40 代(16.2%)、30 代（15.2%）に多く、“家族全員（夫婦と子ども）”は 10 代（17.6%）、“その他の家族”は

20 代（16.7%）で著しい。

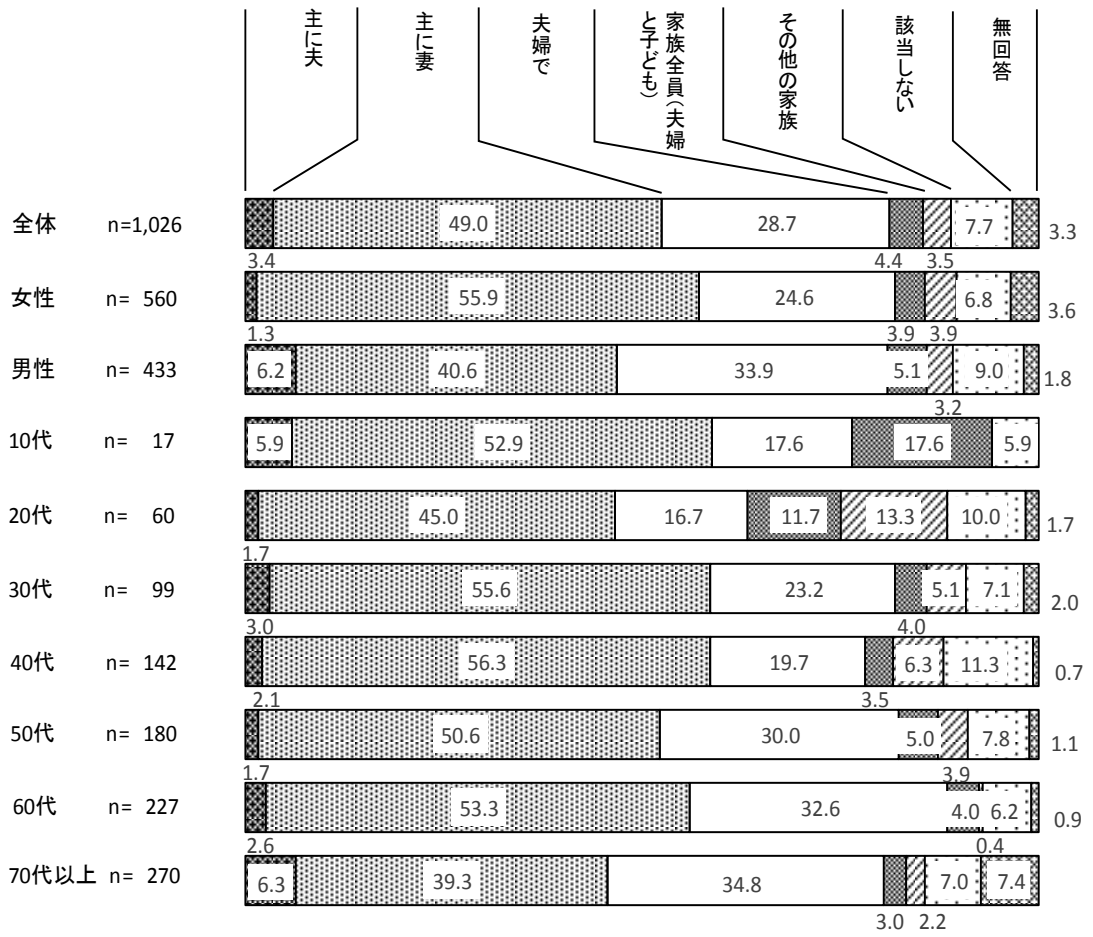
◆前回調査との比較

“主に妻”の割合は、今回調査が前回調査を若干 1.5 ポイント上回ったほか、“夫婦で”は 2.7 ポイント、“主に夫”は 1.4 ポイント、“その他の家族”が 2.6 ポイントそれぞれ前回調査より増加している。



⑤日常の買い物

◇全体



●全体では、“主に妻”が 49.0%、“夫婦で”が 28.7%、その他は数パーセントである。

●“主に妻”は、女性が男性を上回り、“夫婦で”は、男性が女性を上回る。

●“主に妻”は、30 代と 40 代が最も多く、70 代以上が最も低い。“夫婦で”は 60 代、70 代以上の高年代での割合が大きい。“家族全員（夫婦と子ども）”は 10 代で著しい。

◇性別

“主に妻”は、女性（55.9%）が男性（40.6%）を 15.3 ポイント上回り、“夫婦で”は、男性（33.9%）が女性（24.6%）を 9.3 ポイント上回る。

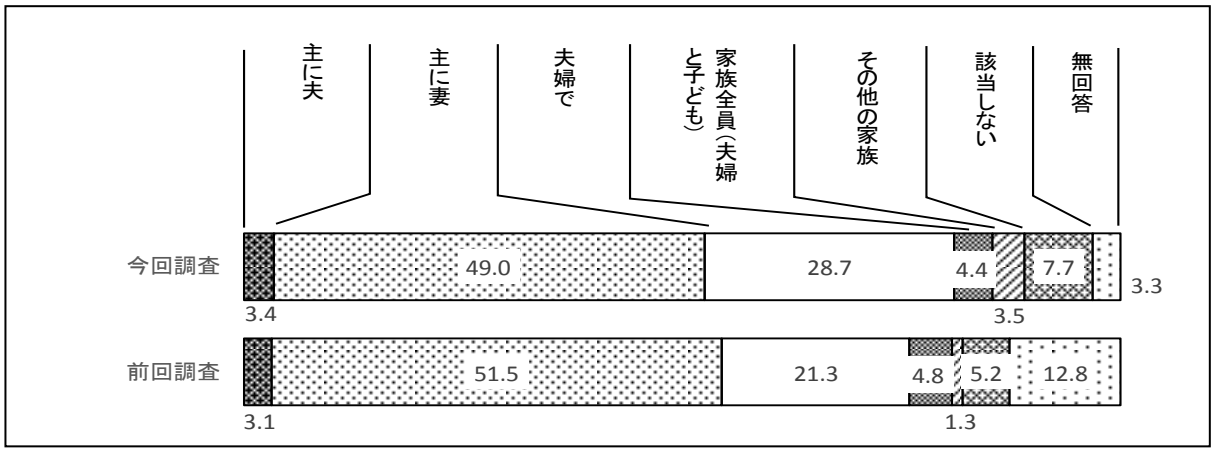
◇年齢別

“主に妻”は、40 代（56.3%）と 30 代（55.6%）が上位にあり、70 代以上（39.3%）が最も低い。“夫婦で”は 50 代～70 代以上の中高年代の割合が大きく、“家族全員（夫婦と子ども）”は 10 代（17.6%）、“その他の家族”は 20 代（13.3%）で大きい。

◆前回調査との比較

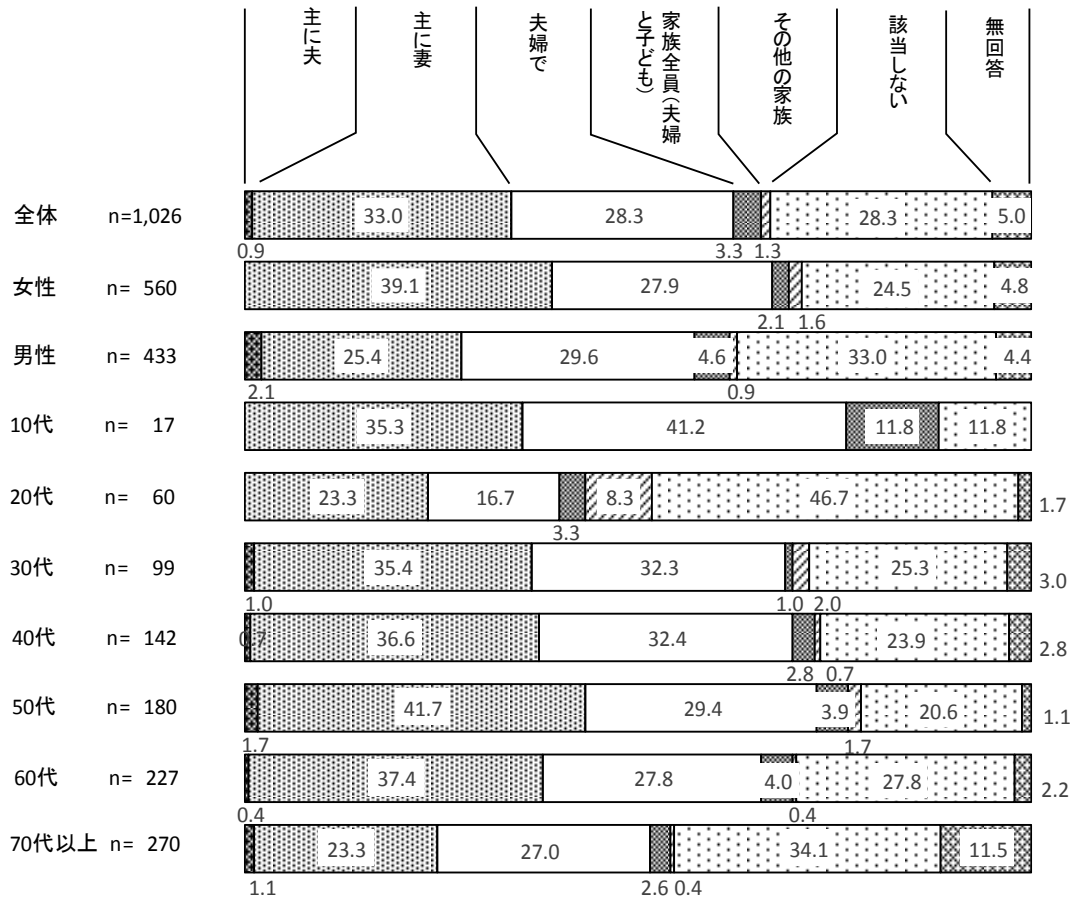
“主に妻”の割合は、今回調査が前回調査を 2.5 ポイント下回るが、“夫婦で”は、今回調査が前回調査より 7.4 ポイント増加している。

一方、“主に夫”や“家族全員（夫婦と子ども）”の割合はほぼ同じである。



⑥子どもの世話や教育

◇全体



●全体では、“主に妻”が 33.0%、“夫婦で”が 28.3%、“家族全員（夫婦と子ども）”が 3.3%であり、また、“該当しない”が 28.3%と多い。

●“主に妻”は、女性が男性を上回り、“夫婦で”は、女性と男性がほぼ同じである。

●“主に妻”は、50 代が最も多く、20 代と 70 代以上が最も低い。“夫婦で”は、10 代が最も多く、20 代が最も低い。“家族全員（夫婦と子ども）”は、10 代が特に多い。

◇性別

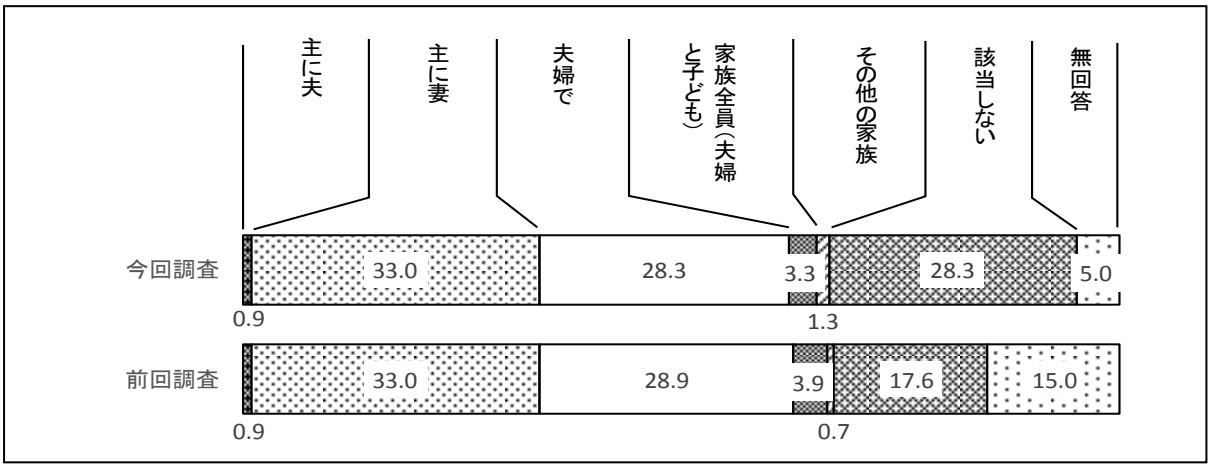
“主に妻”は、女性（39.1%）が男性（25.4%）を 13.7 ポイント上回り、“夫婦で”は、男性（29.6%）と女性（27.9%）がほぼ同じである。また、“該当しない”は男性の方が多い。

◇年齢別

“主に妻”は、50 代（41.7%）が最も多く、20 代と 70 代以上（ともに 23.3%）が最も低い。“夫婦で”は、10 代（41.2%）で著しく、20 代（16.7%）が最も少ない。また、“家族全員（夫婦と子ども）”は 10 代（11.8%）が特に多い。

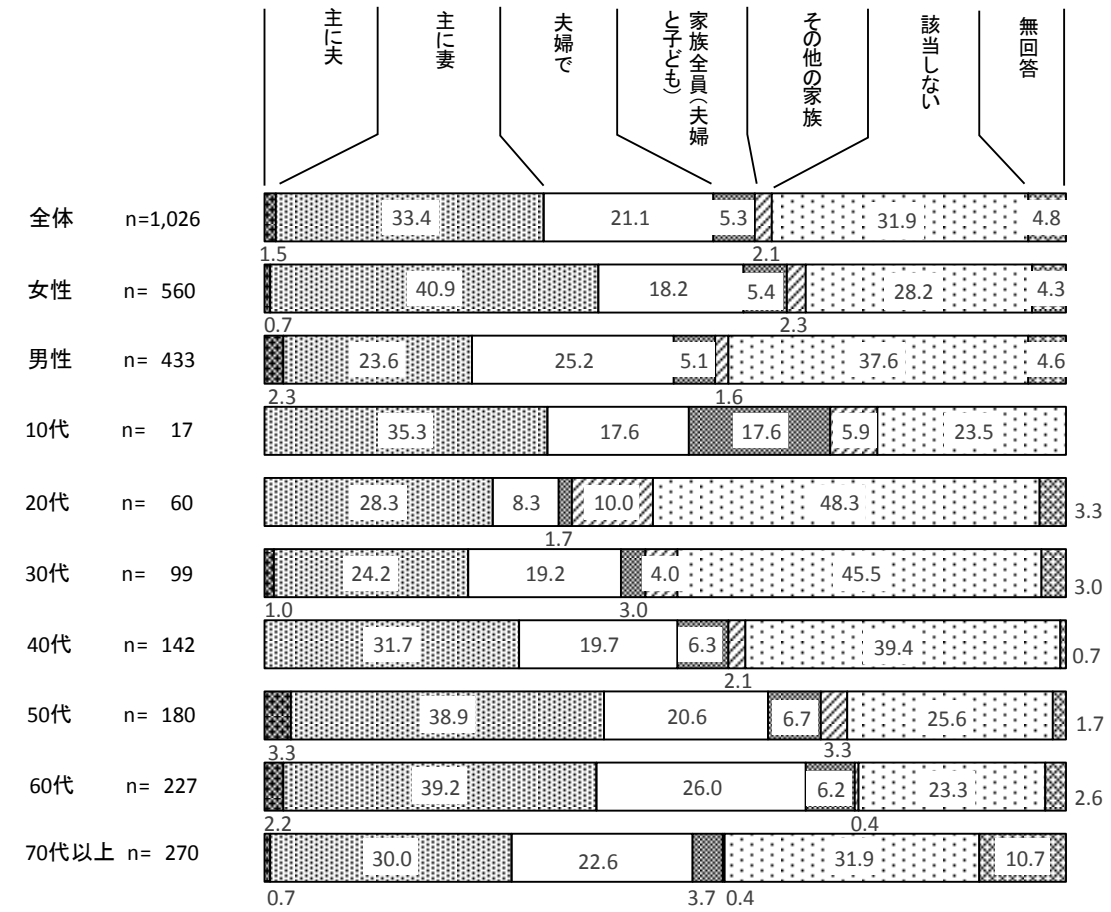
◆前回調査との比較

“該当しない”の割合が 3 割近くと、前回調査を大きく上回った以外は、“主に妻”や“夫婦で”の割合をはじめ、それ以外においてもほぼ変化は見られない。



⑦家族の世話や介護

◇全体



●全体では、“主に妻”が 33.4%、“夫婦で”が 21.1%、“家族全員（夫婦と子ども）”が 5.3%である。また、“該当しない”が 31.9%と多い。

●“主に妻”は、女性が男性を大きく上回り、“夫婦で”は、男性が女性を上回る。

●“主に妻”は、50 代、60 代で特に多く、30 代が最も低い。“夫婦で”は、60 代を中心に中高年代の割合が高く、20 代が最も低い。また、“該当しない”は、20 代と 30 代で半数近くを占める。

◇性別

“主に妻”は、女性（40.9%）が男性（23.6%）を大きく 17.3 ポイント上回る。“夫婦で”は、男性（25.2%）が女性（18.2%）を 7 ポイント上回る。

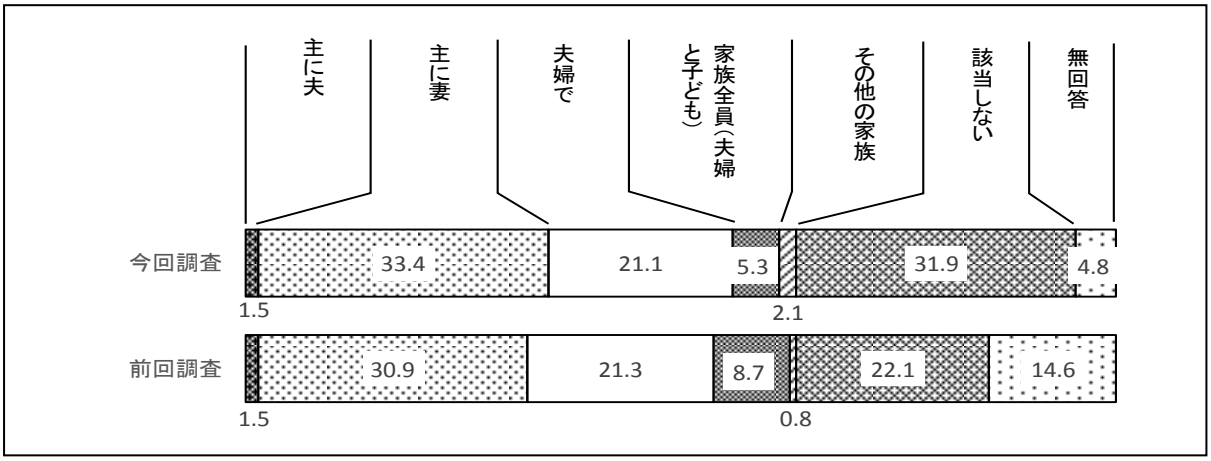
◇年齢別

“主に妻”は、60 代（39.2%）が最も高く、以下、50 代（38.9%）、10 代（35.3%）と続く。“夫婦で”の場合も、60 代（26.0%）、70 代以上（22.6%）と高年代の割合が大きい。

◆前回調査との比較

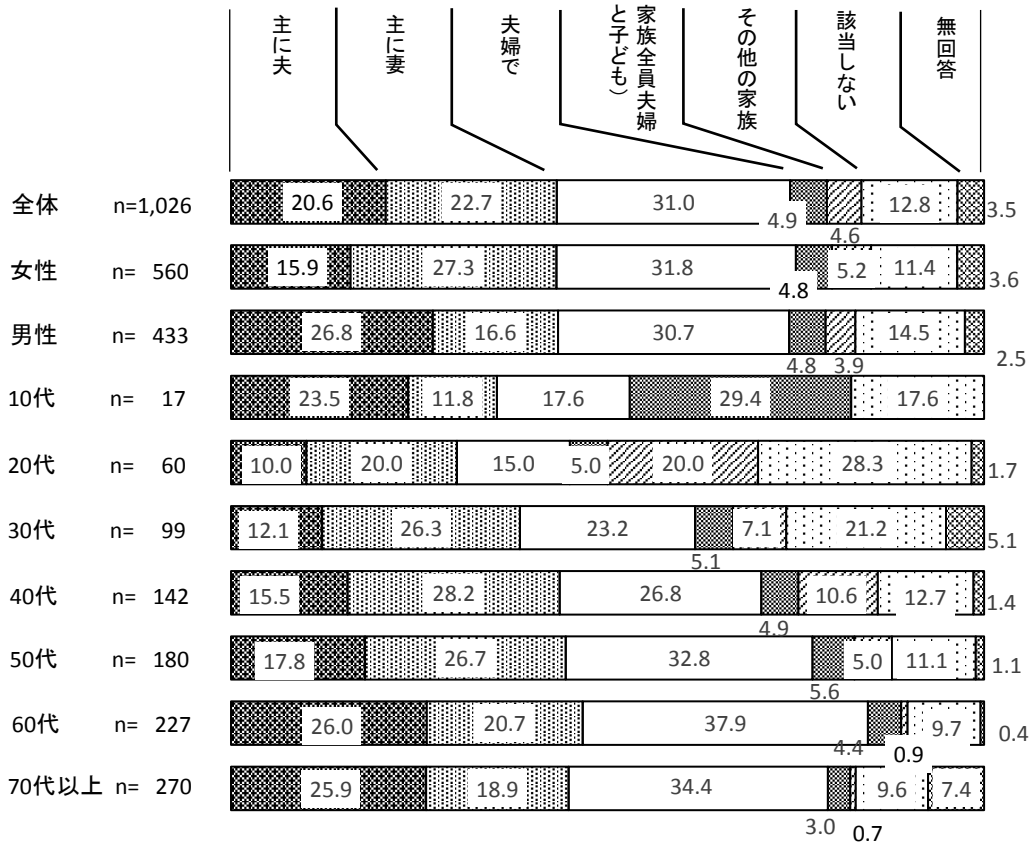
“該当しない”の割合が 9.8 ポイント、“主に妻”が 2.5 ポイントそれぞれ前回調査を上回るのに対して、“家族全員（夫婦と子ども）”は、前回調査より 3.4 ポイント減少している

一方、“夫婦で”や“主に夫”の割合は前回調査とほぼ同じである。



⑧地域の行事参加や近所とのつきあい

◇全体



●全体では、“夫婦で”が 31.0%、“主に妻”が 22.7%、“主に夫”が 20.6%である。

●“夫婦で”は、女性と男性の割合がほぼ同じ。“主に妻”は、女性が男性を上回り、“主に夫”は、男性が女性を上回る。

●“夫婦で”は、60 代を中心に中高年代に多く、“主に妻”は、30 代～50 代の中年代で多い。また、“家族全員”は 10 代、“該当しない”は 20 代～40 代の若い世代に特に多い。

◇性別

“夫婦で”は、女性（31.8%）と男性（30.7%）でほぼ同じ。“主に妻”は、女性（27.3%）が男性（16.6%）を 10.7 ポイント上回り、“該当しない”は、男性（14.5%）が女性（11.4%）を 3.1 ポイント上回る。

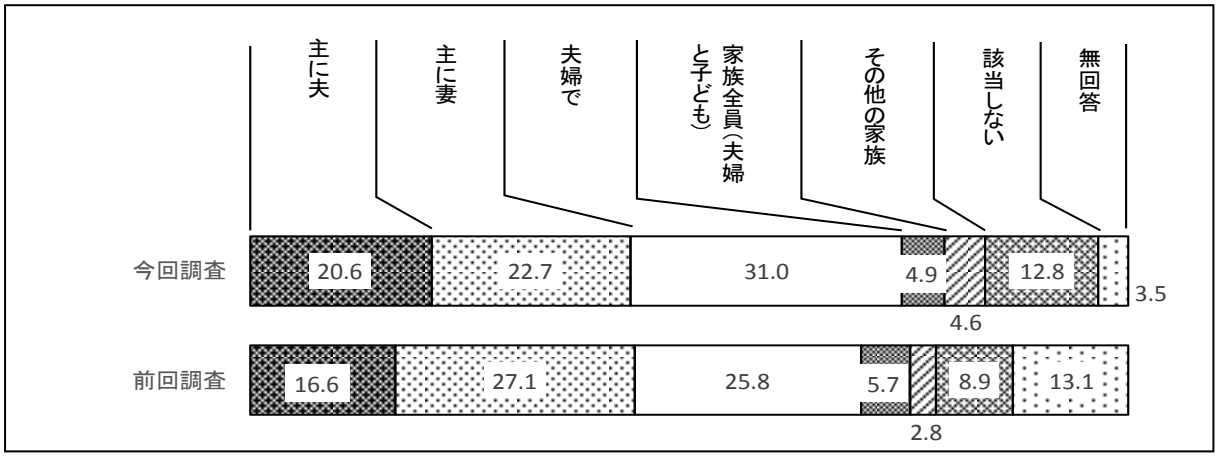
◇年齢別

“夫婦で”は、60 代（37.9%）、70 代以上（34.4%）、50 代（32.8%）の中高年代で多く、“主に妻”は、40 代（28.2%）、50 代（26.7%）、30 代（26.3%）の中年代に多い。また、“該当し

ない”は、20 代（28.3%）、30 代（21.2%）など、若い年代での割合が高い。

◆前回調査との比較

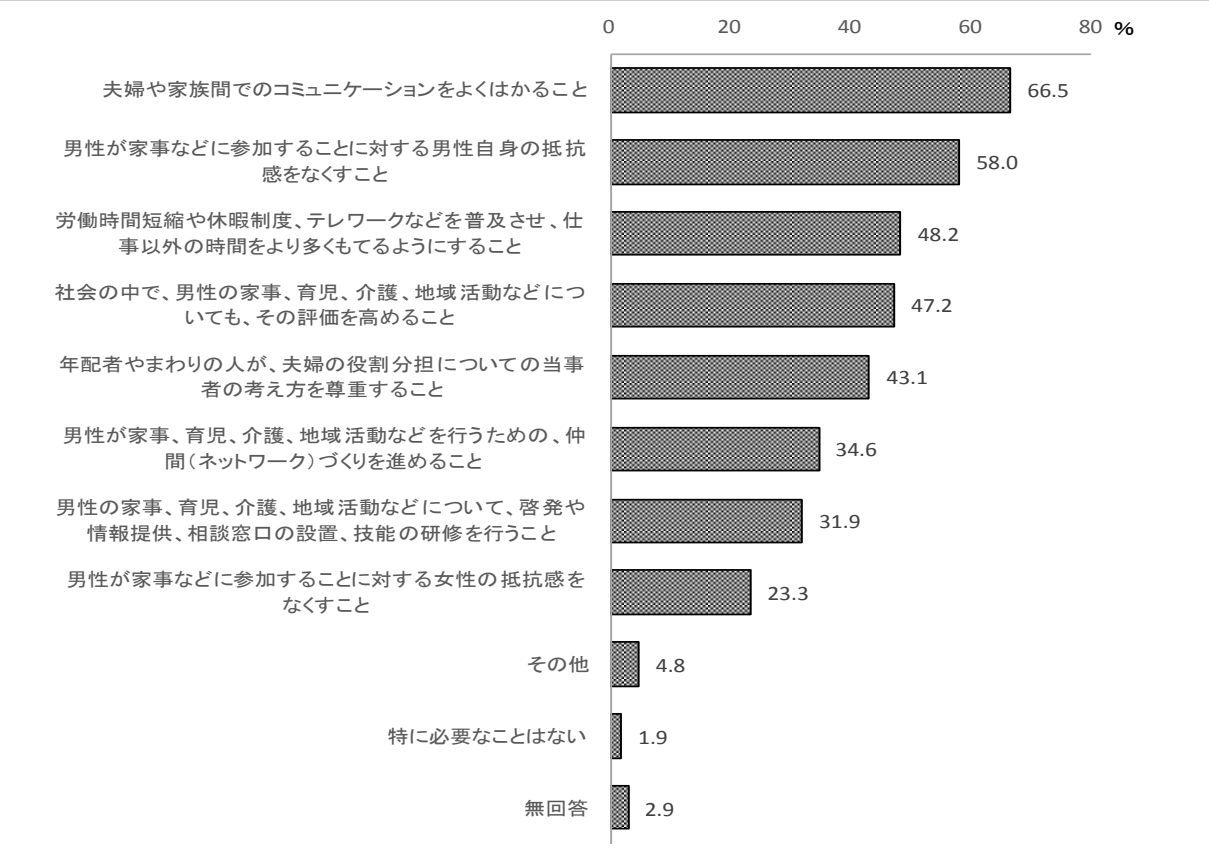
“夫婦で”の割合は 5.2 ポイント、“主に夫”は 4.0 ポイント、それぞれ今回調査が前回調査を上回る一方、“主に妻”は前回調査より 4.4 ポイント減少している。



（３）男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問１０	今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

◇全体

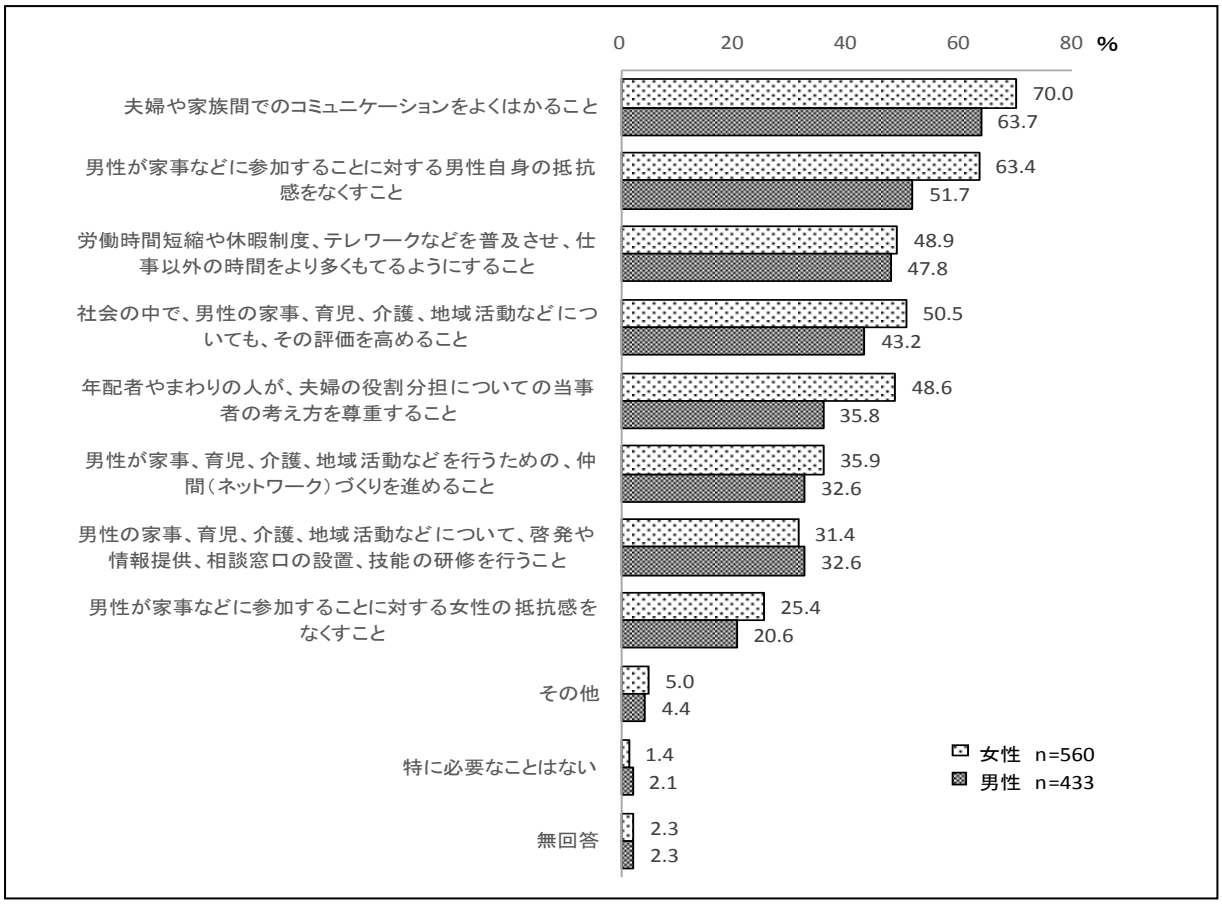


●「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（66.5%）が最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（58.0%）で、ともに回答者の半数以上を占めている。

●また、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを普及させ、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」（48.2%）、「社会の中で、男性の家事、育児、介護、地域活動などについても、その評価を高めること」（47.2%）、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重すること」（43.1%）も、それぞれ４割以上と多い。

◇性別

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は、それぞれ女性の割合が男性を上回り、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを普及させ、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」では、女性と男性がほぼ同じである。



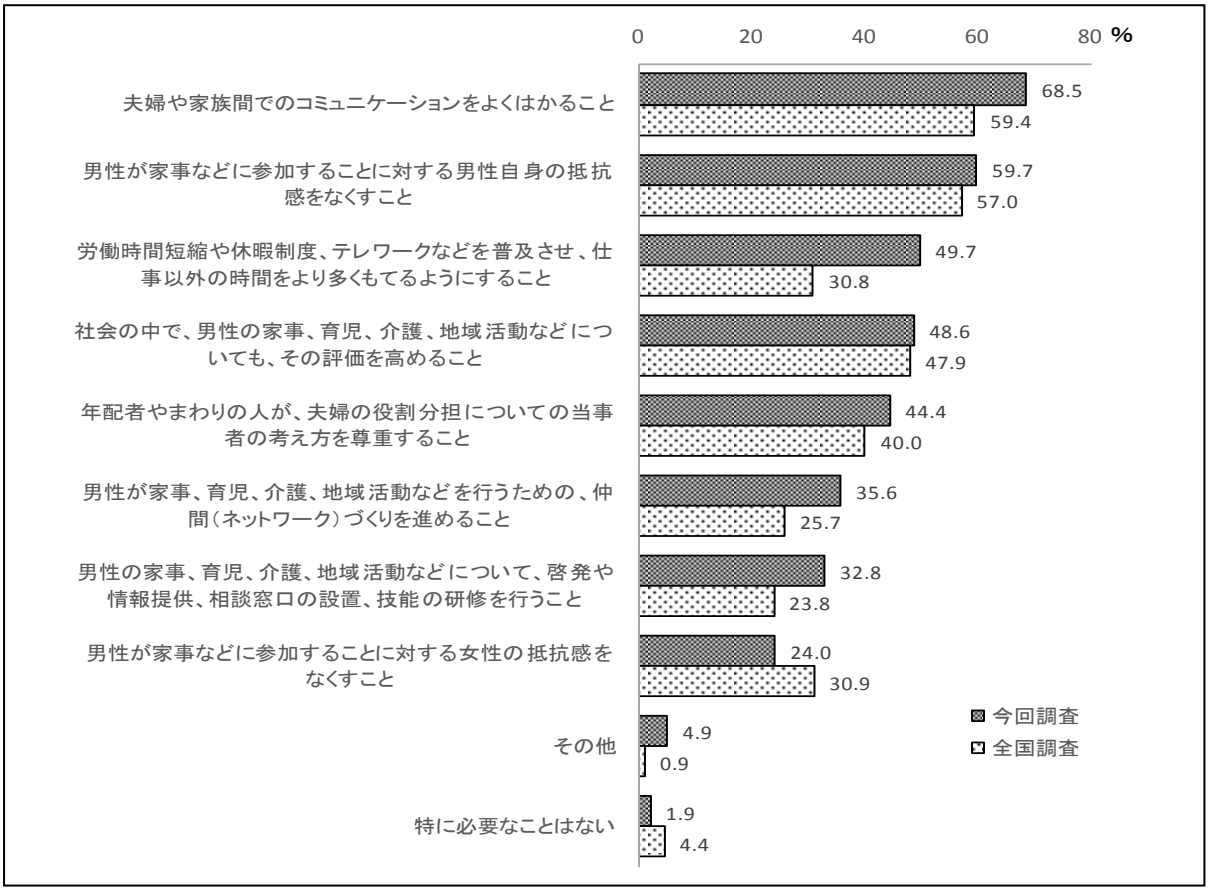
◇年齢別

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は、10 代と 20 代、50 代の割合が特に高い。

		合計	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性の家事、育児、介護、地域活動などについても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを普及させ、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること	男性の家事、育児、介護、地域活動などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事、育児、介護、地域活動などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体		1026	58.0	23.3	66.5	43.1	47.2	48.2	31.9	34.6	4.8	1.9	2.9
年齢別	10代	17	76.5	29.4	76.5	41.2	70.6	70.6	58.8	58.8	5.9		5.9
	20代	60	60.0	25.0	75.0	46.7	48.3	53.3	43.3	38.3	3.3		1.7
	30代	99	56.6	18.2	55.6	43.4	46.5	52.5	15.2	23.2	8.1	2.0	
	40代	142	52.1	23.2	62.7	38.0	44.4	52.8	21.8	23.9	5.6	0.7	1.4
	50代	180	61.7	22.8	71.7	42.8	52.2	51.1	30.0	33.9	5.6	0.6	0.6
	60代	227	57.7	20.3	67.8	42.3	44.9	47.1	37.4	38.8	3.5	3.1	0.9
	70代以上	270	59.6	27.8	68.1	45.9	46.3	41.9	36.7	39.3	3.7	2.6	5.9

◆全国調査との比較

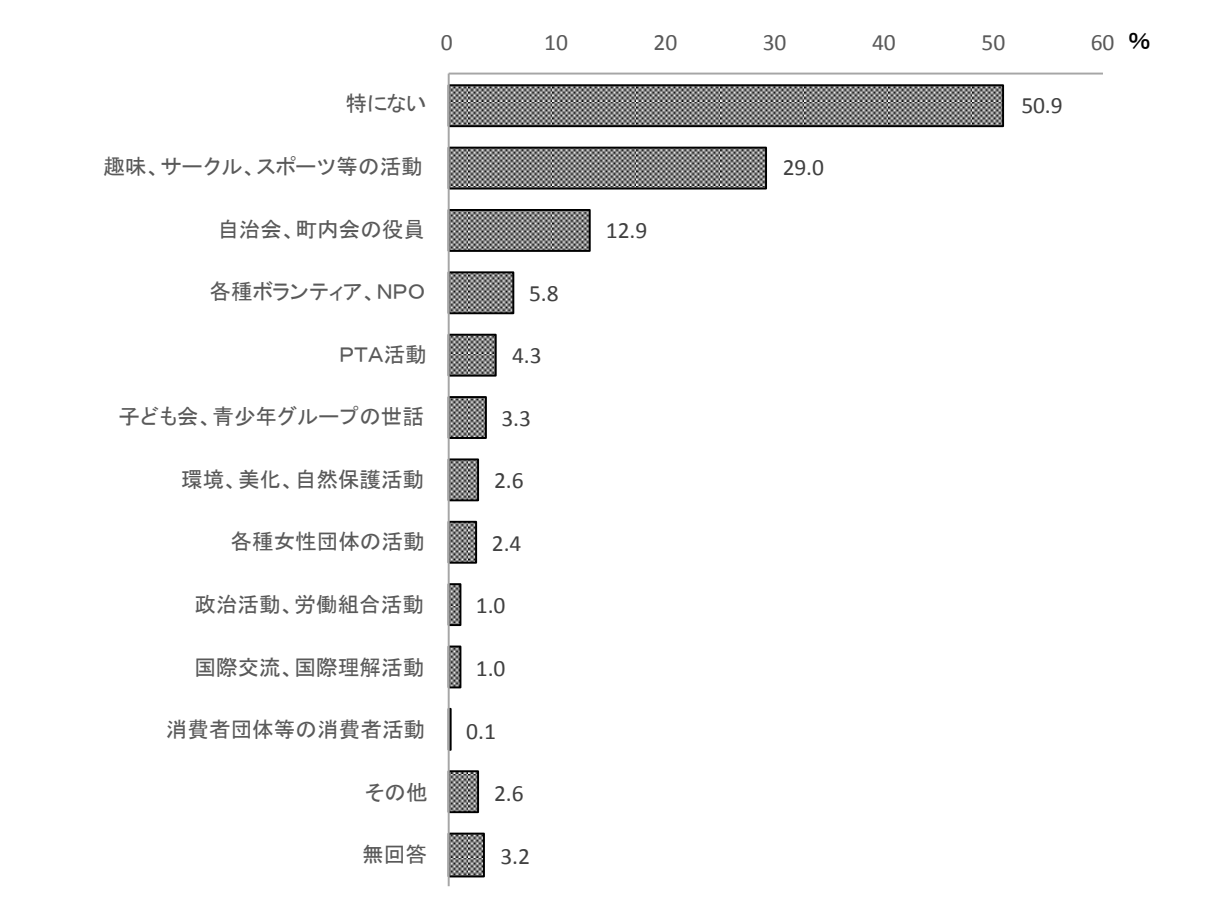
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」や「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを普及させ、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」などは、福島市（今回調査）の割合が全国を上回り、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」や「社会の中で、男性の家事、育児、介護、地域活動などについても、その評価を高めること」などは、全国とほぼ同じ割合である。



（４）職業以外におこなっている活動

問１１	あなたは現在、職業以外におこなっている活動はありますか。（複数回答）

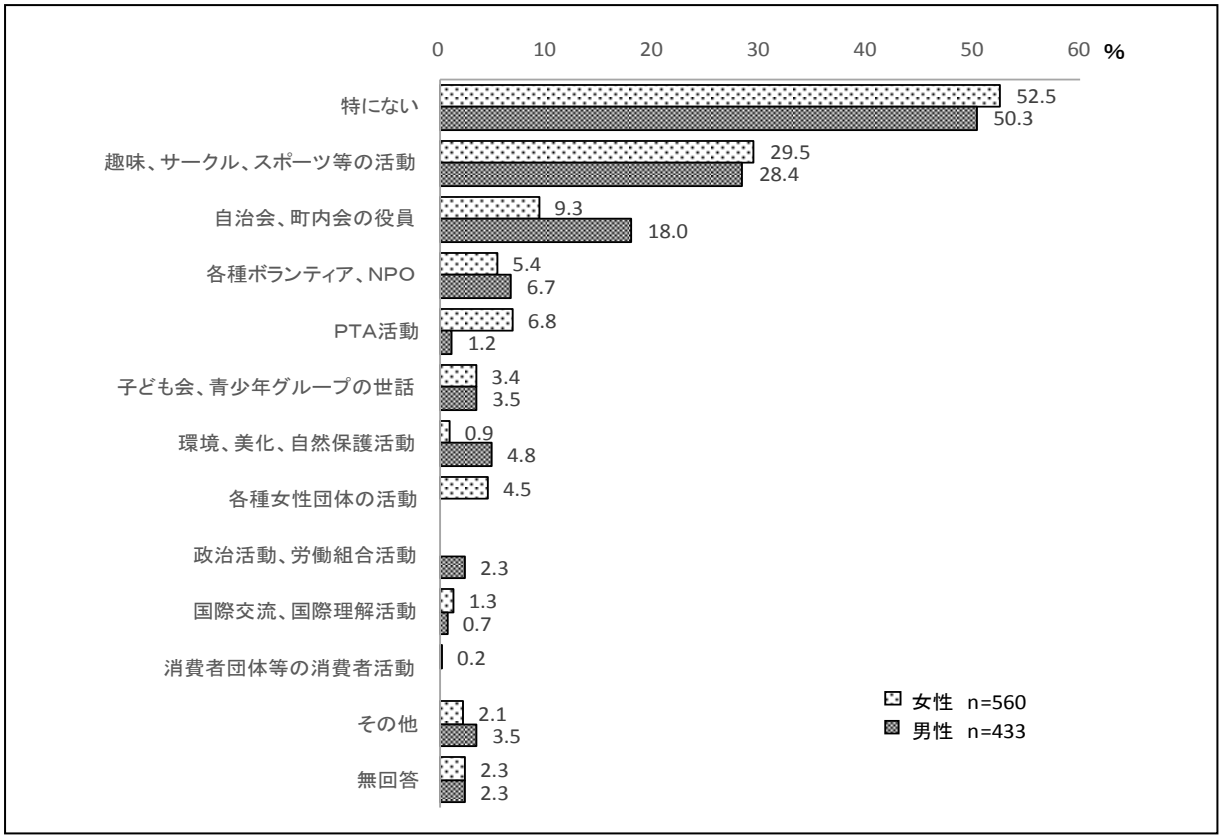
◇全体



●「特にない」（50.9%）が、ほぼ半数で最も多い。以下、「趣味、サークル、スポーツ等の活動」（29.0%）、「自治会、町内会の役員」（12.9%）が続き、「各種ボランティア、ＮＰＯ」（5.8%）など、この他の活動は少ない。

◇性別

「特にない」は、女性（52.5%）が男性（50.3%）よりわずかに多いが、ともに半数を占める。また、「趣味、サークル、スポーツ等の活動」も、女性（29.5%）と男性（28.4%）の割合はほぼ同じであるが、「自治会、町内会の役員」では、男性（18.0%）が女性（9.3%）を 8.7 ポイント上回る。



◇年齢別

「特にない」は、20 代（68.3%）が最も多く、次いで 50 代（59.4%）、10 代（58.8%）が続き、70 代以上（41.5%）が最も低い。

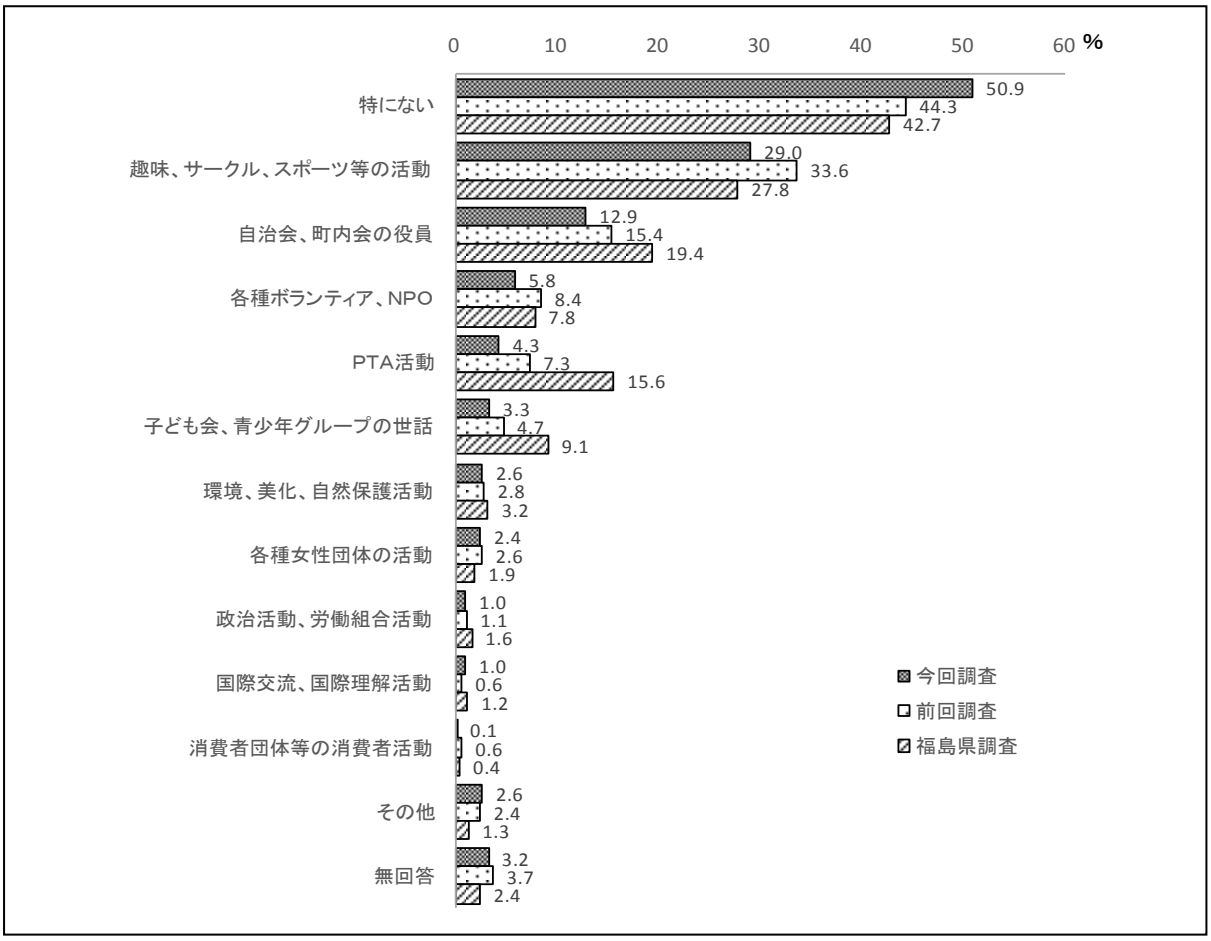
また、「趣味、サークル、スポーツ等の活動」は、60 代（33.5%）、70 代以上（37.0%）、10 代（35.3%）の割合が高く、「自治会、町内会の役員」は、60 代（19.4%）、70 代以上（17.4%）の高年代に多い。

		合計	特にない	各種ボランティア、NPO	自治会、町内会の役員	子ども会、青少年グループの世話	PTA活動	各種女性団体の活動	消費者団体等の消費者活動	趣味、サークル、スポーツ等の活動	政治活動、労働組合活動	環境、美化、自然保護活動	国際交流、国際理解活動	その他	無回答
全体		1026	50.9	5.8	12.9	3.3	4.3	2.4	0.1	29.0	1.0	2.6	1.0	2.6	3.2
年齢別	10代	17	58.8	5.9		5.9				35.3					
	20代	60	68.3	1.7	1.7					28.3		1.7	1.7		1.7
	30代	99	57.6	3.0	4.0	6.1	14.1			24.2	2.0	1.0	2.0		
	40代	142	57.7	3.5	9.2	10.6	16.9	0.7		15.5	1.4		0.7	1.4	0.7
	50代	180	59.4	5.6	11.1	2.8	2.2	1.7		24.4	0.6	0.6	0.6	2.8	0.6
	60代	227	46.3	6.2	19.4	1.3	0.4	5.7	0.4	33.5	0.9	3.5	0.9	4.0	1.3
	70代以上	270	41.5	9.3	17.4	1.5		3.0		37.0	1.1	5.6	1.1	3.7	6.3

◆前回調査・福島県調査との比較

「特にない」は、福島市（今回調査）が福島県を 8.2 ポイント、また前回調査より 6.6 ポイントそれぞれ上回る。

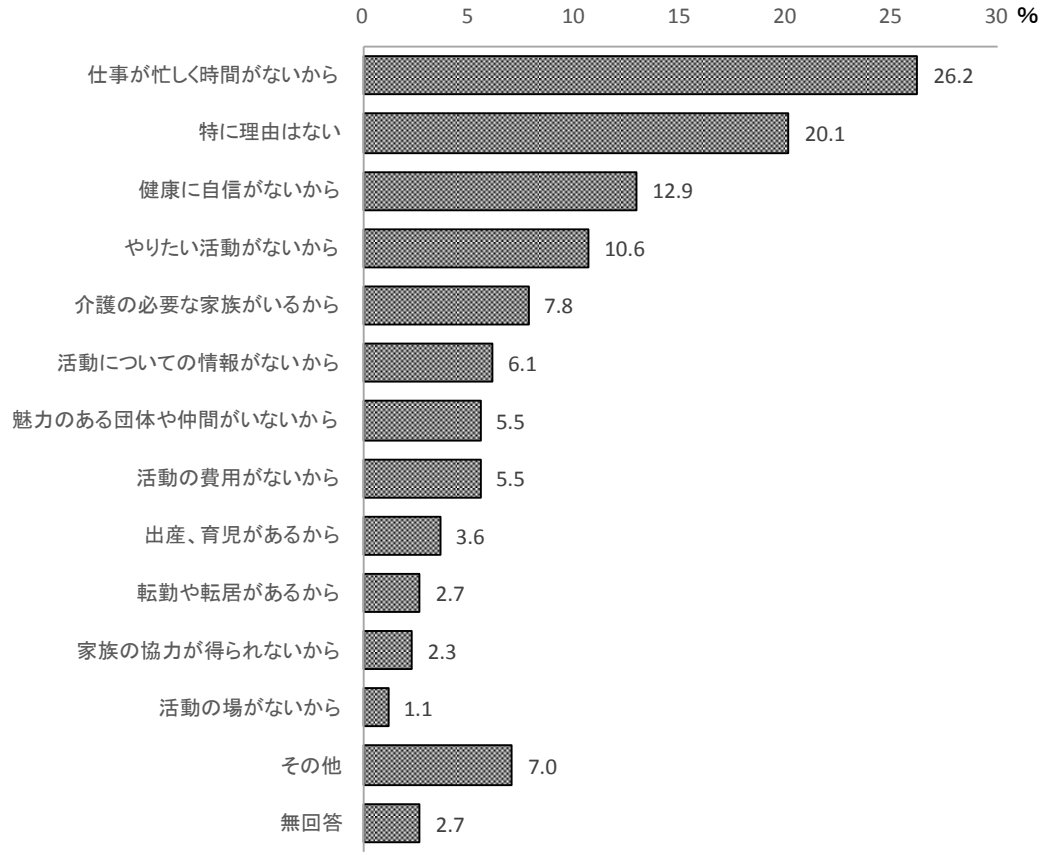
一方、「趣味、サークル、スポーツ等の活動」の場合、福島市（今回調査）と福島県の割合はほぼ同じであるが、前回調査より 4.6 ポイント減少している。また、「自治会、町内会の役員」や「ＰＴＡ活動」、「子ども会、青少年グループの世話」では、福島県の割合が福島市（今回調査）より多くなっている。



（５）職業以外の活動に参加していない理由

問１２	問１１で１と答えた方にお聞きします。あなたが問１１の活動に参加していない、もしくは参加できない理由は何ですか。（複数回答）

◇全体

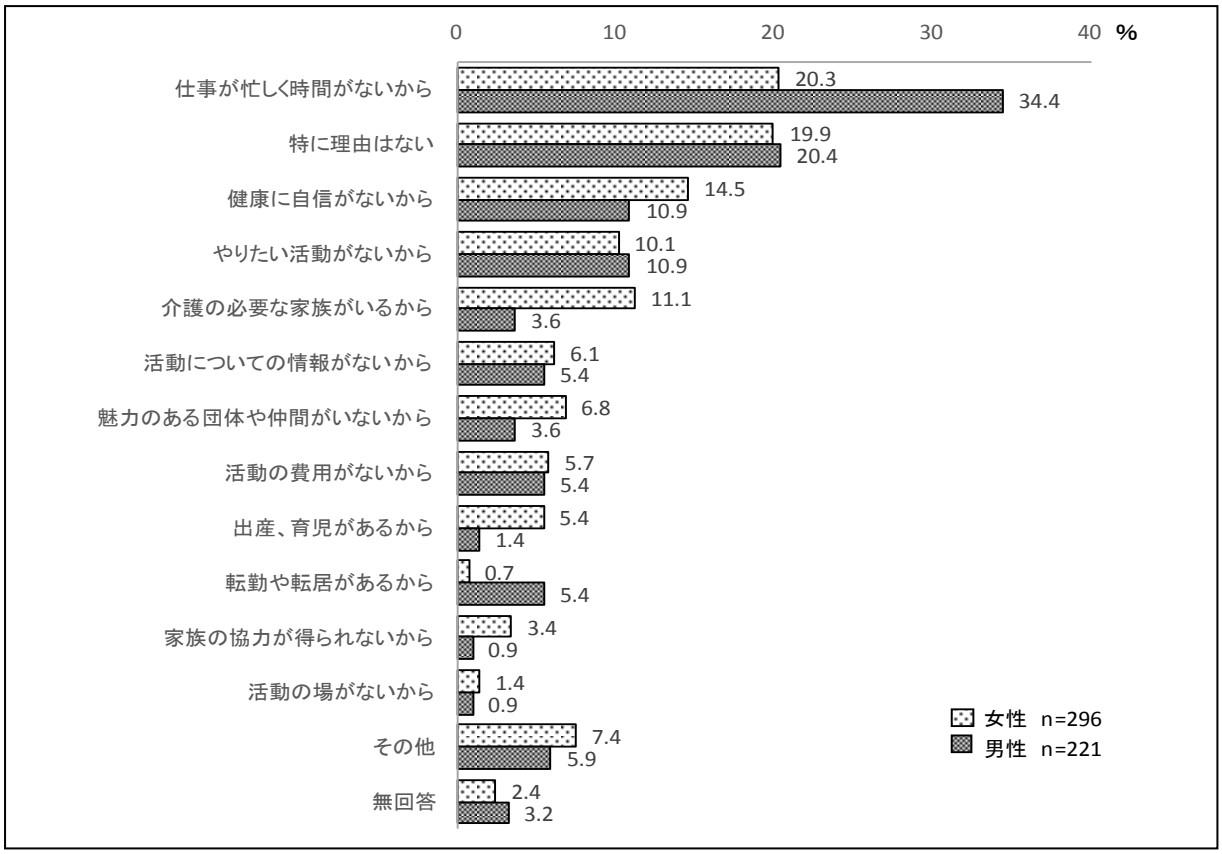


●「仕事が忙しく時間がないから」（26.2%）が最も多く、以下、「特に理由はない」（20.1%）、「健康に自信がないから」（12.9%）、「やりたい活動がないから」（10.6%）が続く。

◇性別

「仕事が忙しく時間がないから」は、男性（34.4%）が女性（20.3%）を 14.1 ポイントと大きく上回る。

また、「特に理由はない」は、女性、男性の割合はほぼ同じであり、「健康に自信がないから」や「介護の必要な家族がいるため」は、女性の方の割合が高い。



◇年齢別

「仕事が忙しく時間がないから」は、40 代（46.3%）で最も多く、以下、20 代（36.6%）、10 代（30.0%）、30 代（29.8%）と働き盛りの年代で多い。

また、「特に理由はない」は、10 代（30.0%）を中心に若い年代で多く、「健康に自信がないから」は、70 代以上（33.6%）が特に多い。

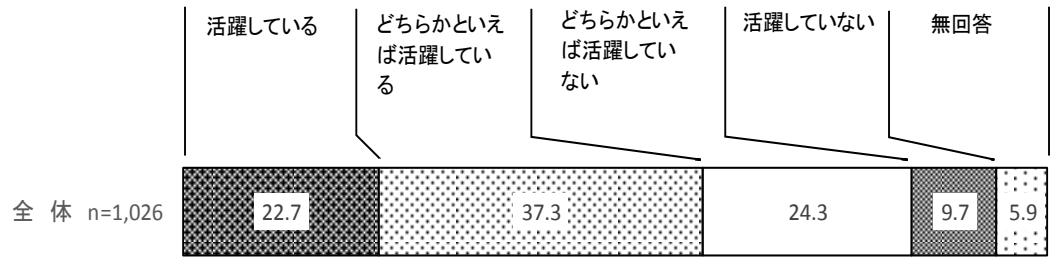
		合計	仕事が忙しく時間がないから	出産、育児があるから	介護の必要な家族がいるから	家族の協力が得られないから	転勤や転居があるから	健康に自信がないから	やりたい活動がないから	魅力のある団体や仲間がいないから	活動の場がないから	活動の費用がないから	活動についての情報がないから	その他	特に理由はない	無回答
全体		527	26.2	3.6	7.8	2.3	2.7	12.9	10.6	5.5	1.1	5.5	6.1	7.0	20.1	2.7
年齢別	10代	10	30.0						10.0	10.0		20.0	10.0	10.0	30.0	
	20代	41	36.6	2.4			4.9		14.6	9.8		14.6	12.2	2.4	24.4	2.4
	30代	57	29.8	21.1		1.8	5.3		10.5	1.8		7.0	3.5	5.3	22.8	1.8
	40代	82	46.3	6.1	2.4	2.4	4.9	2.4	6.1	2.4	1.2	4.9	2.4	8.5	20.7	
	50代	108	26.9	0.9	16.7	2.8	2.8	11.1	16.7	5.6	3.7	4.6	8.3	5.6	14.8	0.9
	60代	105	20.0		11.4	3.8	1.9	13.3	8.6	6.7		4.8	4.8	7.6	24.8	1.9
	70代以上	116	11.2		7.8	1.7		33.6	7.8	6.0	0.9	2.6	5.2	8.6	17.2	7.8

３　女性活躍の推進について

（１）女性の活躍状況

問１３	あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。

◇全体



- **“どちらかといえば活躍している”（37.3%）が最も多く、以下、“どちらかといえば活躍していない”（24.3%）、“活躍している”（22.7%）、“活躍していない”（9.7%）の順である。**
- **“活躍派”（60.0%）が“活躍していない派”（34.0%）を 26 ポイント上回る。**

※“活躍派”とは、「活躍している」と「どちらかといえば活躍している」の割合の合計、“活躍していない派”とは、「活躍していない」と「どちらかといえば活躍していない」の割合の合計。

◇性別

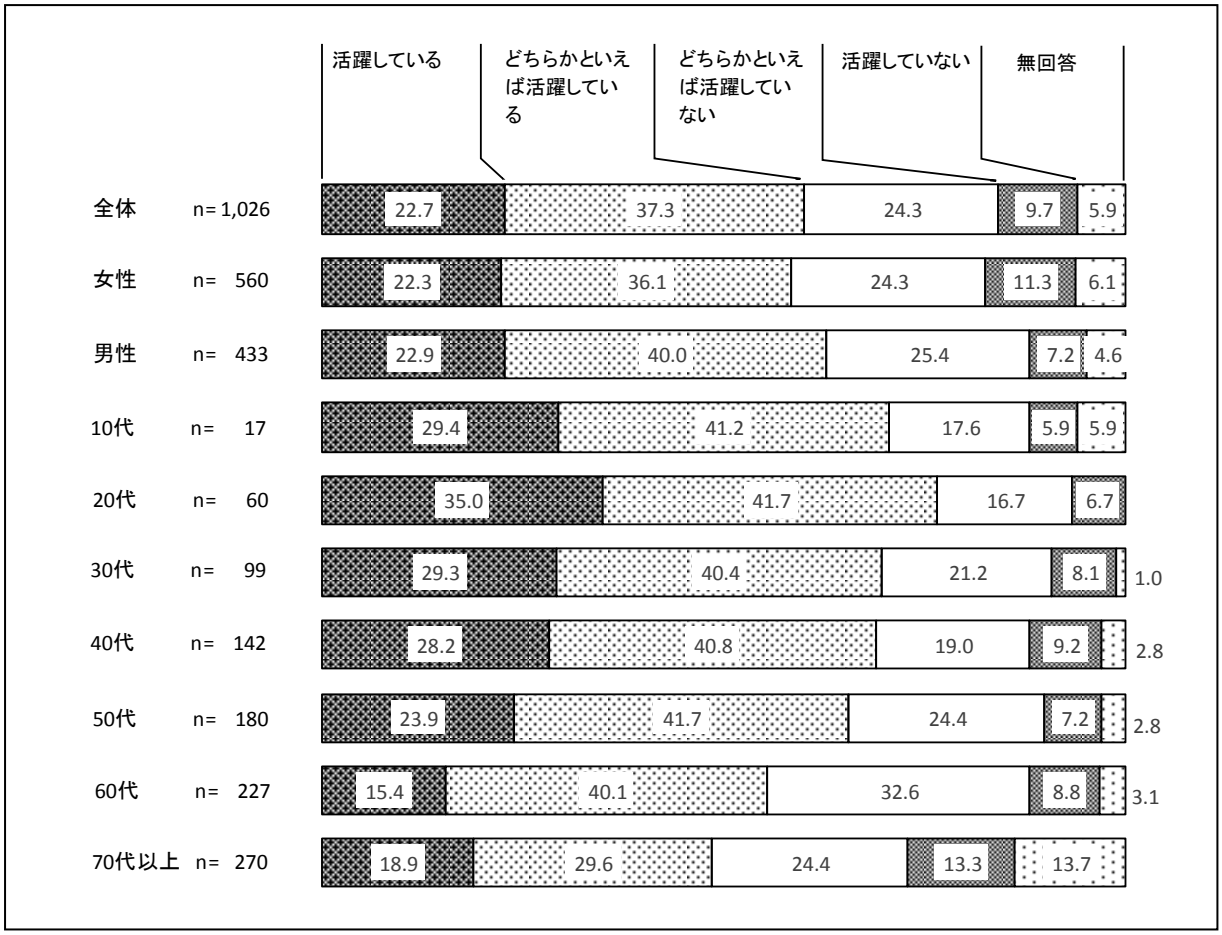
“活躍派”の割合は、男性（62.9%）が女性（58.4%）を 4.56 ポイント上回り、“活躍していない派”は、女性（35.6%）が男性（32.6%）を 3.0 ポイントとわずかに上回る。

◇年齢別

どの年代も、“活躍派”の割合が“活躍していない派”を上回る。

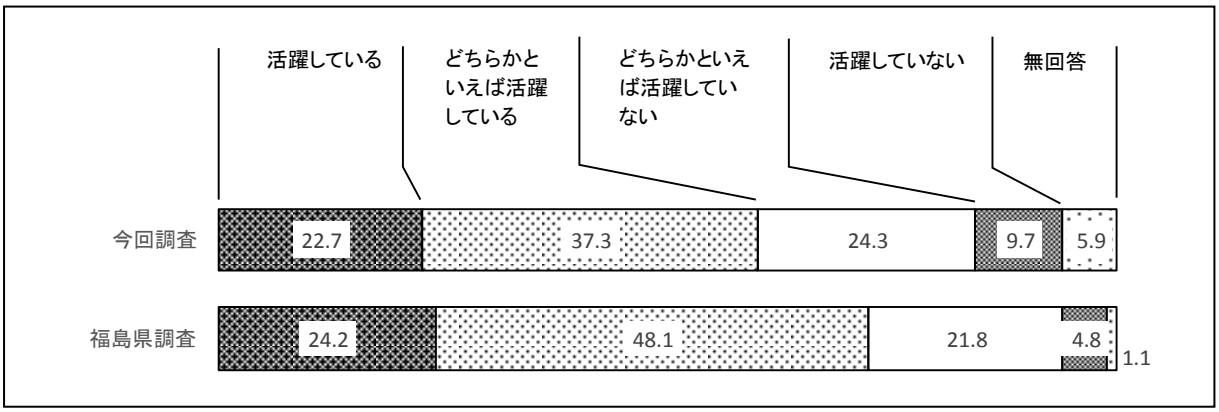
また、“活躍派”は、20 代（76.7%）を中心に、10 代（70.6%）、30 代（69.7%）、40 代（69.0%）の若い年代の割合が高く、70 代以上（48.5%）が最も低い。

一方、“活躍していない派”は、60 代（41.4%）や 70 代以上（37.7%）の高年代の割合が大きい。



◆福島県調査との比較

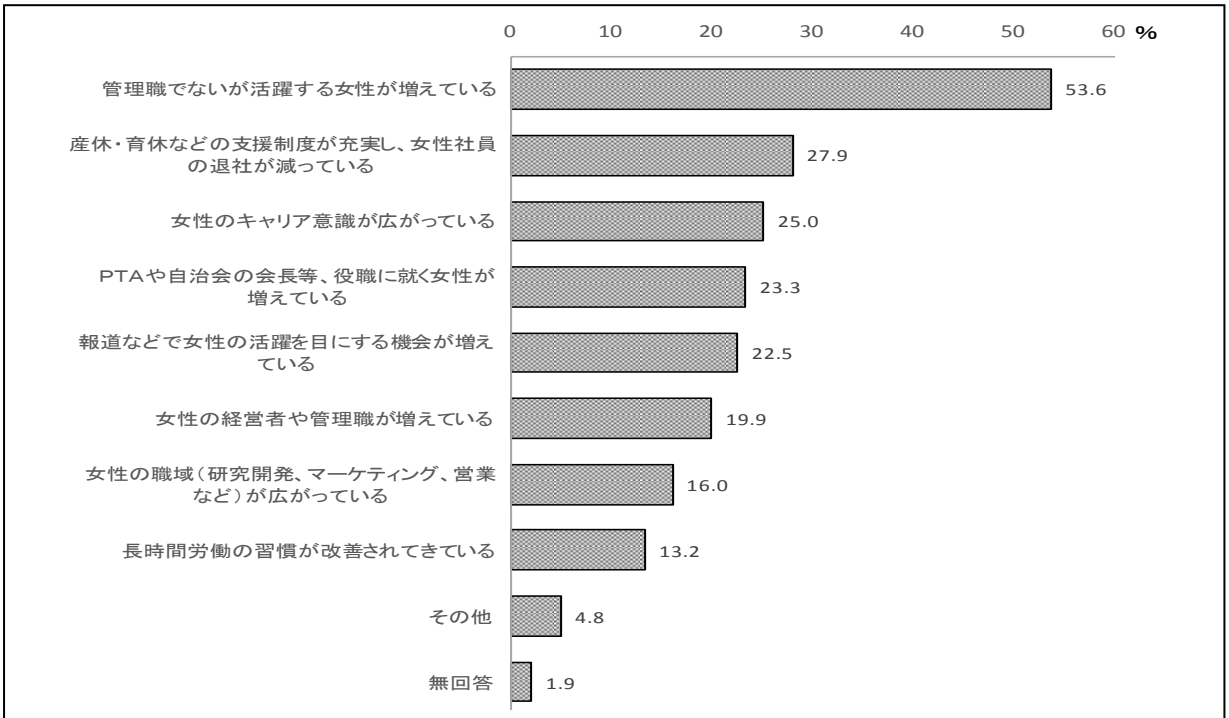
“活躍派”の割合は、福島県（72.3%）が福島市（今回調査）（60.0%）を 12.3 ポイント上回り、“活躍していない派”は、福島市（今回調査）が福島県より 7.4 ポイント多い。



（２）活躍していると感じる理由

問１４	問１３で１または２と回答した方にお聞きします。活躍していると感じる理由は何ですか。（複数回答）

◇全体

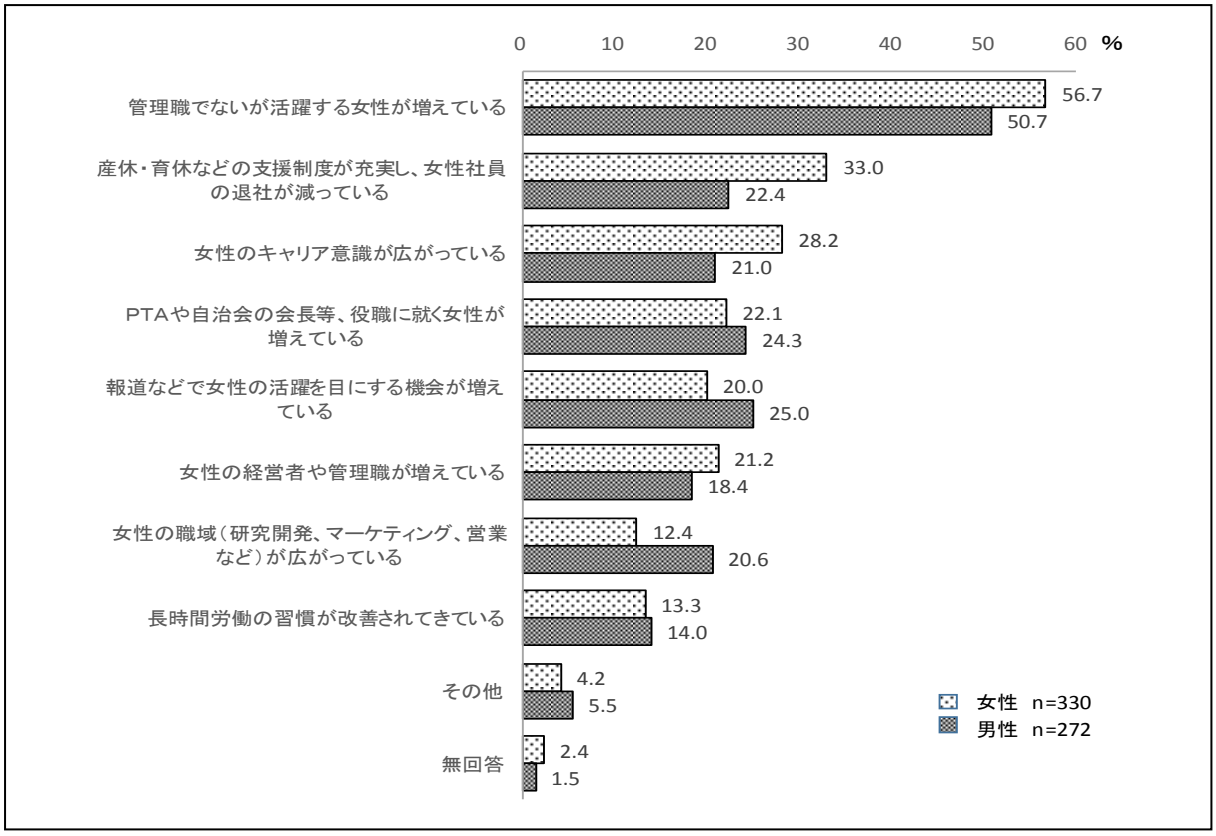


●「管理職でないが活躍する女性が増えている」（53.6%）が過半数を占め圧倒的に多く、以下、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」（27.9%）、「女性のキャリア意識が広がっている」（25.0%）、「ＰＴＡや自治会の会長等、役職に就く女性が増えている」（23.3%）、「報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている」（22.5%）が２割台で続く。

◇性別

「管理職でないが活躍する女性が増えている」は、女性（56.7%）が男性（50.7%）を上回り、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」と「女性のキャリア意識が広がっている」も、女性の割合が男性より多くなっている。

一方、「ＰＴＡや自治会の会長等、役職に就く女性が増えている」や「報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている」では、男性の割合の方が女性より多い。



◇年齢別

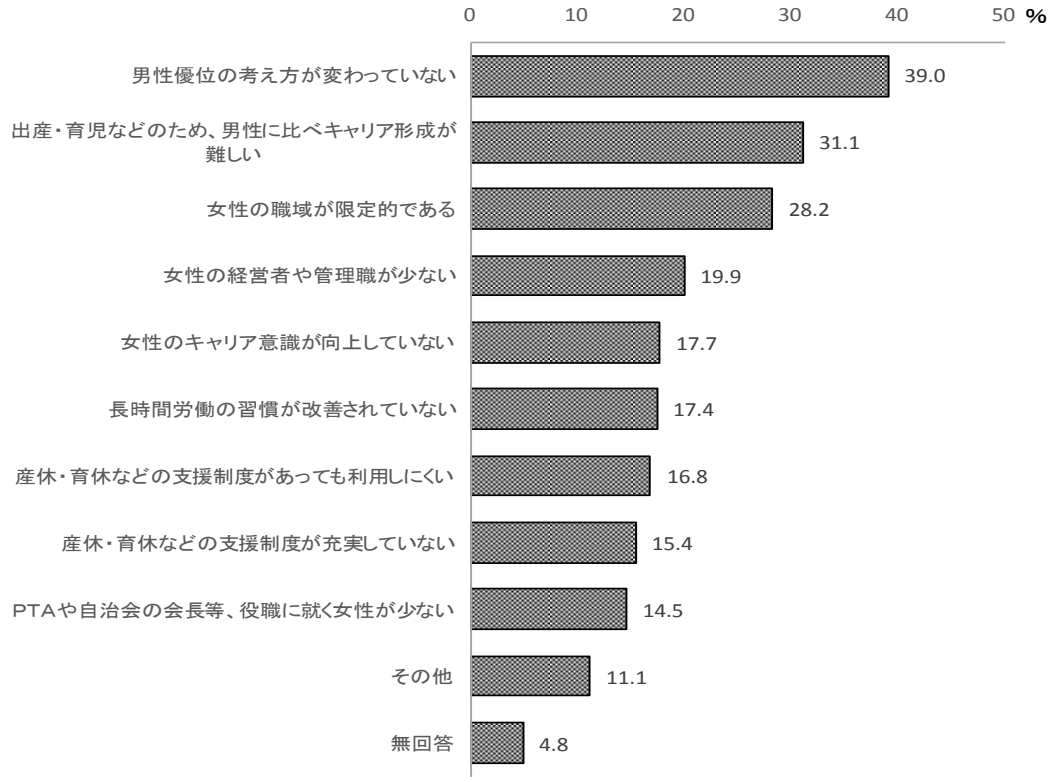
「管理職でないが活躍する女性が増えている」は、40 代(63.6%)をトップに、20 代(60.9%)、10 代（58.3%）、50 代（56.8%）が特に多く、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」は、30 代～50 代の子育て世代に多い。また、「女性のキャリア意識が広がっている」は、30 代（33.3%）が最も多い。

		合計	産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている	女性の経営者や管理職が増えている	管理職でないが活躍する女性が増えている	女性の職域（研究開発、マーケティング、営業など）が広がっている	報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている	女性のキャリア意識が広がっている	長時間労働の習慣が改善されてきている	PTAや自治会の会長等、役職に就く女性が増えている	その他	無回答
全体		619	27.9	19.9	53.6	16.0	22.5	25.0	13.2	23.3	4.8	1.9
年齢別	10代	12	16.7	8.3	58.3	16.7	25.0	25.0	8.3		8.3	
	20代	46	26.1	21.7	60.9	26.1	17.4	28.3	15.2	4.3		
	30代	69	37.7	30.4	42.0	10.1	15.9	33.3	20.3	7.2	7.2	
	40代	99	32.3	22.2	63.6	16.2	14.1	18.2	14.1	24.2	3.0	2.0
	50代	118	38.1	28.8	56.8	19.5	16.9	28.0	11.9	18.6	4.2	0.8
	60代	126	24.6	15.9	48.4	11.9	22.2	19.8	12.7	32.5	4.0	3.2
	70代以上	133	16.5	9.8	52.6	16.5	38.3	26.3	12.0	33.8	7.5	3.8

（３）活躍していないと感じる理由

問１５	問１３で３または４と回答した方にお聞きします。活躍していないと感じる理由は何ですか。（複数回答）

◇全体

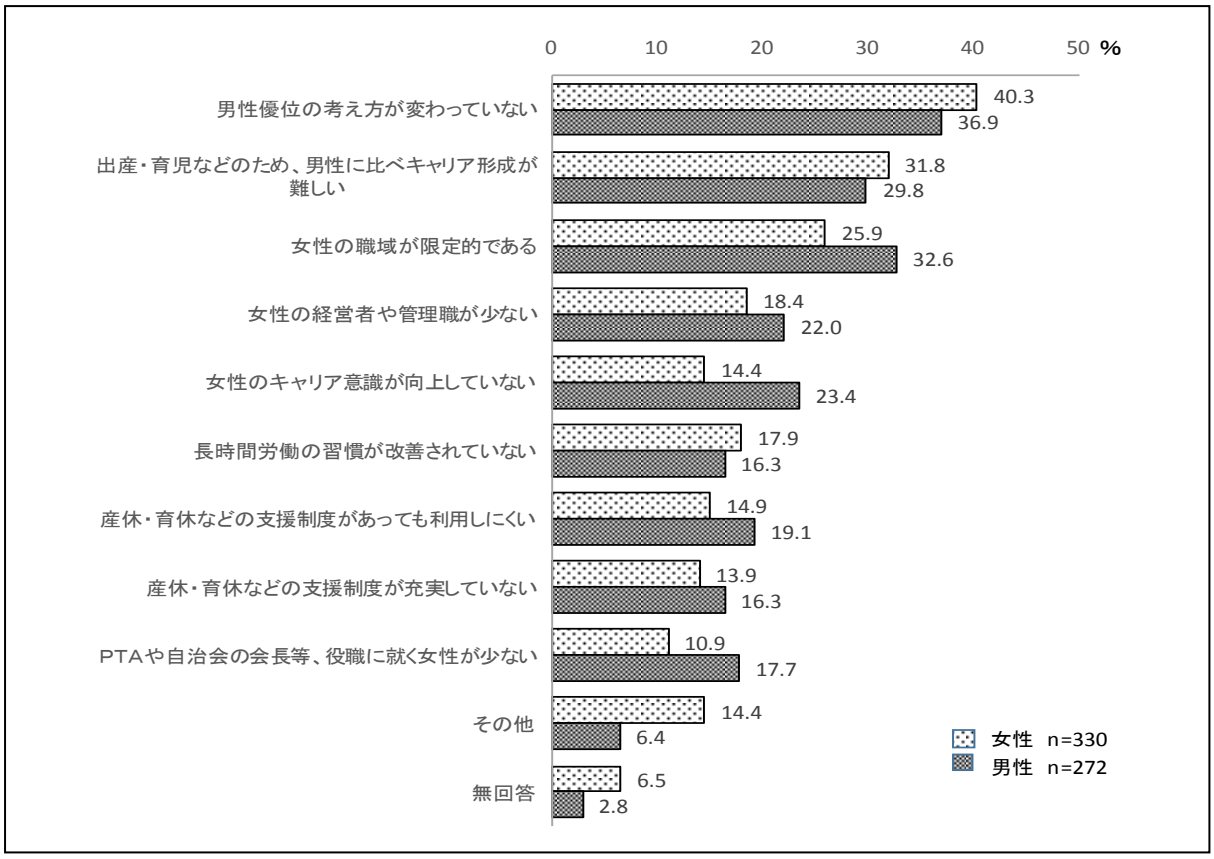


●「男性優位の考え方が変わっていない」（39.0%）をトップに、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」（31.1%）、「女性の職域が限定的である」（28.2%）と続き上位を占める。

●一方、「女性の経営者や管理職が少ない」（19.9%）や「女性のキャリア意識が向上していない」（17.7%）、「長時間労働の習慣が改善されていない」（17.4%）が 2 割近くで並ぶ。

◇性別

「男性優位の考え方が変わっていない」と「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」では、女性の割合が男性よりやや多いが、「女性の職域が限定的である」と「女性の経営者や管理職が少ない」や「女性のキャリア意識が向上していない」では、男性が女性を大きく上回る。



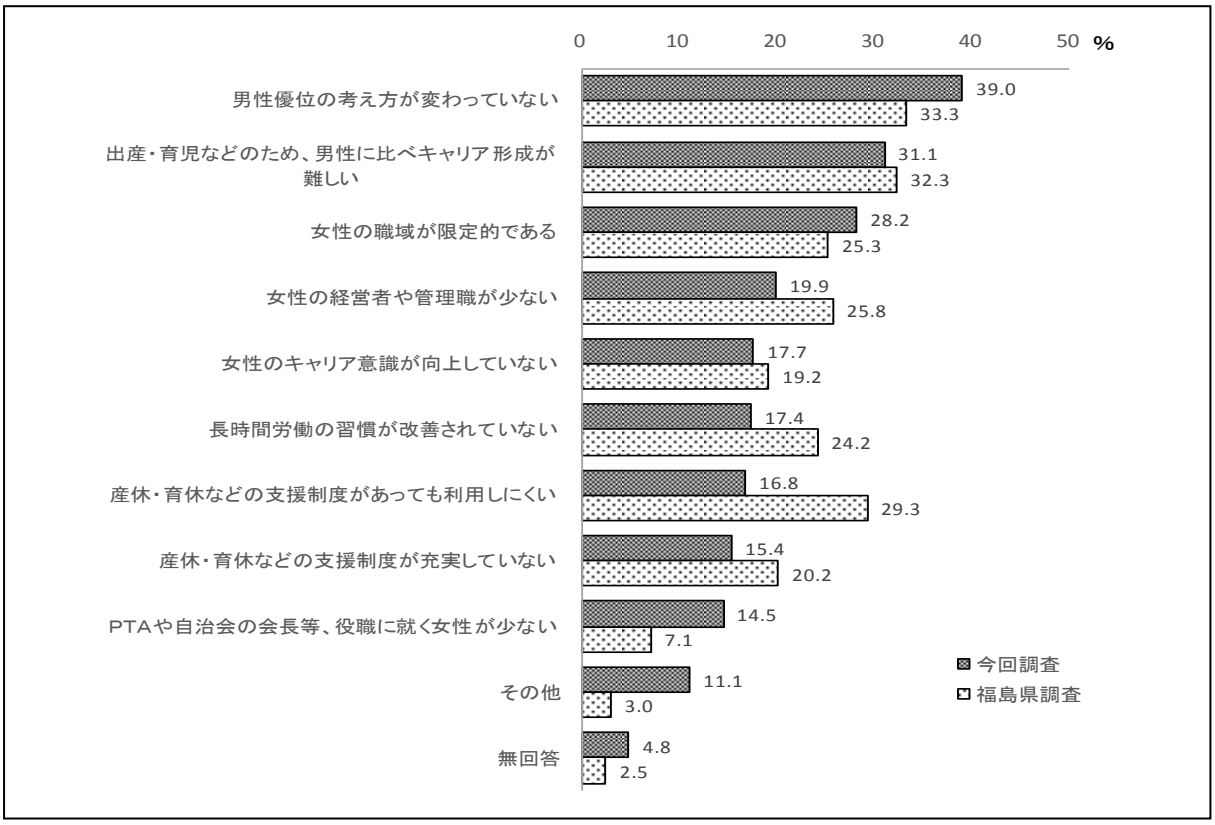
◇年齢別

「男性優位の考え方が変わっていない」は、20 代（50.0%）が最も多く、50 代（42.1%）、60 代（43.2%）がこれに続く。また、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」は、10 代（50.0%）、20 代（57.1%）の若い年代で特に高く、「女性の職域が限定的である」は、20 代（35.7%）と 60 代（37.9%）、70 代以上（32.0%）の高年代で多い。

		合計	産休・育休などの支援制度が充実していない	産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい	女性の経営者や管理職が少ない	女性の職域が限定的である	女性のキャリア意識が向上していない	出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい	男性優位の考え方が変わっていない	長時間労働の習慣が改善されていない	PTAや自治会の会長等、役職に就く女性が少ない	その他	無回答
全体		351	15.4	16.8	19.9	28.2	17.7	31.1	39.0	17.4	14.5	11.1	4.8
年齢別	10代	4	25.0	25.0	50.0			50.0				50.0	
	20代	14	21.4	35.7	14.3	35.7	7.1	57.1	50.0	50.0			
	30代	29	24.1	20.7	24.1	10.3	17.2	44.8	37.9	24.1	10.3	10.3	
	40代	40	30.0	25.0	30.0	15.0	32.5	35.0	30.0	17.5	7.5	10.0	
	50代	57	14.0	15.8	21.1	26.3	12.3	42.1	42.1	17.5	8.8	7.0	5.3
	60代	95	9.5	14.7	18.9	37.9	20.0	26.3	43.2	15.8	13.7	12.6	4.2
	70代以上	103	12.6	12.6	15.5	32.0	16.5	20.4	37.9	14.6	21.4	12.6	8.7

◆福島県調査との比較

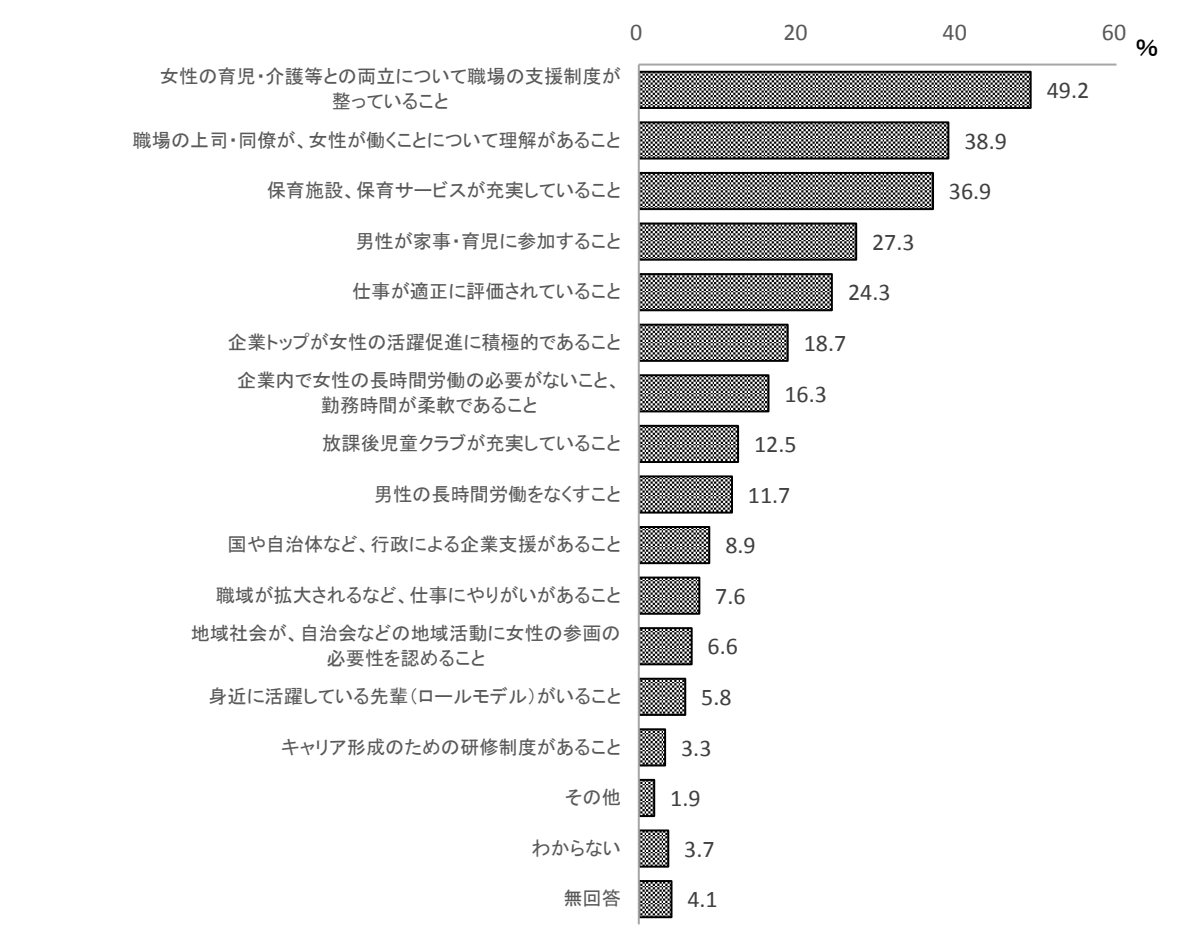
「男性優位の考え方が変わっていない」と「女性の職域が限定的である」は、福島市（今回調査）の割合が福島県を上回るが、「女性の経営者や管理職が少ない」や「長時間労働の習慣が改善されていない」、「産休・育休などの支援体制があっても利用しにくい」では、福島県の割合の方が大きい。



（４）女性の活躍に必要なこと

問１６	女性が活躍するには何が必要だと思いますか。（複数回答）

◇全体

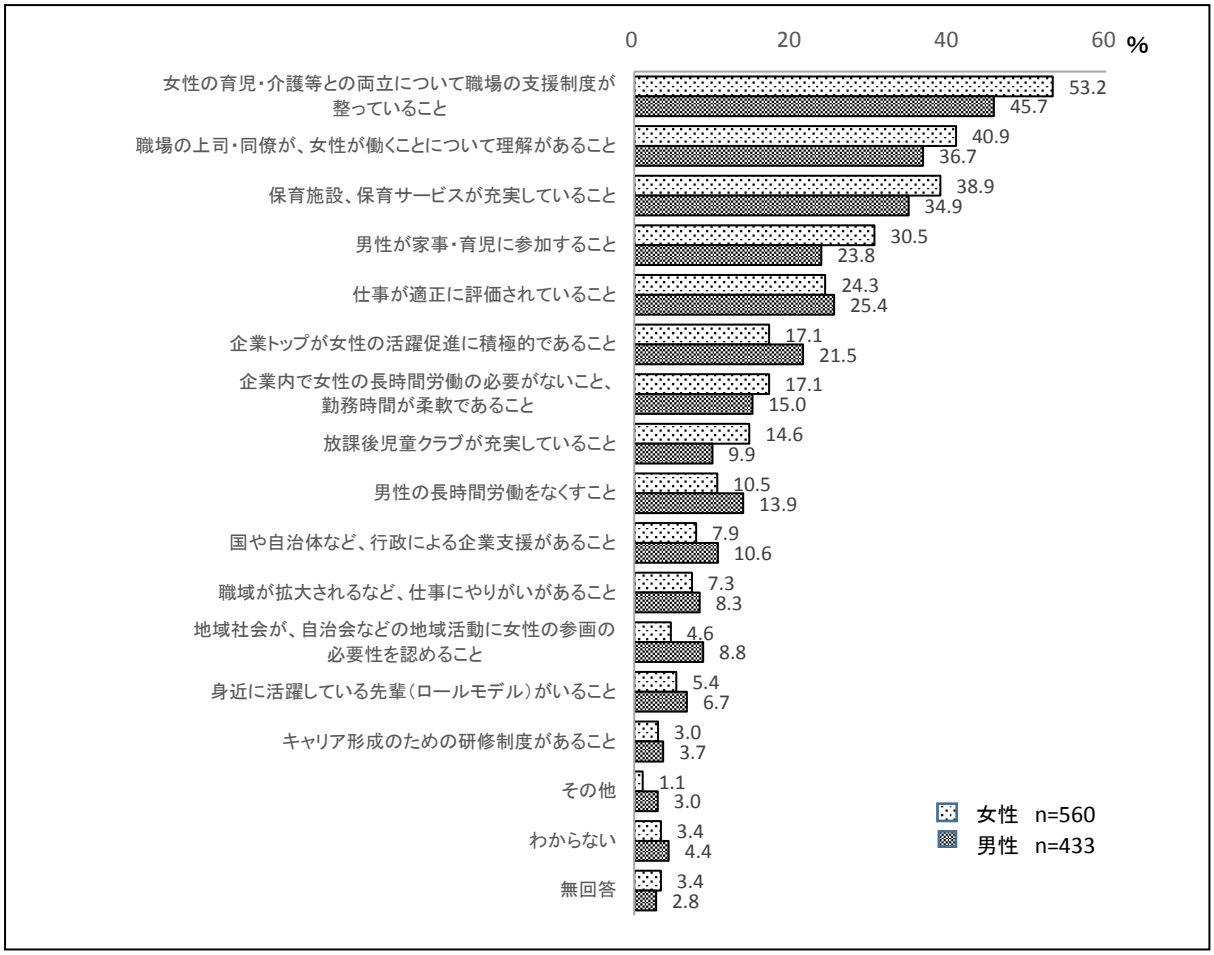


●「女性の育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」（49.2%）が最も多く、以下、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」（38.9%）、「保育施設、保育サービスが充実していること」（36.9%）が続き上位を占める。

●次いで、「男性が家事・育児に参加すること」（27.3%）、「仕事が適正に評価されていること」（24.3%）が、2 割台で続く。

◇性別

「女性の育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」は、女性（53.2%）が男性（45.7%）を 7.5 ポイント上回るとともに、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」や「保育施設、保育サービスが充実していること」、「男性が家事・育児に参加すること」のいずれも、女性の割合が男性より多い。



◇年齢別

「女性の育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」は、20 代(60.0%)をはじめ、70 代以上を除く全ての年代で 5 割台と高い。また、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」は、10 代と 70 代以上が 4 割台、20 代～60 代でそれぞれ 3 割台とどの世代の割合も多い。

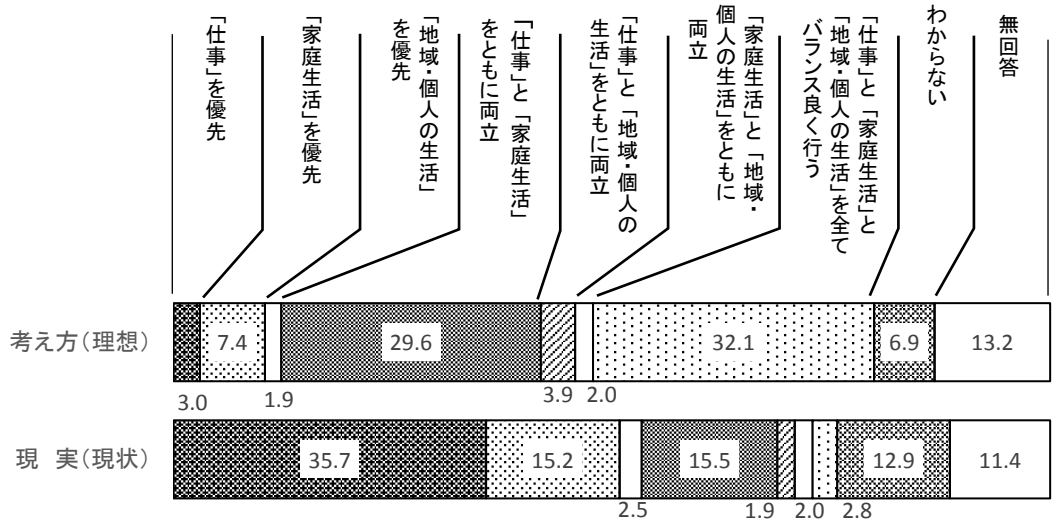
		合計	企業トップが女性の活躍促進に積極的であること	職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること	女性の育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること	男性が家事・育児に参加すること	企業内で女性の上時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること	男性の長時間労働をなくすこと	身近に活躍している先輩（ロールモデル）がいること	仕事が適正に評価されていること	職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること	キャリア形成のための研修制度があること	保育施設、保育サービスが充実していること	放課後児童クラブが充実していること	国や自治体など、行政による企業支援があること	地域社会が、自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること	その他	わからない	無回答
全体		1,026	18.7	38.9	49.2	27.3	16.3	11.7	5.8	24.3	7.6	3.3	36.9	12.5	8.9	6.6	1.9	3.7	4.1
年代別	10代	17	11.8	47.1	52.9	23.5	11.8	17.6	5.9	29.4	5.9	5.9	58.8	11.8	11.8			5.9	
	20代	60	18.3	36.7	60.0	40.0	25.0	13.3	11.7	33.3	1.7	3.3	38.3	5.0	8.3	3.3	1.7		
	30代	99	11.1	37.4	51.5	28.3	23.2	14.1	10.1	17.2	6.1	4.0	44.4	16.2	12.1	1.0	4.0	1.0	1.0
	40代	142	22.5	37.3	50.0	29.6	19.7	19.7	8.5	22.5	7.0	0.7	38.7	16.9	8.5	1.4	3.5	2.8	0.7
	50代	180	16.1	38.9	54.4	33.9	15.0	13.9	6.7	32.8	7.8	1.1	36.1	10.0	8.3	3.9	2.8	1.1	0.6
	60代	227	21.1	35.7	52.4	26.4	14.1	9.3	3.1	25.6	8.4	4.0	39.2	14.1	8.8	7.0	0.4	5.7	2.2
	70代以上	270	20.7	43.0	42.2	20.7	12.6	7.4	3.7	20.4	9.6	5.2	31.5	11.5	8.9	13.0	1.1	6.3	8.9

４　職業・就労について

（１）仕事と生活についての考え方（理想）と現実（現状）

問１７	仕事と生活について、あなたの考え方（理想）と現実（現状）にもっとも近いものを教えてください。

◇全体



●「考え方（理想）」は、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を全てバランス良く行う”（32.1%）と“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”（29.6%）に集中している。

●一方、「現実（現状）」では、“「仕事」を優先”（35.7%）が最も多く、次いで“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”（15.5%）、“「家庭生活」を優先”（15.2%）が続く。

●「現実（現状）」が「考え方（理想）」を上回るのは、“「仕事」を優先”（32.7 ポイント）、“「家庭生活」を優先”（7.8 ポイント）である。

反対に、「現実（現状）」が「考え方（理想）」を下回るのが、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を全てバランス良く行う”（▲29.3 ポイント）と“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”（▲14.1 ポイント）である。

①考え方（理想）

◇性別

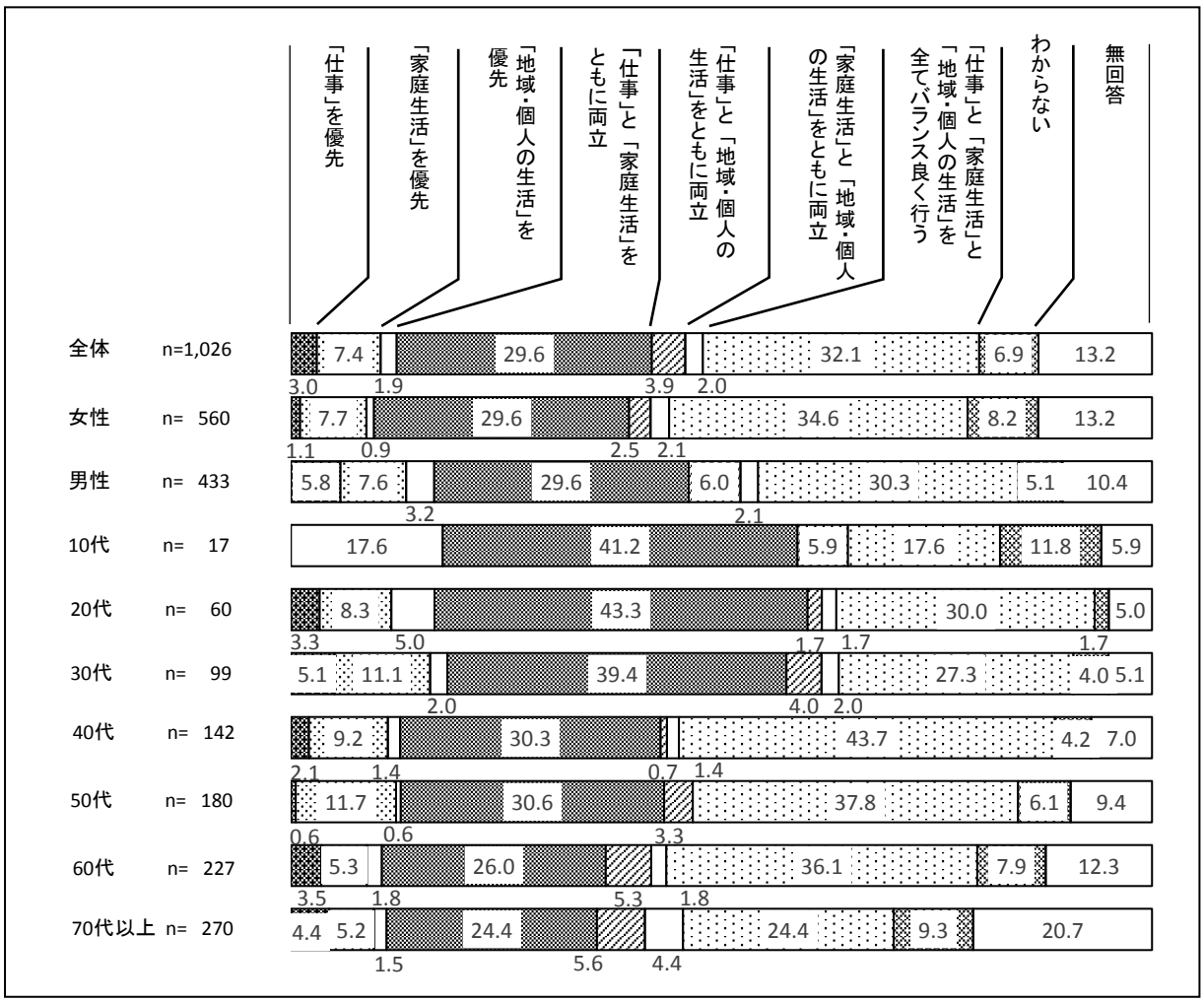
“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を全てバランス良く行う”の割合は、女性（34.6%）と男性（30.3%）でほぼ同じ、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”は、女性、男性ともに29.6%で並ぶなど、女性と男性の割合構成にほとんど差はない。

◇年齢別

“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を全てバランス良く行う”は、40代（43.7%）をトップに、50代（37.8%）、60代（36.1%）が上位にあり、10代（17.6%）が最も低い。

一方、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”は、20代（43.3%）、10代（41.2%）、30代（39.4%）の若い年代が4割前後で並び、中高年代を上回る。

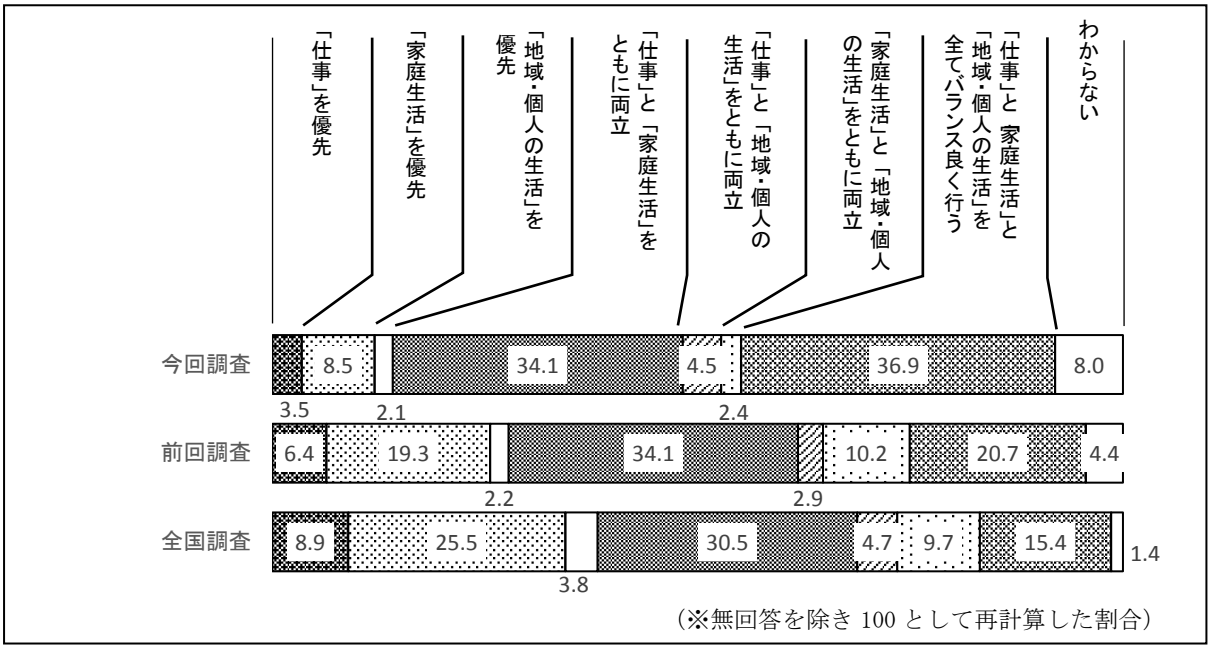
また、“「地域・個人の生活」を優先”は10代（17.6%）、“「家庭生活」を優先”は、50代（11.7%）や30代（11.1%）で多い。



◆前回調査・全国調査との比較

“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を全てバランス良く行う”の割合は、福島市（今回調査）が全国を 21.5 ポイントと大きく上回り、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”も全国をわずかに上回る。一方、“「家庭生活」を優先”をはじめ、“「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立”、“「仕事」を優先”などは全国の割合の方が多い。

また、前回調査と比べると、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を全てバランス良く行う”が 16.2 ポイント増加したのに対して、“「家庭生活」を優先”や“「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立”、“「仕事」を優先”などは減少している。



②現実（現状）

◇性別

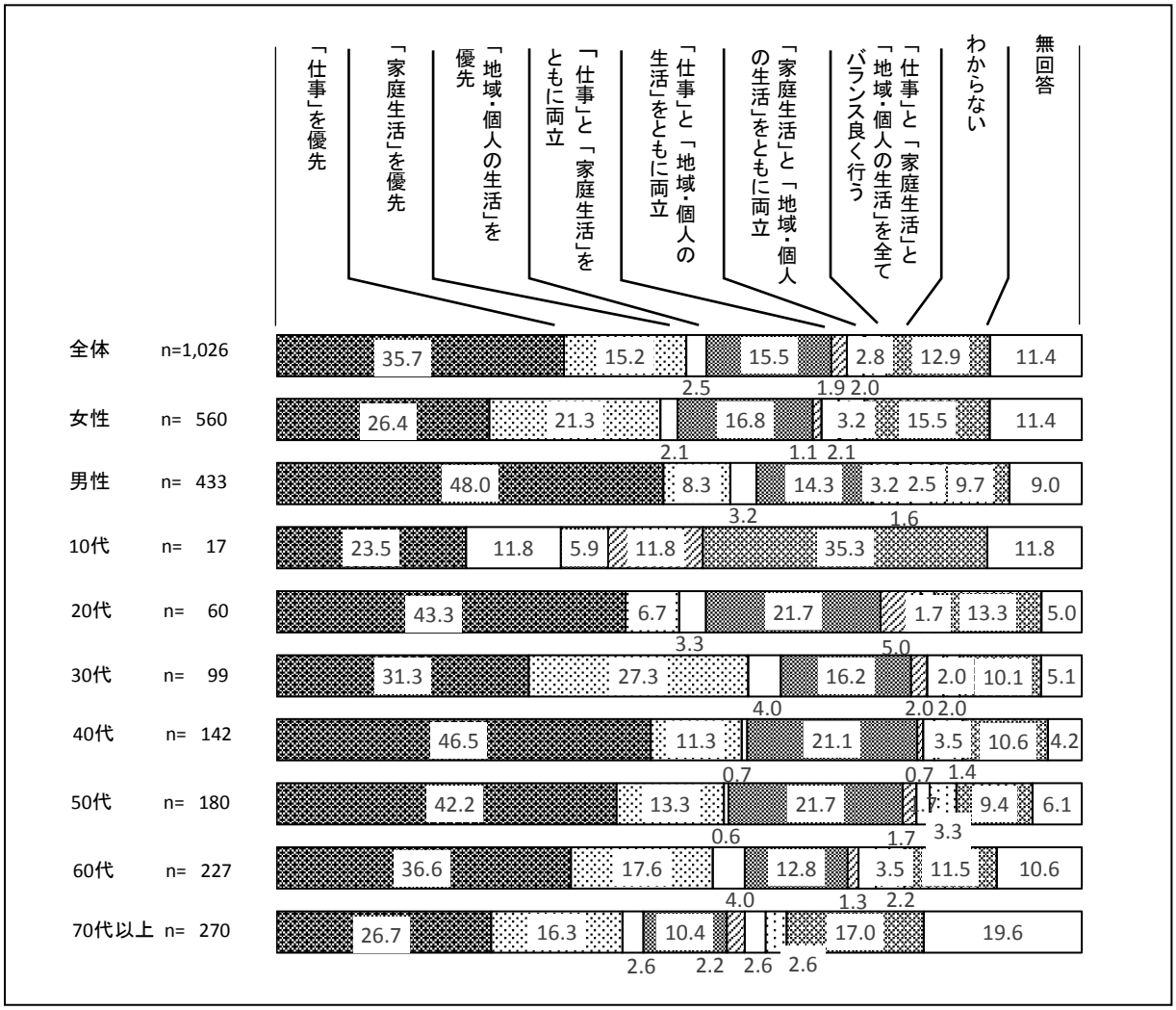
“「仕事」を優先”は、男性（48.0%）が女性（26.4%）を大きく 21.6 ポイント上回り、“「家庭生活」を優先”は、女性（21.3%）が男性（8.3%）を 13 ポイント上回る。

また、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”は、女性（16.8%）と男性（14.3%）がほぼ同じである。

◇年齢別

“「仕事」を優先”は、40 代（46.5%）、20 代（43.3%）、50 代（42.2%）が上位にあり、“「家庭生活」を優先”は、30 代（27.3%）が特に多い。

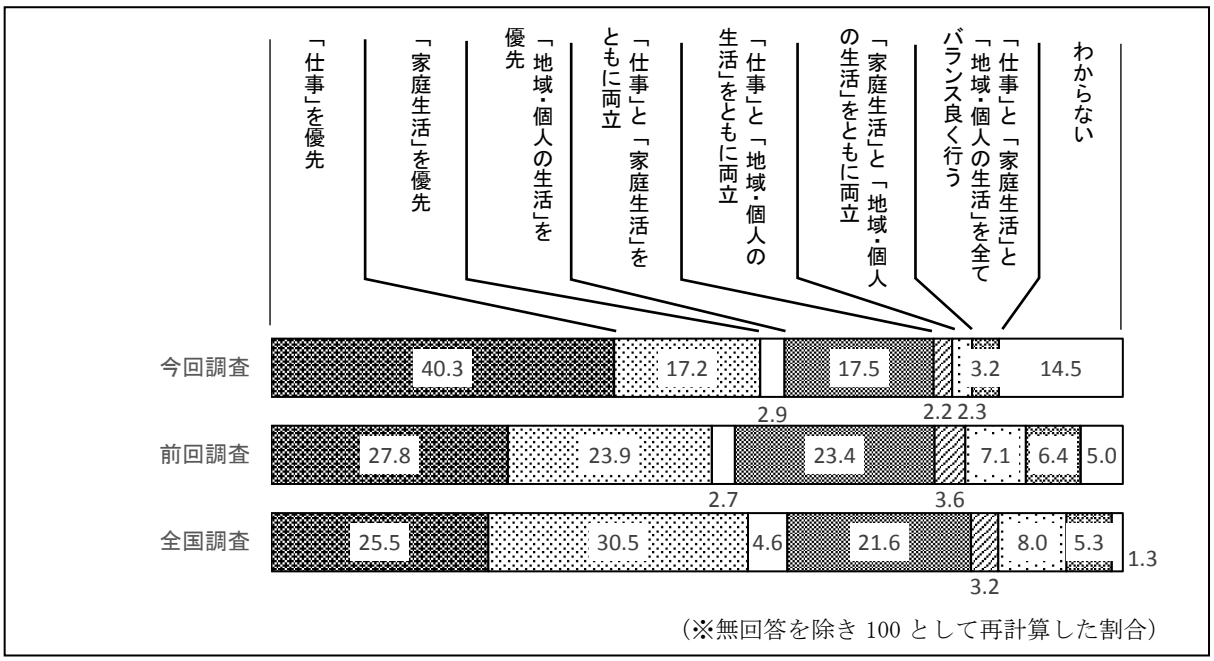
また、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”は、20 代と 50 代（ともに 21.7%）、40 代（21.1%）で多い。



◆前回調査・全国調査との比較

“「仕事」を優先”は、福島市（今回調査）の割合が全国を大きく 14.8 ポイント上回る。これに対して、“「家庭生活」を優先”は 13.3 ポイント、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”は 4.1 ポイントそれぞれ全国の割合の方が大きい。

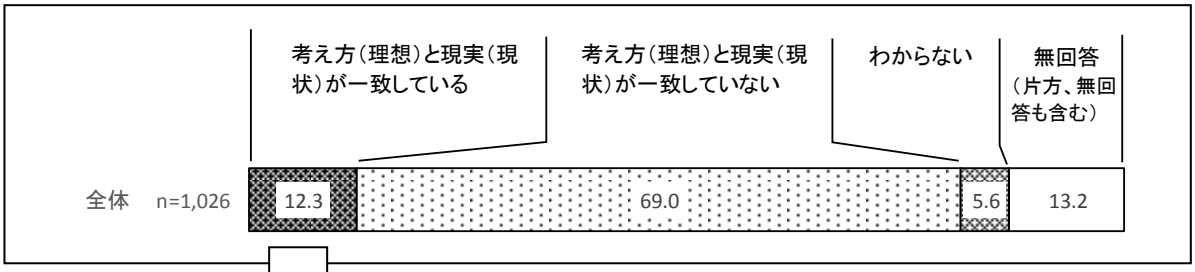
また、前回調査と比べると、“「仕事」を優先”は今回調査が 12.5 ポイント増加したのに対して、“「家庭生活」を優先”と“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”の割合は減少している。



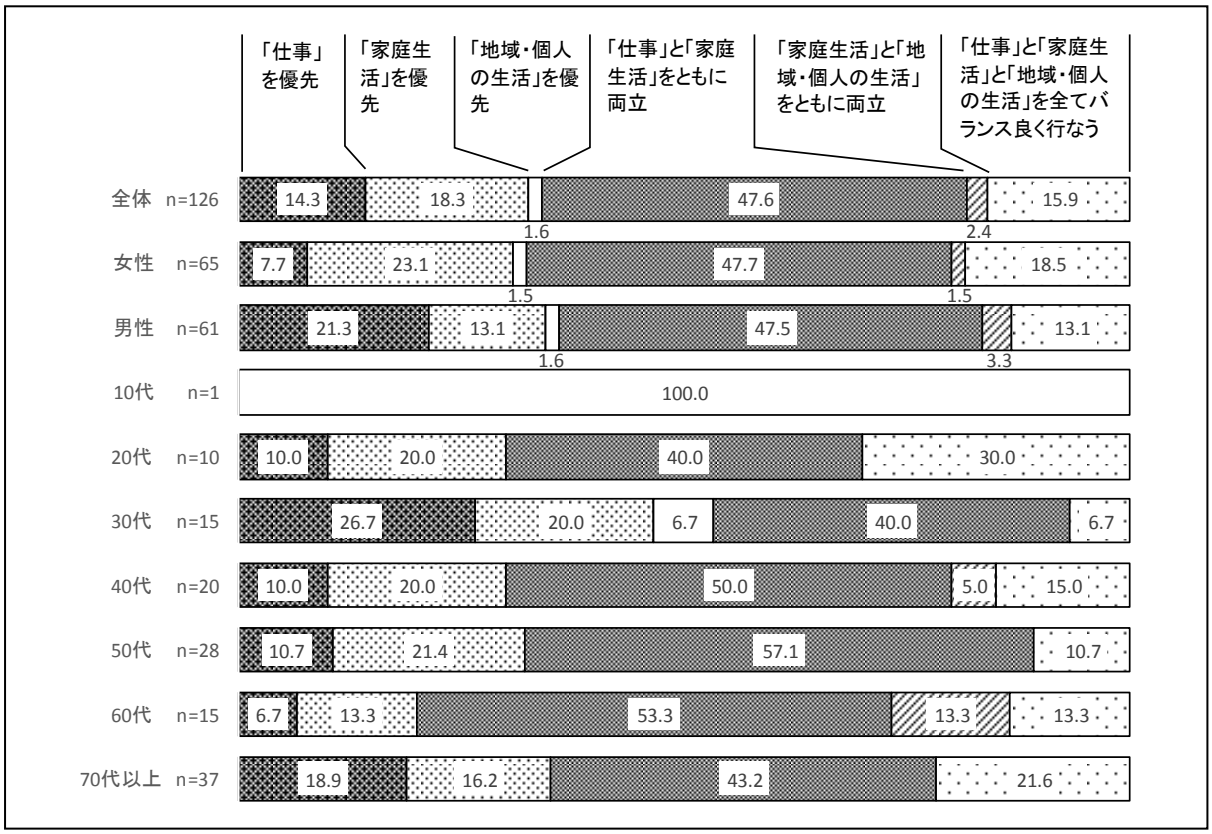
③考え方（理想）と現実（現状）との一致状況

◇一致状況

回答者の中で、考え方（理想）と現実（現状）とが一致している方は 126 人で、全体の 12.3%に当たる。



（※一致している方の詳細）



◇一致している方の詳細

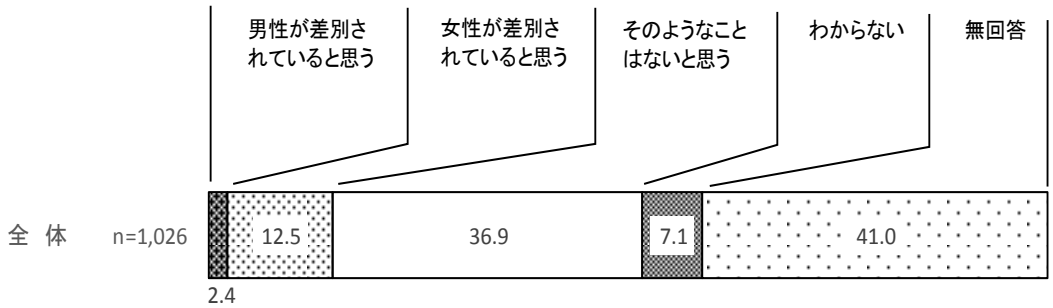
一致している内容は、“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”（47.6%）が最も多く、次いで“「家庭生活」を優先”（18.3%）、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を全てバランス良く行なう”（15.9%）、“「仕事」を優先”（14.3%）の順となっている。

“「仕事」と「家庭生活」をともに両立”では、男女の割合がほぼ同じで、40～60 代の中高年代に多く、“「家庭生活」を優先”は、女性の方が 10.0 ポイント多く、20～50 代でそれぞれ 20%の割合を占める。

（２）仕事や待遇面での男女差別

問１８	今の職場で、仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思いますか。

◇全体



●「そのようなことはないと思う」が 36.9%で最も多く、「女性が差別されていると思う」が 12.5%、「男性が差別されていると思う」は 2.4%と少ない。
（※「無回答」が 41.0%と多い。）

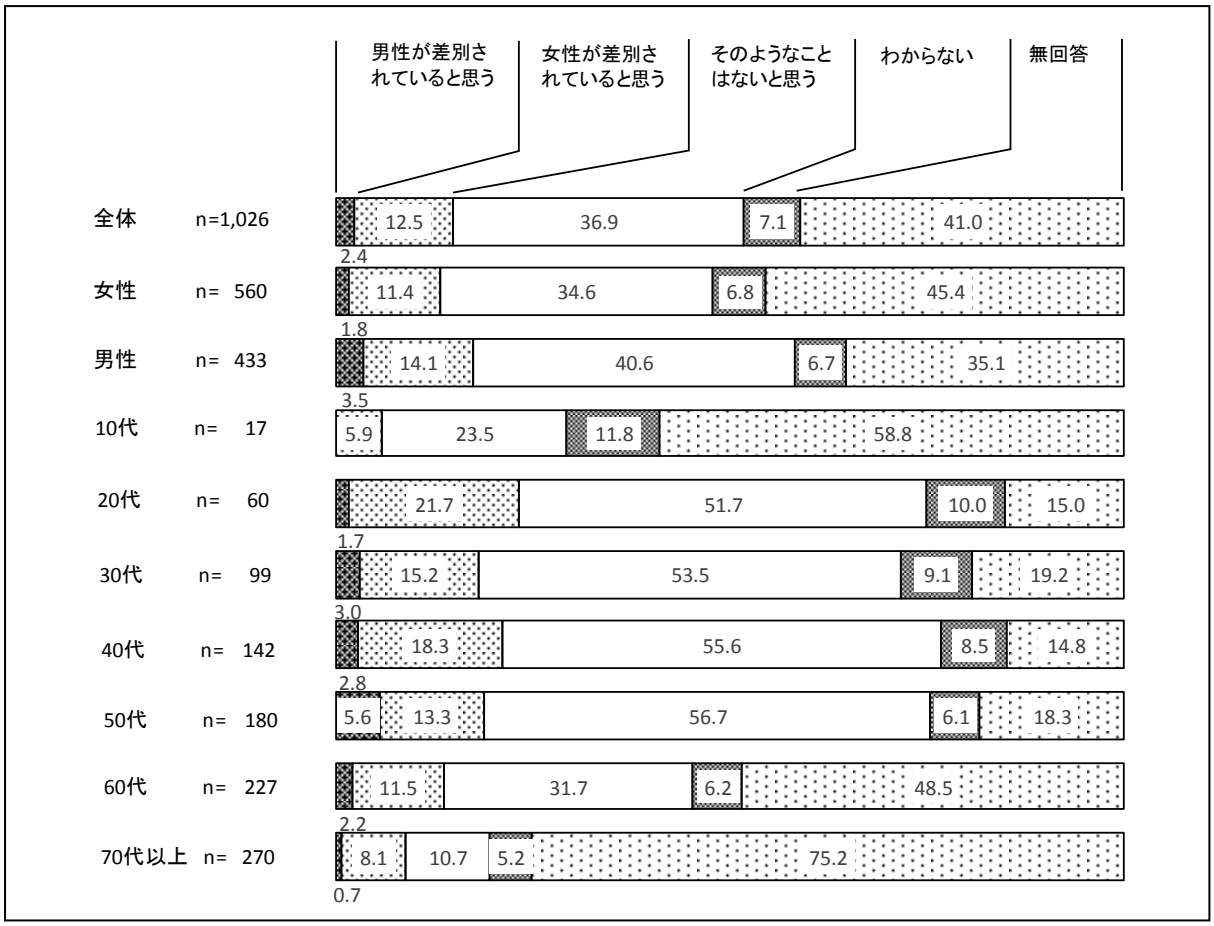
◇性別

「そのようなことはないと思う」は、男性（40.6%）が女性（34.6%）を 6.0 ポイント上回り、「女性が差別されていると思う」も、わずかであるが男性（14.1%）が女性（11.4%）より多い。

◇年齢別

「そのようなことはないと思う」は、20代～50代（いずれも5割台）で多く、70代以上（10.7%）が最も低い。また、「女性が差別されていると思う」は、20 代（21.7%）、40 代（18.3%）に多い。

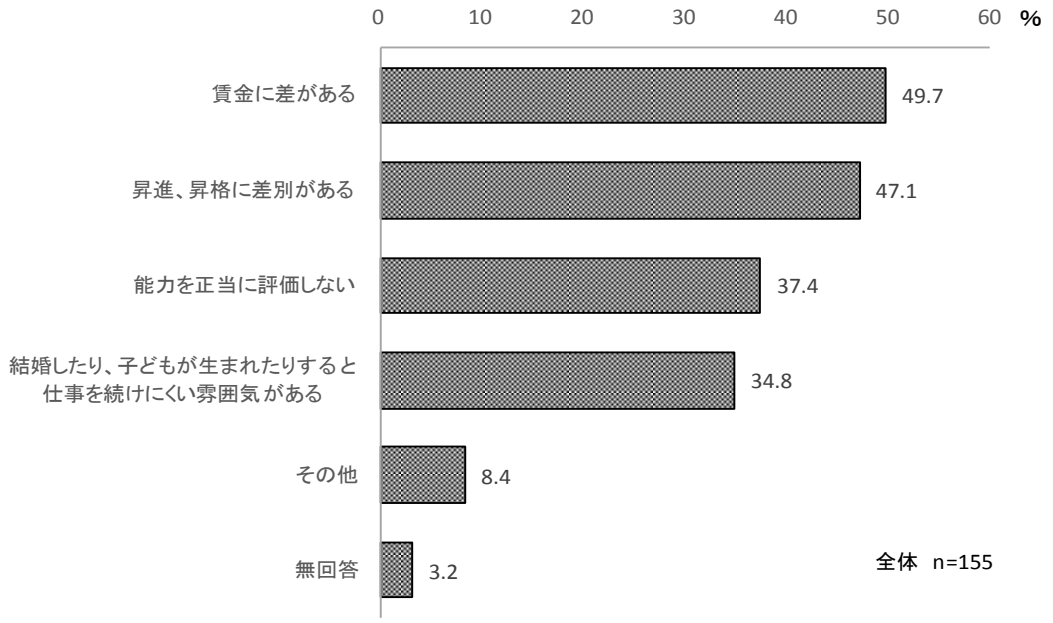
なお、「無回答」は、70 代以上（75.2%）、10 代（58.8%）、60 代（48.5%）で特に多い。


男性が差別されていると思う
女性が差別されていると思う
そのようなことはないと思う
わからない
無回答
全体 n=1,026
2.4 12.5 36.9 7.1 41.0
女性 n= 560
1.8 11.4 34.6 6.8 45.4
男性 n= 433
3.5 14.1 40.6 6.7 35.1
10代 n= 17
5.9 23.5 11.8 58.8
20代 n= 60
1.7 21.7 51.7 10.0 15.0
30代 n= 99
3.0 15.2 53.5 9.1 19.2
40代 n= 142
2.8 18.3 55.6 8.5 14.8
50代 n= 180
5.6 13.3 56.7 6.1 18.3
60代 n= 227
2.2 11.5 31.7 6.2 48.5
70代以上 n= 270
0.7 8.1 10.7 5.2 75.2

（３）男女差別の具体的内容

問１９	問１８で１または２と答えた方にお聞きします。それは、具体的にどのようなことですか。（複数回答）

◇全体



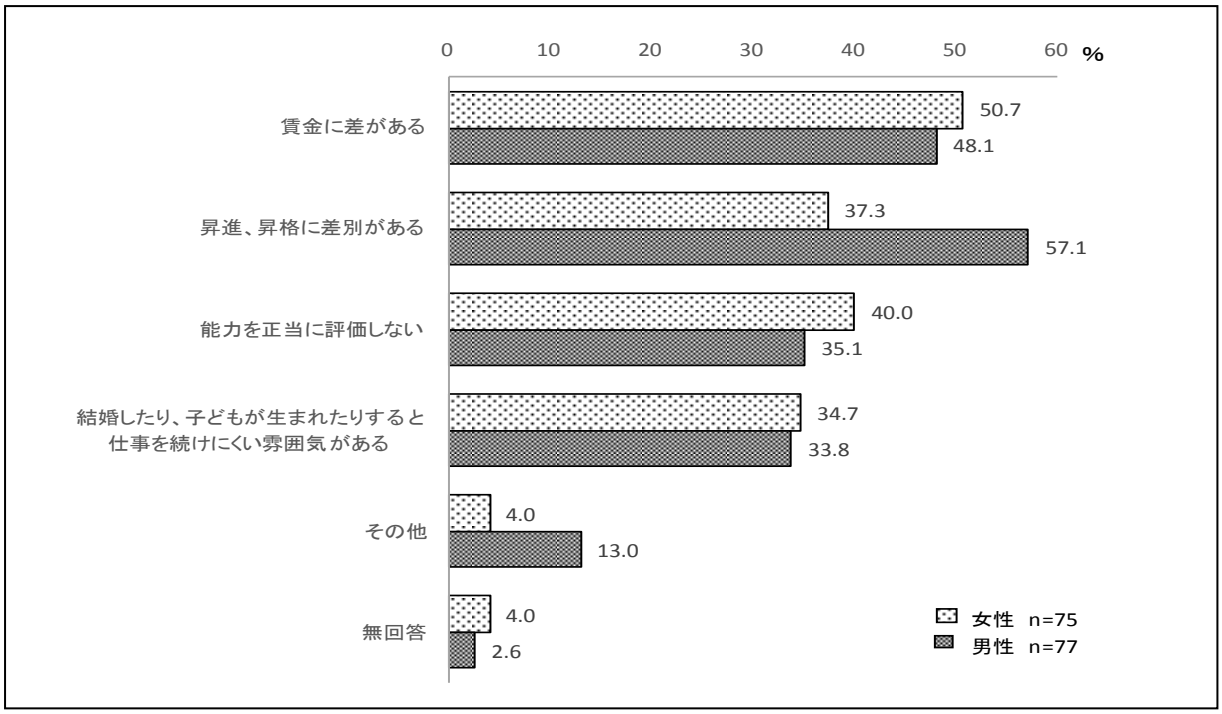
●「賃金に差がある」（49.7%）と「昇進、昇格に差別がある」（47.1%）が、ともに回答者の５割近くを占め、最も多い。

●また、「能力を正当に評価しない」（37.4%）と「結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある」（34.8%）も、ともに３割台を占める。

◇性別

「賃金に差がある」と「能力を正当に評価しない」、「結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある」は、いずれも女性の割合が男性より多い。

一方、「昇進、昇格に差別がある」は、男性（57.1%）が女性（37.3%）を 19.8 ポイントと大きく上回る。



◇年齢別

「賃金に差がある」は、70 代以上（61.5%）をはじめ、60 代（58.1%）、50 代（52.9%）の中高年代の割合が高く、「昇進、昇格に差別がある」は、40 代（63.3%）と 50 代（50.0%）の中年代が特に高い。

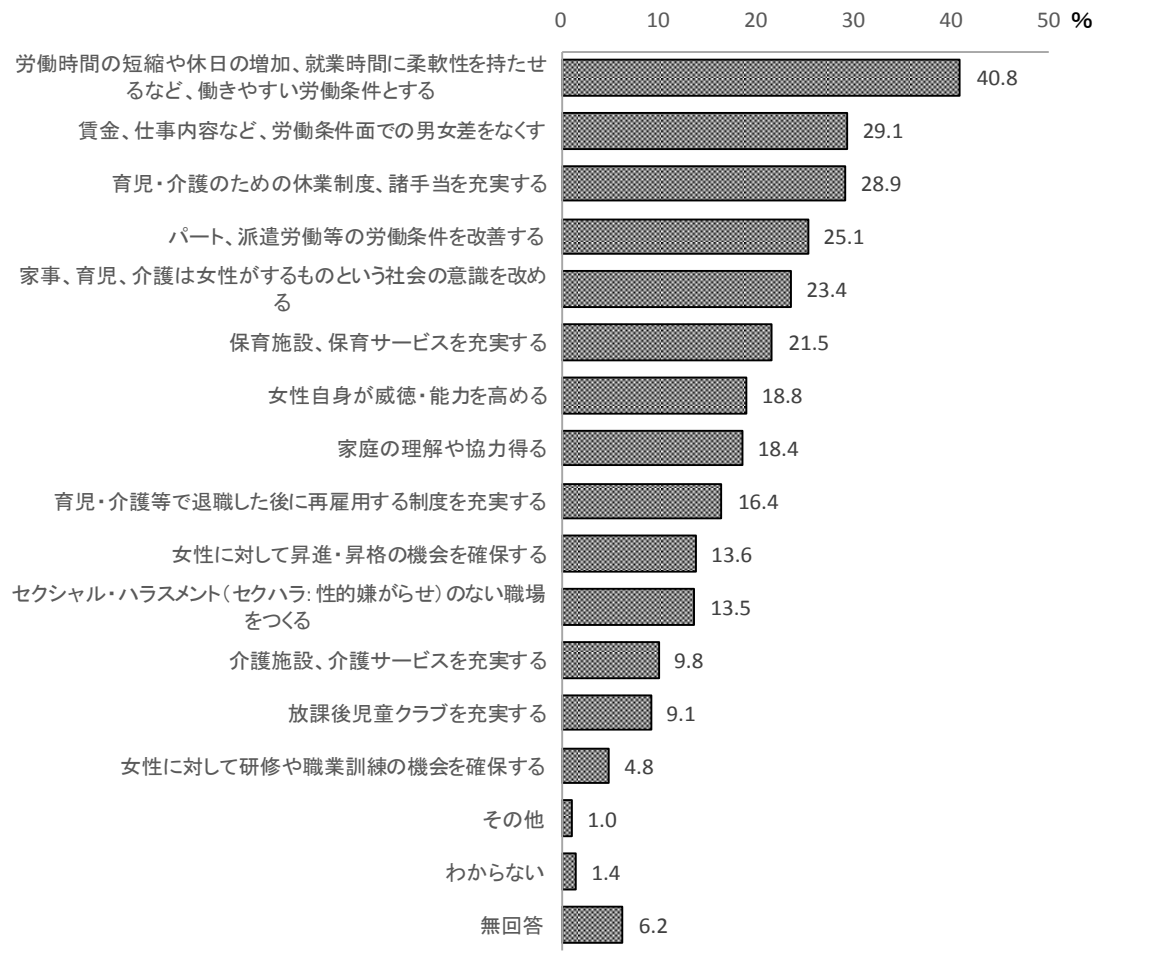
また、「能力を正当に評価しない」は、同じく 40 代（50.0%）と 50 代（44.1%）で、「結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある」は、20 代～70 代以上のどの年代でも 3 割台を占める。

		合計	賃金に差がある	昇進、昇格に差別がある	能力を正当に評価しない	結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある	その他	無回答
	全体	155	49.7	47.1	37.4	34.8	8.4	3.2
年齢別	10代	1				100.0		
	20代	14	21.4	35.7	28.6	35.7	21.4	
	30代	18	38.9	44.4	33.3	33.3	22.2	
	40代	30	46.7	63.3	50.0	33.3	13.3	
	50代	34	52.9	50.0	44.1	32.4	5.9	
	60代	31	58.1	41.9	38.7	32.3		3.2
	70代以上	26	61.5	42.3	23.1	38.5		15.4

（４）女性が働き続けるために必要なこと

問２０	女性が働き続けるために必要なことは何だと思いますか。（複数回答）

◇全体

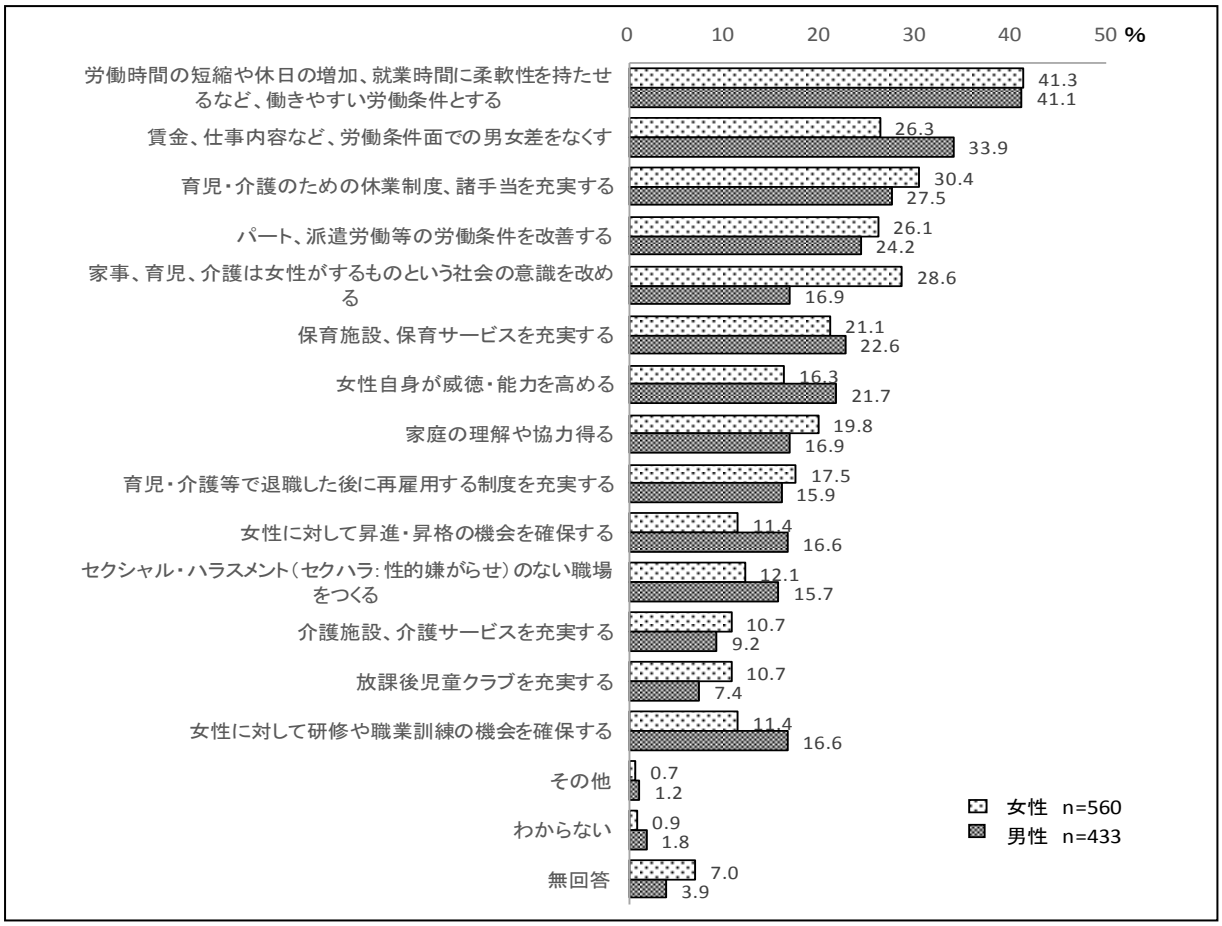


●「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働環境とする」（40.8%）が回答者の４割を占めて最も多い。

●以下、「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」（29.1%）、「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」（28.9%）、「パート、派遣労働等の労働条件を改善する」（25.1%）、「家事、育児、介護は女性がするものという社会の意識を改める」（23.4%）と続くなど、意見は多様化している。

◇性別

「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働環境とする」は、女性と男性の割合がほぼ同じである。一方、女性が男性を大きく上回るのは「家事、育児、介護は女性がするものという社会の意識を改める」、反対に、男性が女性を大きく上回るのが「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」となっている。



◇年齢別

「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働環境とする」は、20 代（55.0%）をトップに、30 代（46.5%）、50 代（46.1%）が続き、10 代（23.5%）が最も低い。

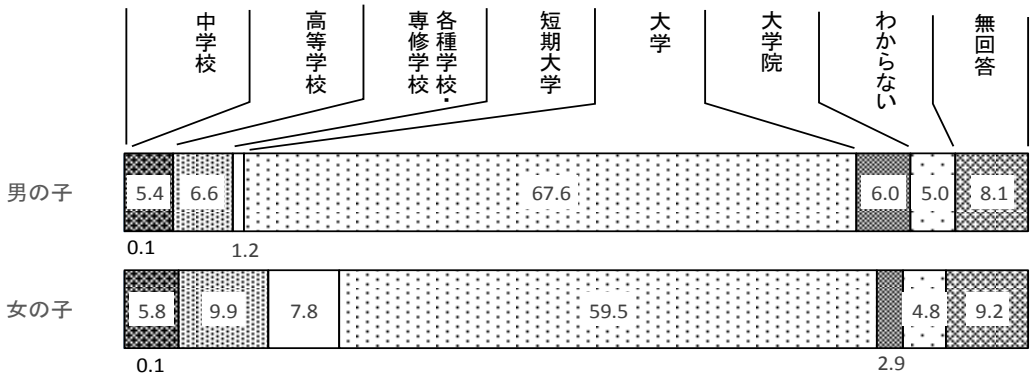
		合計	賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす	パート、派遣労働等の労働条件を改善する	労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする	セクシャル・ハラスメント（セクハラ：性的嫌がらせ）のない職場をつくる	女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する	女性に対して昇進・昇格の機会を確保する	女性自身が威徳・能力を高める	育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する	保育施設、保育サービスを充実する	放課後児童クラブを充実する	介護施設、介護サービスを充実する	育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する	家庭の理解や協力得る	家事、育児、介護は女性がするものという社会の意識を改める	その他	わからない	無回答
全体		1026	29.1	25.1	40.8	13.5	4.8	13.6	18.8	28.9	21.5	9.1	9.8	16.4	18.4	23.4	1.0	1.4	6.2
年齢別	10代	17	23.5	11.8	23.5	35.3	5.9	5.9	5.9	41.2	17.6	5.9		23.5		23.5		5.9	17.6
	20代	60	30.0	21.7	55.0	26.7	6.7	15.0	11.7	48.3	21.7	1.7	3.3	13.3	6.7	21.7			1.7
	30代	99	20.2	15.2	46.5	10.1	6.1	11.1	13.1	40.4	38.4	26.3	4.0	11.1	21.2	21.2	3.0		2.0
	40代	142	31.7	25.4	43.0	10.6	4.2	16.2	24.6	28.9	26.1	11.3	8.5	9.9	20.4	21.8	2.8	1.4	1.4
	50代	180	30.6	26.7	46.1	15.0	3.9	15.0	16.7	31.1	21.7	6.7	13.3	16.7	23.3	28.9	0.6		1.1
	60代	227	27.8	33.0	35.7	14.5	3.5	13.2	22.9	26.4	21.1	7.0	9.7	21.6	18.9	24.2	0.4	1.3	3.5
	70代以上	270	33.3	23.7	36.7	11.5	5.9	13.0	17.4	21.5	14.1	7.8	13.3	18.5	17.0	20.7		2.6	14.4

５　子どもの教育について

（１）子どもに受けさせたい教育程度

問２１	あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。お子さんがいらっしゃらない方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自分に女の子と男の子がいると仮定してお答えください。

◇全体



- “男の子”の場合は、「大学」が 67.6%と圧倒的に多く、以下、「各種学校・専修学校」の 6.6%、「大学院」の 6.0%、「高等学校」の 5.4%、「短期大学」の 1.2%、「中学校」の 0.1%の順となっている。
- “女の子”では、「大学」が 59.5%で最も多く、以下、「各種学校・専修学校」の 9.9%、「短期大学」の 7.8%、「高等学校」の 5.8%、「大学院」の 2.9%、「中学校」の 0.1%の順である。
- “男の子”の場合、「大学」や「大学院」の割合が“女の子”の割合を上回り、一方、“女の子”の場合は、「短期大学」や「各種学校・専修学校」の割合が、“男の子”の割合を上回る。

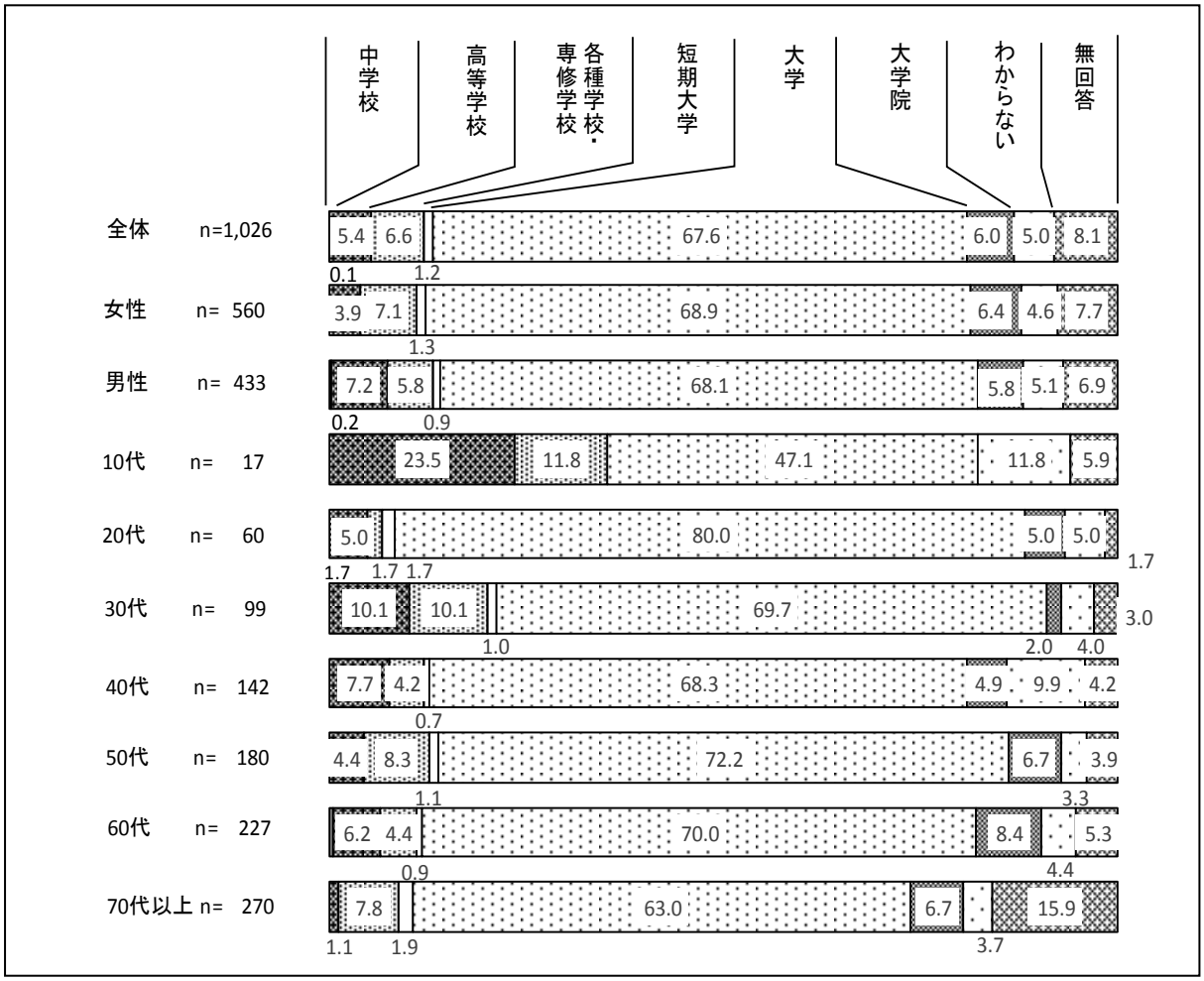
①男の子

◇性別

「大学」については、女性（68.9%）と男性（68.1%）がほぼ同じ割合である。また、「高等学校」は、男性（7.2%）が女性（3.9%）を 3.3 ポイント上回り、一方、「各種学校・専修学校」と「大学院」は、女性が男性をわずかに上回る。

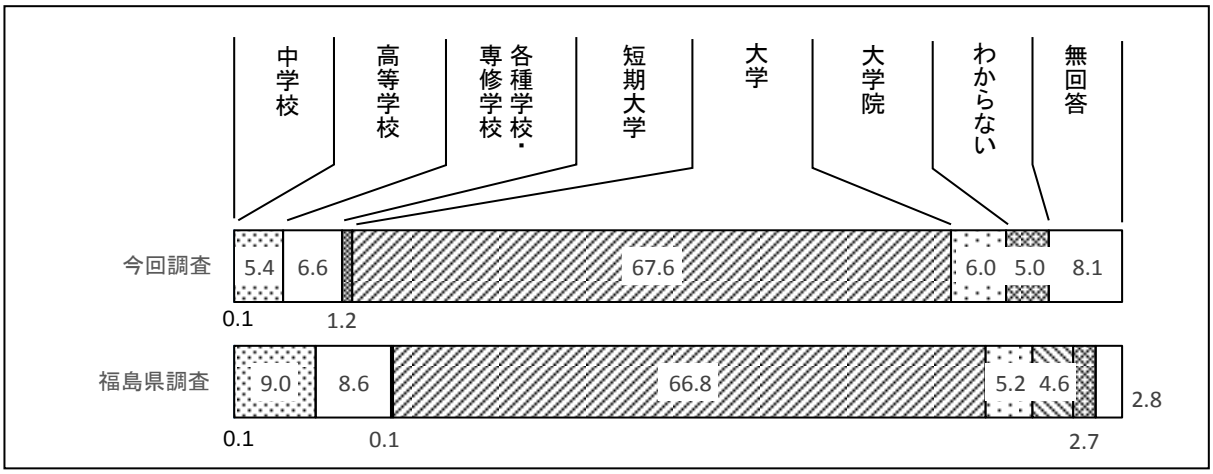
◇年齢別

「大学」は、20 代（80.0%）が最も多く、次いで 30 代～70 代以上の各年代が 7 割前後で続く。また、「高等学校」は、10 代（23.5%）で特に多く、「各種学校・専修学校」は、10 代（11.8%）と 30 代（10.1%）で、「大学院」は、60 代（8.4%）や 50 代、70 代以上（ともに 6.7%）の中高年代にやや多い。



◆福島県調査との比較

「大学」の割合は福島県とほぼ同じである。また、「大学院」は、福島市（今回調査）が福島県をわずかに上回るが、「各種学校・専修学校」と「高等学校」では福島県の割合の方がやや多くなっている。



②女の子

◇性別

「大学」は、女性（61.1%）が男性（59.8%）を、「短期大学」は、男性（8.8%）が女性（7.0%）をそれぞれわずかに上回る。

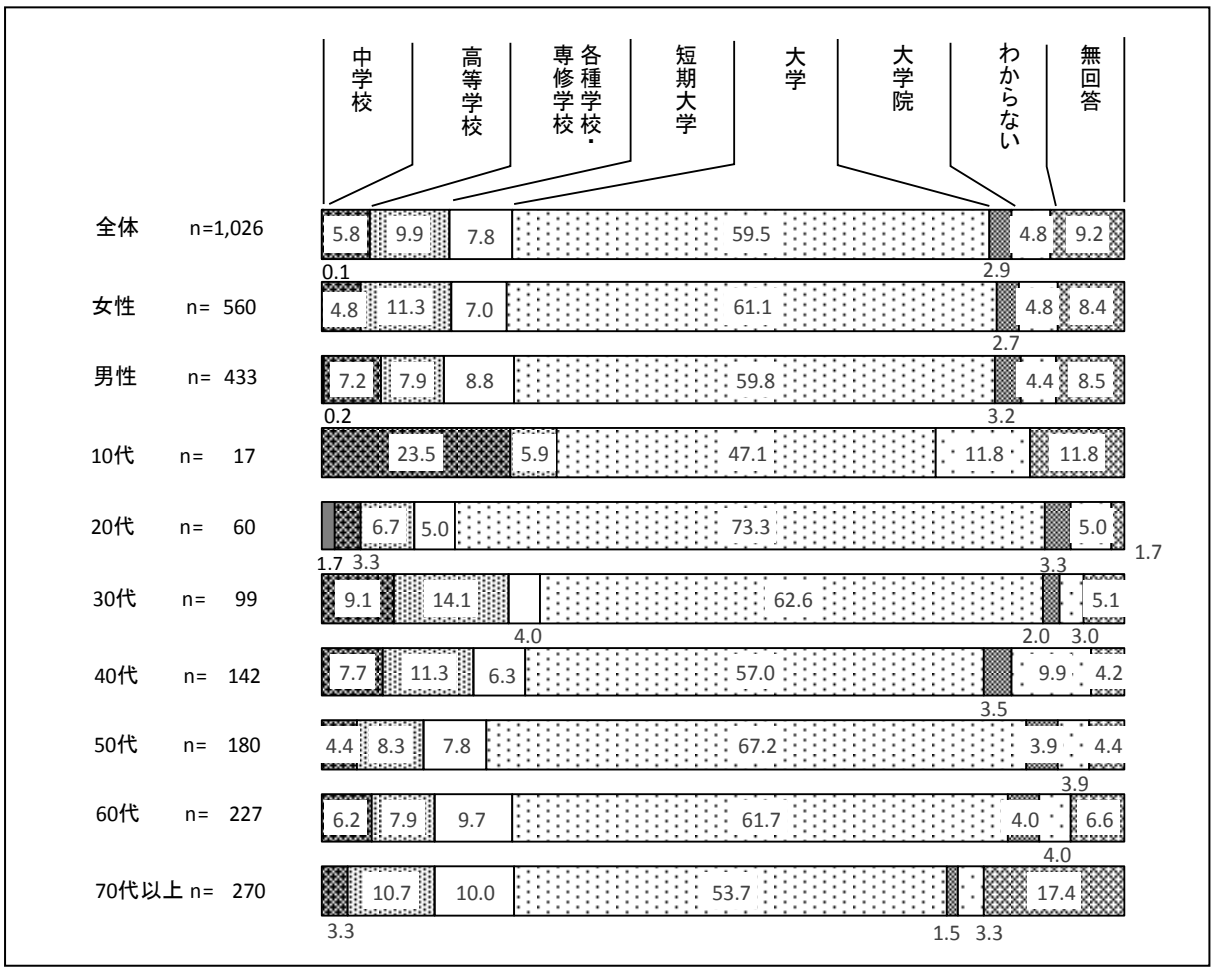
また、「各種学校・専修学校」は、女性（11.3%）が男性（7.9%）を 3.4 ポイント上回り、「高等学校」は、男性（7.2%）が女性（4.8%）を 2.4 ポイント上回る。

◇年齢別

「大学」は、20 代（73.3%）をトップに、50 代（67.2%）、30 代（62.6%）、60 代（61.7%）が上位にあり、10 代（47.1%）が最も低い。

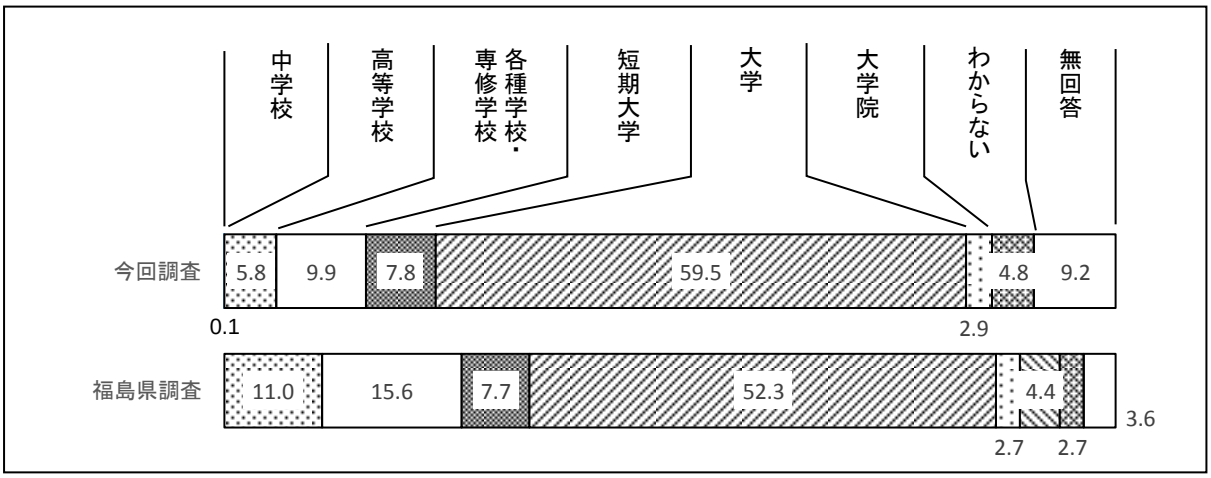
「各種学校・専修学校」は、30 代（14.1%）と 40 代（11.3%）の中年代や 70 代以上（10.7%）で、「短期大学」は、60 代（9.7%）、70 代以上（10.0%）の高年代でそれぞれ多い。

また、「高等学校」は、10 代（23.5%）で特に多くなっている。



◆福島県との比較

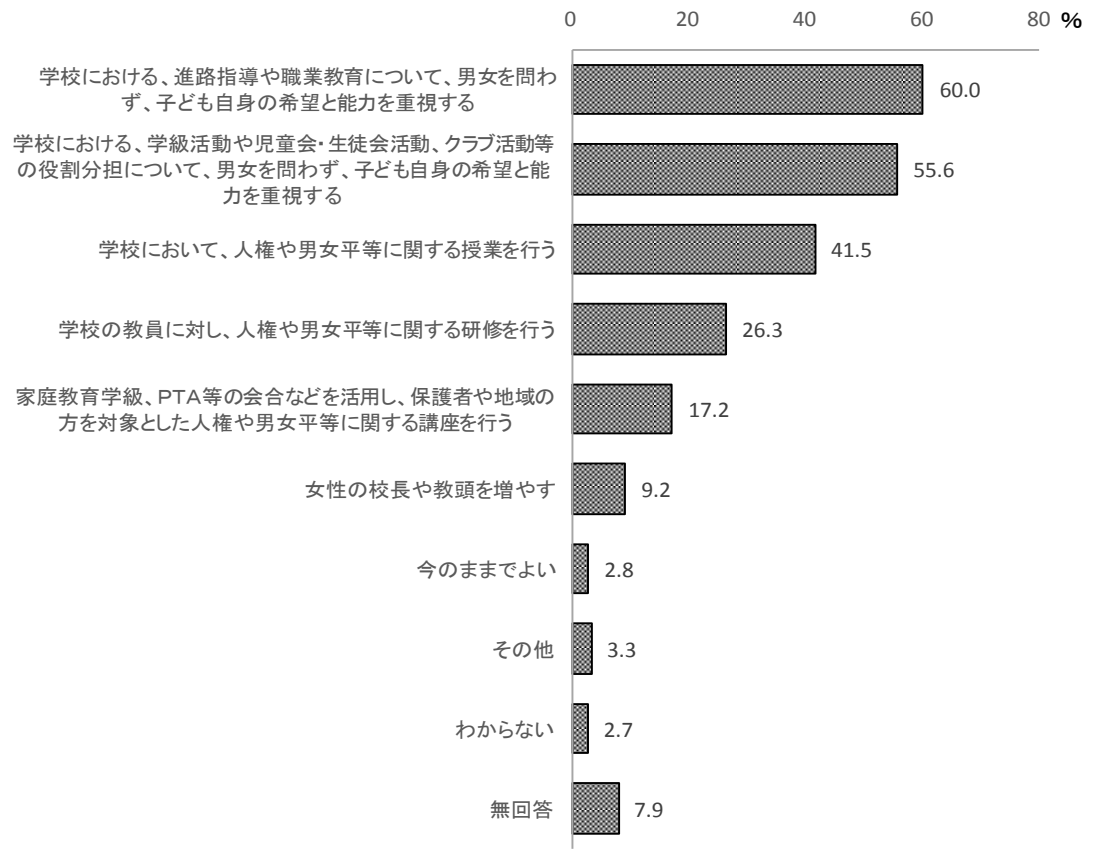
「大学」の割合は、福島市（今回調査）が福島県を 7.2 ポイント上回る。一方、「各種学校・専修学校」は 5.7 ポイント、「高等学校」は 5.2 ポイントそれぞれ福島県の方が多く、「短期大学」は、ほぼ同じ割合である。



（２）子どもに対する人権や男女平等等の意識の育成

問２２	次の世代を担う子どもたちに対して、人権や男女平等等の意識を育成するために重要だと思うものはどれですか。（複数回答）

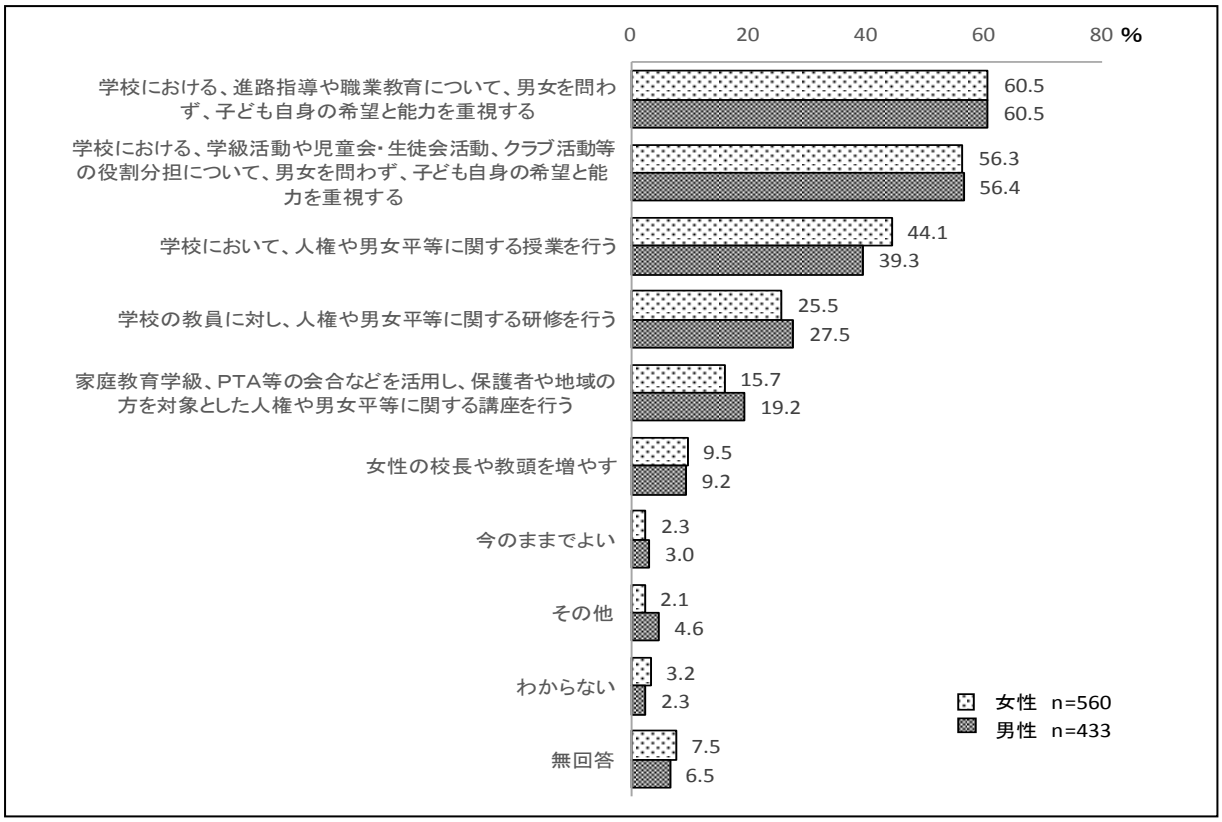
◇全体



●「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」（60.0%）が最も多く、以下、「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」（55.6%）、「学校において、人権や男女平等に関する授業を行なう」（41.5%）の順で、上位を占める。

◇性別

「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」と「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」は、ともに女性と男性の割合が同じである。一方、「学校において、人権や男女平等に関する授業を行なう」は、女性の割合が男性を上回る。



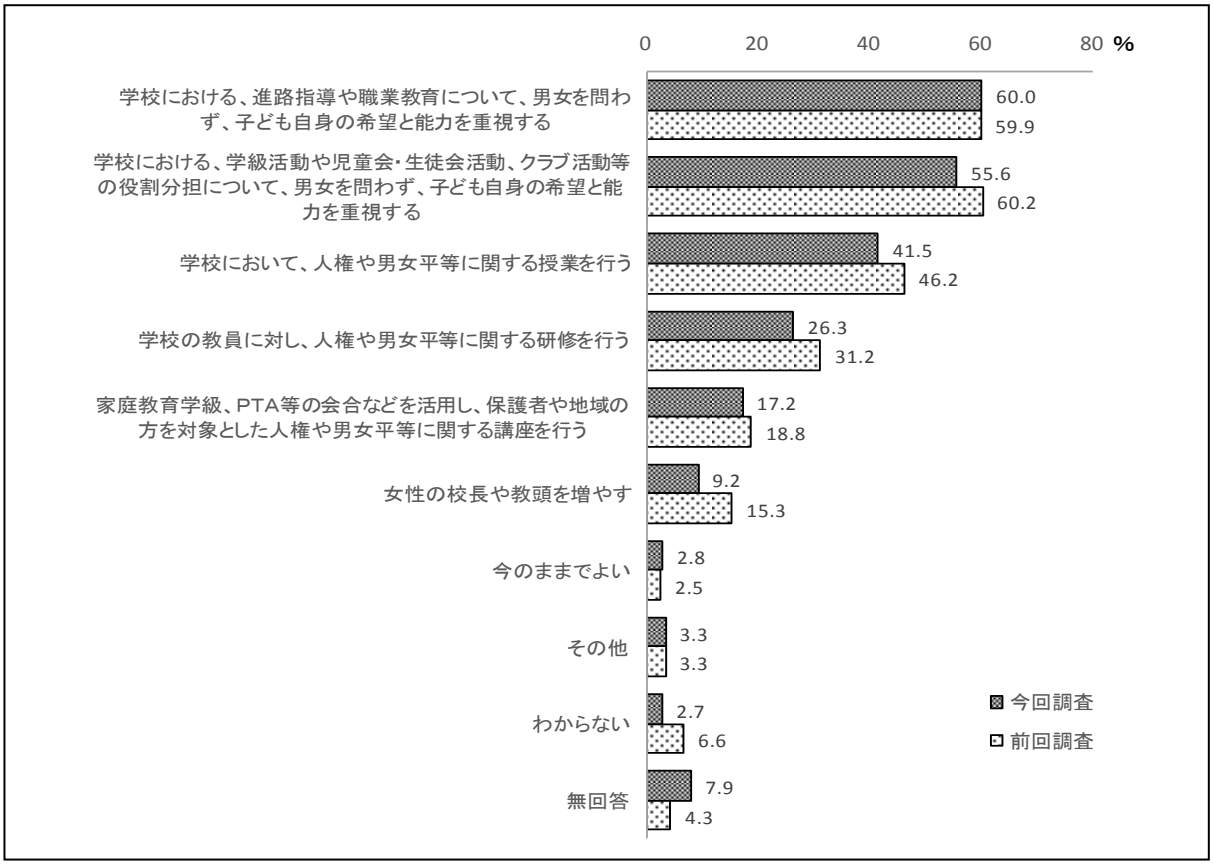
◇年齢別

「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」は、20 代をはじめ 30 代～60 代で、「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」は、30 代と 40 代での割合が多い。

		合計	学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する	学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する	学校において、人権や男女平等に関する授業を行う	家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う	学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う	女性の校長や教頭を増やす	今のままでよい	その他	わからない	無回答
全体		1,026	55.6	60.0	41.5	17.2	26.3	9.2	2.8	3.3	2.7	7.9
年齢別	10代	17	35.3	23.5	52.9	23.5	29.4	17.6	5.9	5.9	5.9	11.8
	20代	60	53.3	71.7	40.0	15.0	21.7	10.0	5.0	3.3		3.3
	30代	99	62.6	62.6	34.3	8.1	21.2	14.1	2.0	6.1	3.0	2.0
	40代	142	62.0	60.6	41.5	7.7	28.9	11.3	2.8	6.3	2.8	2.8
	50代	180	55.6	62.8	49.4	17.8	26.1	10.0	1.1	3.3	2.8	2.2
	60代	227	54.6	64.3	45.4	17.6	31.7	6.6	3.5	0.9	2.2	4.8
	70代以上	270	55.2	55.2	37.0	24.8	23.3	7.4	2.6	2.2	3.3	17.0

◆前回調査との比較

「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」は前回調査とほぼ同じ割合であるが、一方、「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」や「学校において、人権や男女平等に関する授業を行う」、「学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う」等の割合は前回調査より減少している。

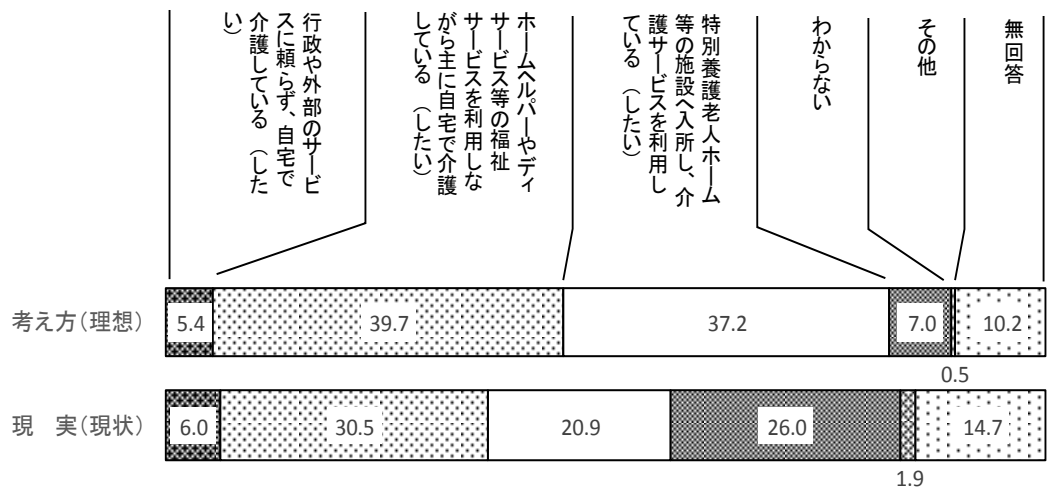


６　介護について

（１）家族の介護に対する考え

問２３	あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。

◇全体



●“考え方（理想）”では、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」（39.7%）と「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」（37.2%）がほぼ同率で分かれ、「行政や外部のサービスに頼らず、自宅で介護している（したい）」は少ない。

●“現実（現状）”では、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」（30.5%）が、「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」（20.9%）を 9.6 ポイント上回り、「行政や外部のサービスに頼らず、自宅で介護している（したい）」は少ない。

　また、「わからない」（26.0%）とする割合が多くなっている。

①考え方（理想）

◇性別

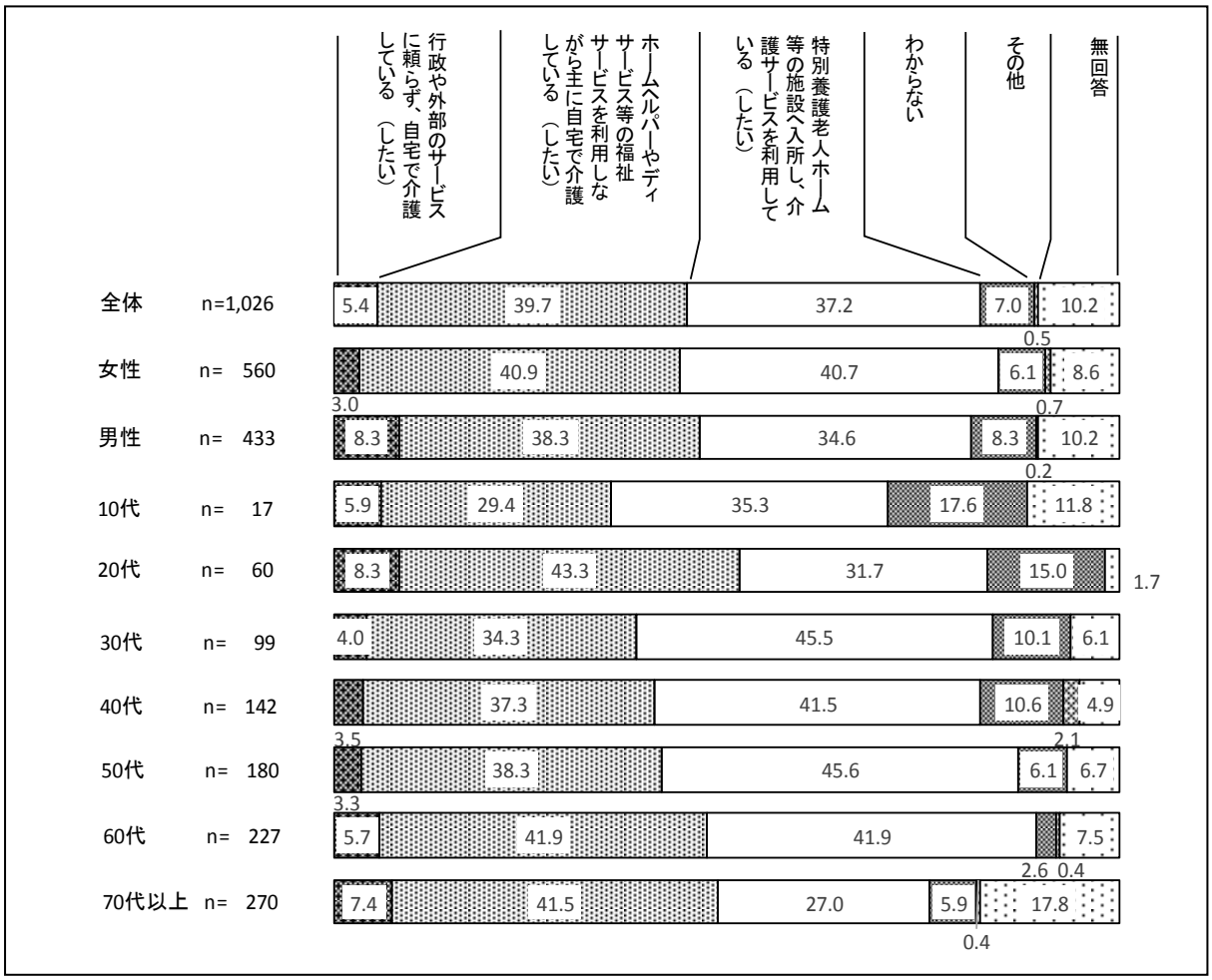
「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」は、女性（40.9%）が男性（38.3%）を 2.6 ポイント上回り、「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」も同様、女性（40.7%）が男性（34.6%）を 6.1 ポイント上回る。

一方、「行政や外部のサービスに頼らず、自宅で介護している（したい）」は、男性の方が若干多い。

◇年齢別

「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」は、30 代～60 代（各年代とも 4 割台）の割合が多く、70 代以上（27.0%）が最も低い。

また、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」は、20 代（43.3%）をトップに、60 代（41.9%）、70 代以上（41.5%）の高年代で多い。



②現実（現状）

◇性別

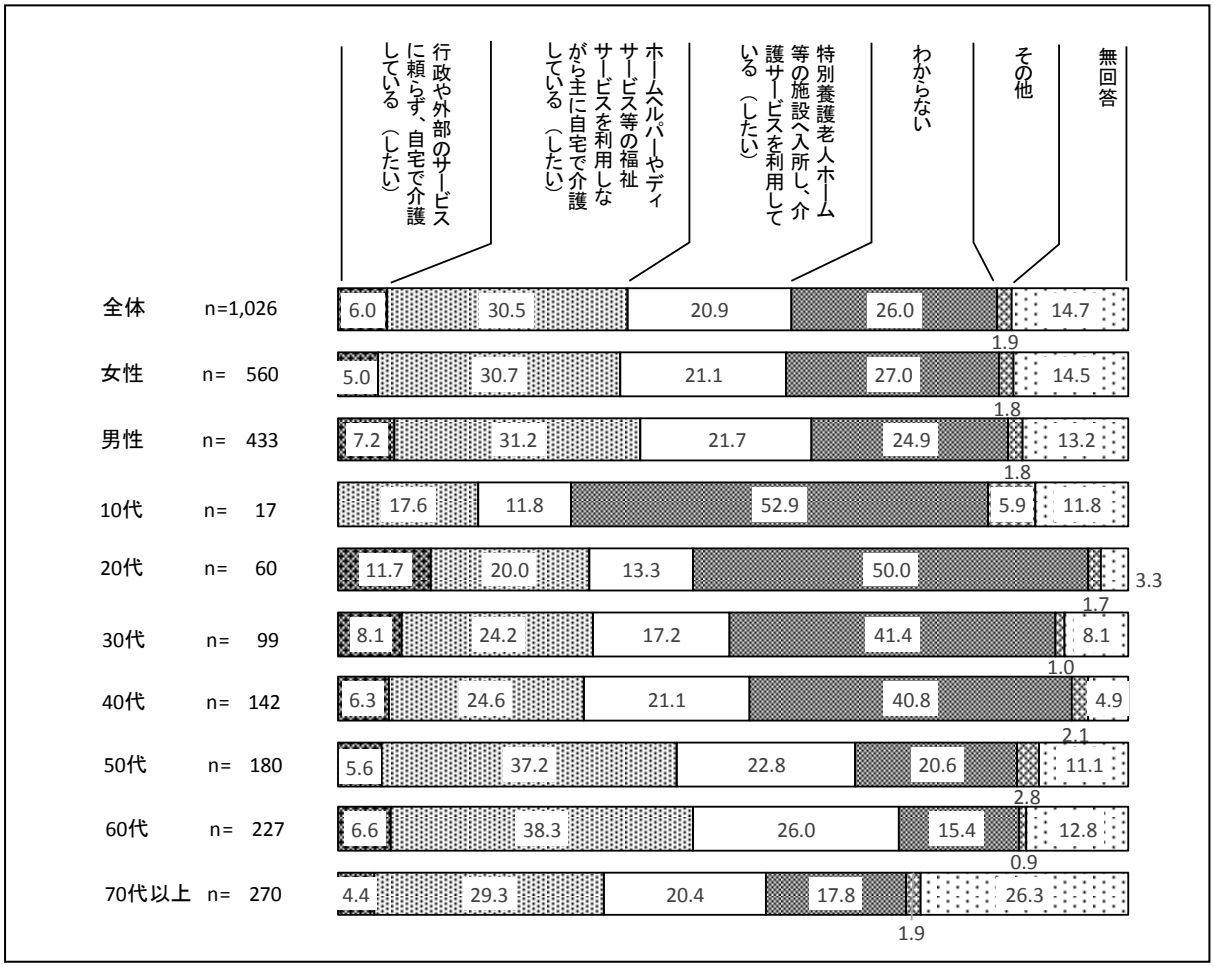
「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」と「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」の割合は、女性と男性でほぼ同じである。また、「行政や外部のサービスに頼らず、自宅で介護している（したい）」は、女性、男性とも 1 割未満と少ない。

◇年齢別

「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」は、60 代（38.3%）、50 代（37.2%）で最も多く、10 代（17.6%）が最も低い。

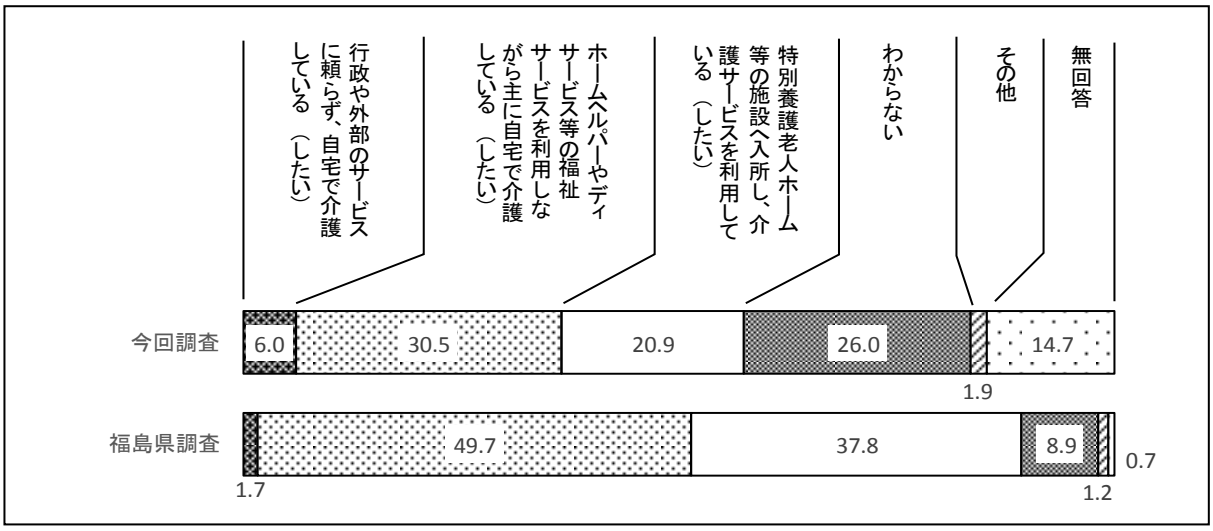
また、「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」も同様、60 代（26.0%）が最も多く、10 代（11.8%）が最も低い。

「行政や外部のサービスに頼らず、自宅で介護している（したい）」は、20 代（11.7%）で多い。



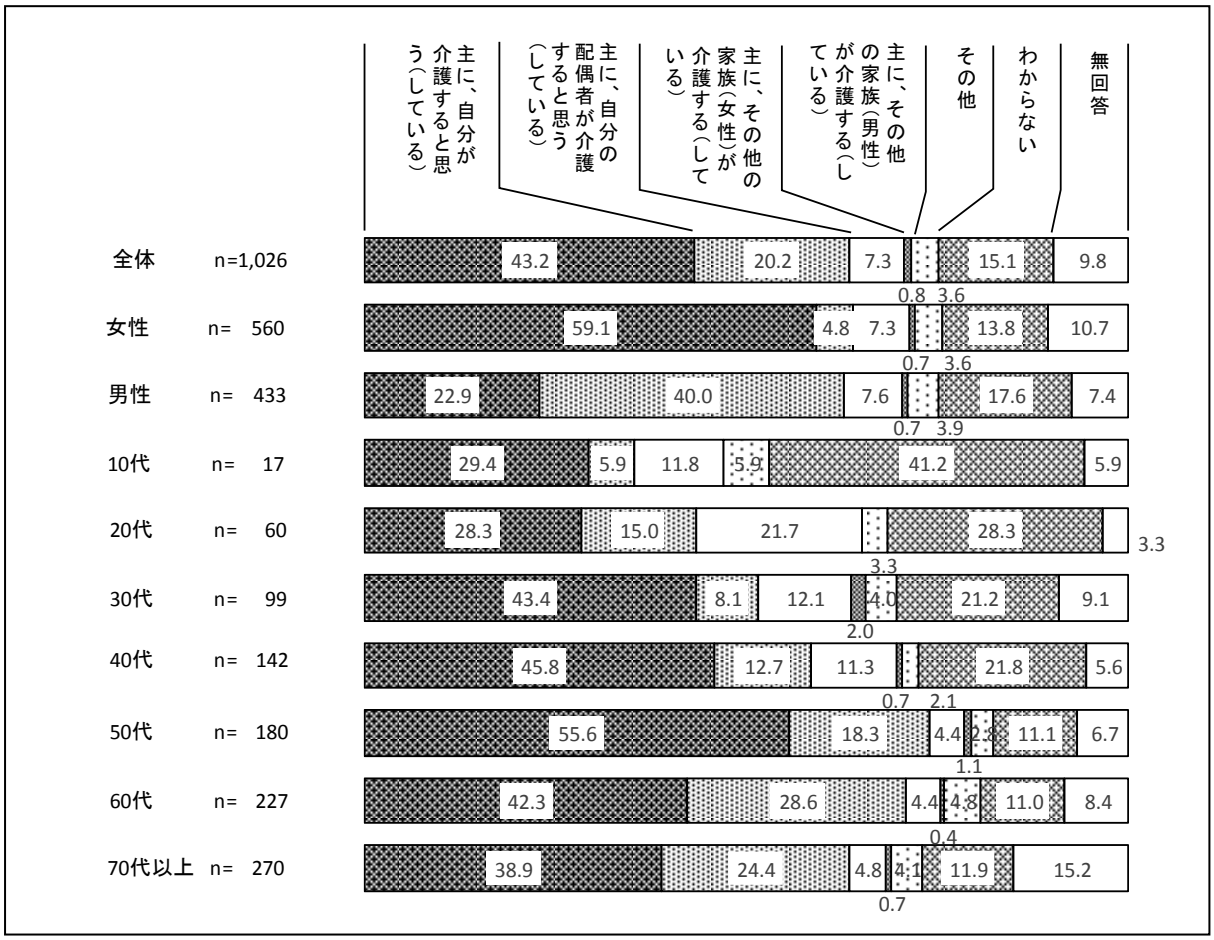
◆福島県との比較

「行政や外部のサービスに頼らず、自宅で介護している（したい）」は、福島市（今回調査）が福島県を 4.3 ポイント上回るが、「ホームヘルパーやディサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）」は 19.2 ポイント、「特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）」が 16.9 ポイントと、それぞれ福島県の方が大きく上回る。



（２）自宅での介護の場合の主たる担当者

問２４	自宅で介護する（している）場合、家族の中では主に誰が介護しますか。



◇全体

全体では、「主に、自分が介護すると思う（している）」（43.2%）が最も多く、次いで「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」（20.2%）が続く。

◇性別

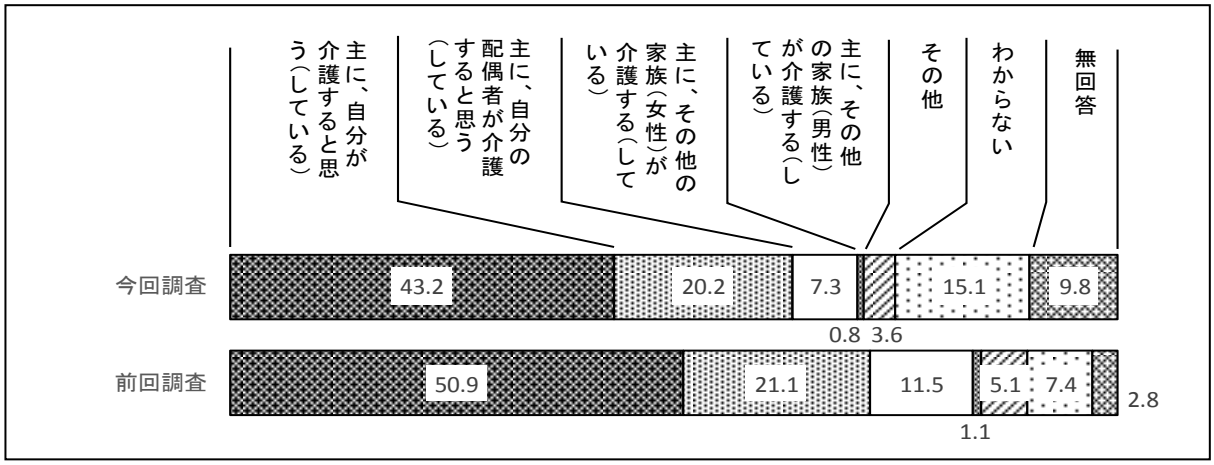
「主に、自分が介護すると思う（している）」は女性（59.1%）が特に高く、「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」は男性（40.0%）に多い。

◇年齢別

「主に、自分が介護すると思う（している）」は、50 代（55.6%）が最も多く、40 代（45.8%）、30 代（43.4%）、60 代（42.3%）が上位にある。また、「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」は、60 代（28.6%）と 70 代以上（24.4%）の高年代に多い。

◆前回調査との比較

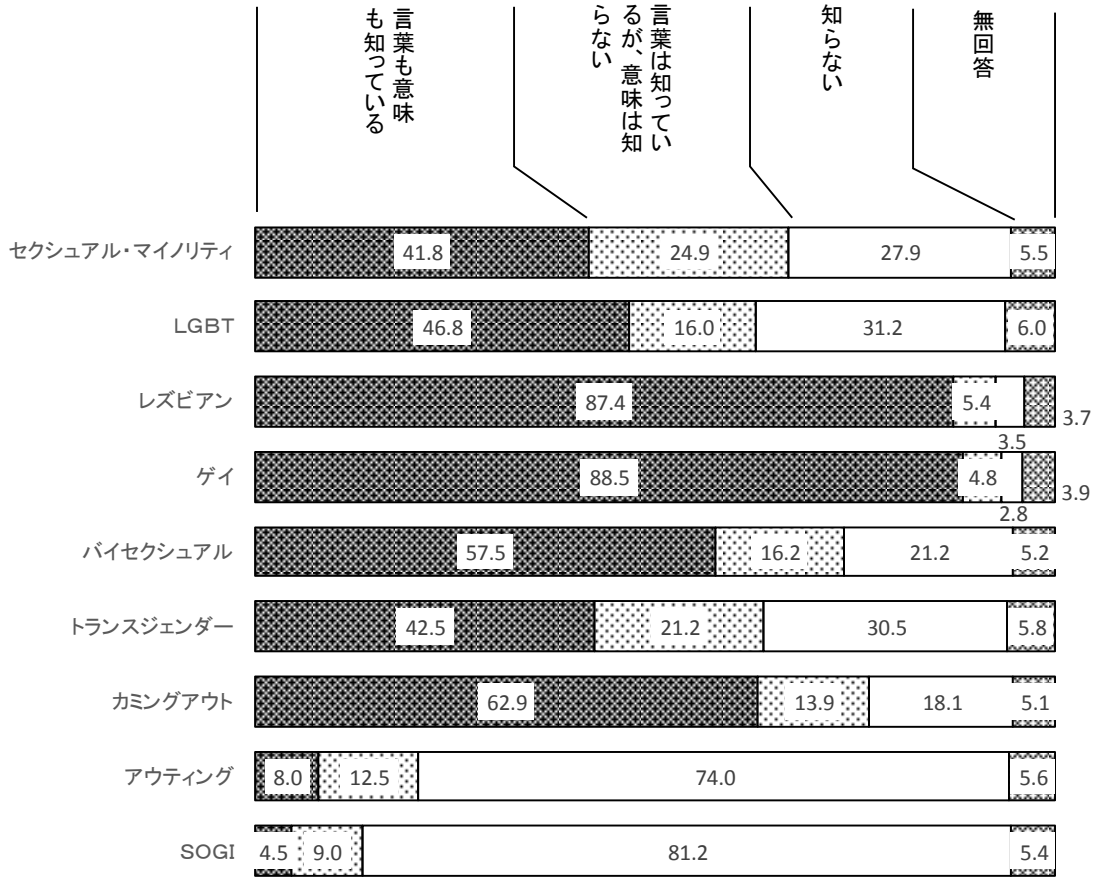
「主に、自分が介護すると思う（している）」の割合は 7.7 ポイント、「主に、その他の家族（女性）が介護する（している）」が 4.2 ポイント、「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」はわずかであるが 0.9 ポイント、それぞれ前回調査より減少している。



7　人権について

（１）人権に関する言葉と意味の認知度

問２５	次の言葉と意味について知っていますか。

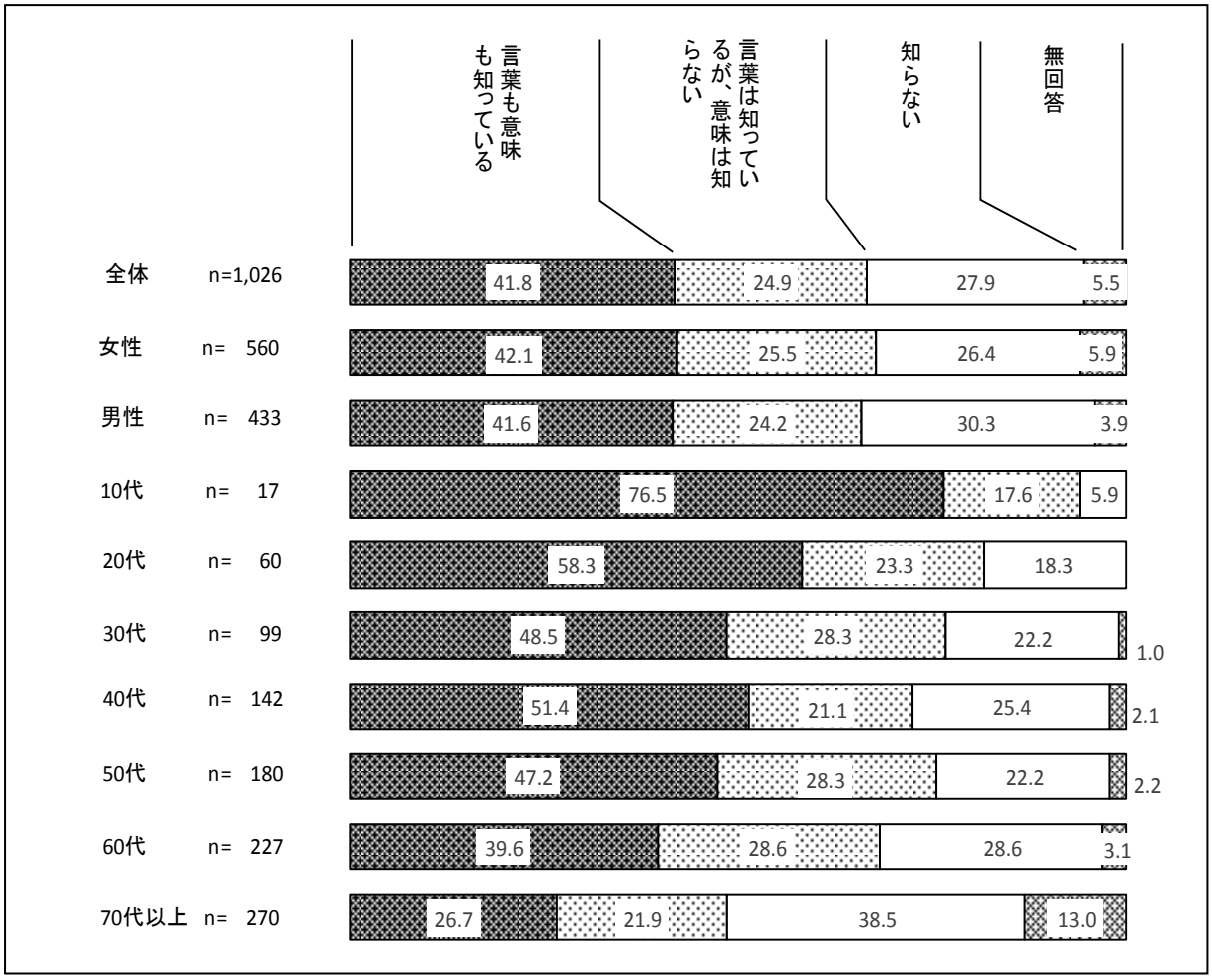


●「言葉も意味も知っている」とする割合は、レズビアン（87.4%）とゲイ（88.5%）が特に高く、以下、カミングアウト（62.9%）、バイセクシュアル（57.5%）が続く。

●「言葉は知っているが、意味は知らない」は、セクシュアル・マイノリティ（24.9%）、トランスジェンダー（21.2%）が多い。

●一方、「知らない」とする割合は、ＳＯＧＩ（81.2%）とアウティング（74.0%）が圧倒的に多い。

①セクシュアル・マイノリティ



◇全体

「言葉も意味も知っている」が 41.8%、「知らない」が 27.9%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 24.9%である。

◇性別

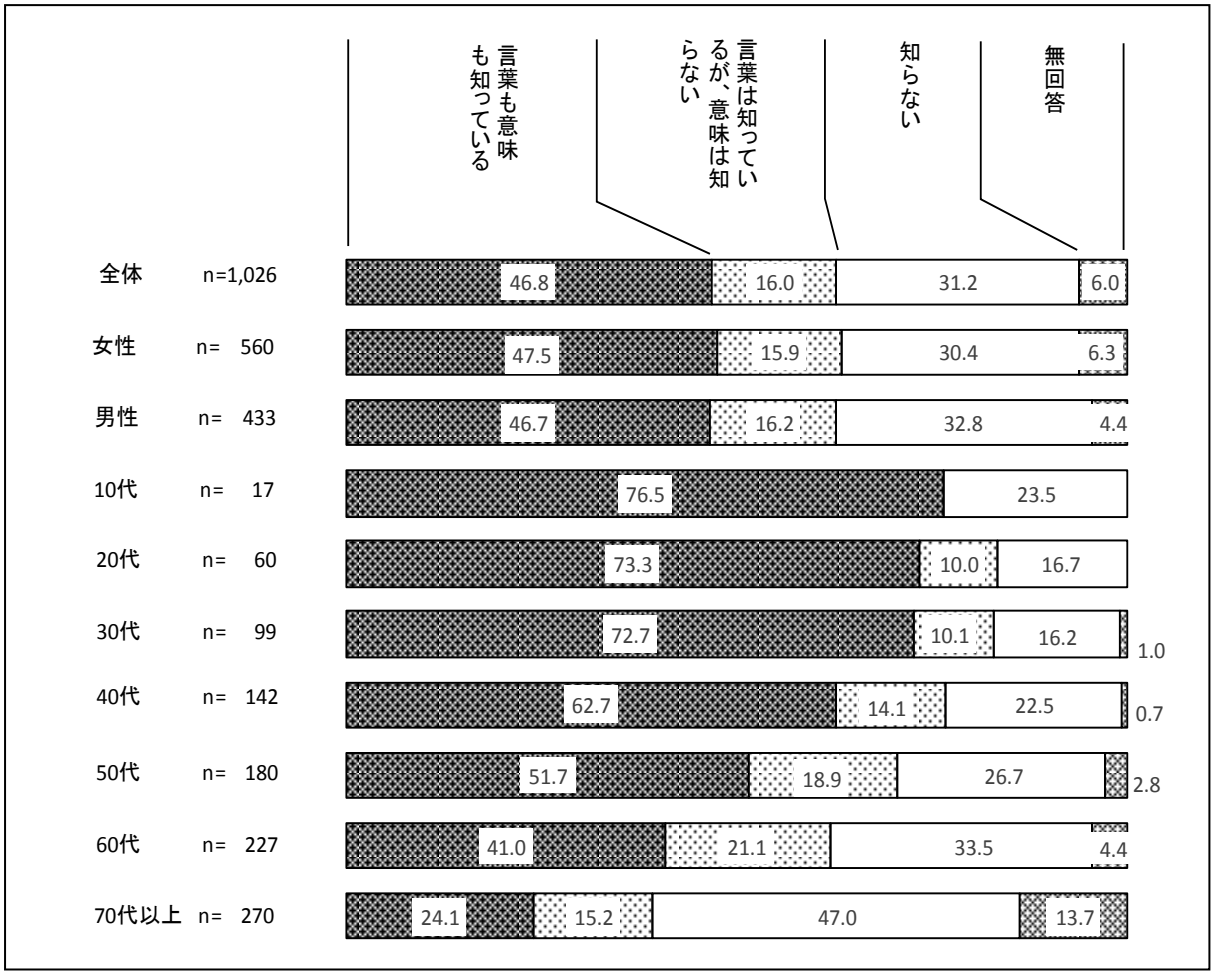
「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合は、女性と男性でほぼ同じで、「知らない」とする割合は、男性の方が若干多い。

◇年齢別

「言葉も意味も知っている」は、10 代（76.5%）が最も高く、以下、20 代（58.3%）、40 代（51.4%）、30 代（48.5%）と続き、若い年代ほど割合が高くなっている。

また、「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合は、どの年代も 2 割～3 割程度にあり、「知らない」は、年代が上がるに伴い割合は高くなり、70 代以上（38.5%）が最も多い。

②ＬＧＢＴ



◇全体

「言葉も意味も知っている」が半数近く（46.8%）、「知らない」が 31.2%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 16.0%である。

◇性別

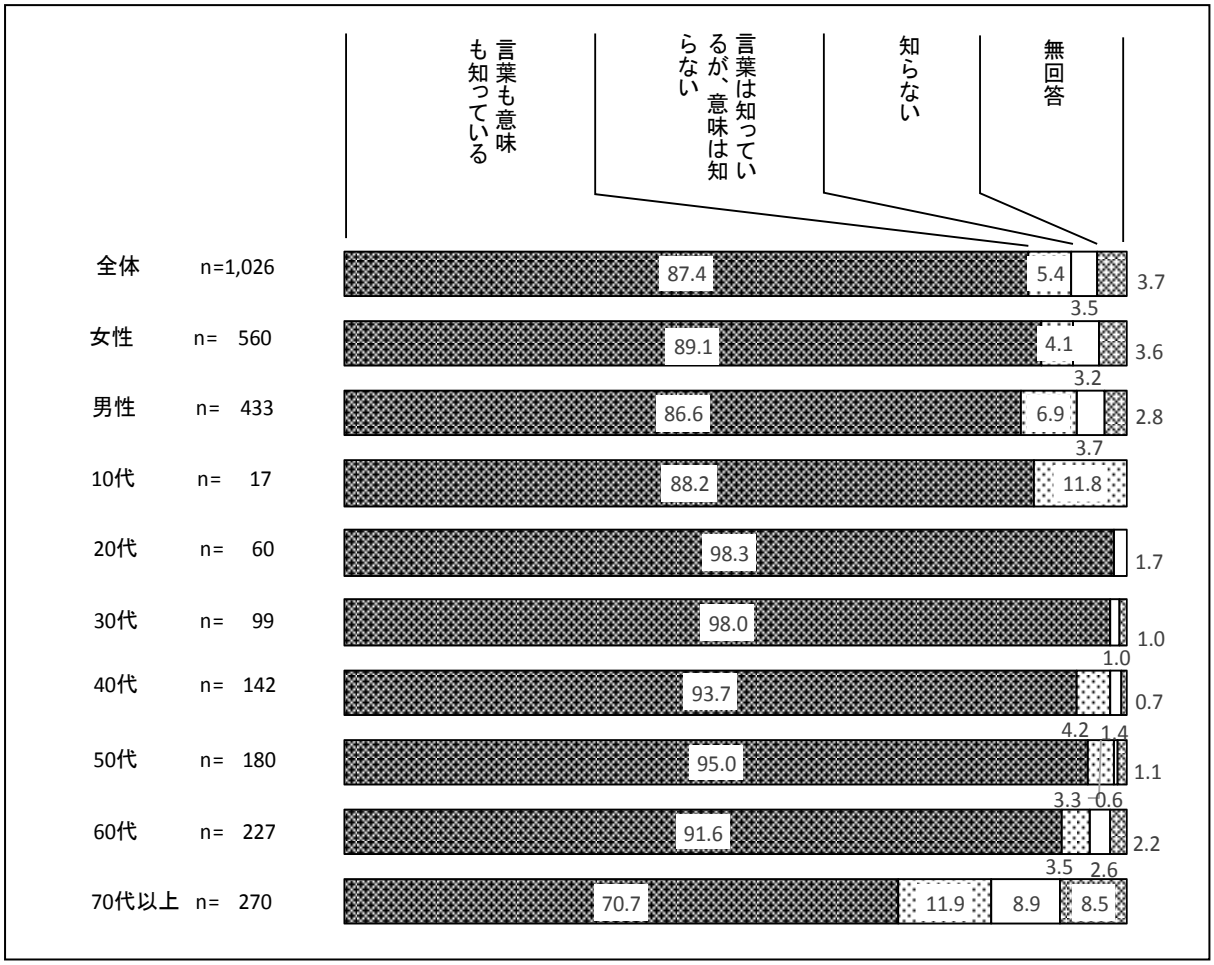
「言葉も意味も知っている」、「言葉は知っているが、意味は知らない」、「知らない」のいずれの割合も、女性と男性の割合がほとんど同じである

◇年齢別

「言葉も意味も知っている」は、10 代（76.5%）をトップに、以下、20 代（73.3%）、30 代（72.7%）、40 代（62.7%）と年代順に並び、70 台以上（24.1%）が最も低い。

一方、「言葉は知っているが、意味は知らない」は、60 代（21.1%）、50 代（18.9%）で多く、「知らない」は、70 代以上（47.0%）や 60 代（33.5%）の高年代で特に多い。

③レズビアン



◇全体

「言葉も意味も知っている」が 9 割近く（87.4%）を占め、圧倒的に高い。また、「言葉は知っているが、意味は知らない」は 5.4%、「知らない」は 3.5%である。

◇性別

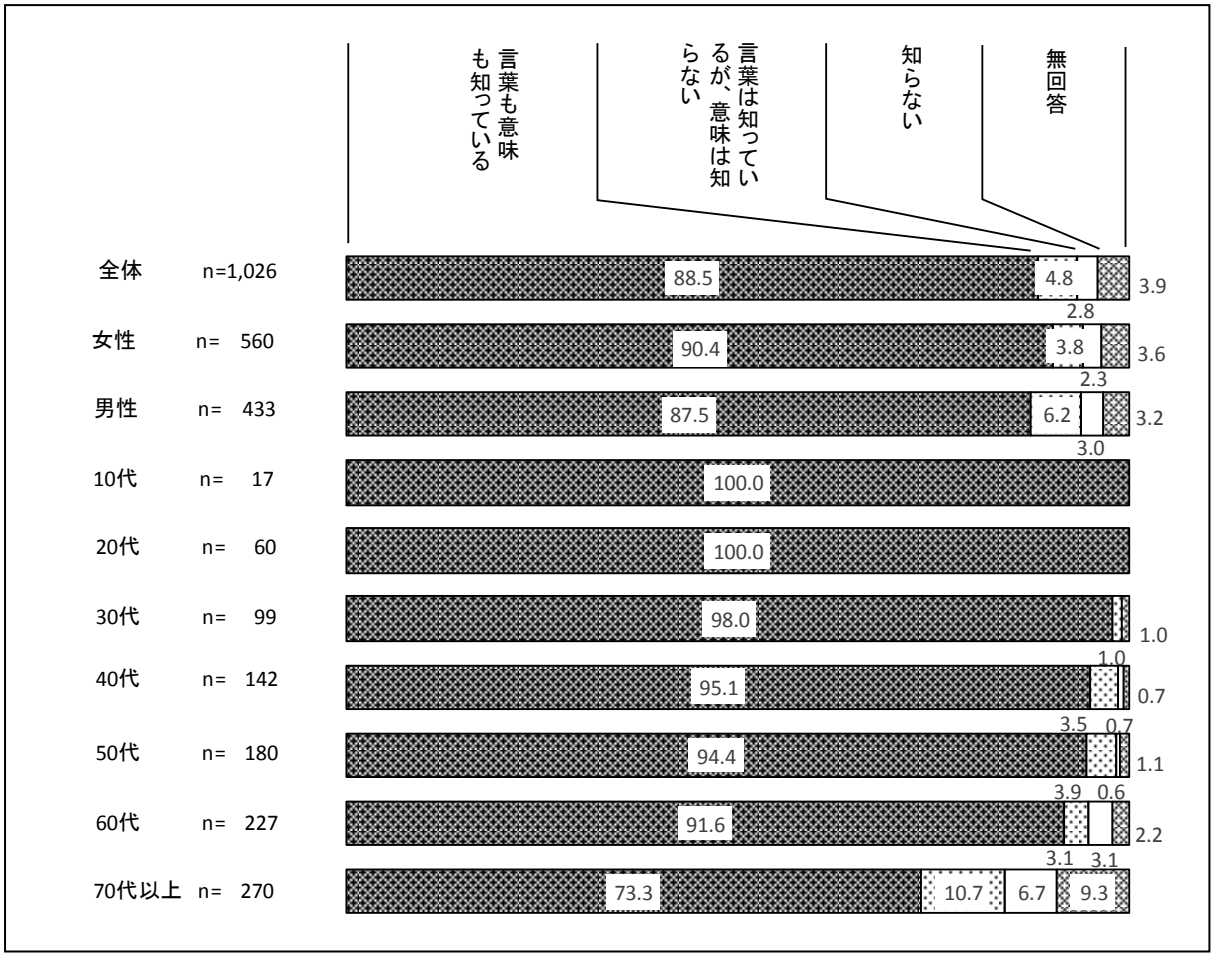
「言葉も意味も知っている」は、女性（89.1%）と男性（86.6%）でほぼ同じ。「言葉は知っているが、意味は知らない」は、男性（6.9%）が女性（4.1%）よりわずかに多い。

◇年齢別

「言葉も意味も知っている」は、70 代以上（70.7%）と 10 代（88.2%）以外、どの年代も 9 割以上と高く、その中でも、20 代（98.3%）と 30 代（98.0%）は極めて高い割合にある。

一方、「言葉は知っているが、意味は知らない」は、70 代以上（11.9%）や 10 代（11.8%）で多く、また、「知らない」は 70 代以上（8.9%）で多い。

④ゲイ



◇全体

「言葉も意味も知っている」が 88.5%と圧倒的に高く、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 4.8%、「知らない」が 2.8%である。

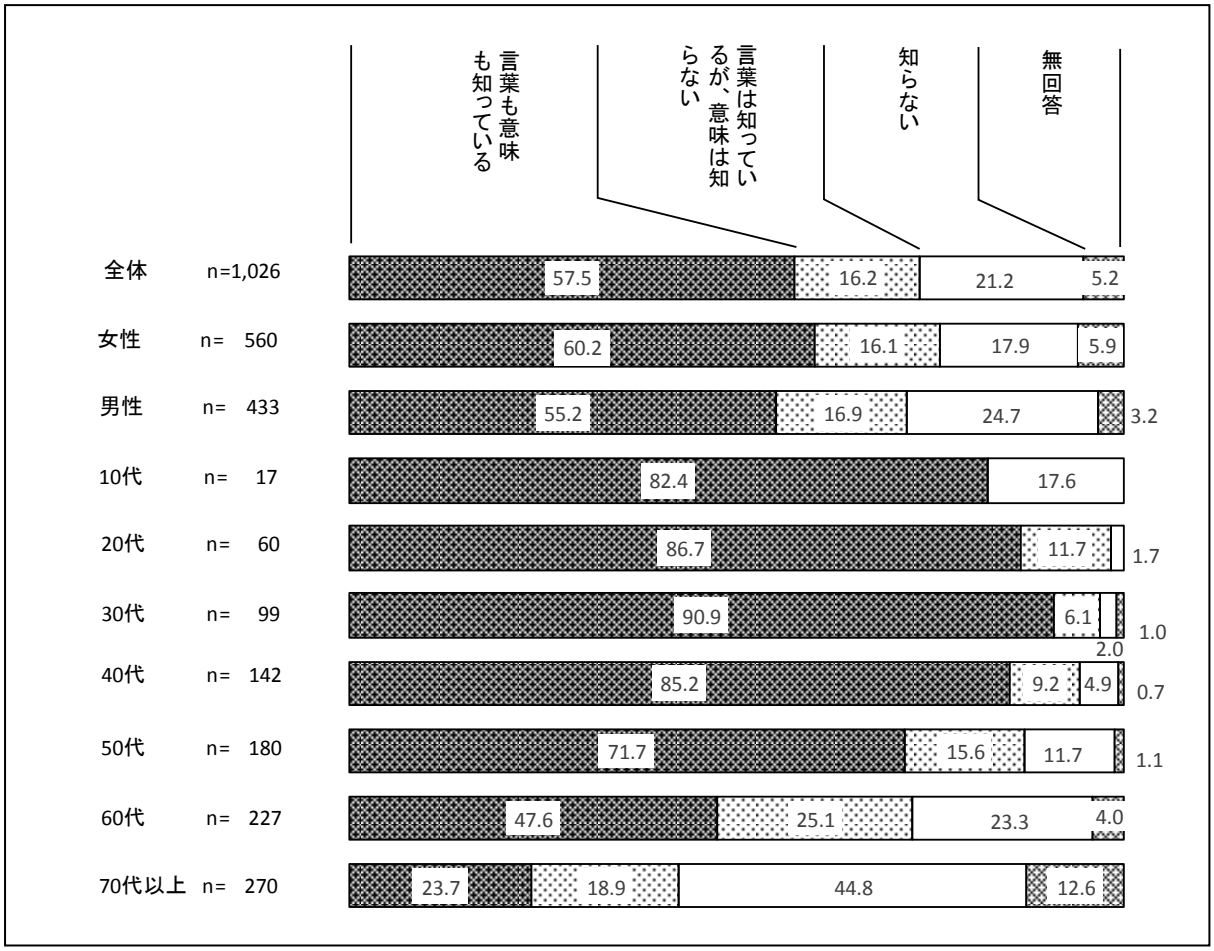
◇性別

「言葉も意味も知っている」は、男女とも高い割合であるとともに、女性（90.4%）、男性（87.5%）とほぼ同じである。一方、「言葉は知っているが、意味は知らない」は、男性（6.2%）が女性（3.8%）をわずかに上回る。

◇年齢別

「言葉も意味も知っている」は、70 代以上（73.3%）以外のどの年代も 9 割以上で、特に 10 代と 20 代では 100%である。また、「言葉は知っているが、意味は知らない」及び「知らない」は、70 代以上に多い。

⑤バイセクシュアル



◇全体

「言葉も意味も知っている」が 57.5%、「知らない」が 21.2%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 16.2%である。

◇性別

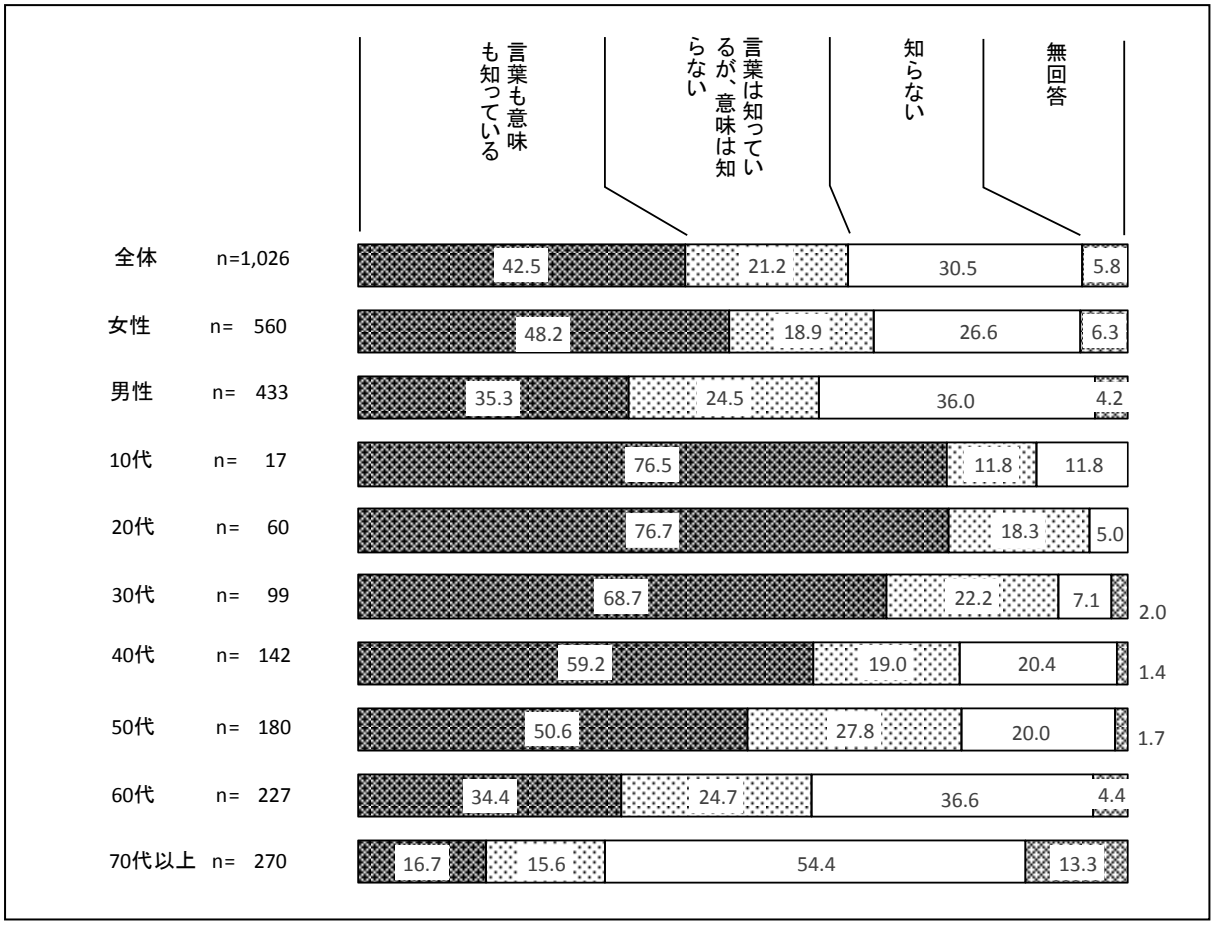
「言葉も意味も知っている」は、女性（60.2%）が男性（55.2%）を 5.0 ポイント上回り、「知らない」は、男性（24.7%）が女性（17.9%）を 6.8 ポイント上回る。一方、「言葉は知っているが、意味は知らない」は、女性（16.1%）と男性（16.9%）とでほぼ同じ割合である。

◇年齢別

「言葉も意味も知っている」は、30 代（90.9%）をトップに、20 代（86.7%）、40 代（85.2%）、10 代（82.4%）の年代の割合が高く、70 代以上（23.7%）が最も低い。

一方、「言葉は知っているが、意味は知らない」は、60 代（25.1%）と 70 代以上（18.9%）、「知らない」は、70 代以上（44.8%）と 60 代（23.3%）と、ともに高年代に多い。

⑥トランスジェンダー



◇全体

「言葉も意味も知っている」が 42.5%、「知らない」が 30.5%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 21.2%である。

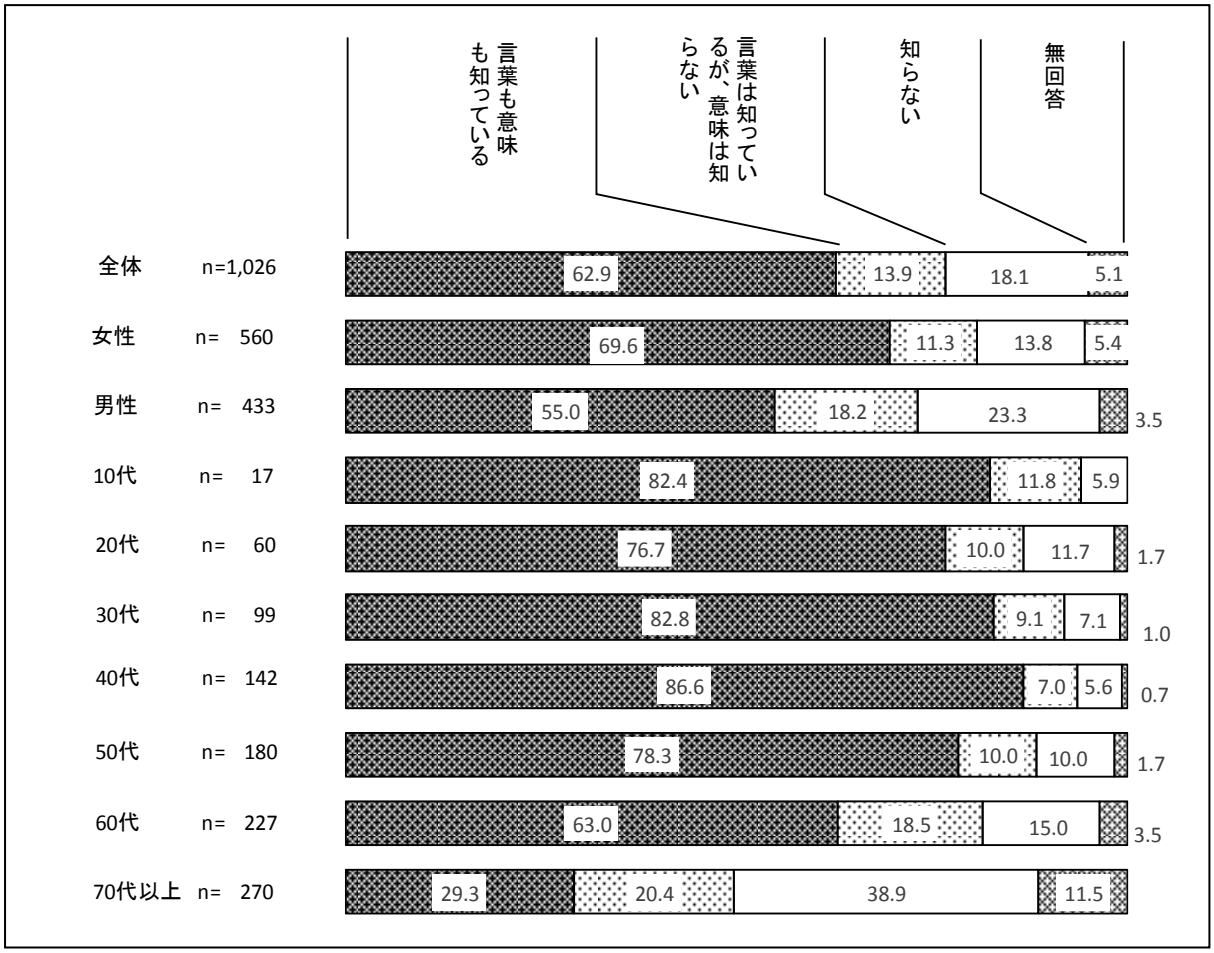
◇性別

「言葉も意味も知っている」は、女性（48.2%）が男性（35.3%）を 12.9 ポイント上回る。一方、「知らない」は、男性（36.0%）が女性（26.6%）を 9.4 ポイント、また、「言葉は知っているが、意味は知らない」は、同じく男性（24.5%）が女性（18.9%）を 5.6 ポイントそれぞれ上回る。

◇年齢別

「言葉も意味も知っている」は、10 代（76.5%）と 20 代（76.7%）が最も高く、以下、年代順に割合が減少し、70 代以上（16.7%）が最も低い。一方、「知らない」は、70 代以上（54.4%）と 60 代（36.6%）の高年代に、また、「言葉は知っているが、意味は知らない」は、50 代（27.8%）と 60 代（24.7%）、30 代（22.2%）に多い。

⑦カミングアウト



◇全体

「言葉も意味も知っている」(62.9%) が最も多く、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 13.9%、「知らない」が 18.1%である。

◇性別

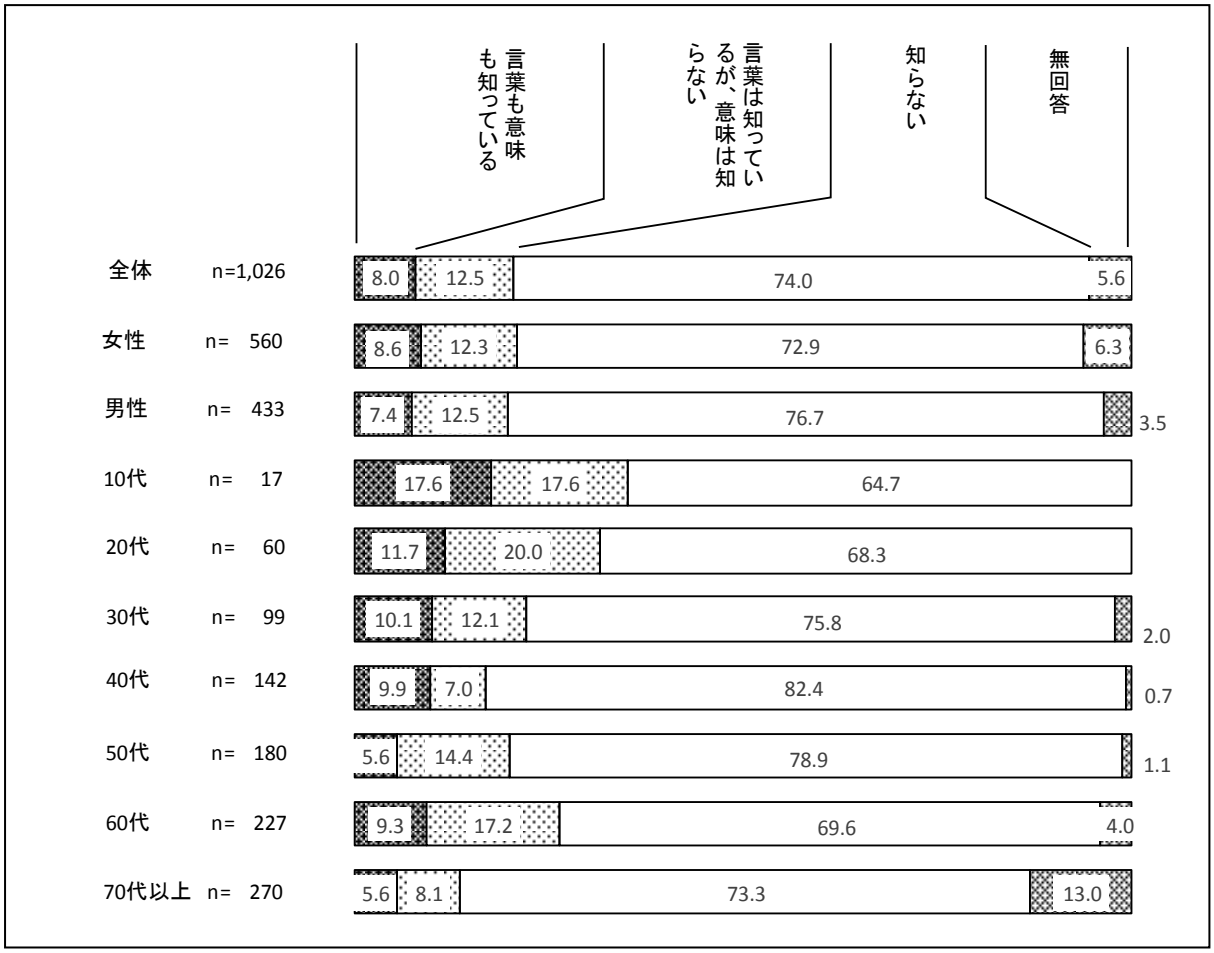
「言葉も意味も知っている」は、女性（69.6%）が男性（55.0%）を 14.6 ポイント上回り、「言葉は知っているが、意味は知らない」と「知らない」は、それぞれ 6.9 ポイント、9.5 ポイント男性が女性を上回っている。

◇年齢別

「言葉も意味も知っている」の割合は、40 代（86.6%）をトップに、30 代（82.8%）、10 代（82.4%）、50 代（78.3%）、20 代（76.7%）の順で続き、70 代以上（29.3%）が最も低い。

一方、「知らない」は、70 代以上（38.9%）が最も多い。

⑧アウティング



◇全体

「知らない」が 74.0%と圧倒的に多く、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 12.5%、「言葉も意味も知っている」が 8.0%である。

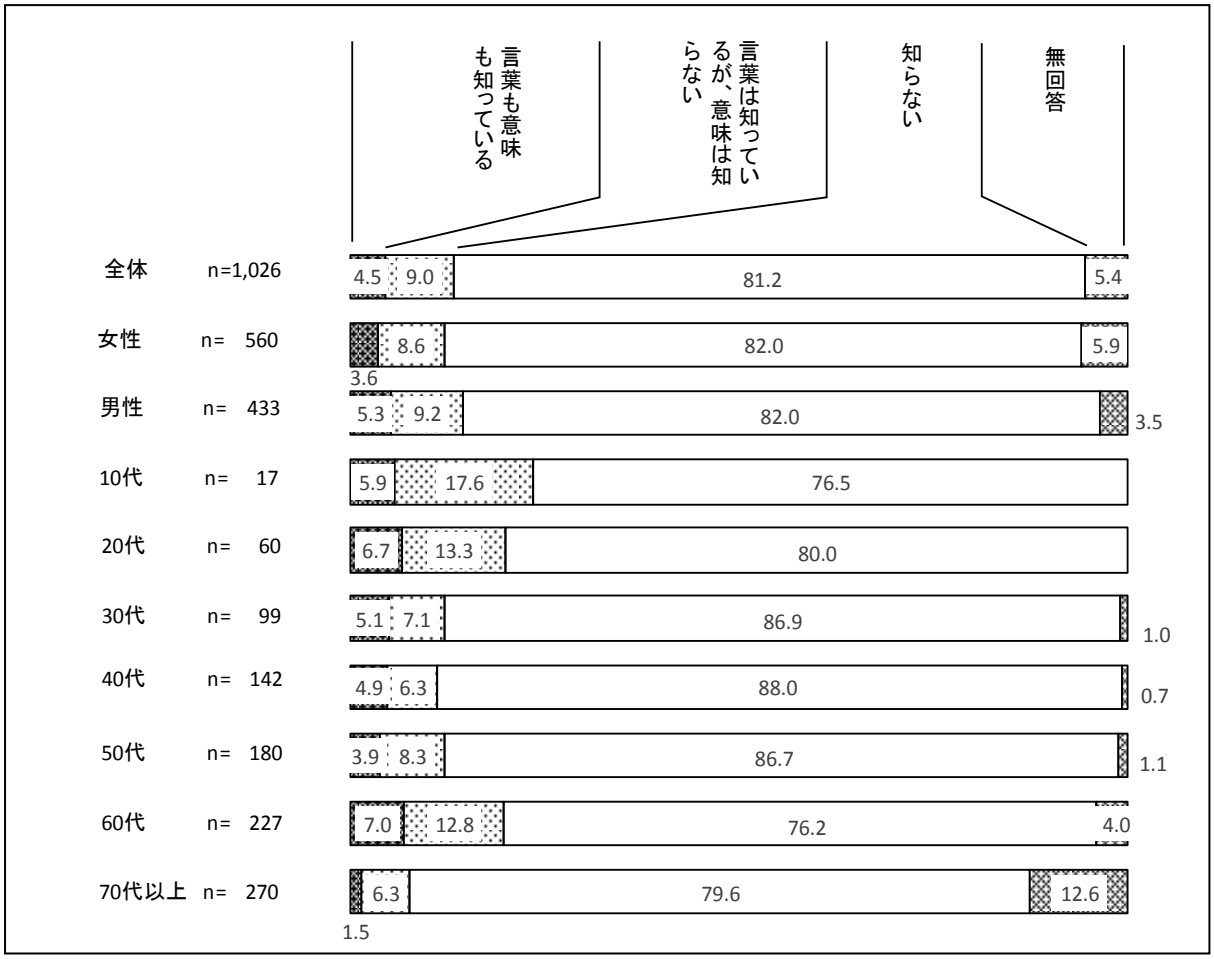
◇性別

「知らない」は、男性（76.7%）が女性（72.9%）を 3.8 ポイント上回る。一方、「言葉は知っているが、意味は知らない」と「言葉も意味も知っている」の割合は、女性と男性がほぼ同じである。

◇年齢別

「知らない」は、どの年代も 6 割から 8 割の高い割合にある。また、「言葉は知っているが、意味は知らない」は、20 代（20.0%）と 10 代（17.6%）、60 代（17.2%）に多く、「言葉も意味も知っている」は、10 代（17.6%）が最も多い。

⑨ＳＯＧＩ



◇全体

「知らない」が 81.2%と圧倒的に高く、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 9.0%、「言葉も意味も知っている」が 4.5%である。

◇性別

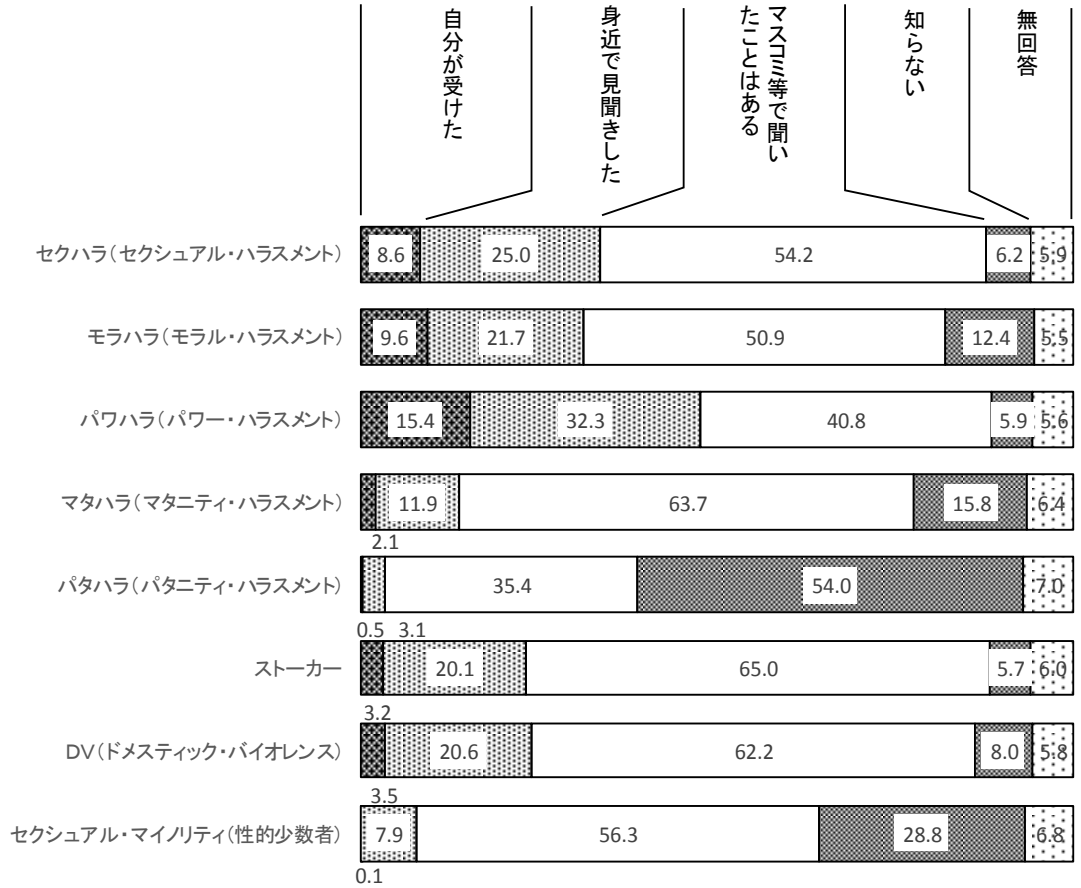
「知らない」の割合は、女性と男性とも 82.0%で同じである。また、「言葉は知っているが、意味は知らない」も、女性（8.6%）、男性（9.2%）でほぼ同じ、「言葉も意味も知っている」も両者で大きな差はない。

◇年齢別

「知らない」は、40 代（88.0%）をトップに、どの年代も 7 割以上と高い。また、「言葉は知っているが、意味は知らない」は、10 代(17.6%)と 20 代(13.3%)の若い年代と 60 代(12.8%)に多く、「言葉も意味も知っている」は、どの年代も 1 割未満と少ない。

（２）人権侵害に関する認識と被害状況

問２６	あなたは、次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことはありますか。

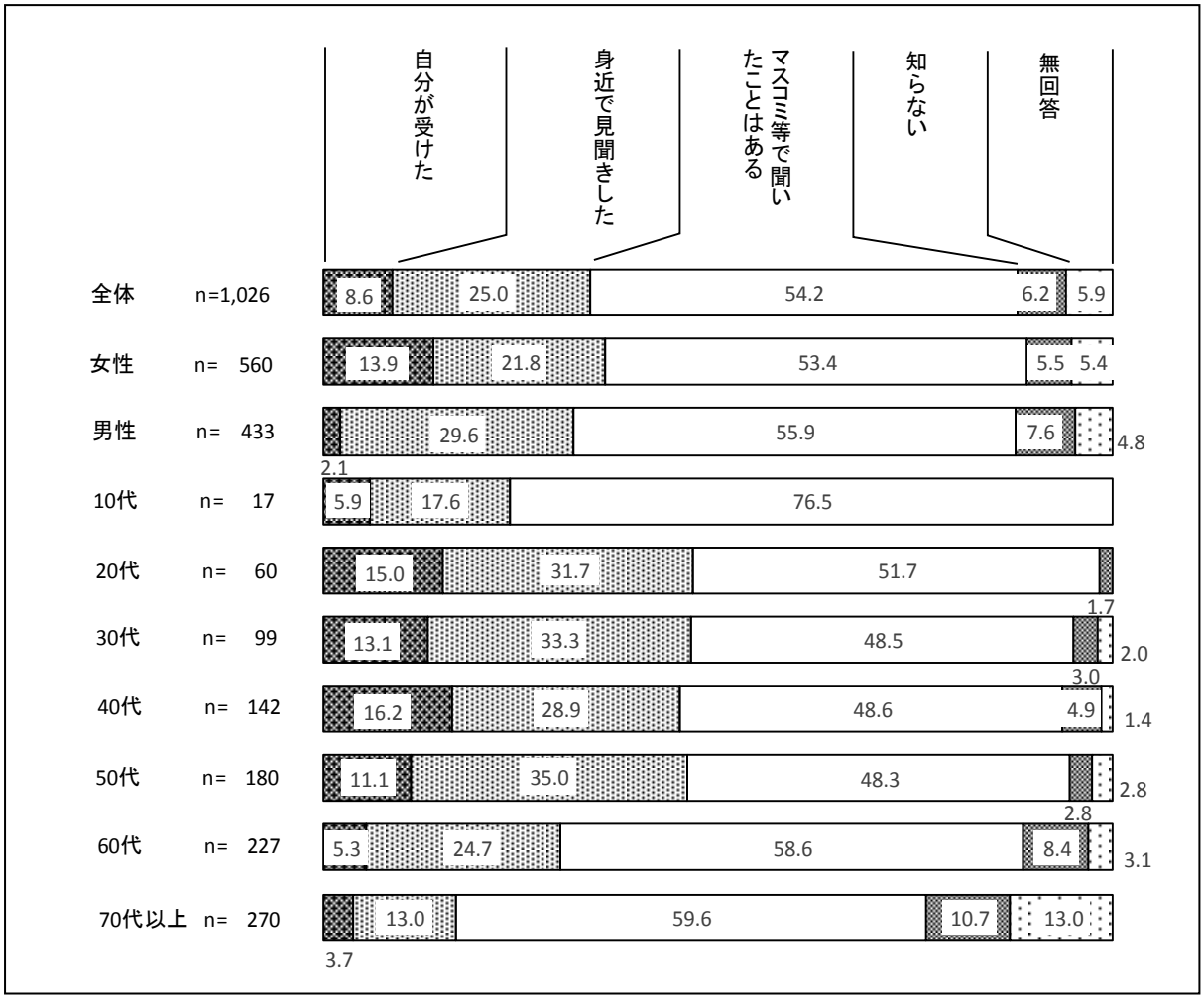


●「自分が受けた」は、パワハラ（15.4%）が最も多く、次いでモラハラ（9.6%）、セクハラ（8.6%）が続く。

●「身近で見聞きした」は、パワハラ（32.3%）が最も多く、以下、セクハラ（25.0%）、モラハラ（21.7%）、ＤＶ（20.6%）、ストーカー（20.1%）が多い。

●「マスコミ等で聞いたことがある」は、ストーカー（65.0%）、マタハラ（63.7%）、ＤＶ（62.2%）の割合が高く、また、セクシャル・マイノリティ（56.3%）、セクハラ（54.2%）、モラハラ（50.9%）も過半数を占めるなど多い。

①セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）



◇全体

「マスコミ等で聞いたことはある」が 54.2%、「身近で見聞きした」が 25.0%、「自分が受けた」が 8.6%、「知らない」が 6.2%である。

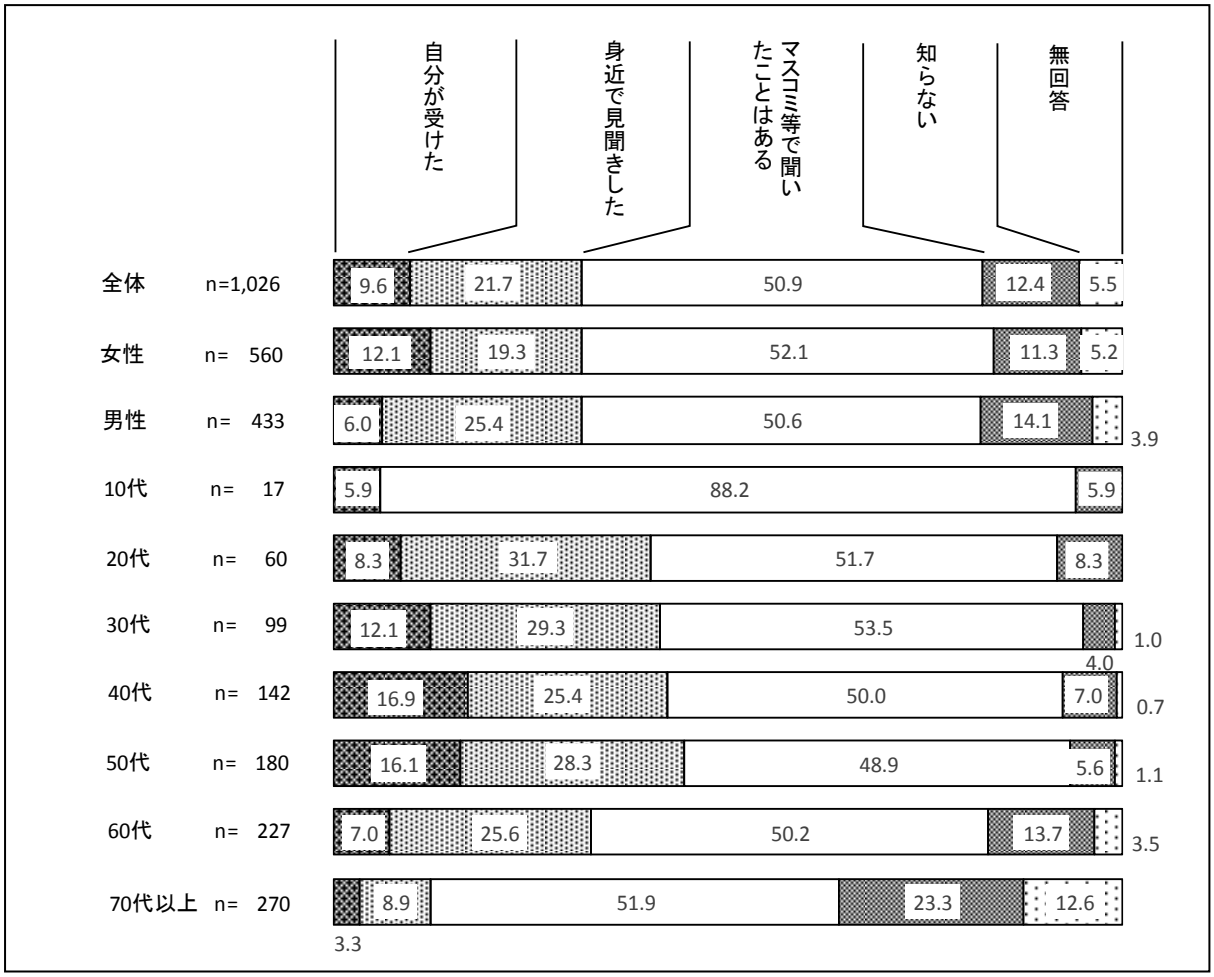
◇性別

「自分が受けた」は、女性（13.9%）が男性（2.1%）を 11.8 ポイント上回り、「身近で見聞きした」は、男性（29.6%）が女性（21.8%）を 7.8 ポイント上回る。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、女性（53.4%）、男性（55.9%）とも過半数を占めている。

◇年齢別

「自分が受けた」は、40 代（16.2%）、20 代（15.0%）、30 代（13.1%）などの若い年代から中年代に多い。また、「身近で見聞きした」も、20 代～50 代で 3 割前後と多く、「マスコミ等で聞いたことはある」は、60 代（58.6%）、70 代以上（59.6%）の高年代で特に多い。

②モラハラ（モラル・ハラスメント）



◇全体

「マスコミ等で聞いたことはある」が 50.9%、「身近で見聞きした」が 21.7%、「自分が受けた」が 9.6%、「知らない」が 12.4%である。

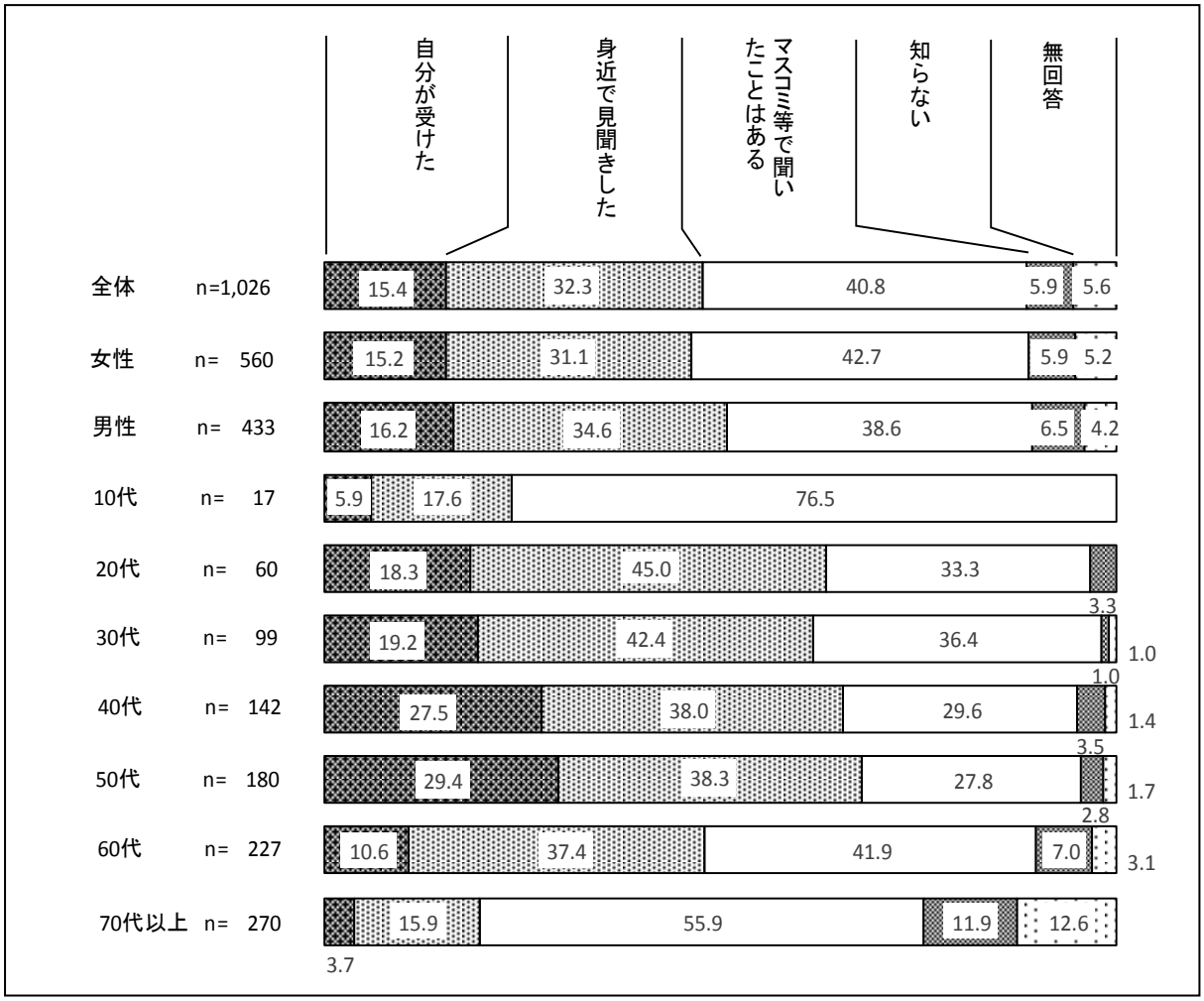
◇性別

「自分が受けた」は、女性（12.1%）が男性（6.0%）を 6.1 ポイント上回り、「身近で見聞きした」は、男性（25.4%）が女性（19.3%）を 6.1 ポイント上回る。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、男女とも過半数を占め、「知らない」は男性の方が若干多い。

◇年齢別

「自分が受けた」は、40 代（16.9%）、50 代（16.1%）の中年代に多く、「身近で見聞きした」は、20 代（31.7%）、30 代（29.3%）の若い年代と 50 代（28.3%）に多い。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、どの年代も 5 割前後を占め、「知らない」は 70 代以上（23.3%）が最も多い。

③パワハラ（パワー・ハラスメント）



◇全体

「マスコミ等で聞いたことはある」が 40.8%、「身近で見聞きした」が 32.3%、「自分が受けた」が 15.4%、「知らない」が 5.9%である。

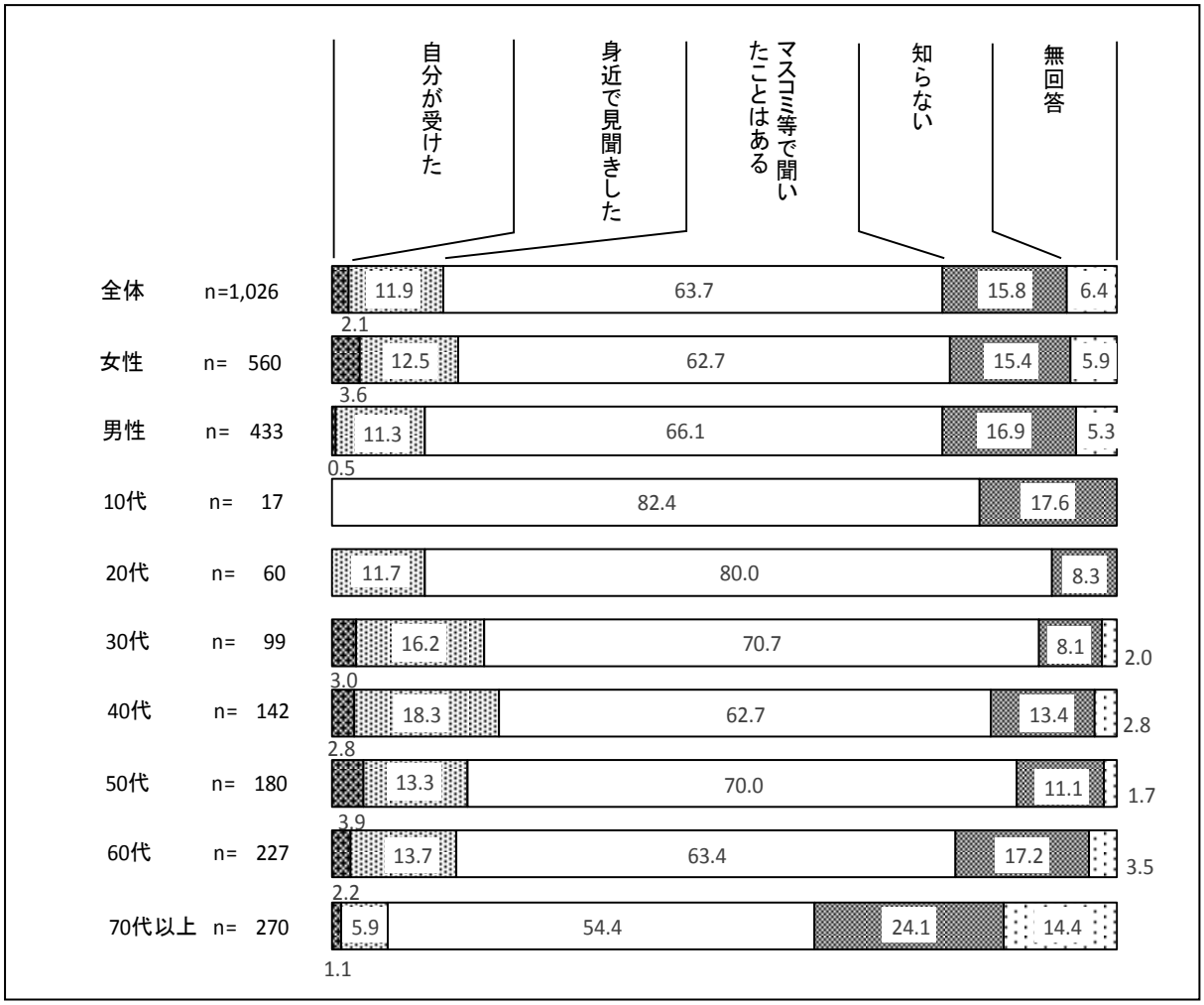
◇性別

「自分が受けた」は、男性（16.2%）と女性（15.2%）の割合がほぼ同じであり、「身近で見聞きした」は、男性（34.6%）が女性（31.1%）を 3.5 ポイント上回る。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、女性（42.7%）の方が男性（38.6%）よりわずかに多い。

◇年齢別

「自分が受けた」は、50 代（29.4%）、40 代（27.5%）の中年代が最も多く、次いで 20 代（18.3%）、30 代（19.2%）の若い年代が続く。また、「身近で見聞きした」は、20 代（45.0%）～60 代（37.4%）の各年代に多く、「知らない」は、70 代以上（55.9%）、60 代（41.9%）の高年代が特に多い。

④マタハラ（マタニティ・ハラスメント）



◇全体

「マスコミ等で聞いたことはある」が 63.7%、「身近で見聞きした」が 11.9%、「自分が受けた」が 2.1%、「知らない」が 15.8%である。

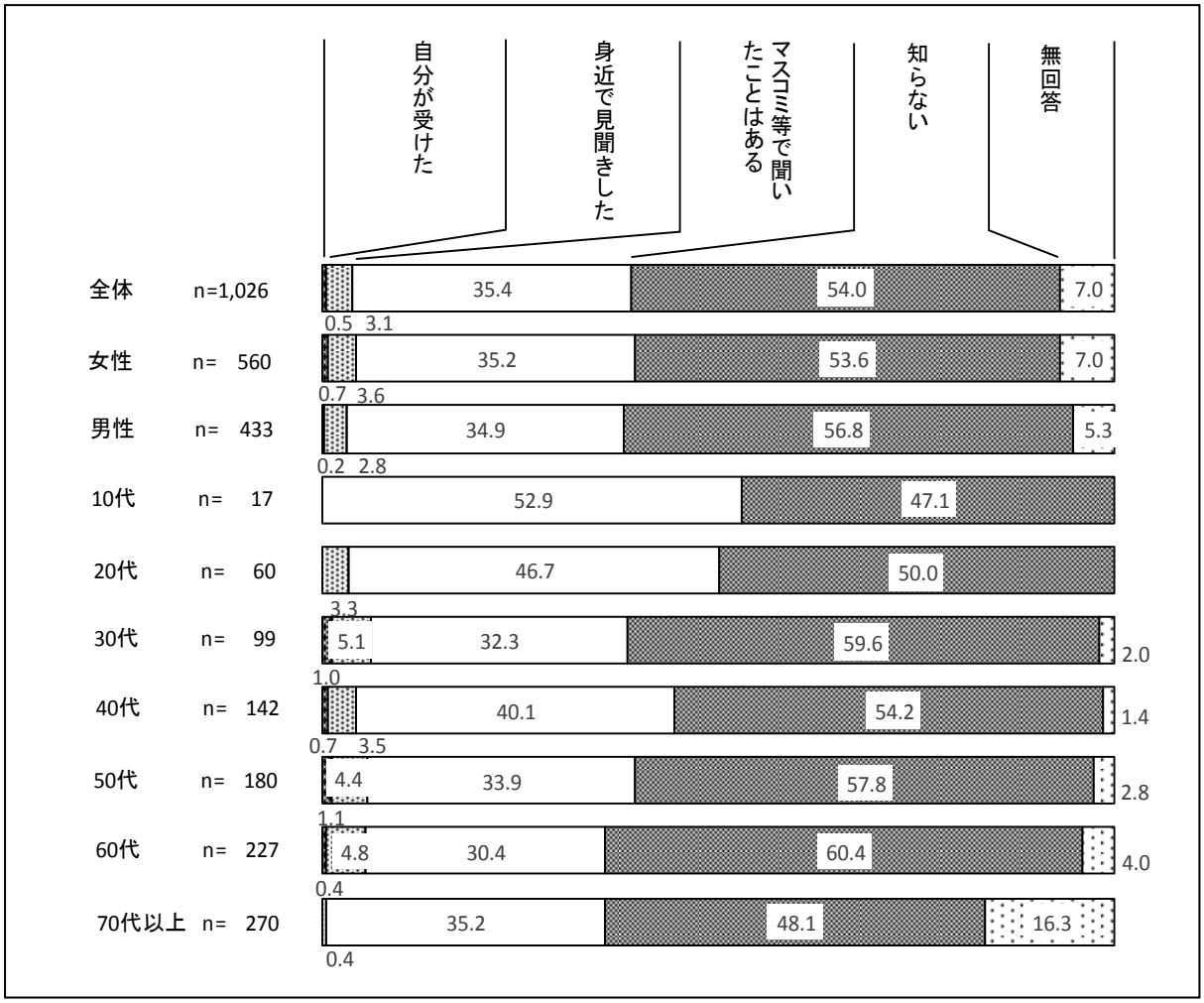
◇性別

「自分が受けた」は女性（3.6%）に見られ、「身近で見聞きした」は、女性（12.5%）と男性（11.3%）がほぼ同じ。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、男性（66.1%）、女性（62.7%）とも 6 割以上と多く、「知らない」も、女性と男性でほぼ同じ割合である。

◇年齢別

「自分が受けた」は、30 代以上の各年代でわずかに見られ、「身近で見聞きした」は、40 代（18.3%）、30 代（16.2%）に多い。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、10 代（82.4%）、20 代（80.0%）での割合が特に高く、「知らない」は 70 代以上（24.1%）が多い。

⑤パタハラ（パタニティ・ハラスメント）



◇全体

「知らない」が 54.0%と多く、以下、「マスコミ等で聞いたことはある」が 35.4%、「身近で見聞きした」が 3.1%、「自分が受けた」は 0.5%と少ない。

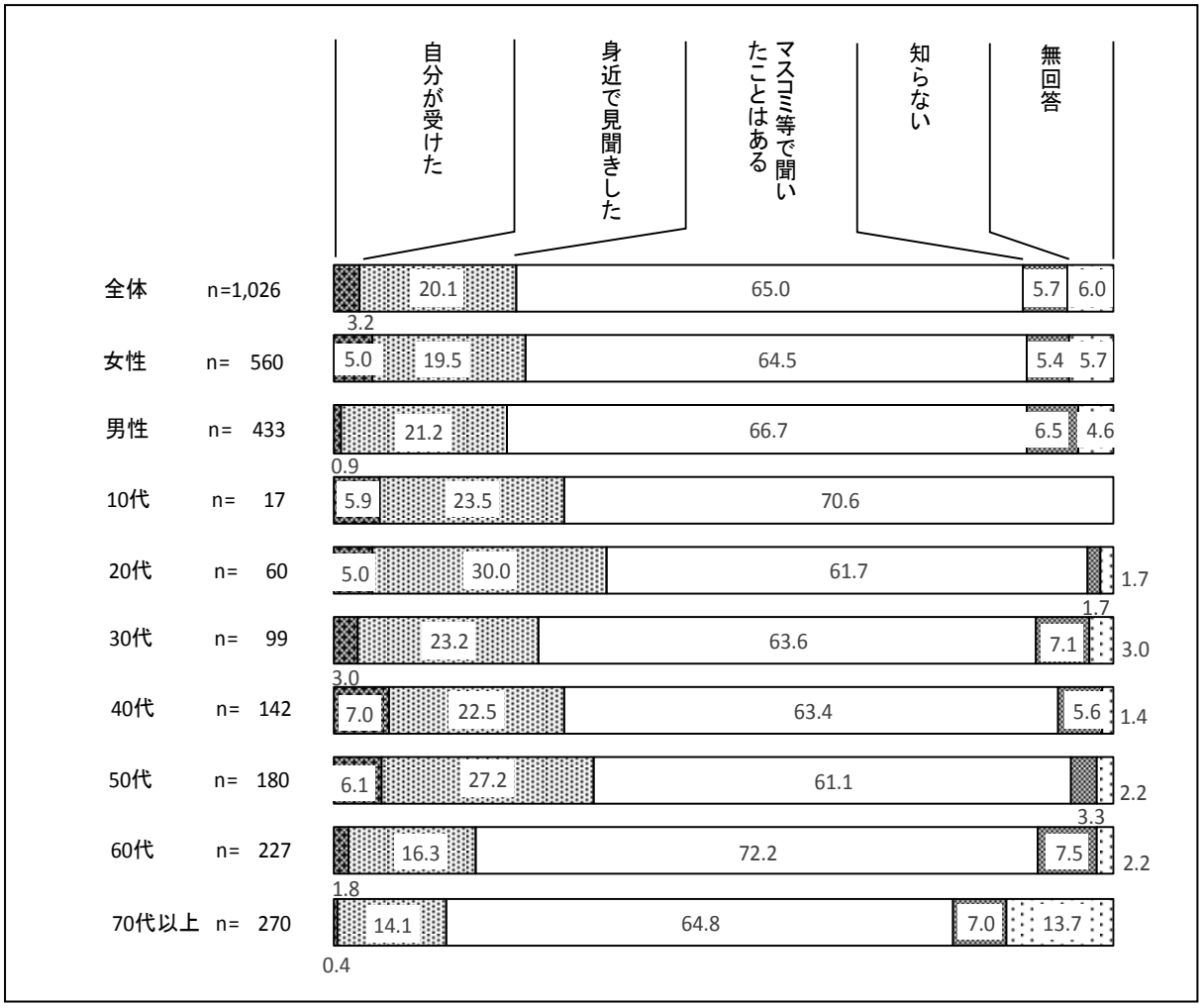
◇性別

「自分が受けた」と「身近で見聞きした」、「マスコミ等で聞いたことはある」は、いずれも女性と男性の割合がほとんど同じであり、「知らない」は、男性（56.8%）が女性（53.6%）よりわずかに多い。

◇年齢別

「身近で見聞きした」は、30 代～60 代でそれぞれ数パーセント程度、「マスコミ等で聞いたことはある」は、10 代（52.9%）、20 代（46.7%）など若い年代で特に高く、60 代（30.4%）が最も低い。また、「知らない」は、いずれの年代も 5 割前後～6 割と多い。

⑥ストーカー



◇全体

「マスコミ等で聞いたことはある」が 65.0%と高く、以下、「身近で見聞きした」が 20.1%、「自分が受けた」が 3.2%、「知らない」が 5.7%である。

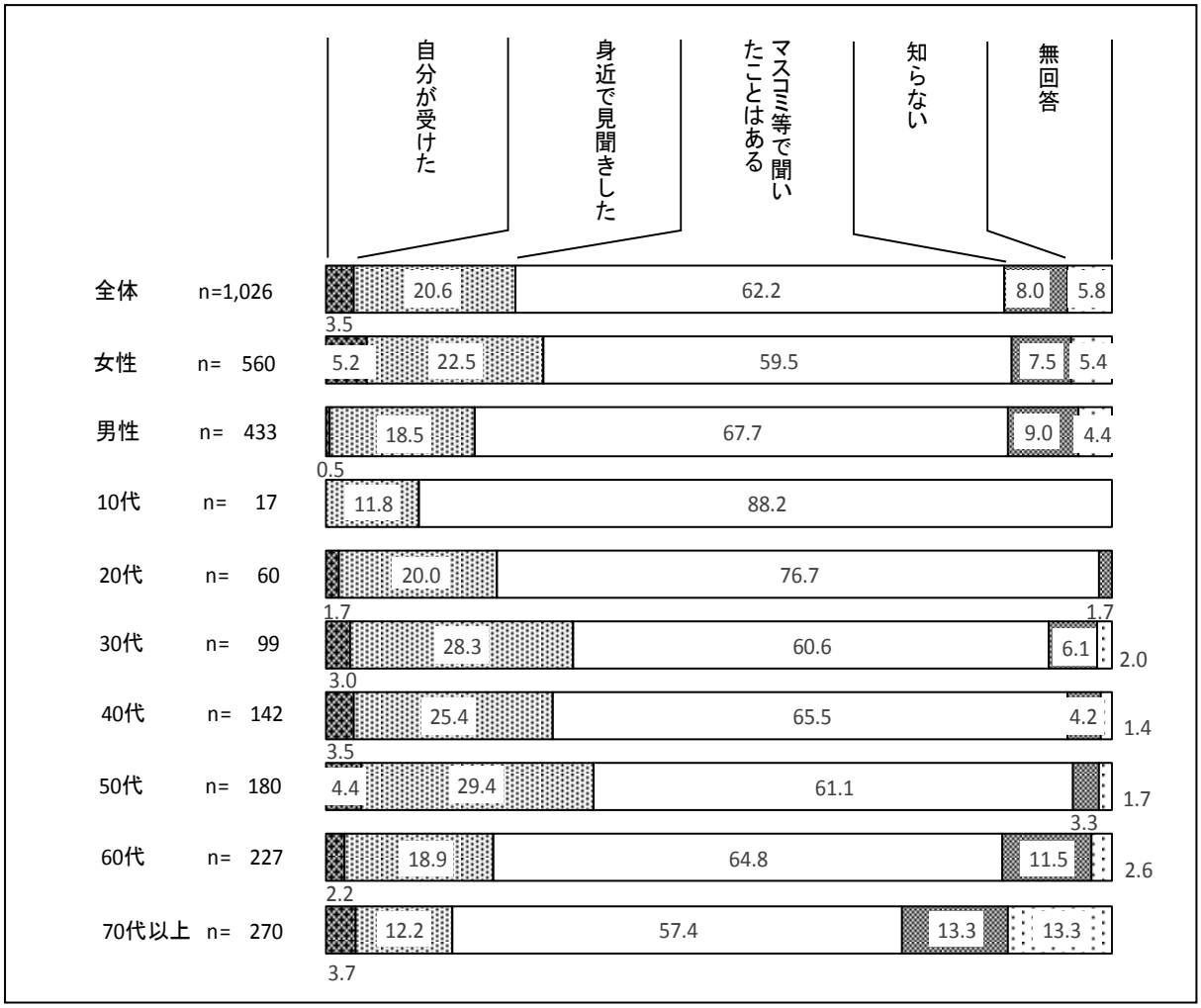
◇性別

「自分が受けた」は、女性（5.0%）が男性（0.9%）より多く、「身近で見聞きした」は、男性(21.2%)が女性(19.5%)を上回る。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、男性(66.7%)、女性（64.5%）ともに 6 割以上と高く、「知らない」は、女性と男性でほぼ同じ割合である。

◇年齢別

「自分が受けた」は、40 代（7.0%）、50 代（6.1%）、10 代（5.9%）、20 代（5.0%）で見られ、「身近で見聞きした」は、20 代（30.0%）と 50 代（27.2%）で多く、70 代以上（14.1%）が最も低い。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、いずれの年代も 6 割～7 割と多い。

⑦ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）



◇全体

「マスコミ等で聞いたことはある」が 62.2%、「身近で見聞きした」が 20.6%、「自分が受けた」が 3.5%、「知らない」が 8.0%である。

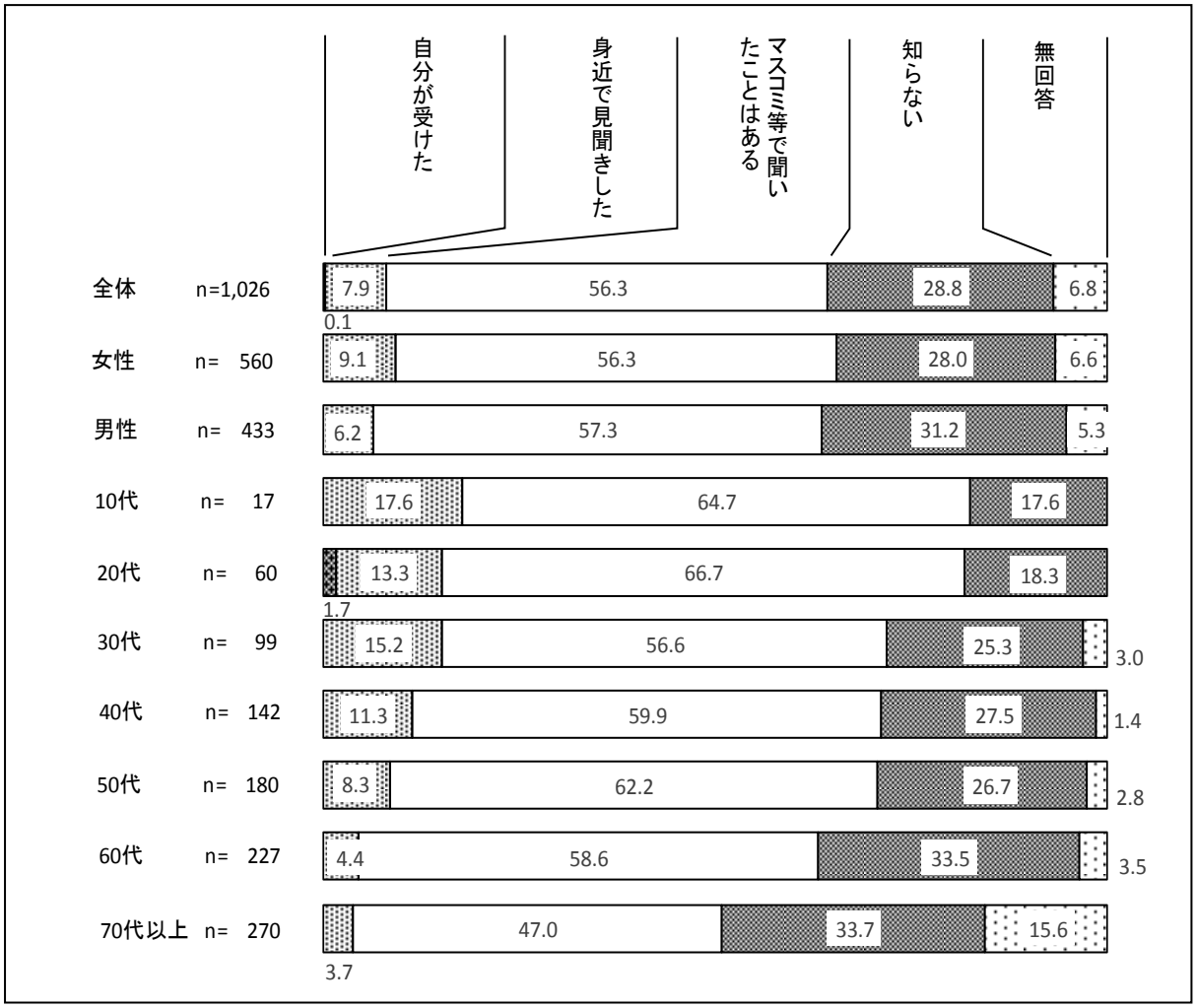
◇性別

「自分が受けた」は、女性（5.2%）が男性（0.5%）より多く、「身近で見聞きした」も、女性（22.5%）が男性（18.5%）を 4.0 ポイント上回る。一方、「マスコミ等で聞いたことはある」は、男性（67.7%）が女性（59.5%）を 8.2 ポイント上回り、「知らない」も男性の方がわずかに多い。

◇年齢別

「自分が受けた」は、40 代（3.5%）と 50 代（4.4%）、70 代以上（3.7%）などに見られ、「身近で見聞きした」は、50 代（29.4%）と 30 代（28.3%）で多く、10 代（11.8%）が最も低い。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、いずれの年代も約 6 割～9 割と多い。

⑧セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）



◇全体

「自分が受けた」（0.1%）と「身近で見聞きした」（7.9%）は少なく、「マスコミ等で聞いたことはある」（56.3%）と「知らない」（28.8%）の割合が大きい。

◇性別

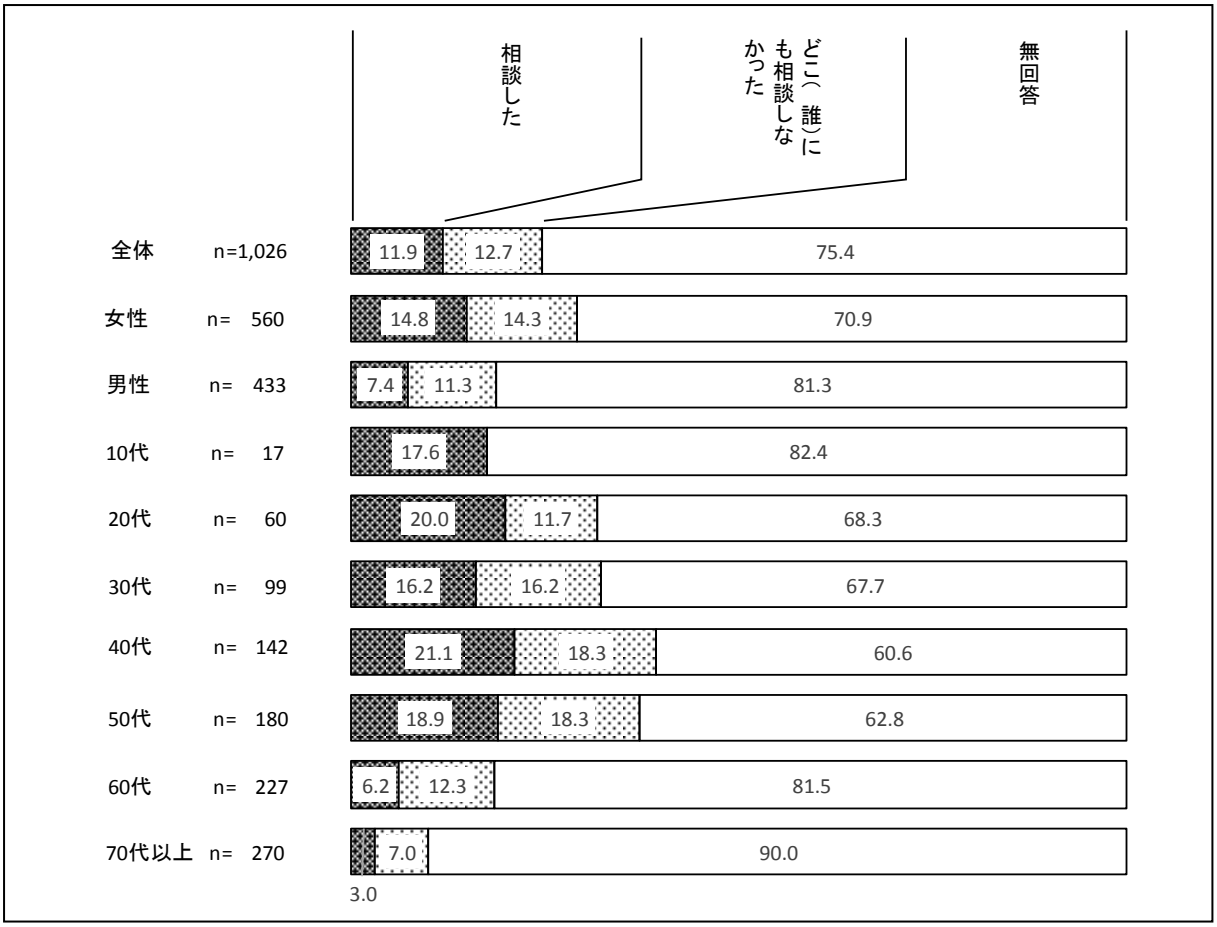
「身近で見聞きした」は、女性（9.1%）が男性（6.2%）より多い。また、「マスコミ等で聞いたことはある」は、女性（56.3%）と男性（57.3%）がほぼ同じであり、「知らない」は、男性（31.2%）が女性（28.0%）よりわずかに多い。

◇年齢別

「自分が受けた」は、20 代（1.7%）のみである。また、「身近で見聞きした」は、10 代（17.6%）をはじめ、30 代（15.2%）、20 代（13.3%）など若い年代の方が多い。一方、「マスコミ等で聞いたことはある」は年代の若い方が、「知らない」は、高年代の割合がそれぞれ大きい。

（３）人権侵害を受けた方の相談状況

問２７	問２６で「自分が受けた」に〇をつけた方にお聞きします。あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。



◇全体

「相談した」が 11.9％で、「どこ（誰）にも相談しなかった」が 12.7％である。一方、「無回答」が 75.4％と多い。

◇性別

「相談した」は、女性（14.8％）が男性（7.4％）を 7.4 ポイント上回り、「どこ（誰）にも相談しなかった」も、女性（14.3％）が男性（11.3％）を 3.0 ポイント上回る。

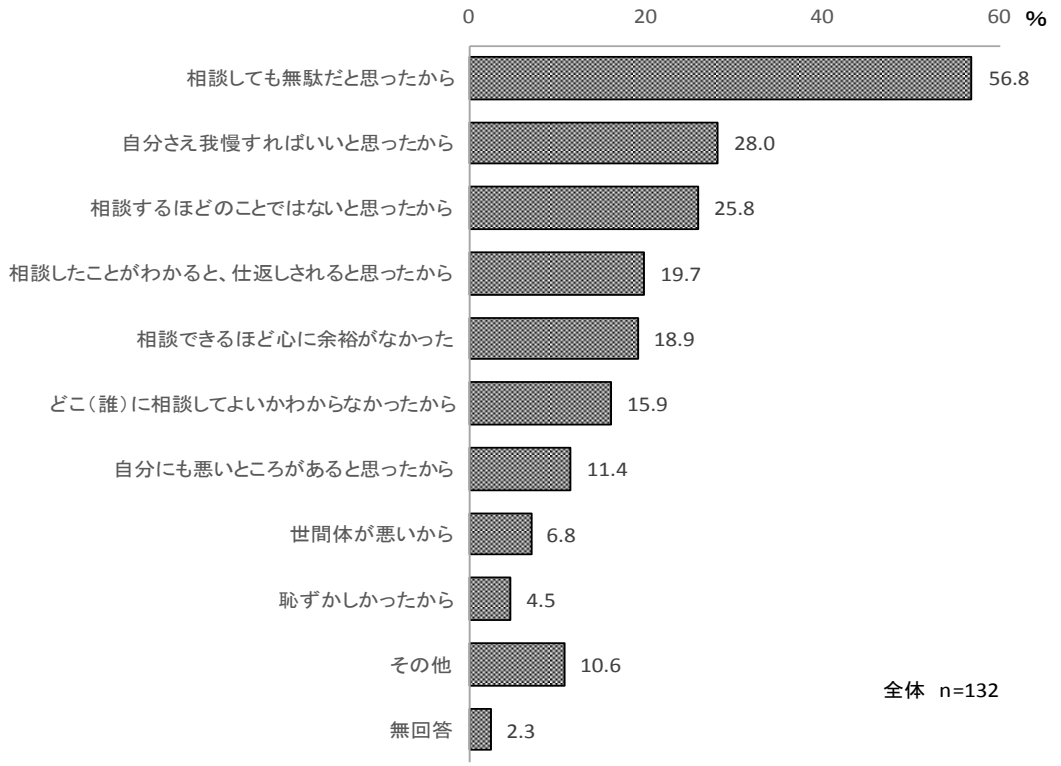
◇年齢別

「相談した」は、40 代（21.1％）をトップに、20 代（20.0％）、50 代（18.9％）、10 代（17.6％）、30 代（16.2％）と続く。また、「どこ（誰）にも相談しなかった」は、40 代と 50 代（ともに 18.3％）が最も多く、次いで 30 代（16.2％）が続く。

（４）どこ（誰）にも相談しなかった理由

問２８	問２７で「２どこ（誰）にも相談しなかった」に〇をつけた方にお聞きします。 どこ（誰）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（複数回答）

◇全体



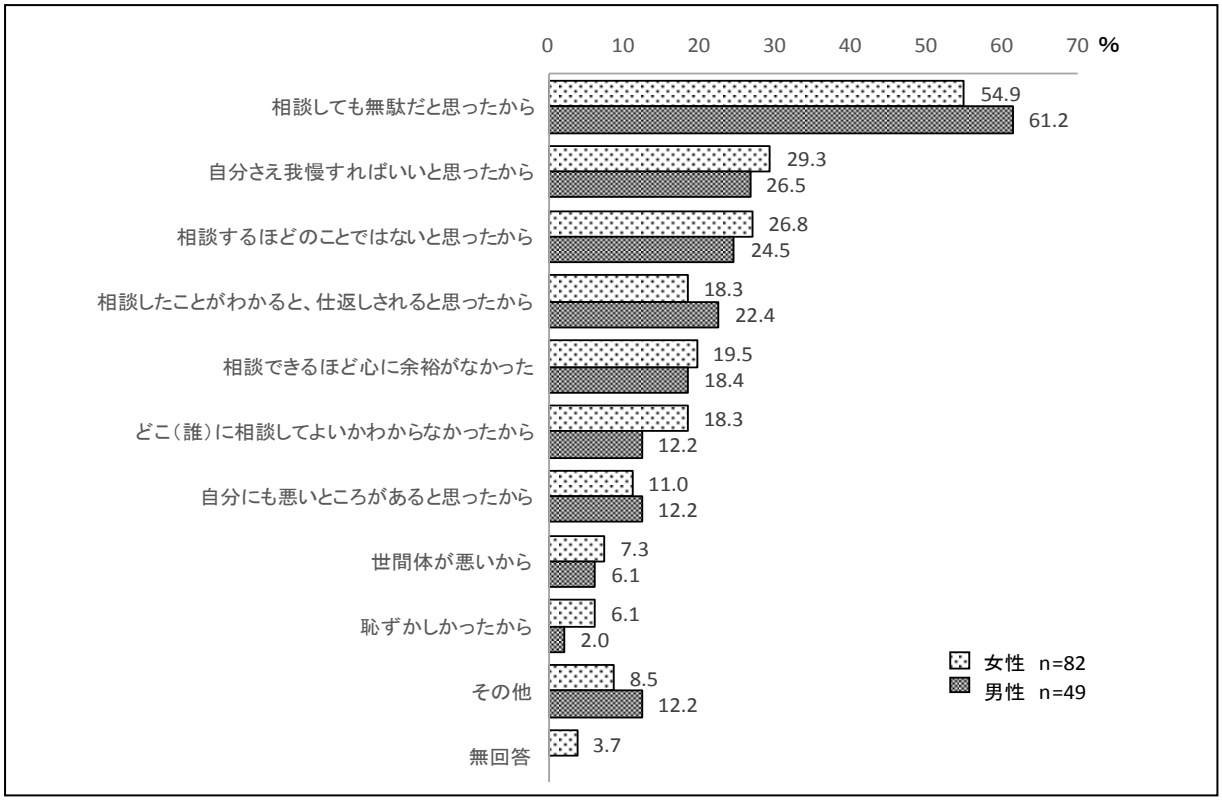
●「相談しても無駄だと思ったから」（56.8%）が圧倒的に多い。

●次いで「自分さえ我慢すればいいと思ったから」（28.0%）と「相談するほどのことではないと思ったから」（25.8%）が 2 割台で、「相談したことがわかると、仕返しされると思ったから」（19.7%）と「相談できるほど心に余裕がなかった」（18.9%）が 2 割弱で続く。

◇性別

「相談しても無駄だと思ったから」は、男性（61.2%）が女性（54.9%）を 6.3 ポイント上回る。

一方、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」は、ともに女性の割合が男性よりわずかに多く、「相談したことがわかると、仕返しされると思ったから」は、男性の方が女性より多い。



◇年齢別

「相談しても無駄だと思ったから」は、30 代（68.8%）が最も高く、次いで 40 代（61.5%）が続き、70 代以上（47.6%）が最も低い。

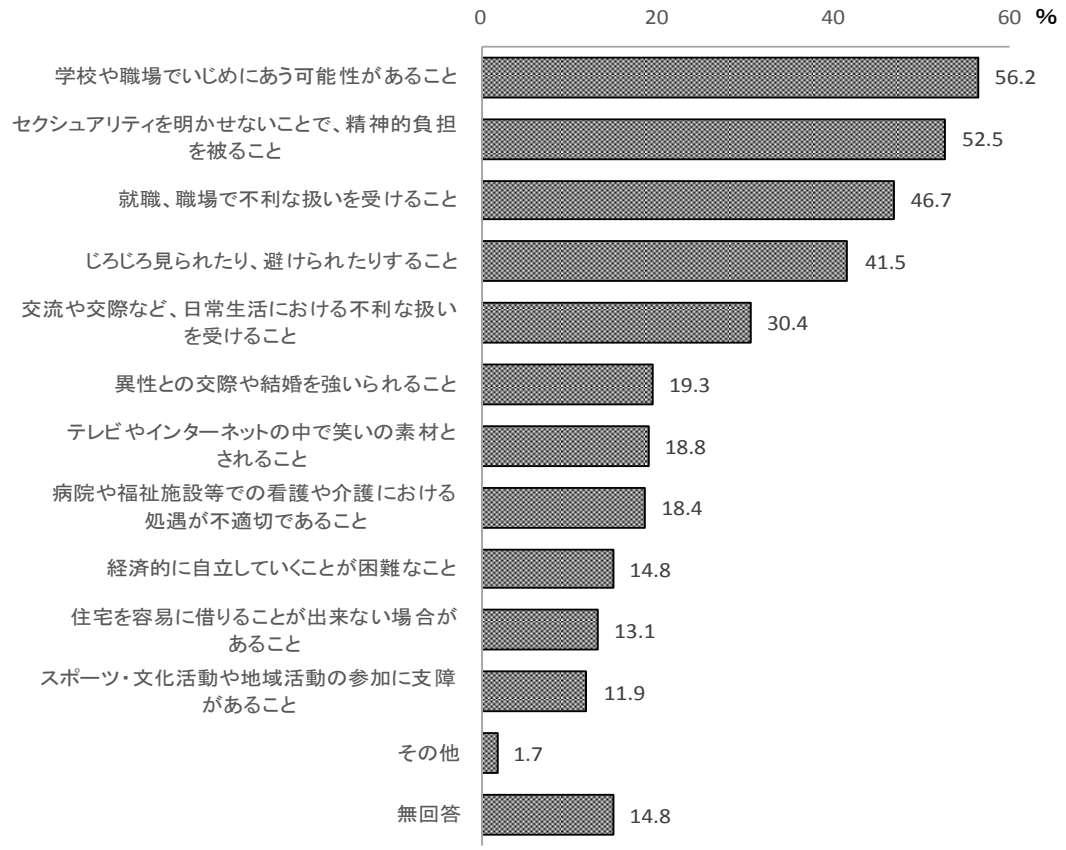
また、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」は 60 代（35.7%）、「相談するほどのことではないと思ったから」は、40 代（38.5%）が最も多い。

		合計	どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると、仕返しされると思ったから	自分さえ我慢すればいいと思ったから	世間体が悪いから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	相談できるほど心に余裕がなかった	その他	無回答
全体		132	15.9	4.5	56.8	19.7	28.0	6.8	11.4	25.8	18.9	10.6	2.3
年齢別	10代	0											
	20代	7	28.6	14.3	57.1	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	
	30代	16	18.8	6.3	68.8	12.5	25.0	6.3	6.3	6.3	37.5	6.3	
	40代	26	15.4		61.5	19.2	23.1		15.4	38.5	11.5	11.5	
	50代	33	15.2	9.1	54.5	36.4	27.3	12.1	9.1	21.2	27.3	12.1	
	60代	28	14.3		57.1	17.9	35.7		10.7	32.1	14.3	7.1	
	70代以上	21	14.3	4.8	47.6		28.6	14.3	14.3	28.6	9.5	4.8	14.3

（５）性的少数者が感じていると思われる問題

問２９	次の選択肢の中で性的少数者が感じている問題と思われるものはどれですか。（複数回答）

◇全体

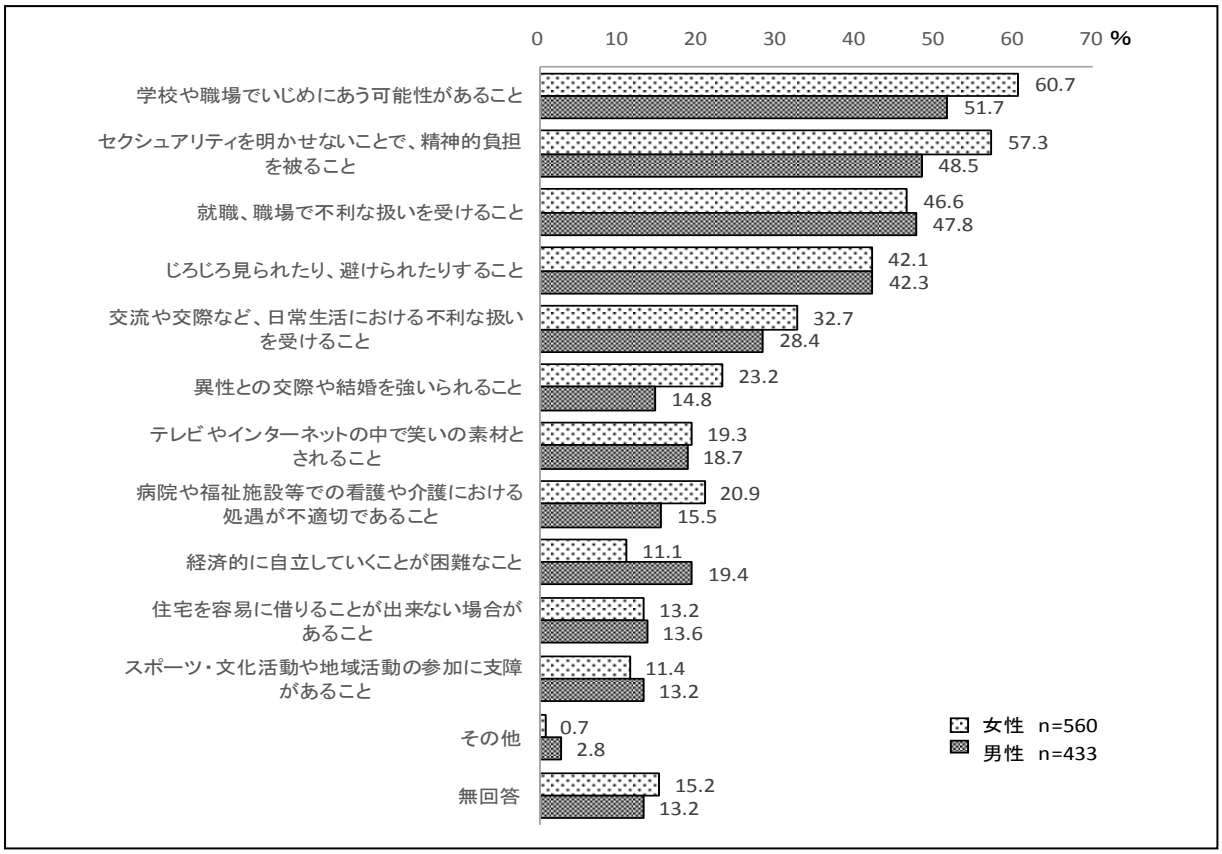


●「学校や職場でいじめにあう可能性があること」（56.2%）と「セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること」（52.5%）が、ともに５割を超えて上位を占める。

●これらに続いて、「就職、職場で不利な扱いを受けること」（46.7%）、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」（41.5%）、「交流や交際など、日常生活における不利な扱いを受けること」（30.4%）の割合も多い。

◇性別

「学校や職場でいじめにあう可能性があること」と「セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること」、また「交流や交際など、日常生活における不利な扱いを受けること」や「異性との交際や結婚を強いられること」は、女性の割合が男性を上回り、「就職、職場で不利な扱いを受けること」と「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は、女性と男性の割合がほぼ同じである。「経済的に自立していくことが困難なこと」は男性が多い。



◇年齢別

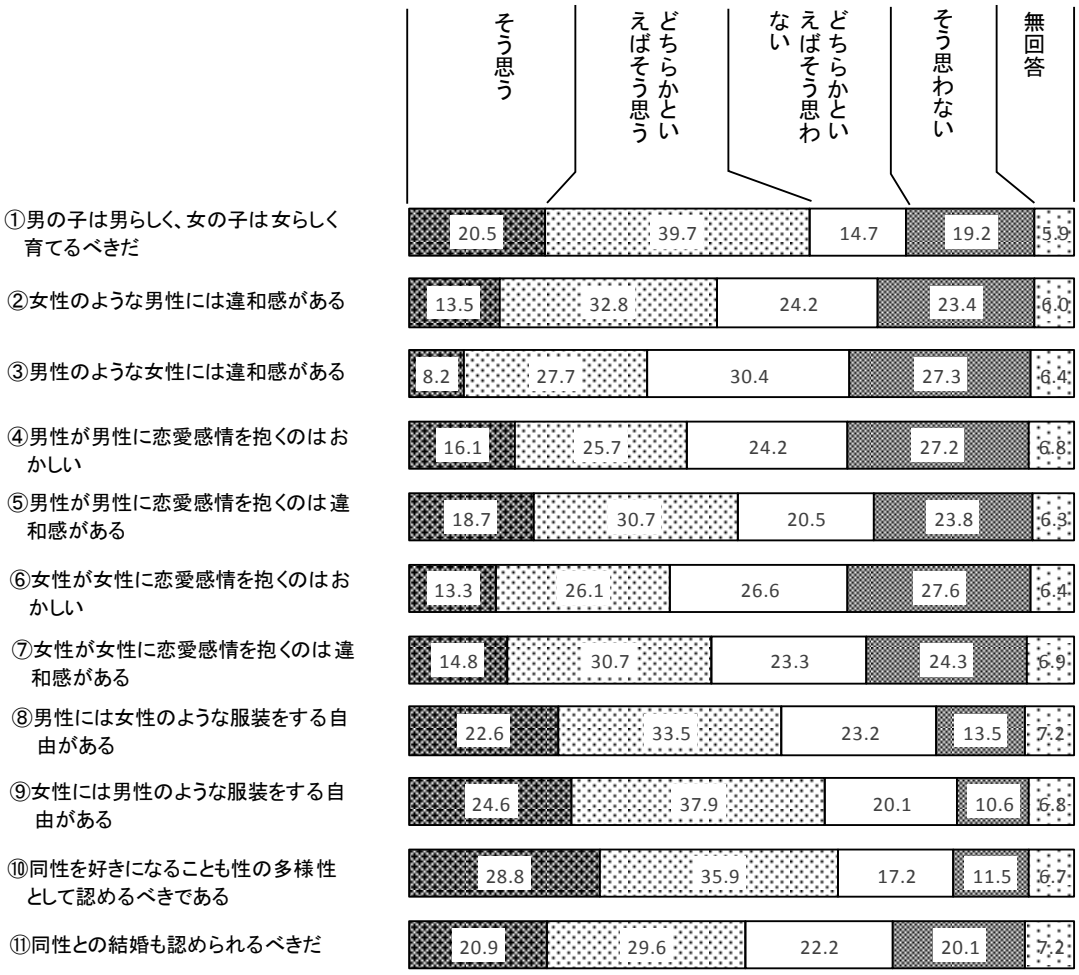
「学校や職場でいじめにあう可能性があること」は、10 代(88.2%)をはじめ、20 代(76.7%)、30 代（66.7%）と若い年代の割合が高く、また、「セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること」では、10 代（76.5%）、40 代（69.0%）、20 代（68.3%）で、「就職、職場で不利な扱いを受けること」は、10 代（52.9%）、50 代（52.2%）などが多い。

		合計	就職、職場で不利な扱いを受けること	経済的に自立していくことが困難なこと	病院や福祉施設等での看護や介護における処遇が不適切であること	住宅を容易に借りることが出来ない場合があること	スポーツ・文化活動や地域活動の参加に支障があること	セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること	テレビやインターネットの中で笑いの素材とされること	学校や職場でいじめにあう可能性があること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	交流や交際など、日常生活における不利な扱いを受けること	異性との交際や結婚を強いられること	その他	無回答
全体		1,026	46.7	14.8	18.4	13.1	11.9	52.5	18.8	56.2	41.5	30.4	19.3	1.7	14.8
年齢別	10代	17	52.9	29.4	23.5	17.6	17.6	76.5	58.8	88.2	76.5	52.9	64.7	5.9	5.9
	20代	60	48.3	8.3	15.0	13.3	13.3	68.3	36.7	76.7	56.7	48.3	36.7	1.7	3.3
	30代	99	35.4	11.1	13.1	7.1	8.1	64.6	23.2	66.7	40.4	33.3	32.3	4.0	4.0
	40代	142	47.9	12.7	21.8	10.6	12.0	69.0	24.6	65.5	49.3	28.9	26.1	2.8	4.9
	50代	180	52.2	15.6	20.0	13.9	9.4	61.1	17.8	65.0	43.9	32.8	15.0	2.2	5.0
	60代	227	51.1	13.2	23.3	12.3	11.5	51.5	17.6	53.3	42.3	33.5	15.9	0.4	15.0
	70代以上	270	44.1	18.5	14.1	17.4	15.6	32.6	10.7	39.3	31.9	21.9	11.5	0.4	31.1

（６）男性、女性に関しての考えや気持ち

問３０	次のことについて、あなたの考えやお気持ちにもっとも近いものはどれですか。

◇全体



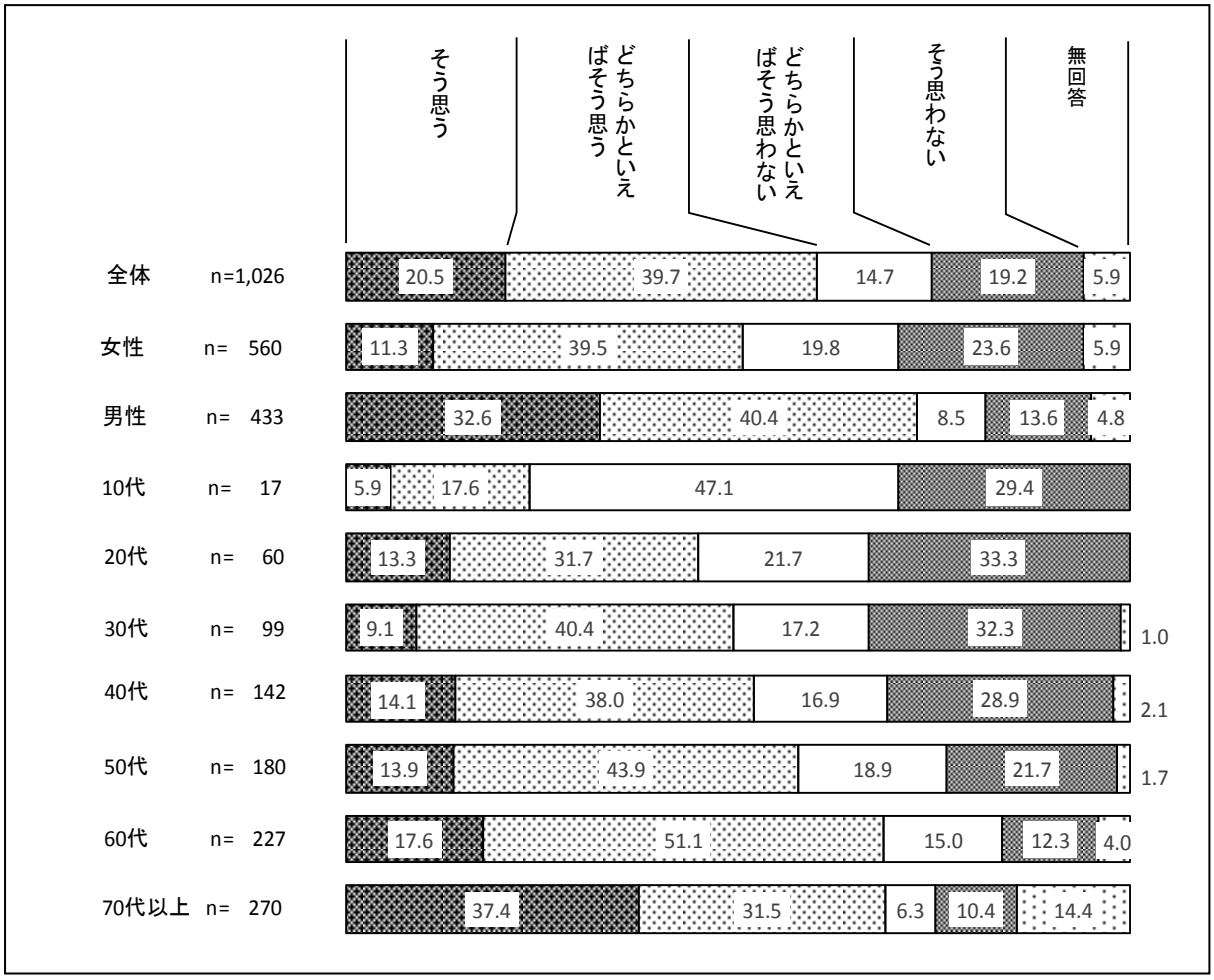
●“そう思う派”は、「同性を好きになることも性の多様性として認めるべきである」(64.7%)、「女性には男性のような服装をする自由がある」(62.5%)、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」(60.2%) の割合が特に高い。

●“そう思わない派”は、「男性のような女性には違和感がある」(57.7%)、「女性が女性に恋愛感情を抱くのはおかしい」(54.2%)、「男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい」(51.4%) が上位にある。

●“そう思う派”と“そう思わない派”に分かれているのが、「女性のような男性には違和感がある」と「女性が女性に恋愛感情を抱くのは違和感がある」である。

※“そう思う派”は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合の合計。“そう思わない派”は、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合の合計。(以下、同じ)

①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ



◇全体

“そう思う派”（60.2%）が“そう思わない派”（33.9%）を 26.3 ポイント上回る。

◇性別

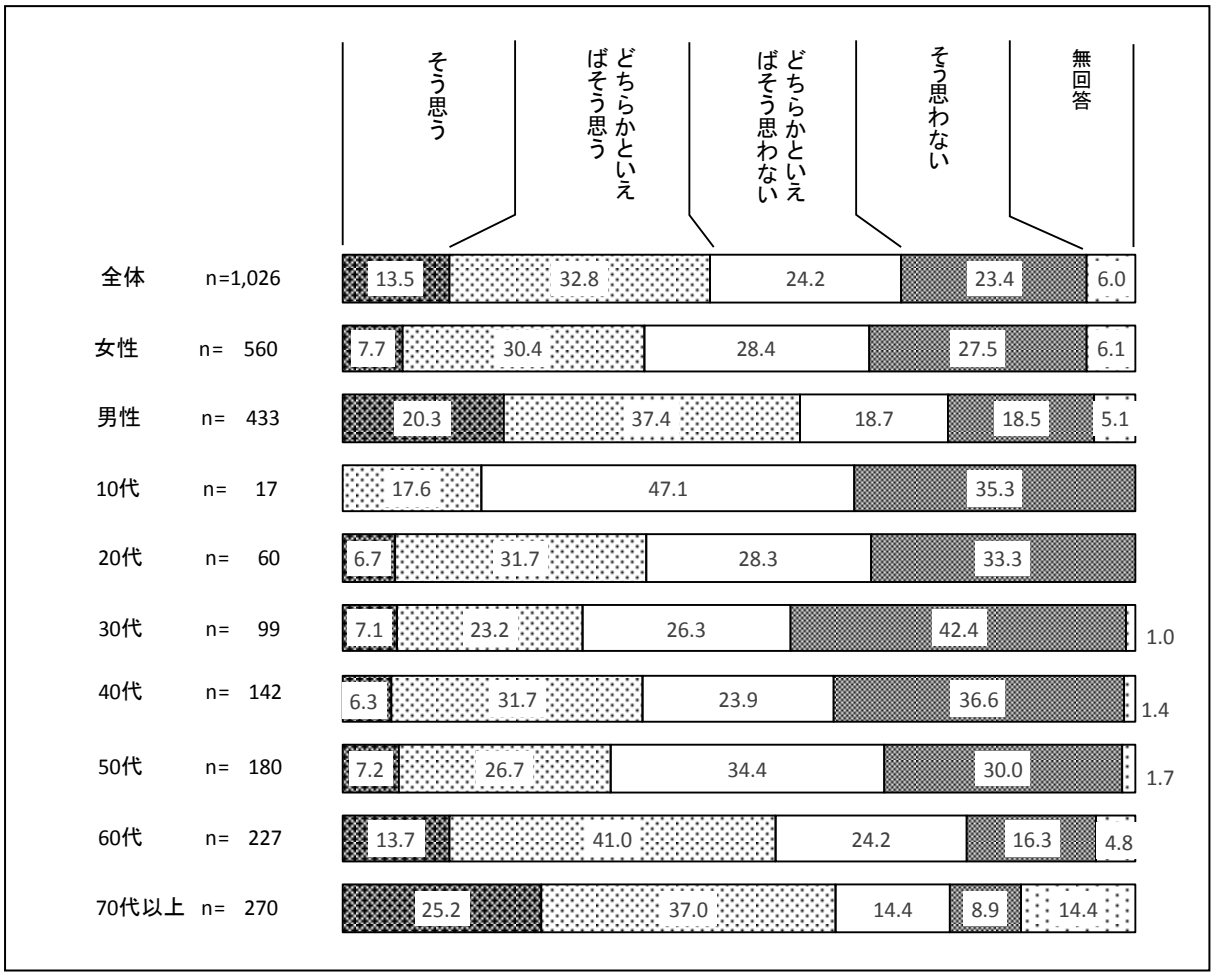
“そう思う派”は、男性（73.0%）が女性（50.8%）を 22.2 ポイント上回り、“そう思わない派”は、女性（43.4%）が男性（22，1%）を 21.3 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は、年代が上がるとともに多く、60 代（68.7%）、70 代以上（68.9%）の高年代が最も高く、10 代（23.5%）が最も低い。反対に、“そう思わない派”は年代が上がるにつれ減少し、10 代（76.5%）が特に高く、70 代以上（16.7%）が最も低い。

また、30 代は“そう思う派”と“そう思わない派”に分かれている。

②女性のような男性には違和感がある



◇全体

“そう思う派”が 46.3%、“そう思わない派”が 47.6%と、両者にちょうど分かれる。

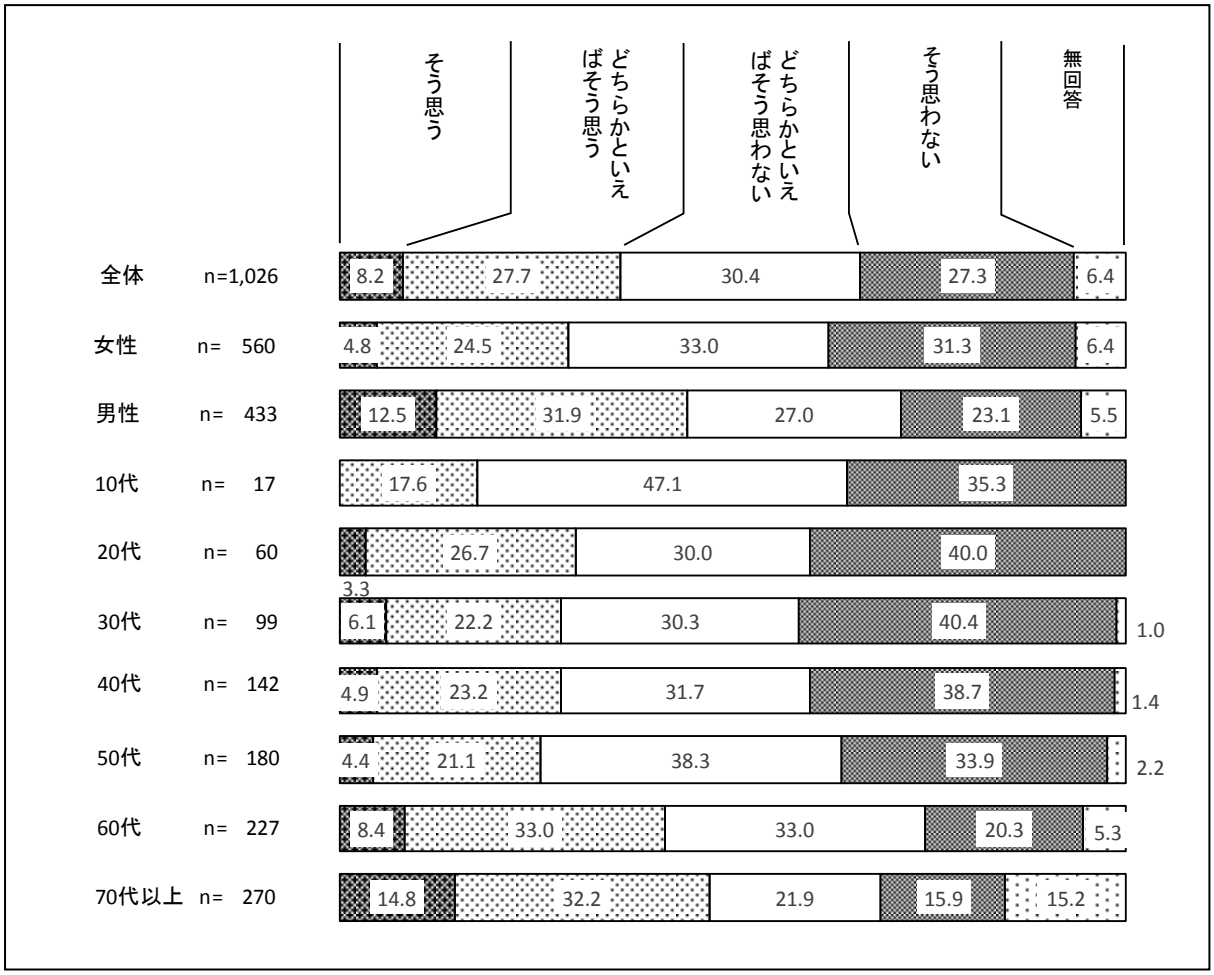
◇性別

“そう思う派”は、男性（57.7%）が女性（38.1%）を 19.6 ポイント上回り、“そう思わない派”は、女性（55.9%）が男性（37.2%）を 18.7 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は、60 代（54.7%）、70 代以上（62.2%）の高年代で特に多く、10 代（17.6%）が最も低い。一方、“そう思わない派”は、10 代（82.4%）をはじめ、20 代～50 代の各年代での割合が高く、70 代以上（23.3%）が最も低い。

③男性のような女性には違和感がある



◇全体

“そう思わない派”（57.7%）が“そう思わない派”（35.9%）を 21.8 ポイント上回る。

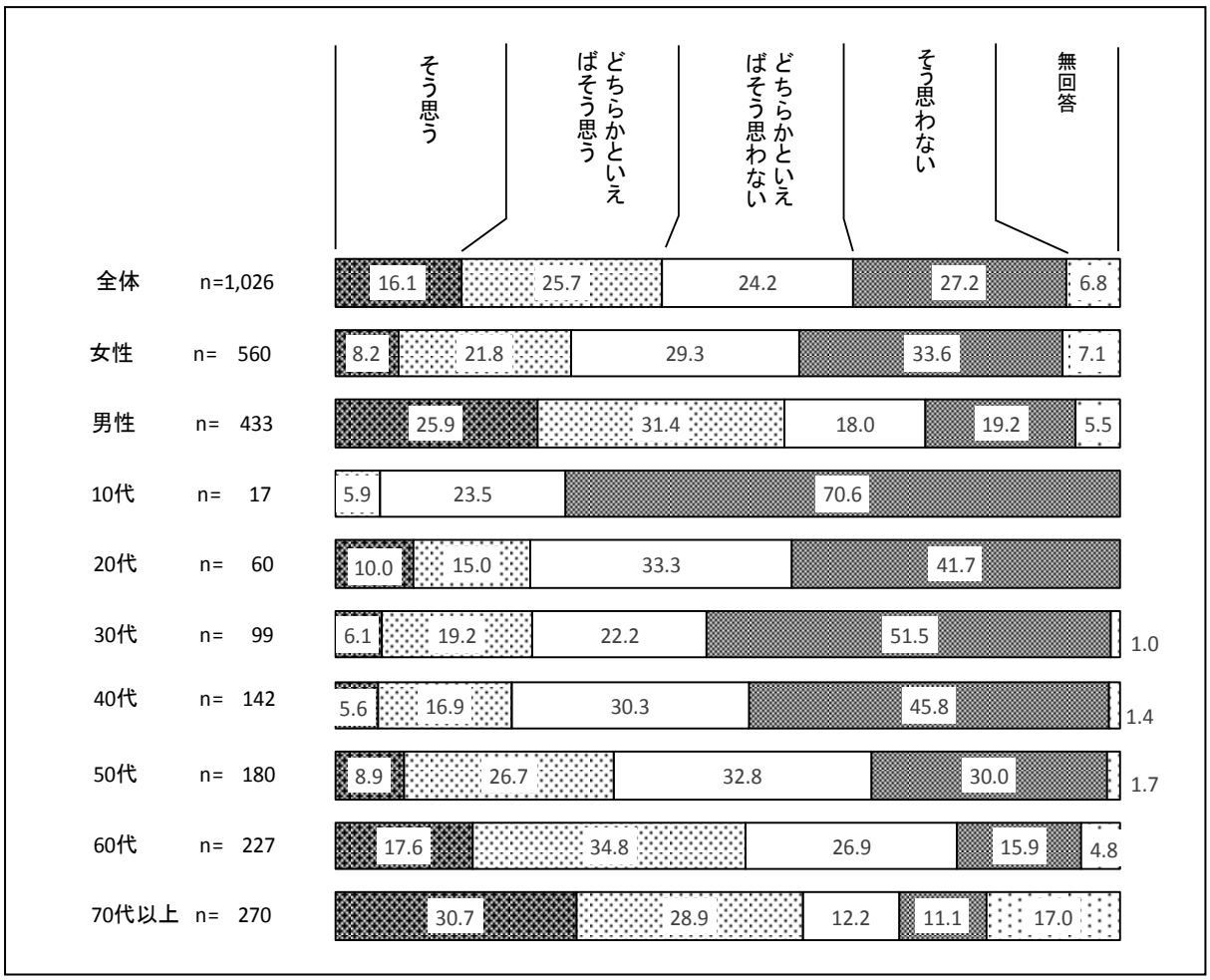
◇性別

“そう思う派”は、男性（44.4%）が女性（29.3%）を 15.1 ポイント上回り、“そう思わない派”は、女性（64.3%）が男性（50.1%）を 14.2 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は、60 代（41.4%）、70 代以上（47.0%）の高年代に多く、10 代（17.6%）が最も少ない。“そう思わない派”は、10 代（82.4%）が最も多く、また、20 代～50 代の各年代でも約 7 割と多く、70 代以上（37.8%）が最も低い。

④男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい



◇全体

“そう思わない派”（51.4%）が“そう思う派”（41.8%）を 9.6 ポイント上回る。

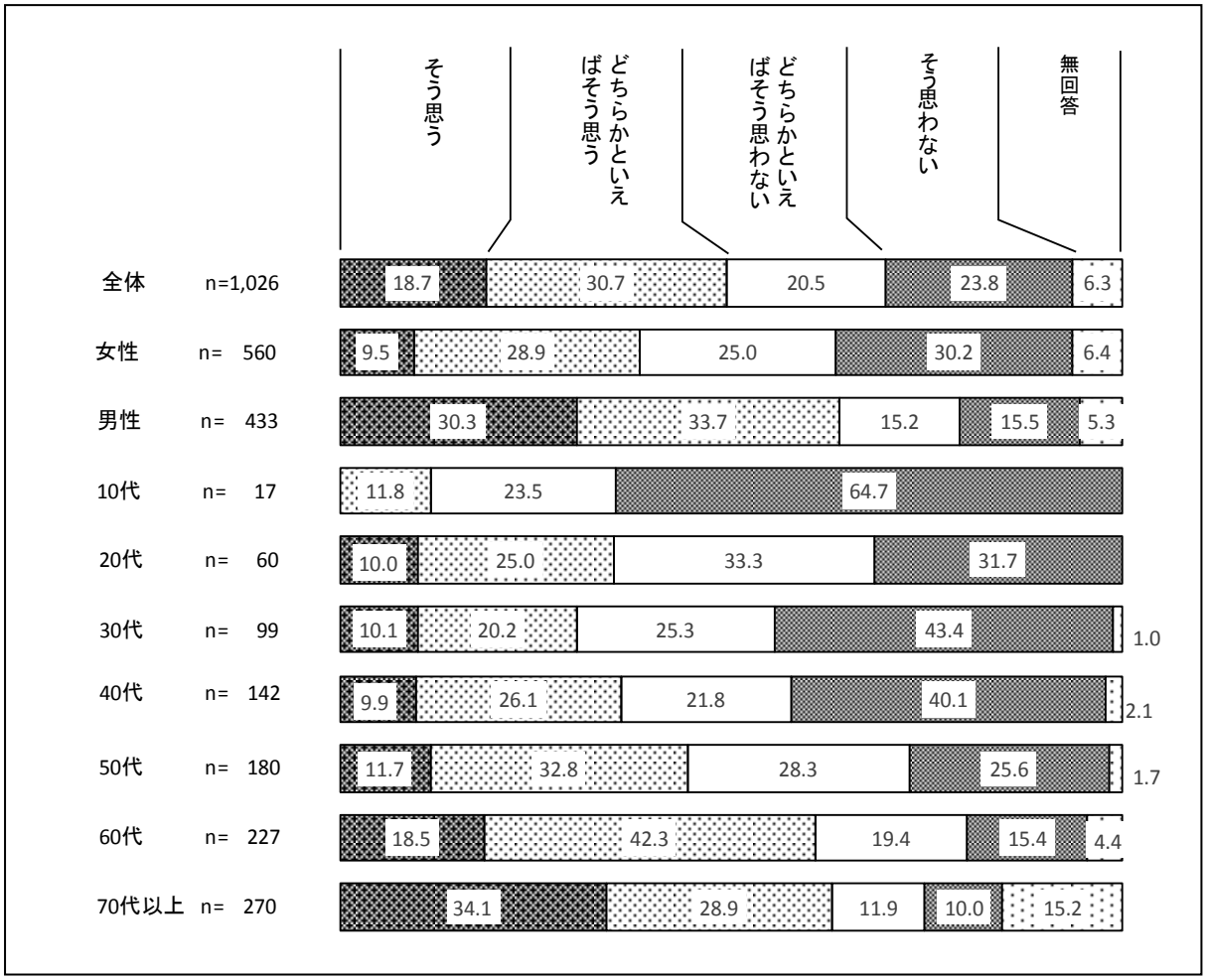
◇性別

“そう思う派”は、男性（57.3%）が女性（30.0%）を 27.3 ポイント上回り、“そう思わない派”は、女性（62.9%）が男性（37.2%）を 25.7 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は、60 代（52.4%）、70 代以上（59.6%）の高年代に多く、“そう思わない派”は、特に高い 10 代（94.1%）をはじめ、20 代～40 代の各年代はいずれも 7 割台と多く、70 代以上（23.3%）が最も低い。

⑤男性が男性に恋愛感情を抱くのは違和感がある



◇全体

“そう思う派”（49.4%）が“そう思わない派”（44.3%）を 5.1 ポイント上回る。

◇性別

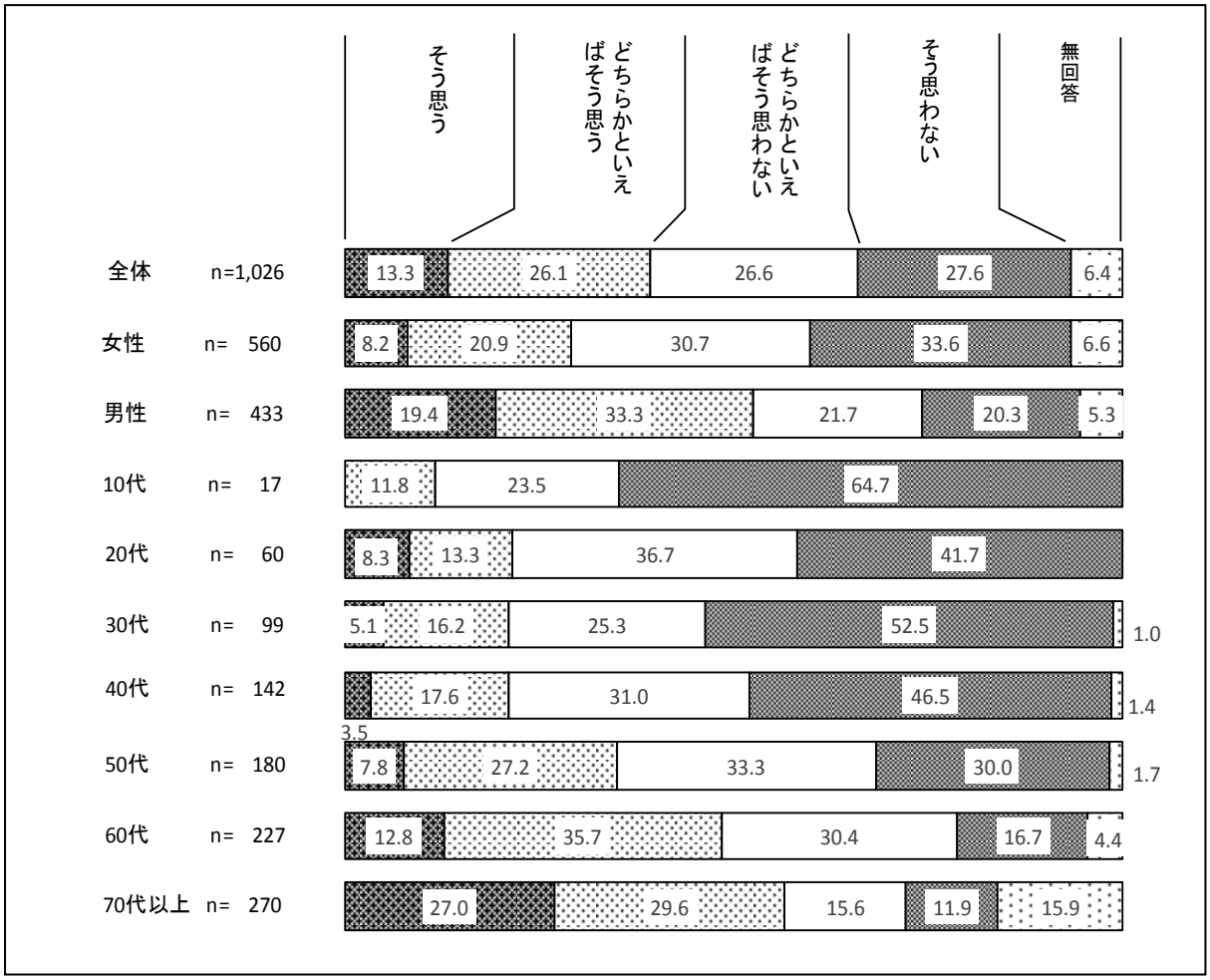
“そう思う派”は、男性（64.0%）が女性（38.4%）を 25.6 ポイント上回り、“そう思わない派”は、女性（55.2%）が男性（30.7%）を 24.5 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は、60 代（60.8%）、70 代以上（63.0%）の高年代に多く、20 代～40 代で 3 割程度、10 代（11.8%）が最も低い。

“そう思わない派”は、10 代（88.2%）をはじめ、20 代～40 代の各年代で 6 割台と多く、70 代以上（21，9%）が最も低い。

⑥女性が女性に恋愛感情を抱くのはおかしい



◇全体

“そう思わない派”（54.2%）が“そう思う派”（39.4%）を 14.8 ポイント上回る。

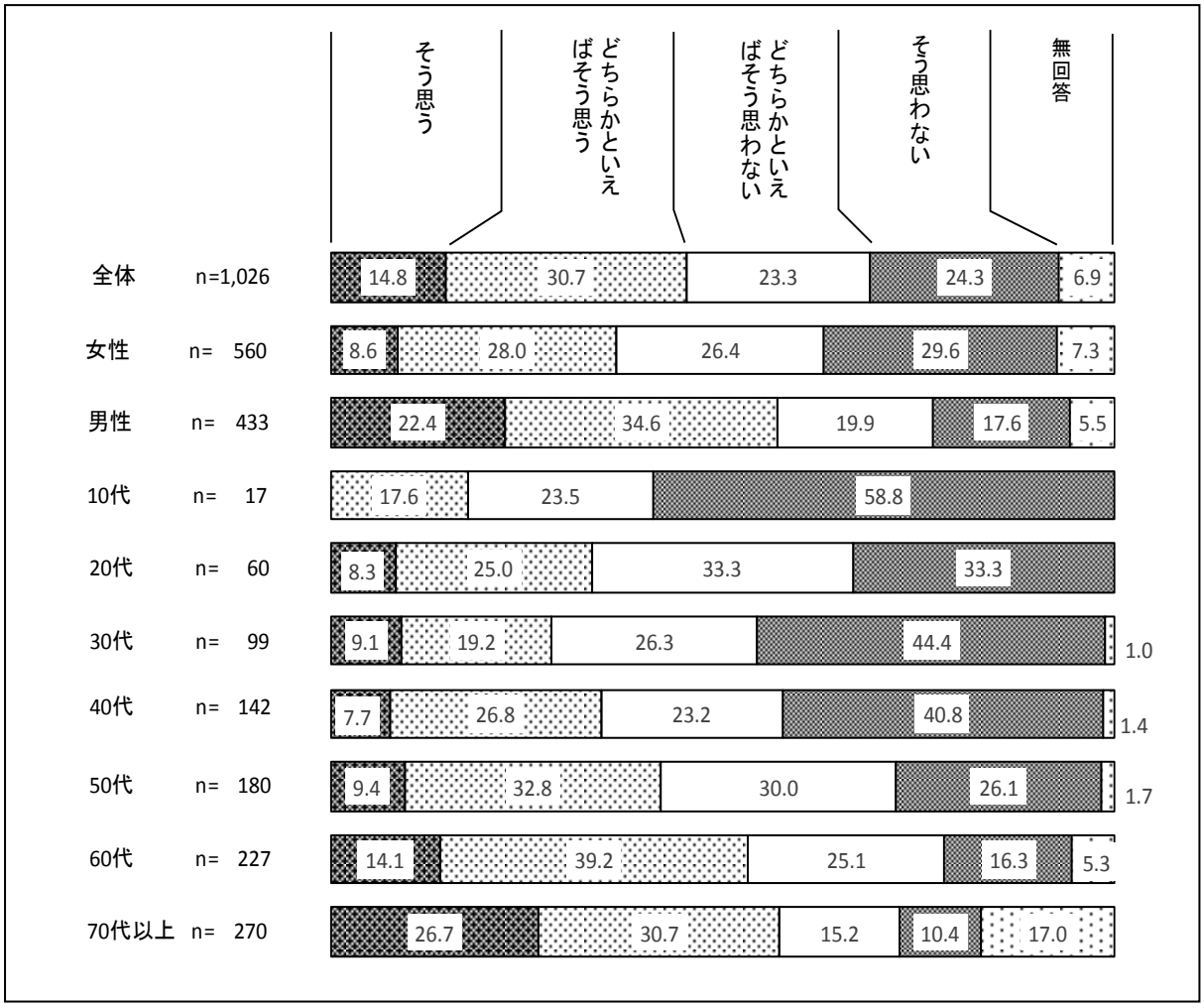
◇性別

“そう思う派”は、男性（52.7%）が女性（29.1%）を 23.6 ポイント上回り、“そう思わない派”は、女性（64.3%）が男性（42.0%）を 22.3 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は、60 代（48.5%）、70 代以上（56.6%）の高年代に多く、10 代（11.8%）が最も低い。一方、“そう思わない派”は、10 代（88.2%）をトップに、20 代～40 代の各年代が 8 割近くの割合で多く、70 代以上（27.5%）が最も低い。

⑦女性が女性に恋愛感情を抱くのは違和感がある



◇全体

“そう思う派”（45.5%）と、“そう思わない派”（47.6%）にちょうど分かれている。

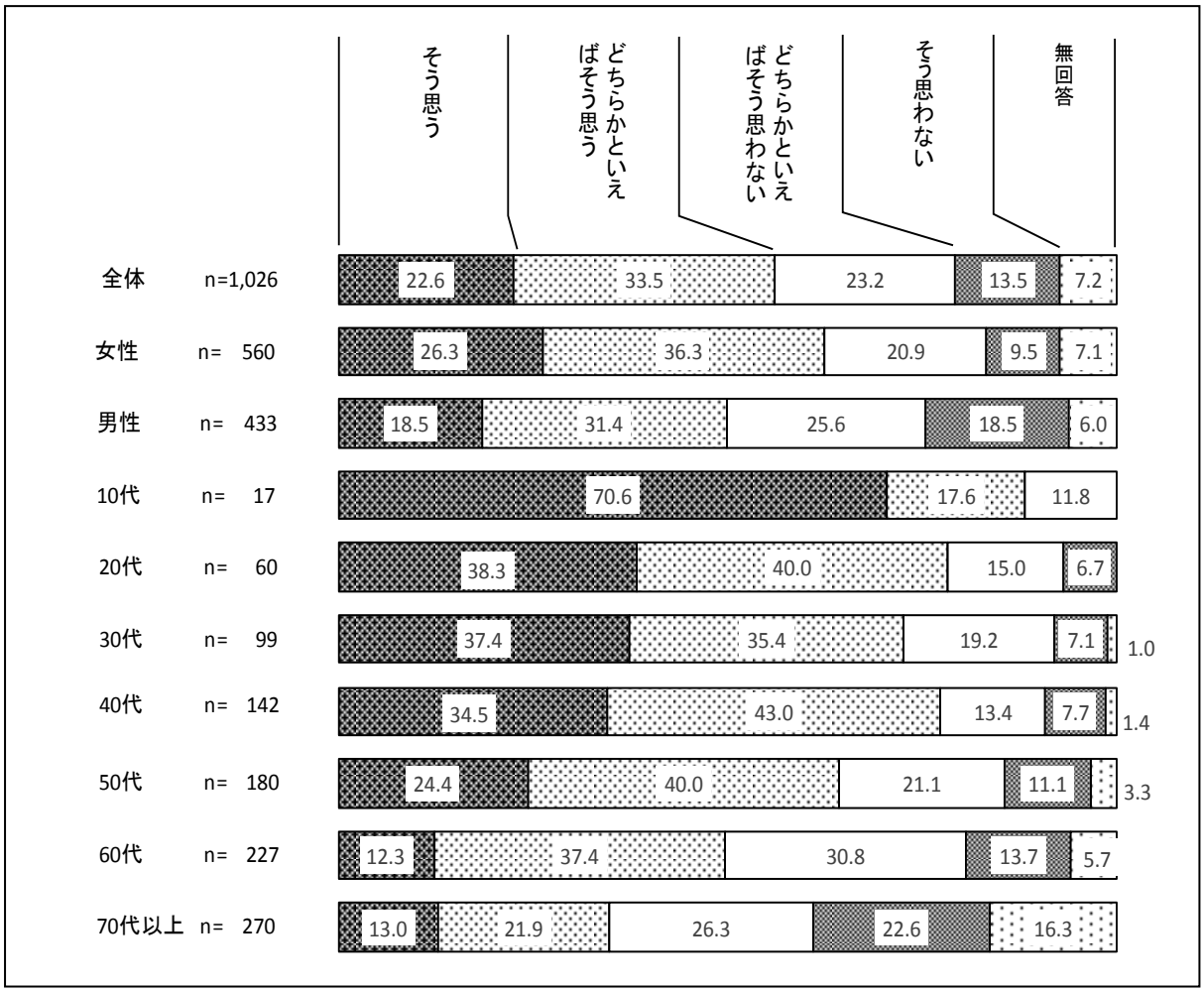
◇性別

“そう思う派”は、男性（57.0%）が女性（36.6%）を 20.4 ポイント上回り、“そう思わない派”は、女性（56.0%）が男性（37.5%）を 18.5 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は年代が上がるに伴い多くなり、70 代以上（57.4%）が最も多く、10 代（17.6%）が最も低い。“そう思わない派”は、10 代（82.3%）が最も多く、以下、30 代（70.7%）、20 代（66.6%）の若い年代が続き、70 代以上（25.6%）が最も低い。

⑧男性には女性のような服装をする自由がある



◇全体

“そう思う派”（56.1%）が“そう思わない派”（36.7%）を 19.4 ポイント上回る。

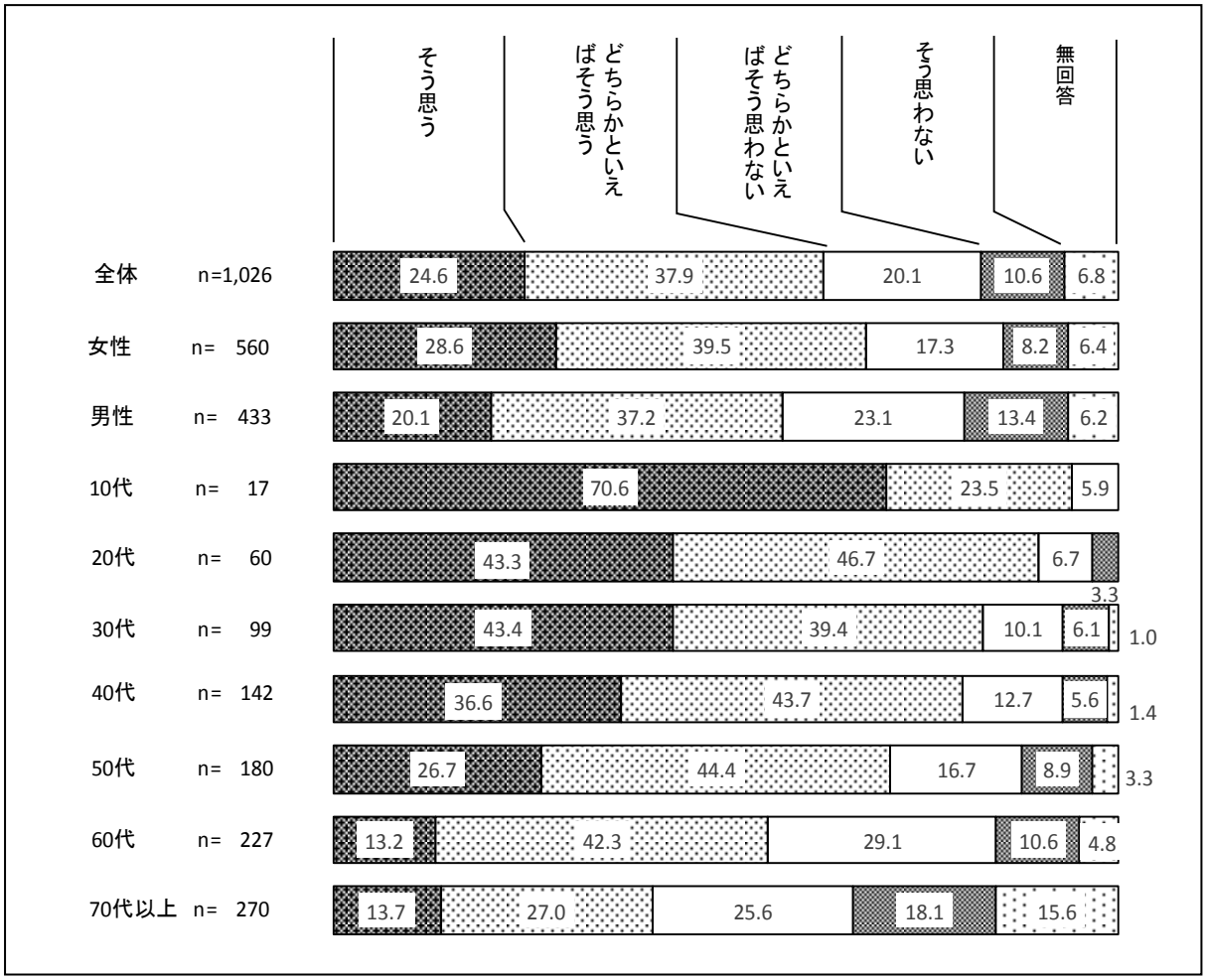
◇性別

“そう思う派”は、女性（62.6%）が男性（49.9%）を 12.7 ポイント上回り、“そう思わない派”は、男性（44.1%）が女性（30.4%）を 13.7 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は、10 代（88.2%）をトップに、20 代（78.3%）、30 代（72.8%）、40 代（77.5%）と若い年代が続き、70 代以上（34.9%）が最も低い。“そう思わない派”は、70 代以上（48.9%）が最も多く、年代が下がるとともに減少し、10 代（11.8%）が最も低い。

⑨女性には男性のような服装をする自由がある



◇全体

“そう思う派”（62.5%）が“そう思わない派”（30.7%）を 31.8 ポイント上回る。

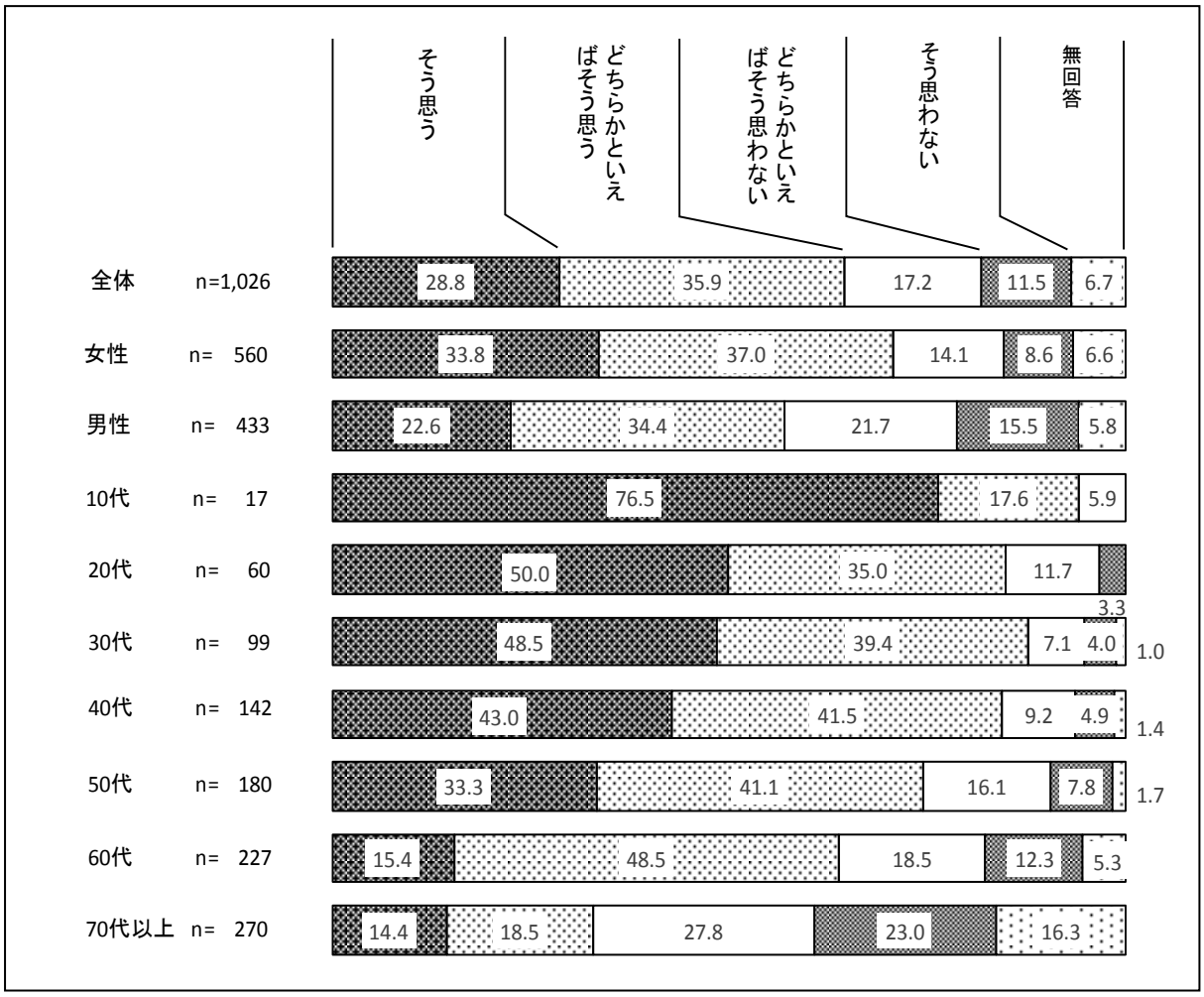
◇性別

“そう思う派”は、女性（68.1%）が男性（57.3%）を 10.8 ポイント上回り、“そう思わない派”は、男性（36.5%）が女性（25.5%）を 11.0 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は、10 代（94.1%）をはじめ、20 代（90.0%）、30 代（82.8%）、40 代（80.3%）など若い年代の割合が極めて高く、70 代以上（40, 7%）が最も低い。また、“そう思わない派”は、70 代以上（43.7%）以下、年代とともに割合は減少し、10 代（5.9%）が最も低い。

⑩同性を好きになることも性の多様性として認めるべきである



◇全体

“そう思う派”（64.7%）が“そう思わない派”（28.7%）を大きく 36.0 ポイント上回る。

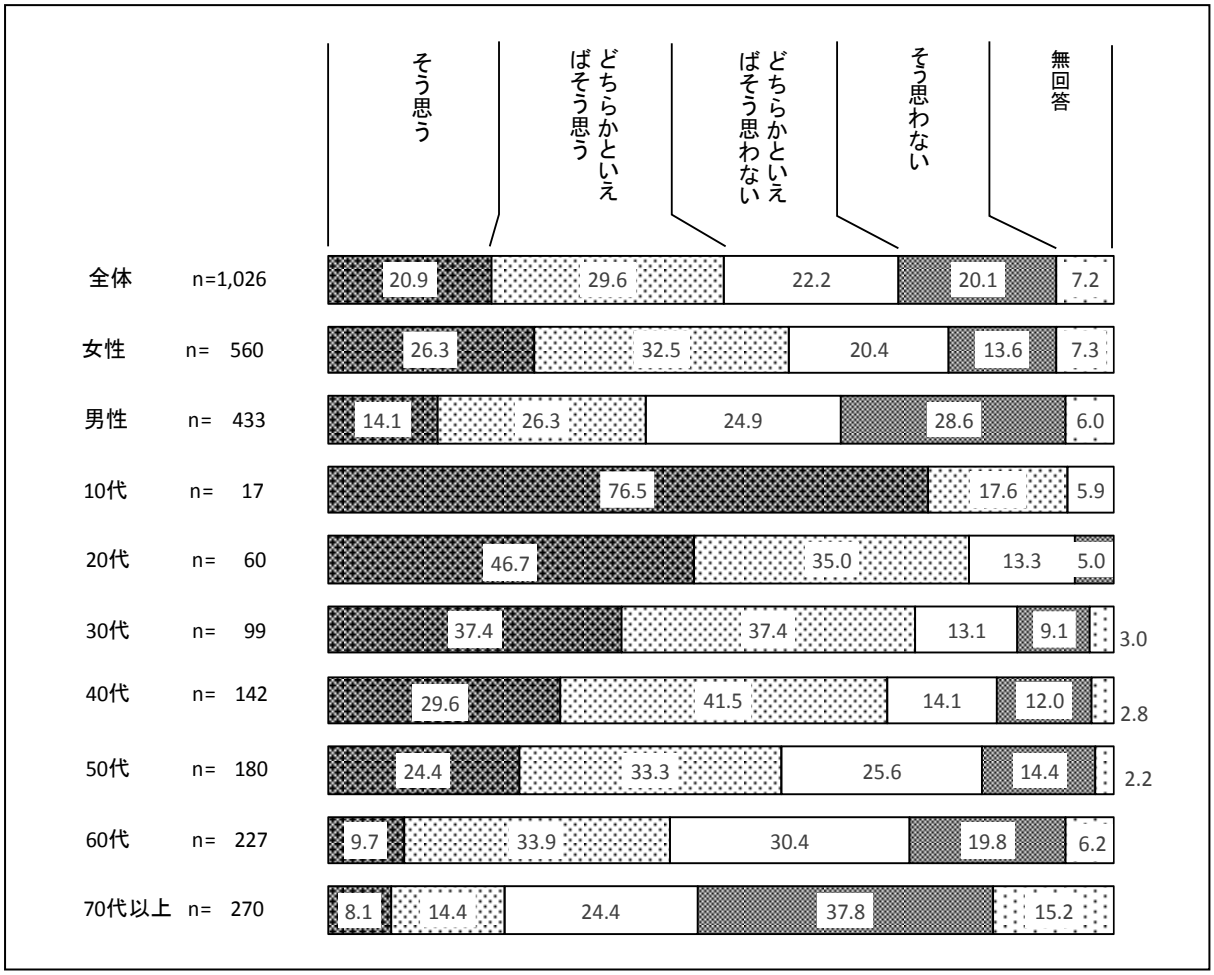
◇性別

“そう思う派”は、女性（70.8%）が男性（57.0%）を 13.8 ポイント上回り、“そう思わない派”は、男性（37.2%）が女性（22.7%）を 14.5 ポイント上回る。

◇年齢別

“そう思う派”は、10 代（94.1%）をはじめ、30 代（87.9%）、20 代（85.0%）、40 代（84.5%）など若い年代の割合が高く、70 代以上（32.9%）が最も低い。“そう思わない派”は、70 代以上（50.8%）が最も多く、10 代（5.9%）が最も低い。

⑪同性との結婚も認められるべきだ



◇全体

“そう思う派”（50.5%）が“そう思わない派”（42.3%）を 8.2 ポイント上回る。

◇性別

“そう思う派”は、女性（58.8%）が男性（40.4%）を 18.4 ポイント上回り、“そう思わない派”は、男性（53.5%）が女性（34.0%）を 19.5 ポイント上回る。

◇年齢別

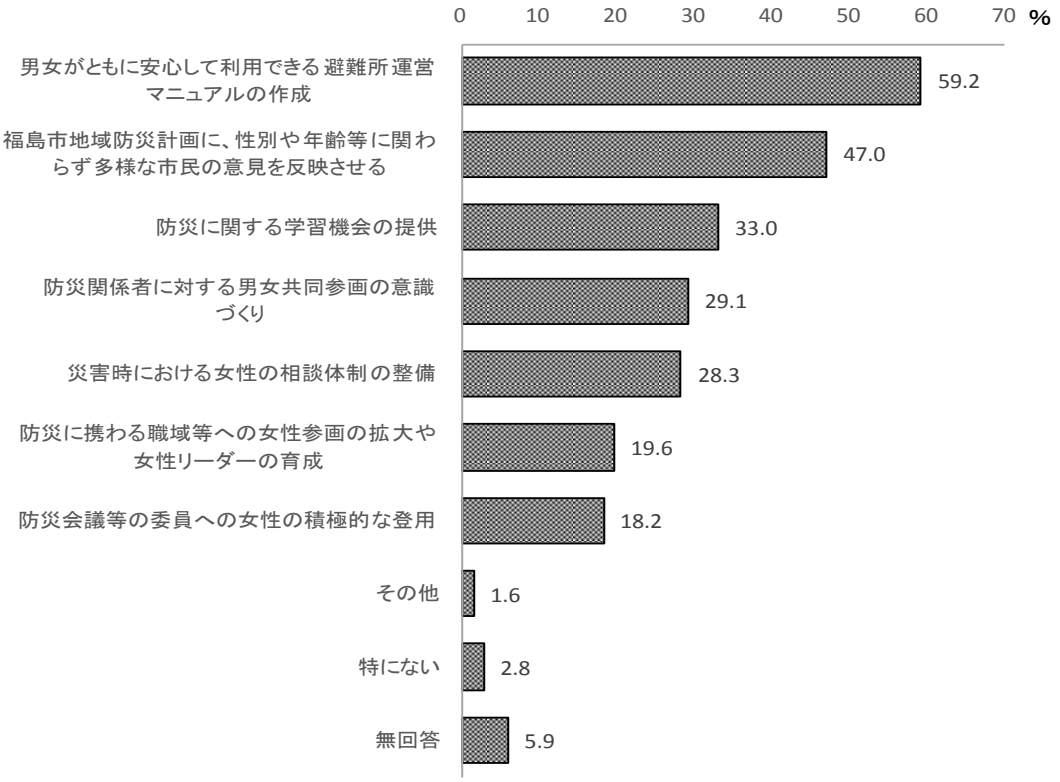
“そう思う派”は、10 代（94.1%）をはじめ、20 代（81.7%）、30 代（74.8%）、40 代（71.1%）の割合が高く、70 代以上（22.5%）が最も低い。“そう思わない派”は、70 代以上（62.2%）や 60 代（50.2%）の高年代に多く、10 代（5.9%）が最も低い。

８　防災について

（１）防災における男女共同参画について

問３１	大規模災害時の備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるために、日常的にどのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

◇全体

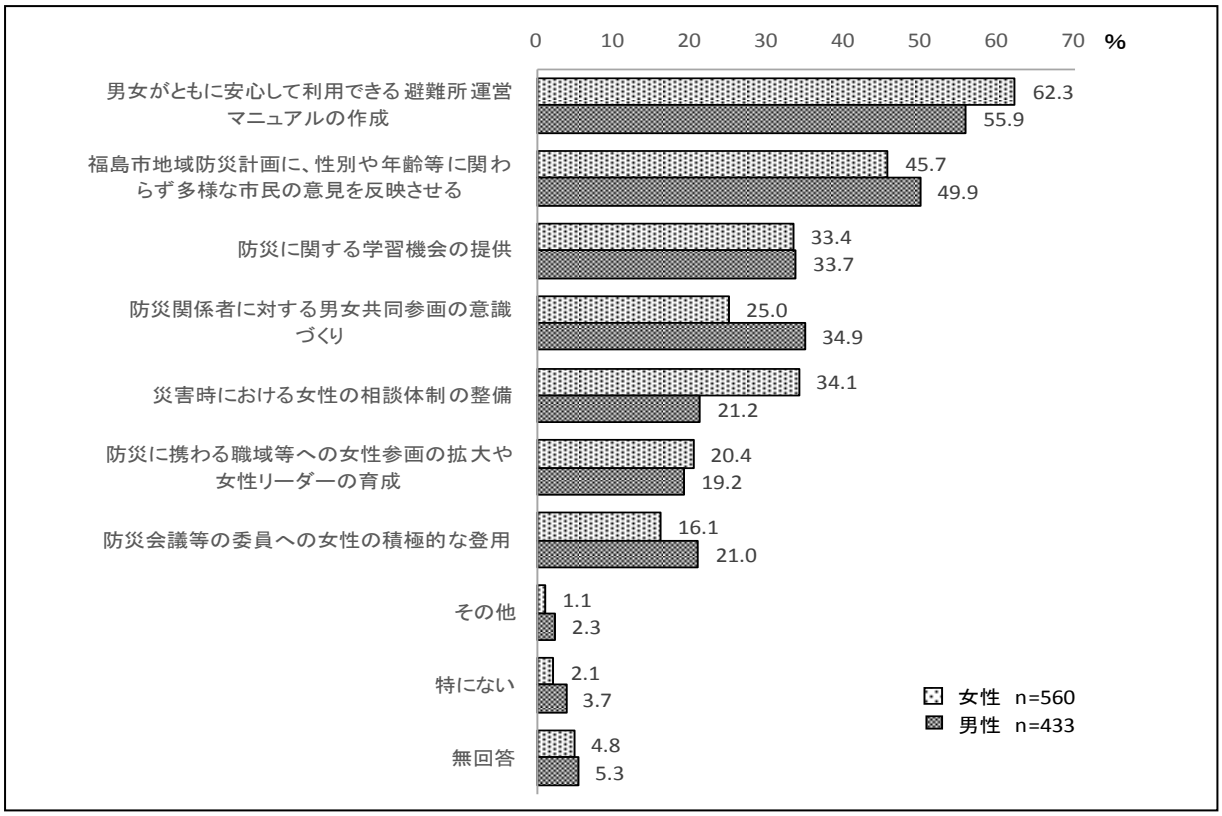


●「男女がともに安心して利用できる避難所運営マニュアルの作成」（59.2%）が最も多く、次いで「福島市地域防災計画に、性別や年齢等に関わらず多様な市民の意見を反映させる」（47.0%）が続く。

●また、「防災に関する学習機会の提供」や「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」、「災害時における女性の相談体制の整備」においても、いずれも３割前後の割合と多い。

◇性別

「男女がともに安心して利用できる避難所運営マニュアルの作成」は、女性（62.3%）が男性（55.9%）より多く、「福島市地域防災計画に、性別や年齢等に関わらず多様な市民の意見を反映させる」では、男性（49.9%）が女性（45.7%）を上回る。また、「防災に関する学習機会の提供」は、女性と男性がほぼ同じでるが、「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」では男性が、「災害時における女性の相談体制の整備」では女性の割合がそれぞれ大きい。



◇年齢別

「男女がともに安心して利用できる避難所運営マニュアルの作成」は、10 代（70.6%）の割合が最も高いが、他のいずれの年代も 5 割～6 割と多い。また、「福島市地域防災計画に、性別や年齢等に関わらず多様な市民の意見を反映させる」は、70 代以上（55.9%）をはじめ、中高年代の割合が 10 代～30 代の若い年代より多く、「防災に関する学習機会の提供」の場合は、10 代（47.1%）が最も高く、他の年代はいずれも 3 割前後となっている。

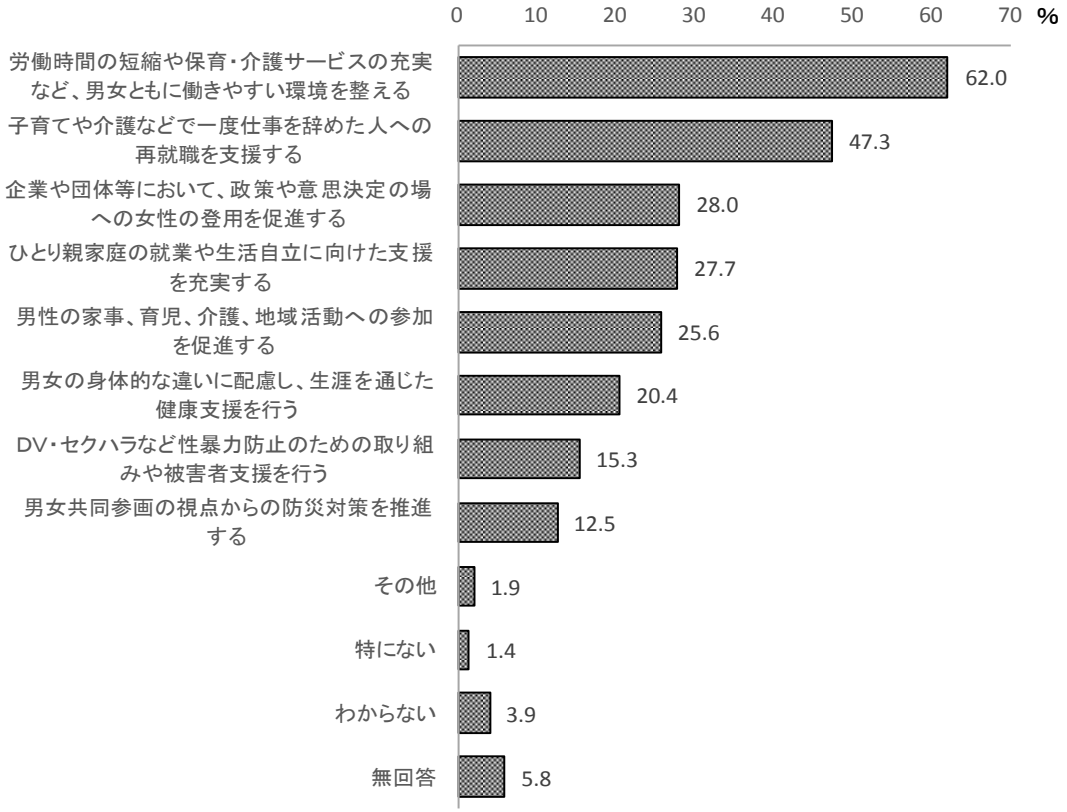
		合計	防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり	福島市地域防災計画に、性別や年齢等に関わらず多様な市民の意見を反映させる	防災会議等の委員への女性の積極的な登用	防災に携わる職域等への女性参画の拡大や女性リーダーの育成	防災に関する学習機会の提供	男女がともに安心して利用できる避難所運営マニュアルの作成	災害時における女性の相談体制の整備	その他	特にない	無回答
全体		1026	29.1	47.0	18.2	19.6	33.0	59.2	28.3	1.6	2.8	5.9
年齢別	10代	17	35.3	17.6	41.2	5.9	47.1	70.6	47.1			
	20代	60	26.7	36.7	15.0	23.3	33.3	61.7	31.7	1.7	3.3	3.3
	30代	99	29.3	36.4	18.2	17.2	31.3	62.6	30.3	2.0	3.0	
	40代	142	26.8	50.0	13.4	19.0	27.5	50.0	35.9	1.4	4.2	2.1
	50代	180	23.9	46.1	19.4	18.3	33.9	58.3	29.4	2.2	4.4	3.9
	60代	227	30.4	47.1	20.7	23.8	37.0	64.8	30.8	1.3	1.8	3.1
	70代以上	270	34.1	55.9	17.8	18.9	33.7	58.9	19.3	1.5	1.9	11.5

９　男女共同参画に関する施策について

（１）男女共同参画を進めるために力を入れるべきこと

問３２	男女共同参画を進めるために、福島市は今後どのようなことに力を入れていくべきと思いますか。(複数回答)

◇全体

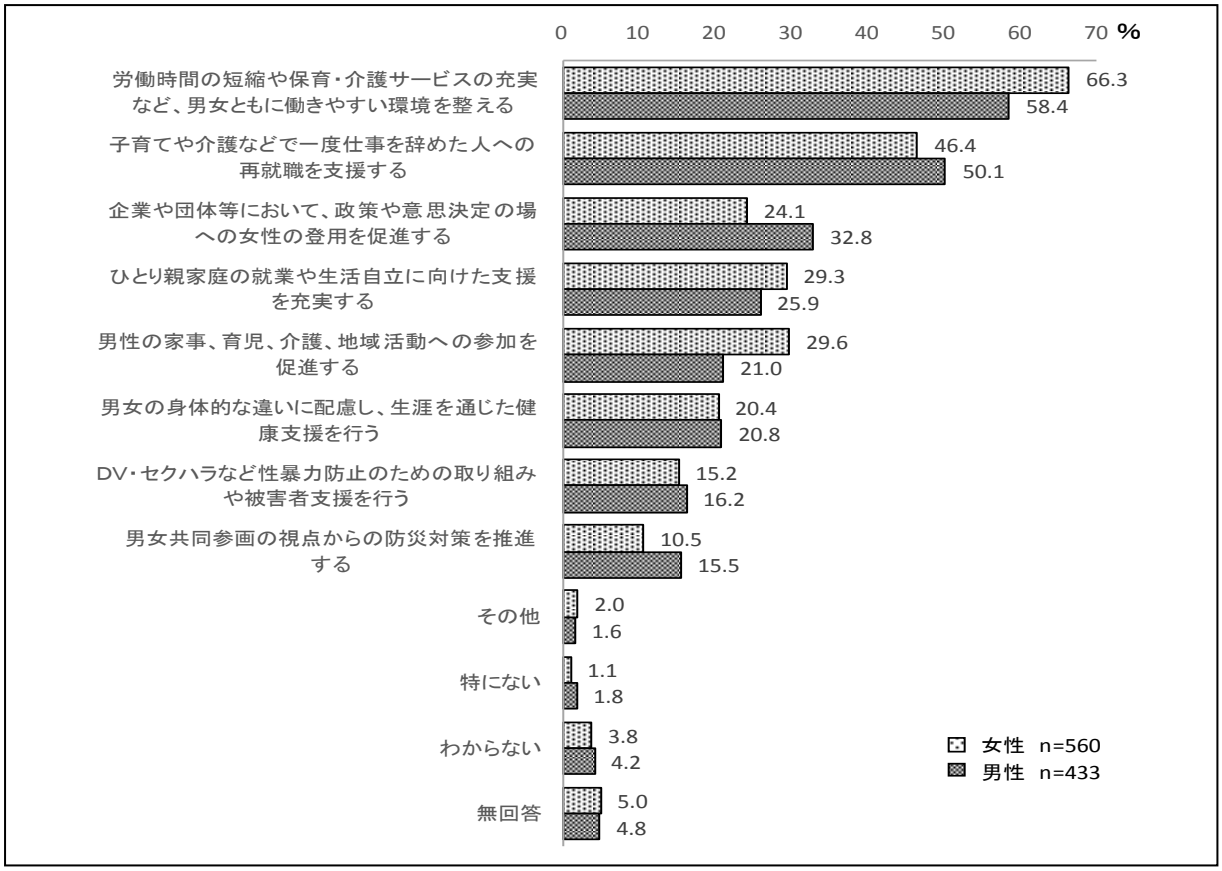


●「労働時間の短縮や保育・介護サービスの充実など、男女ともに働きやすい環境を整える」（62.0%）が最も多く、次いで「子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する」（47.3%）が続く。

●また、「企業や団体等において、政策や意思決定の場への女性の登用を促進する」(28.0%)、「ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実する」(27.7%)、「男性の家事、育児、地域活動への参加を促進する」（25.6%）の割合も３割近くと多い。

◇性別

「労働時間の短縮や保育・介護サービスの充実など、男女ともに働きやすい環境を整える」は、女性（66.3%）が男性（58.4%）より 7.9 ポイント多く、「子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する」は、男性（50.1%）が女性（46.4%）を 3.7 ポイント上回る。



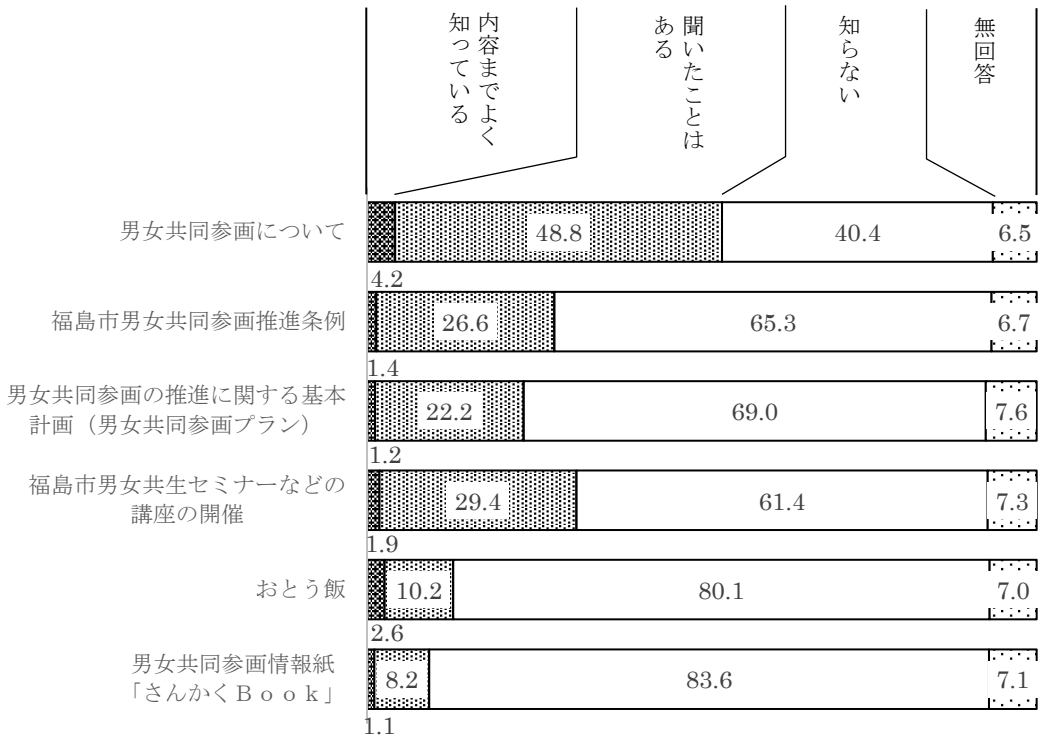
◇年齢別

「労働時間の短縮や保育・介護サービスの充実など、男女ともに働きやすい環境を整える」は、20 代（75・0%）をはじめ、30 代～60 代の割合も 6 割台と高く、「子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する」は、10 代（82.4%）の割合が特に高い。

		合計	企業や団体等において、政策や意思決定の場への女性の登用を促進する	労働時間の短縮や保育・介護サービスの充実など、男女ともに働きやすい環境を整える	子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する	ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実する	男性の家事、育児、介護、地域活動への参加を促進する	DV・セクハラなど性暴力防止のための取り組みや被害者支援を行う	男女の身体的な違いに配慮し、生涯を通じた健康支援を行う	男女共同参画の視点からの防災対策を推進する	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1,026	28.0	62.0	47.3	27.7	25.6	15.3	20.4	12.5	1.9	1.4	3.9	5.8
年齢別	10代	17	29.4	58.8	82.4	23.5	41.2	35.3	11.8				11.8	
	20代	60	26.7	75.0	45.0	36.7	28.3	18.3	28.3	5.0	1.7		1.7	3.3
	30代	99	25.3	66.7	46.5	29.3	30.3	16.2	17.2	5.1	6.1		3.0	
	40代	142	19.0	66.2	50.0	32.4	21.1	13.4	19.0	5.6		2.8	9.2	0.7
	50代	180	28.3	61.1	46.1	23.9	28.3	17.8	16.7	12.2	3.9	1.7	3.3	4.4
	60代	227	30.4	67.8	46.3	25.6	27.8	15.4	23.3	15.4	1.3	1.8	1.8	4.0
	70代以上	270	31.9	53.7	48.9	28.1	21.9	13.7	21.5	19.6	0.7	1.1	3.7	10.7

（２）福島市の男女共同参画推進の取り組みに対する認知度

問３３	あなたは、福島市の男女共同参画推進の取り組みについてご存知ですか。

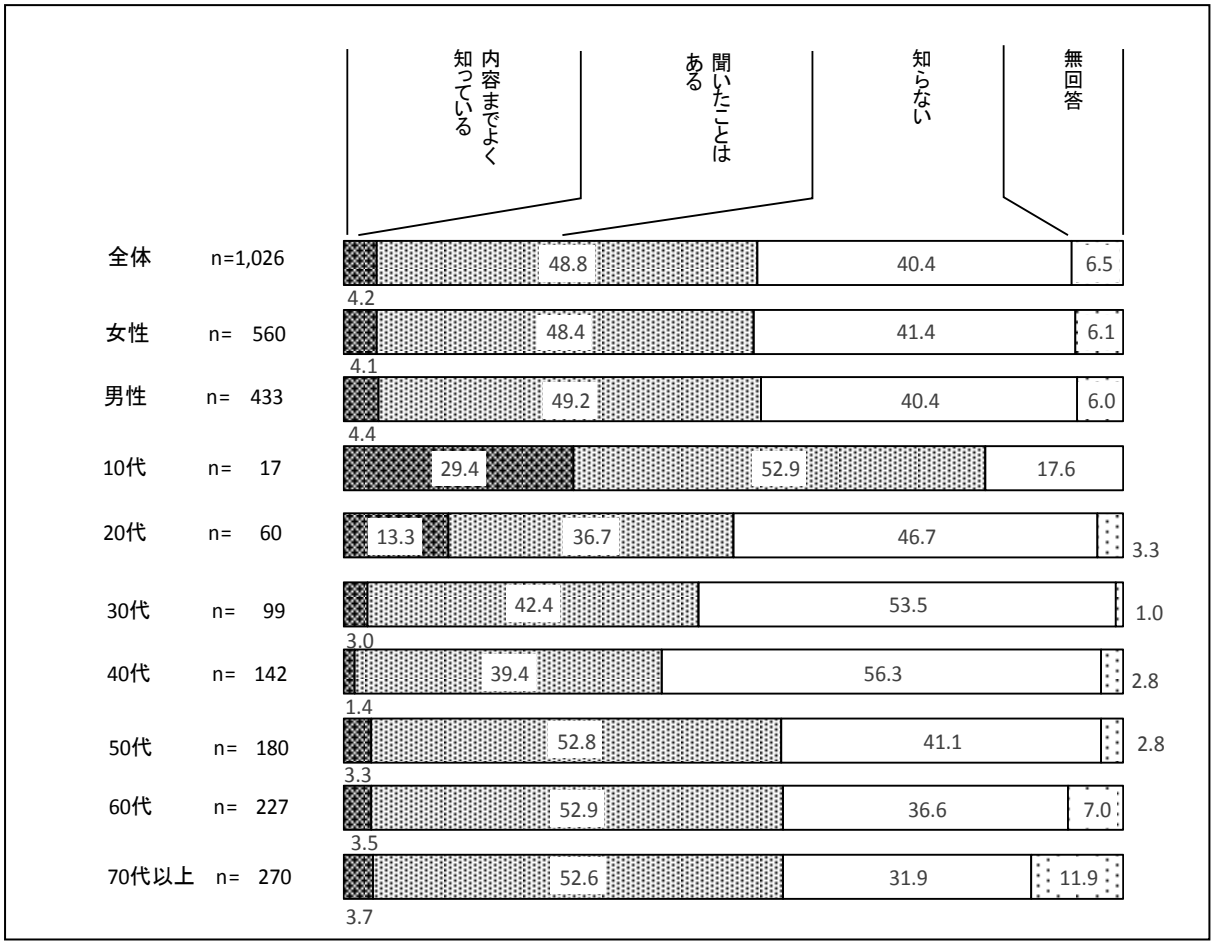


●“内容までよく知っている”は、最も多い「男女共同参画について」でもわずか 4.2%であり、その他はさらに少ない。

●“聞いたことはある”は、「男女共同参画について」(48.8%）で最も多く、以下、「福島市男女共生セミナーなどの講座の開催」（29.4%)、「福島市男女共同参画推進条例」（26.6%)、「男女共同参画の推進に関する基本計画（男女共同参画プラン)」(22.2%）が 2 割台。「おとう飯」、「男女共同参画情報紙（さんかくＢｏｏｋ)」がそれぞれ 1 割前後である。

●一方、「知らない」は、「おとう飯」と「男女共同参画情報紙（さんかくＢｏｏｋ)」が 8 割以上と特に多い。

①男女共同参画について



◇全体

「内容までよく知っている」が 4.2%、「聞いたことはある」が 48.8%、「知らない」が 40.4%である。

◇性別

いずれの場合も、女性と男性の割合はほぼ同じである。

◇年齢別

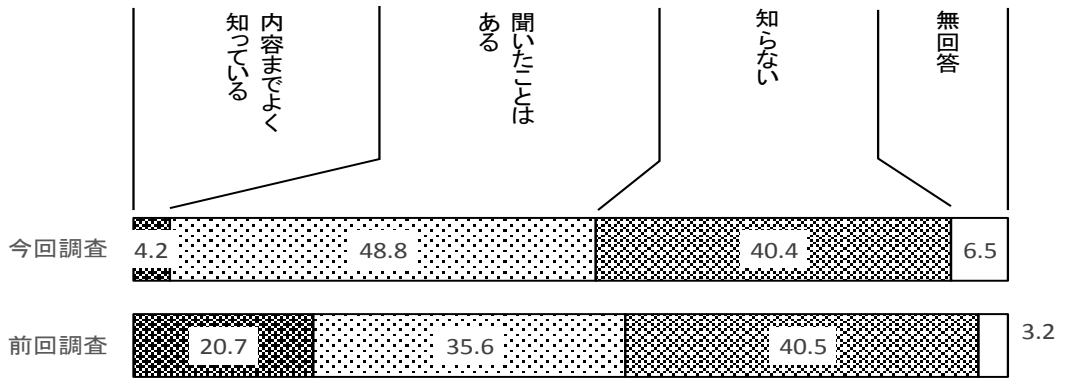
「内容までよく知っている」は、10 代（29.4%）で最も多く、次いで 20 代（13.3%）と若い年代の割合が高く、また、「聞いたことはある」は、10 代をはじめ、50 代～70 代以上の中高年代でも過半数を占める。

一方、「知らない」は、40 代（56.3%）、30 代（53.5%）、20 代（46.7%）で 5 割前後と多い。

◆前回調査との比較

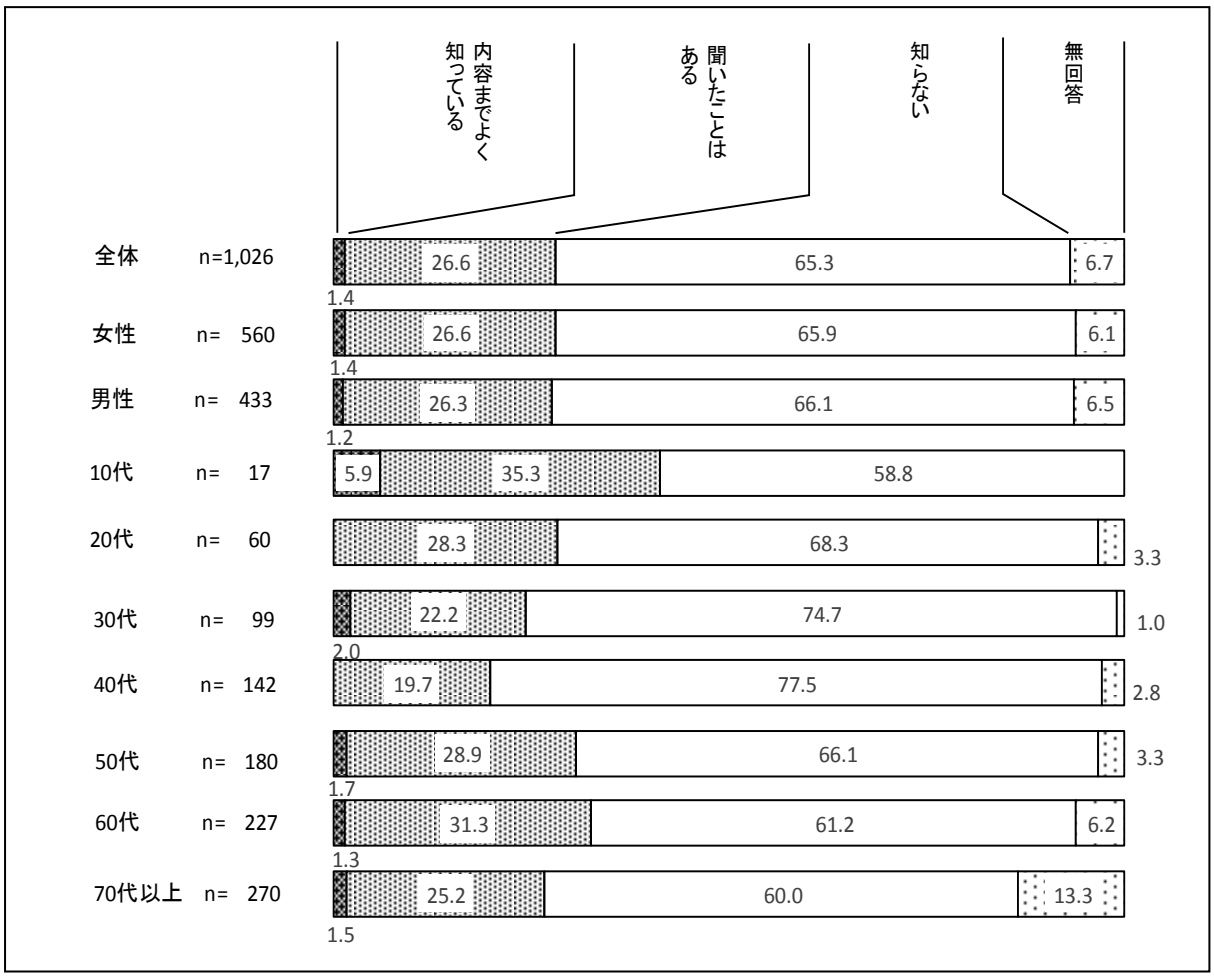
「内容までよく知っている」の割合は、今回調査が前回調査より 16.5 ポイントと大きく減少しているのに対して、「聞いたことがある」は、前回調査より 13.2 ポイント上回る。

一方、「知らない」は、今回調査、前回調査ともほぼ変わらず約 4 割を占める。



（※前回調査は「知っている」が今回調査では「内容までよく知っている」に変わっている。以下、同じ。）

②福島市男女共同参画推進条例



◇全体

「内容までよく知っている」は、1.4%と少なく、「聞いたことはある」が 26.6%、「知らない」は 65.3%である。

◇性別

いずれの場合も、女性と男性の割合はほぼ同じである。

◇年齢別

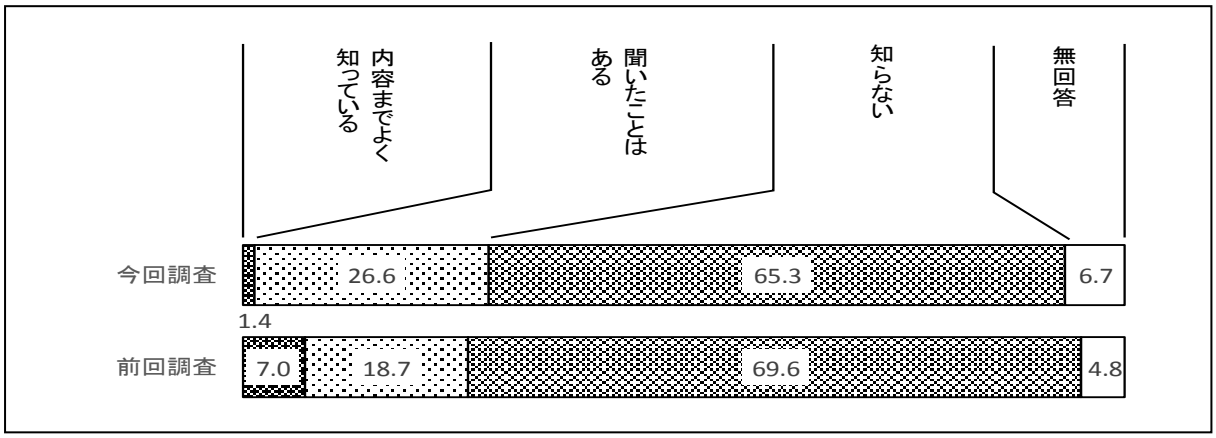
「内容までよく知っている」は、10 代（5.9%）以外はわずかであり、20 代、40 代ではゼロとなっている。また、「聞いたことはある」は、10 代（35.3%）をトップに、60 代（31.3%）、50 代（28.9%）、20 代（28.3%）が続き、40 代（19.7%）が最も低い。

一方、「知らない」は、40 代（77.5%）が最も多く、10 代（58.8%）が最も低い。

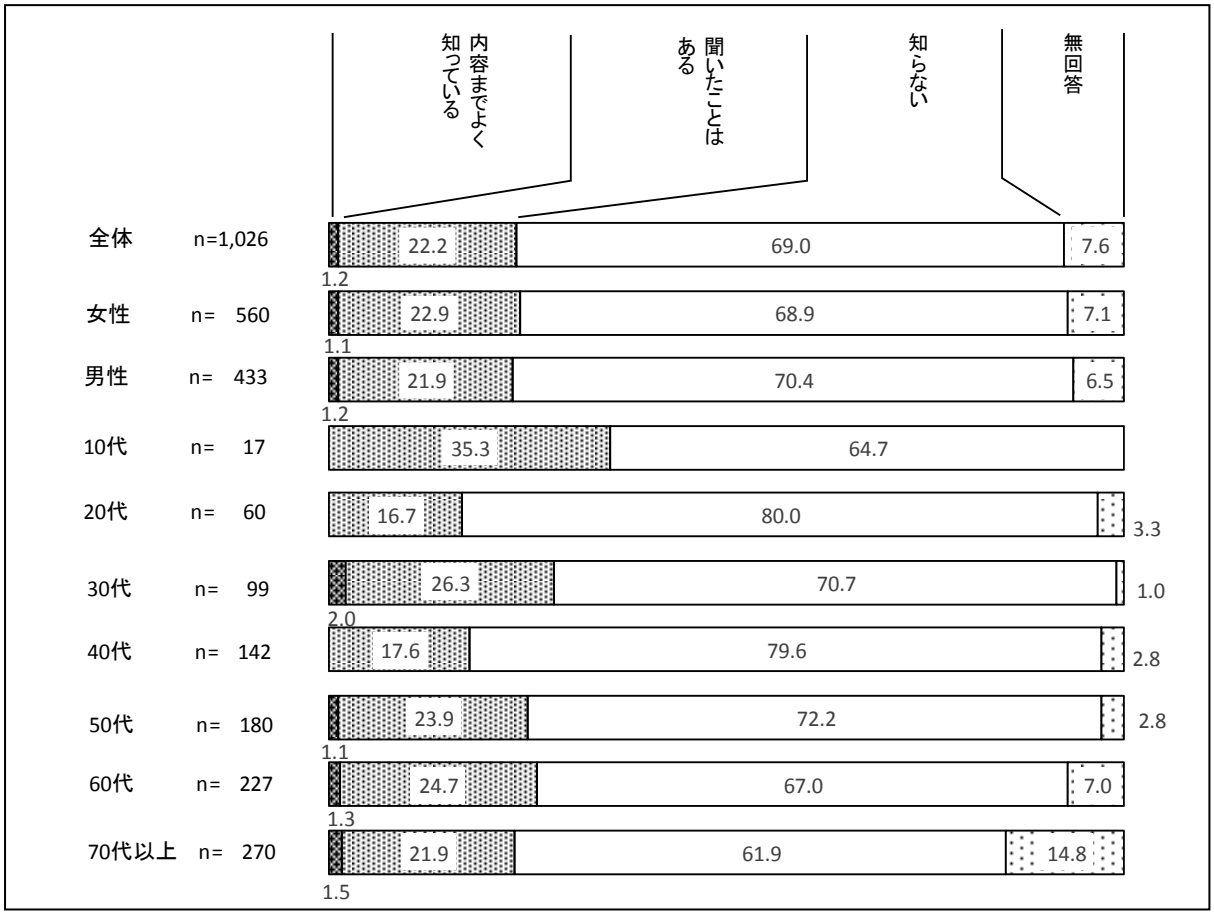
◆前回調査との比較

「内容までよく知っている」の割合は、今回調査が前回調査より 5.6 ポイント減少し、「聞いたことはある」は今回調査の方が 7.9 ポイント上回る。

一方、「知らない」は、前回調査より 4.3 ポイント減少したがいずれも 7 割近くと多い。



③男女共同参画の推進に関する基本計画（男女共同参画プラン）



◇全体

「内容までよく知っている」は、1.2%と少なく、「聞いたことはある」が 22.2%、「知らない」は 69.0%である。

◇性別

いずれの場合も、女性と男性の割合に大きな差はない。

◇年齢別

「内容までよく知っている」は、どの年代も少なく、10 代と 20 代、40 代ではゼロである。

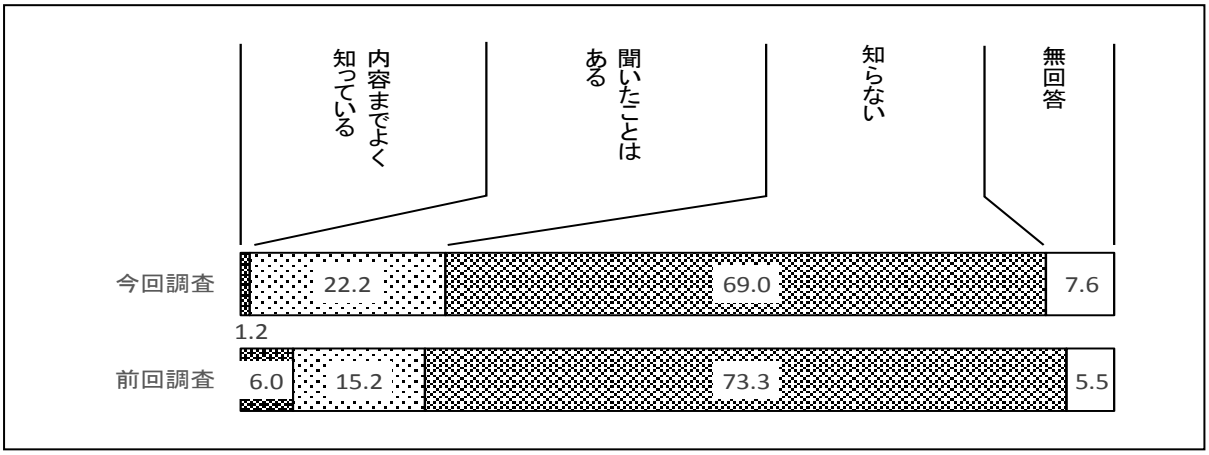
また、「聞いたことはある」は、10 代（35.3%）や 30 代（26.3%）に多く、50 代～70 代以上も 2 割台を占めている。

一方、「知らない」は、20 代（80.0%）や 40 代（79.6%）が最も多く、70 代以上（61.9%）が最も低い。

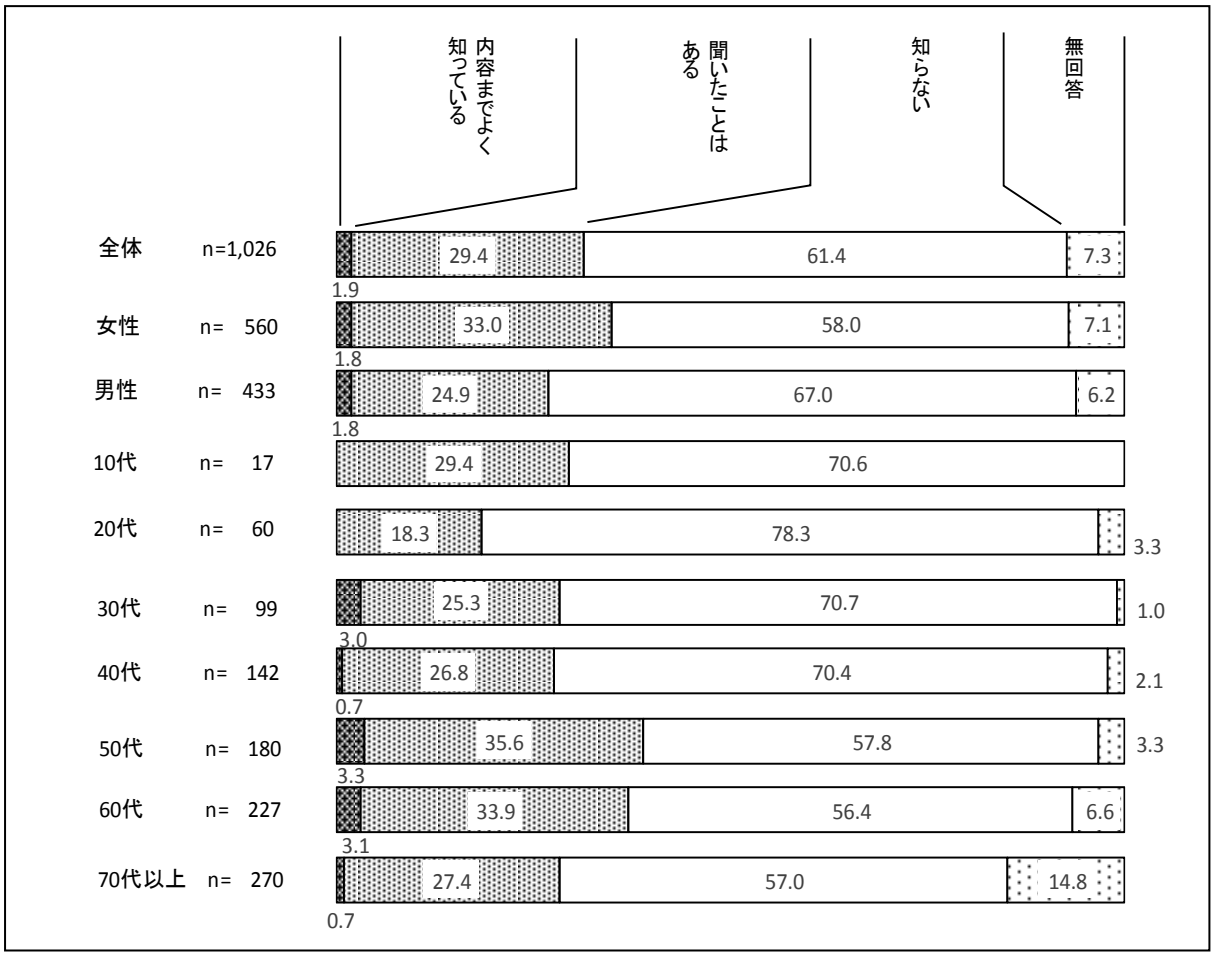
◆前回調査との比較

「内容までよく知っている」の割合は、前回調査より 4.8 ポイント減少し、「聞いたことはある」は、今回調査の方が 7.0 ポイント上回る。

一方、「知らない」は、前回調査より 4.3 ポイント減少しているが、全体の約 7 割と多い。



④福島市男女共生セミナーなどの講座の開催



◇全体

「内容までよく知っている」は1.9%と少なく、「聞いたことはある」が29.4%、「知らない」は61.4%である。

◇性別

「内容までよく知っている」は、女性、男性（ともに1.8%）で同じ。また、「聞いたことはある」は、女性（33.0%）が男性（24.9%）を8.1ポイント上回り、「知らない」は、男性（67.0%）が女性（58.0%）を9.0ポイント上回る。

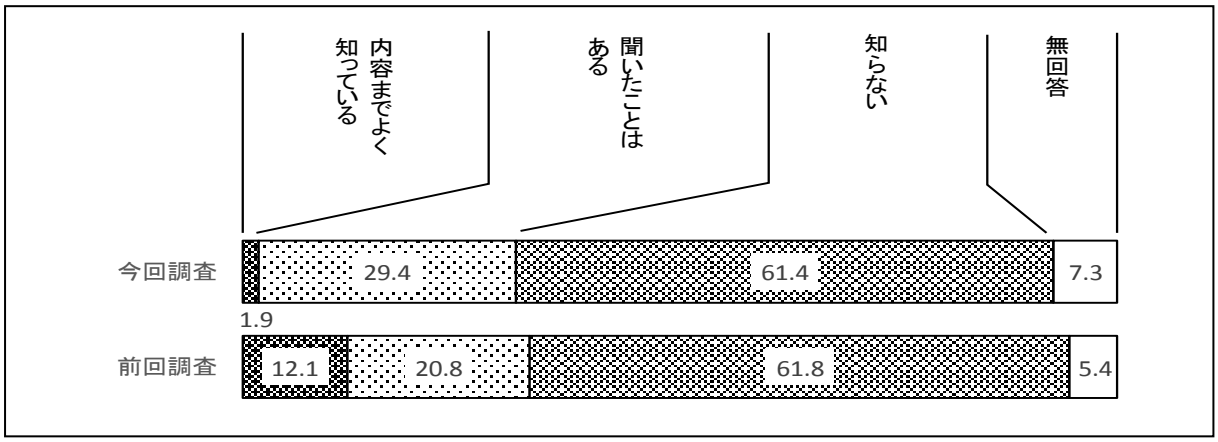
◇年齢別

「内容までよく知っている」は、30代、50代、60代で3%ほど見られるが、10代、20代ではゼロである。また、「聞いたことはある」は、50代（35.6%）、60代（33.9%）が他の年代を上回る。「知らない」は、20代（78.3%）を中心に若い年代の割合が高く、60代（56.4%）が最も低い。

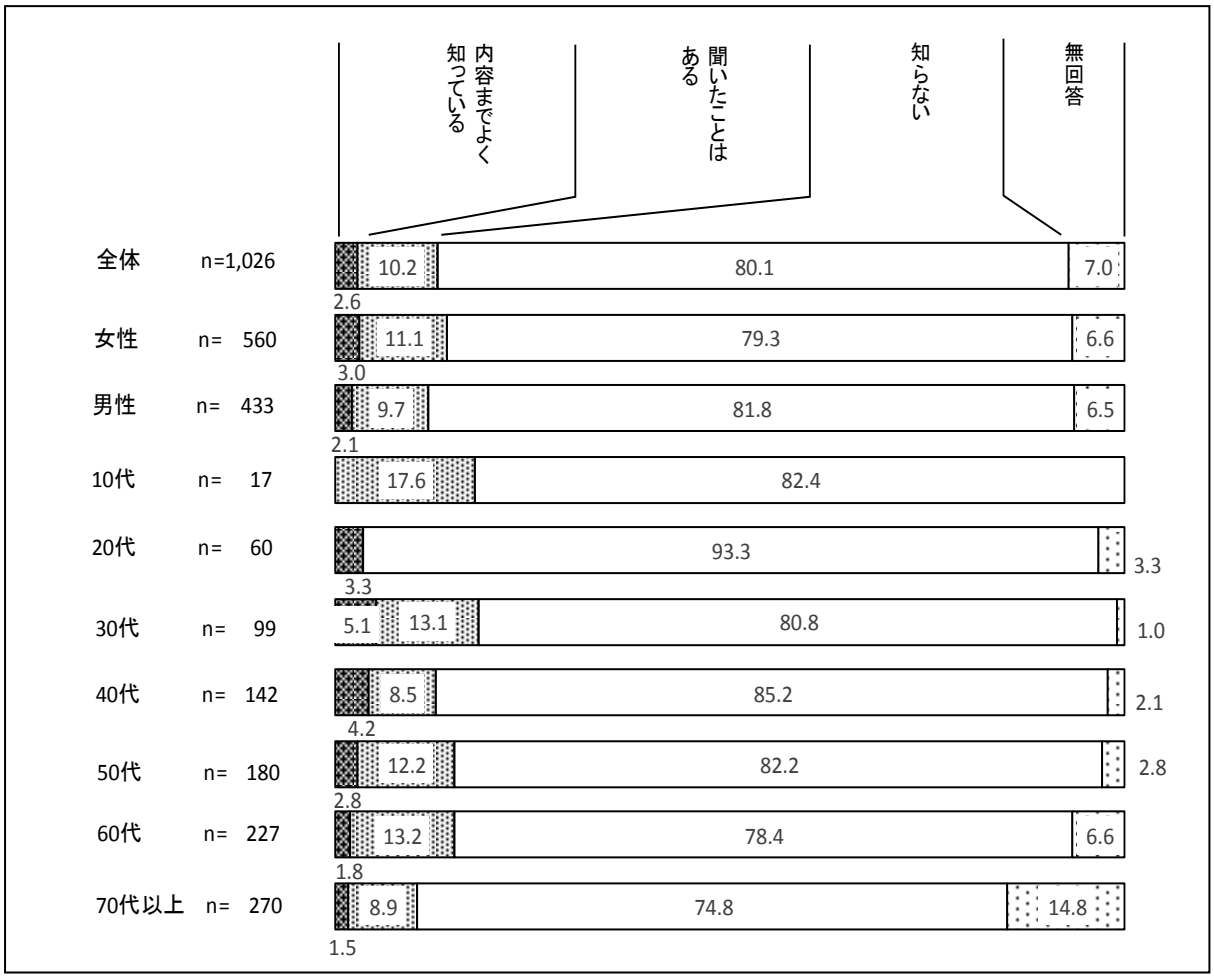
◆前回調査との比較

「内容までよく知っている」の割合は、今回調査が前回調査より 10.2 ポイントと大きく減少したのに対して、「聞いたことはある」は、今回調査が 8.6 ポイント上回る。

一方、約 6 割を占める「知らない」の割合は、今回調査と前回調査でほぼ同じである。



⑤おとう飯



◇全体

「内容までよく知っている」が 2.6%、「聞いたことはある」が 10.2%と少ない。一方、「知らない」は 80.1%と多い。

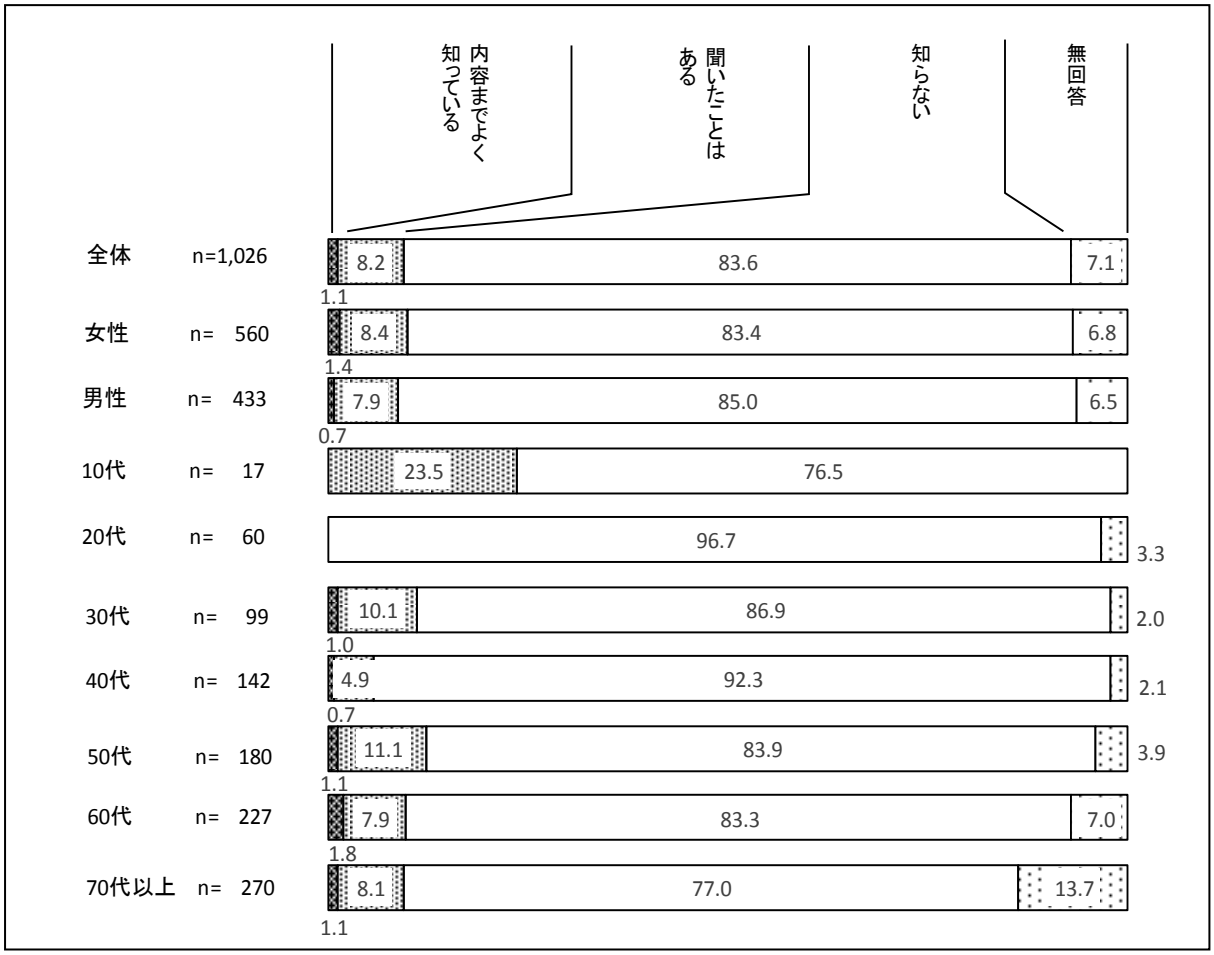
◇性別

「内容までよく知っている」と「聞いたことはある」は、わずかではあるが、それぞれ女性が男性を上回り、「知らない」は、男性（81.8%）が女性（79.3%）よりわずかに多い。

◇年齢別

「内容までよく知っている」は、30 代（5.1%）、40 代（4.2%）、20 代（3.3%）と若い年代がやや多く、「聞いたことはある」は、10 代（17.6%）、60 代（13.2%）、30 代（13.1%）の順となっている。一方、「知らない」は、20 代（93.3%）が最も多く、70 代以上（74.8%）が最も低い。

⑥男女共同参画情報誌「さんかくＢｏｏｋ」



◇全体

「内容までよく知っている」は、1.1%でわずかであり、「聞いたことはある」も 8.2%と少ない。一方、「知らない」は、83.6%である。

◇性別

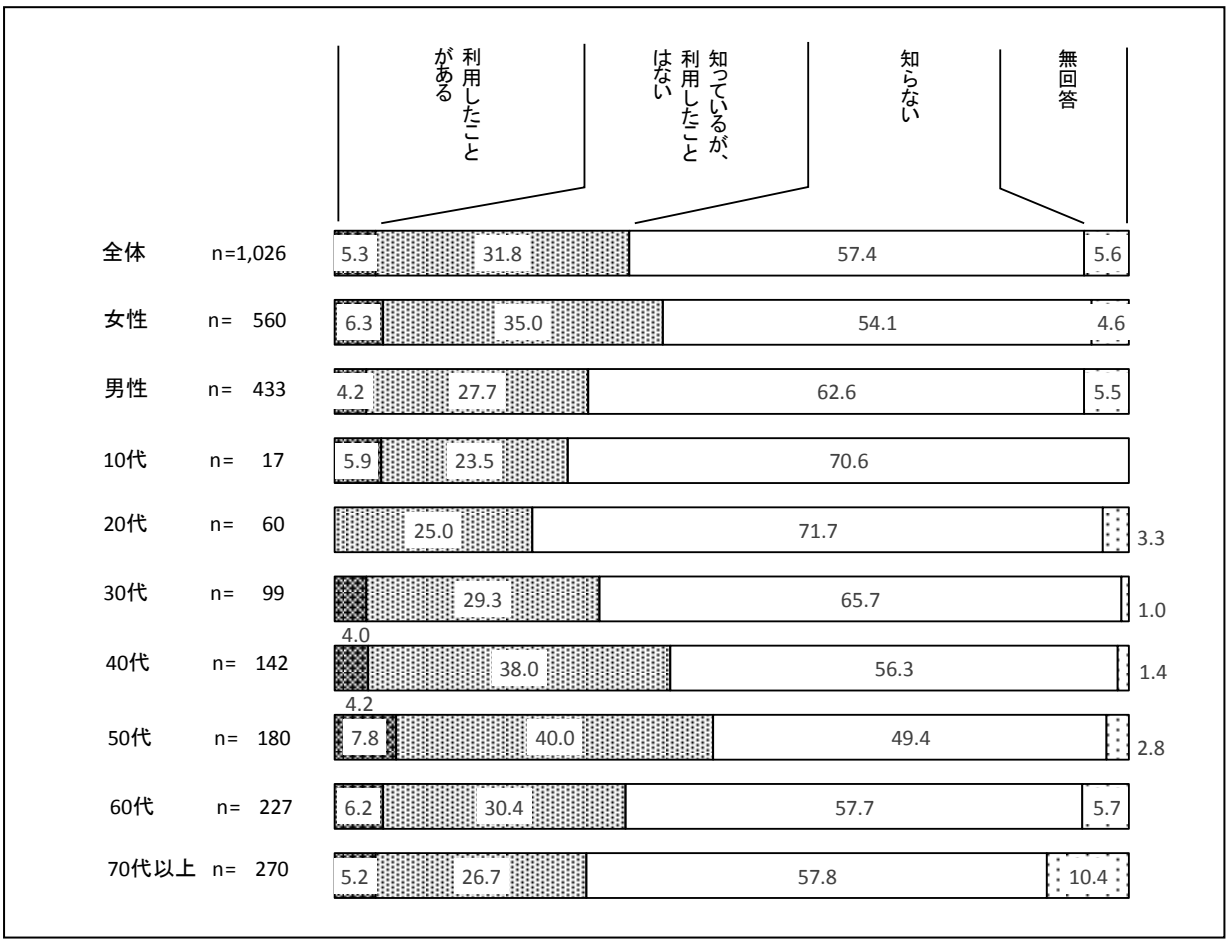
「内容までよく知っている」と「聞いたことはある」は、わずかではあるが、それぞれ女性が男性より多く、一方、「知らない」は男性が女性より若干多い。

◇年齢別

「内容までよく知っている」は、30 代～70 代以上の各年代でわずかに見られ、10 代と 20 代ではゼロである。また、「聞いたことはある」は、10 代(23.5%)が最も多く、以下、50 代(11.1%)、30 代（10.1%）が続く。一方、「知らない」は、最も多いのが 20 代（96.7%）で、最も少ないのが 10 代（76.5%）と、どの年代も 7 割以上を占める。

（３）男女共同参画センターへの認知度等

問３４	あなたは、男女共同参画センター（愛称：ウィズ・もとまち）をご存知ですか。 また、利用したことがありますか。



◇全体

「利用したことがある」は 5.3%、「知っているが、利用したことはない」が 31.8%で、「知らない」が 57.4%と多い。

◇性別

「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」は、両方とも女性の割合が男性より多い。

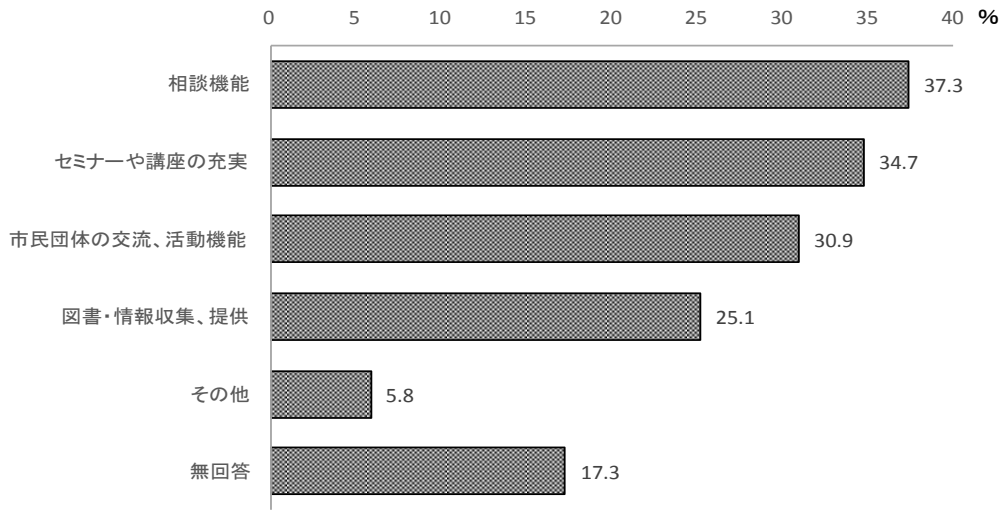
◇年齢別

「利用したことがある」は、50 代～70 代以上の中高年代に多く、また、「知っているが、利用したことはない」は、40 代、50 代の中年代の割合が高い。

（４）「ウィズ・もとまち」充実への要望

問３５	今後、「ウィズ・もとまち」に何を充実してほしいですか。（複数回答）

◇全体

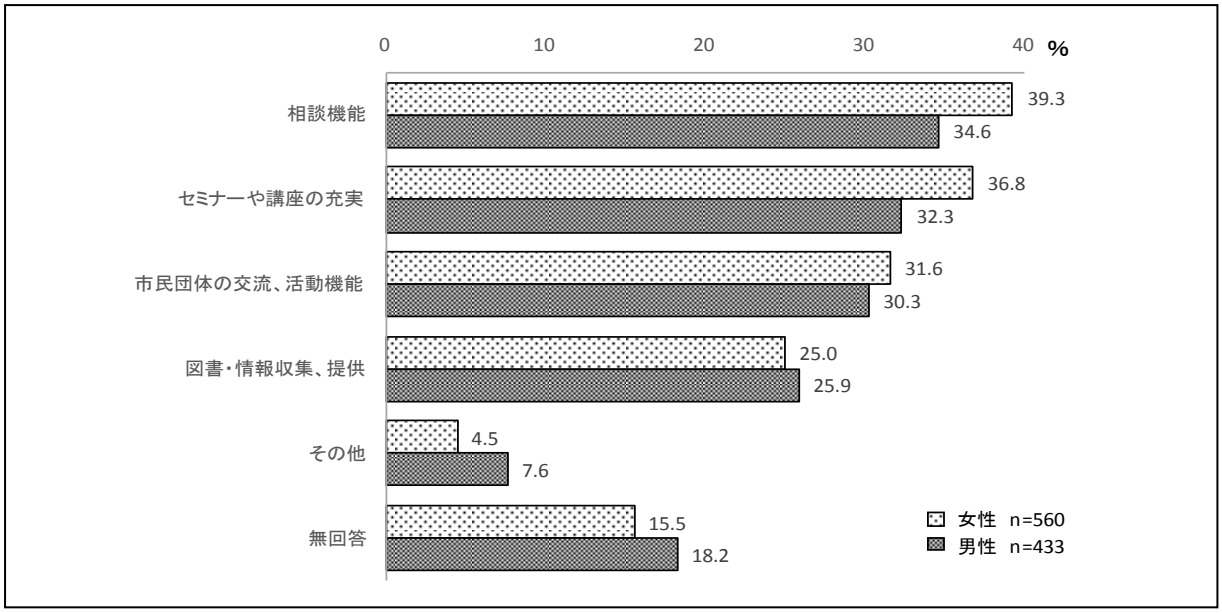


●「相談機能」（37.3%）をトップに、「セミナーや講座の充実」（34.7%）、「市民団体の交流、活動機能」（30.9%）、「図書・情報収集、提供」（25.1%）の順となっており、意見内容は多様化している。

◇性別

「相談機能」は、女性（39.3%）が男性（34.6%）を 4.7 ポイント上回り、「セミナーや講座の充実」も、女性（36.8%）が男性（32.3%）より 4.5 ポイント多い。

一方、「市民団体の交流、活動機能」と「図書・情報収集、提供」では、女性と男性がほぼ同じ割合である。



◇年齢別

「相談機能」は、20 代（48.3%）の割合が最も多く、以下、40 代（41.5%）、10 代（41.2%）と続き、30 代（32.3%）が最も低い。また、「セミナーや講座の充実」は、50 代（44.4%）と 60 代（39.6%）で多く、「市民団体の交流、活動機能」は 10 代（35.3%）、「図書・情報収集、提供」では、30 代（35.4%）や 40 代（32.4%）の割合が多い。

		合計	セミナーや講座の充実	図書・情報収集、提供	相談機能	市民団体の交流、活動機能	その他	無回答
全体		1,026	34.7	25.1	37.3	30.9	5.8	17.3
年齢別	10代	17	17.6	29.4	41.2	35.3		11.8
	20代	60	36.7	23.3	48.3	23.3		8.3
	30代	99	26.3	35.4	32.3	25.3	7.1	12.1
	40代	142	31.0	32.4	41.5	28.2	7.7	10.6
	50代	180	44.4	27.2	37.8	33.9	9.4	11.7
	60代	227	39.6	21.1	37.4	32.6	4.8	17.6
	70代以上	270	30.0	20.0	34.4	32.6	4.4	26.7

１０．自由意見のまとめ

問３６	「市民一人ひとりが個人として尊重され、性別により差別されることなく、自己の能力を発揮できる社会」へ向けて、あなたが日頃感じていることをお聞かせください。

以下は、自由意見欄に記入あった 358 件の意見について、（１）～（９）の調査項目の区分別に整理した中からそれぞれ数件ずつ抜粋したものである。なお、（１０）「複数に渡る意見（１～９の内容と重複するため）」と、（１１）「その他（１～９以外の内容につき）」については、ここでの掲載は省略する。

（１）男女平等意識について

- 色々な取り組みが行われてはいるものの、まだ、男女平等とは言い切れない状況が続いていると思う。(20 代女性)
- 現代の若者や子供たちは、性別による差別意識はほとんどないと思います。社会通念がかわること、セクシャル・マイノリティの方たちが生きやすい世の中になることを望みます。(30 代女性)
- 性別により差別されているわけではなく、能力により区別されていることに気づくべき。声が大きい、能力がない人間が性差別を言い訳にすることは許されないと感じる。(30 代男性)
- 企業や政治など、男性の方が多いポジションを、女性にもどんどん進出させてほしい。男性ばかりの意見があっても偏っていて、豊かさにはつながらない。女性の大切さ、対等さが豊かさへの鍵だと思います。(40 代女性)
- 男性であること、女性であることを意識せず、能力で全て判断する社会になるとよい。(40 代男性)
- 一人ひとりの能力は違うので、男女まったく一緒にはしなくても良いとは思うが、能力ある人は認めてもらいたいと思う。(50 代女性)
- 男性であること、女性であることを意識せず、能力で全て判断する社会になるとよい。(50 代男性)
- だいぶ抵抗無く受け入れられるようになった気がします。でも、もっともっと理解されるようになってほしいです。(60 代女性)
- 差別されないための個人の責任と、老若男女の共通認識の変化が求められる時期が来ている。(70 代男性)

（２）家庭・結婚観、地域活動について

- 家事、育児は女性の仕事という意識は廃れるべき。今の世代は、共働きでないと生活や将来に不安がある。特に、育児については、男性がもっと参加してしかるべき。男性の育休取得が当たり前、普通のことになるように、社会、会社の意識改革が必要。(20 代女性)

- 外で活躍する事（人）だけでなく、家庭内で子育てや家事をしている事（人）も認めてほしい。仕方なく家庭にいる（仕事をしていない）のでなく、望んでそうしている人もいる。男か女かではなく、個人の価値観で、自分が 1 番幸せと思える生き方ができる社会になるといい。（30 代女性）
- 人それぞれ心も考えも違う。普通ってくくりでそこから差別が出てくるんだと思う。みな考え方がた違うし、理解してくれる人が身近にいてくれることが大切なのかも。（30 代男性）
- 育児、介護は女性がするべきだという考えを改めなければ、男女が平等に自己の能力を発揮できる社会は難しいと思う。（40 代女性）
- 男は男だから、女は女だからと固定観念を持たないことが一個人の能力を発揮できるのではないかと思う。（40 代男性）
- 私の周りでは、女性が大切にされています。男性の労働時間の見直し等を行い、家庭、社会活動への参加しやすい環境づくりが必要と思います。（50 代男性）
- 健康長寿社会に向けて、現役を離れた（リタイア）後も社会参加を促進して、将来を担う世代への育成に協力をして頂き、様々な、幅広い知識を「福島の宝」として後世に繋いでいただくことを望みます。（60 代女性）
- 昔に比べると、女性の積極性はすばらしいが、さらに地域活動等において指導者として活躍してほしい。（70 代以上男性）

（３）女性活躍の推進について

- 老人のモラルのなさ、年配者は敬われて当然という態度がおかしいと思う。行政も企業も若返りが大切なのでは。（20 代女性）
- 少子化と言っているが、産んでも預けられる保育園が少ない。保育園卒園しても小学生を預かってくれる学童も少ない。ようやく働ける頃には、子供の学費など出費が多く、もっと働きたいが、親の介護があり、思うように働けなくなる。男性は、家庭があっても昇進、昇格するが、女性は家庭があると昇進も昇格もなかなかできない。（30 代女性）
- 女性が自分の特技を生かし、起業する人がたくさん増えればいいのにと思ってきます。（40代女性）
- 保育園、幼稚園などに、子育てが終わったベテラン主婦（主夫）などに短い時間でも働けるようにするとか、子供のために力を入れてほしい。（50 代女性）
- 女性自らが、女性だからこの程度で良いとハードルを下げてしまい、自ら挑戦する事を望まない。これでは女性の地位は向上しない。
- 環境の充実が図られれば、時間的な余裕があるので、積極的に地域的に女性が参画できるシステムを作って欲しい。それと高齢者の健康な男女をもっと参画しやすい環境を作って欲しい。（70 代以上男性）
- 女性の雇用を増やし安定させる。仕事と育児が両立できる仕組みを充実させる。ここらを整えていかないと、女性の社会的活躍が進まないかなと思います。（70 代以上男性）

（４）職業・就労について

- 能力、体格や体力、成長する速度など、人それぞれ個人差があるものがたくさんあります。それを尊重される職場づくりをするべきだと思います。（10 代女性）
- 会社によっては、女性が役職に付けないという風習がまだあると思うので、性別を問わずしっかりと能力を評価して決めた方がよいと思う。（20 代男性）
- 性別に関係なく、リーダーシップのある人材を管理職にするなどし、スキルアップを図れる環境を整えられるといいと思う。育児や介護をする人たちの負担が少しでもなくせるようにし、社会に貢献できるようになればいいと思う。安心して子育てができるよう、手当ての充実に力を入れられたらいいのではないかと思う。（30 代女性）
- 男女共に、職場や会社において若い人ばかり優遇されるのはおかしい。年齢は関係なく、その人の人格、能力、やる気で評価してほしい。職場の上司によって、サービス残業を認めたり、認めなかったりするのは納得がいかない。（40 代女性）
- 男女関係なしで一人親は何かと大変です。正規で働けない現状がありますので、福島県（市）で賃金等の見直しや手当て等をもう少し考えていただきたいです。他県と比べ、手当てが低すぎて生活がしにくいです。（40 代男性）
- 職場でも家庭でも、必要とされている実感を味わうことができ、能力が正当に評価される事が働くことへの意欲へつながると感じる。健全な職場が増えていくことを願う。（50 代女性）
- 誰もが、働きたいと思える、働きたいときに働ける。そして、企業も個人も豊かになれる。そのような社会になることが望まれます。（50 代男性）
- 学力重視ではなく、本人の得意分野を生かして働ける職場があると望ましい。（70 代以上女性）

（５）子どもの教育について

- 家庭の中でつくり上げられる考え方というのは大きいので、現代社会においては小さいうちから男女平等、役割分担が当たり前という環境の中で成長していってほしい。家庭だけでなく、社会全体がそのような考え方で子供たちを育てていってほしい。（40 代女性）
- 仕事が続かない若い方が多いように思います。社会に出るまでの家庭の中でのかかわり合い方、社会で生きていくために大事な事とか、学校だけでなく、家庭の中での親の役割が大切だと感じています。（50 代女性）
- 教育だと思う。（家庭や地域社会、学校、社会生活での）（50 代男性）
- 子どもの頃からの意識付けなければ大人になってからでは思うように浸透していかないと思う。男女共に、相手を想い、話を聞いて、互いの立場を尊重し合えるようになればと思います。（60 代女性）
- 新しいものを追い続けるのを見直し、古きよき時代の心をもっと子供たちに伝えて欲しい。すぐに手に入るのではなくがまんする心、がまんして手に入れた時の喜びを知る事も大事。物にあふれているこの時代の先に見えるのは、崩壊に続く闇だけである。自然も愛せない、守れない人が多すぎる。（70 代以上女性）

- 次世代を担う子供への教育が大切。（70 代以上男性）

（６）介護について

- 介護の現場で働きながら、充実した毎日を送ることができるようになりました。女性の多い職場となっています。男性も登用できるような介護の現場になっても良いと考えます。（40 代男性）
- 自宅介護は大変。介護度 4、5 の場合、利用料金も高く、回数を減らすか、自分たちでするか。利用料金負担を補助すべきだと思います。（60 代女性）
- 今後、ますます高齢者が多くなり、私を含め、一人ひとりの老人のケアを大切にして頂きたいと思っています。（70 代以上女性）

（７）人権について

- 性的少数者を理解する人がもっと増えるよう、講座などで機会を設けるべきだと思う。（10 代女性）
- カミングアウトしても、何の被害も被らない社会、危害、迫害されない社会がほしい。（20 代男性）
- 福島は未だに「女性」ということに不利を感じることが多い。古い体質をそのままにせず、時代にあった柔軟な考え、取り組み、議論があたり前にできるようになってほしい。50 代以上の、特に管理職についている男性の意識が低いと感じます。Wワークで接客業もしているため、企業に属していますが、とにかくモラハラ、セクハラが多いです。（30 代女性）
- 職場や組織内でのセクハラ、パワハラ等はなくしていかないとだめだと思います。性的少数者の人は、身近にいないのでよく分からないのですが、そういう人たちがカミングアウトしても、普通に暮らせる社会や職場であって欲しいと思います。（50 代女性）
- 女性はモラハラを地域から受けやすいです。意識そのものを変える提案がほしい。（50 代女性）
- マスコミの報道などで、セクシュアル・マイノリティなどの抵抗感は軽減されていると思うが、企業内での男女差やパワハラ、セクハラ等表にでないものが多い。実力主義やAI化での仕事に取り組む姿勢や環境が大きく変わって行く中で、”個人を尊重する”人としてのあるべき姿が失われていっていないか？社会全体で忘れないようにしていけたらと感じる。（50 代男性）
- 私の会社にもセクシュアル・マイノリティの方が 4 人入社しました。それぞれが最初は積極的ではありませんでした。次第に慣れてきて明るく快活に元気良く勤めていただき、職場においてもリーダー的な存在で活躍していただきました。受け入れ側が特別な目で見る事なく、一人の人間として付き合っていく事が大事だと思います。（60 代男性）

（８）防災について

- 社会、地域においてもまだまだ女性に対する差別はあると思います。積極的に参加しようと思っても高齢男性からは、生意気とか女のくせにという感じを持たれてしまいます。実際、災害時は

女性の力の大切さを理解していない人が多い。全て、男性目線で決めてしまうことが多いので、なかなか女性が前に出て活躍するのは難しいのが現実です。(60 代女性)

（９）男女共同参画に関する施策について

- 性別による差別などの問題は、どれも差別する側に精神的あるいは経済的な余裕がないことに起因しているように思います。余裕を持って生活を送れるような制度を整えてもらえると良いと思っています。(10 代男性)
- 相談したくてもできない人、しようと思っていてもやらない人のために、情報や窓口を提供する事は大切ですが、地域ごと、職場ごと、各家庭に立ち入り検査のような形で福島市の方から歩み寄ってもらえるといいと思います。周囲の目や意見を気にして、声を出したくても出せない人もいると思います。そういった方々のためにも、福島市の方から内側に入って話を聞いてほしいです。(20 代女性)
- 市民一人ひとりの意見を尊重し、福島市が政策を行って頂ければと思う。市民の負担が減る政策の情報の発信を、市民が情報共有できるよう行ってほしい。(30 代男性)
- 自己の能力を発揮できる場が見つけられない人が多いのではないか。場作りから始めてほしい。(40 代女性)
- 何かのイベント、講座、セミナー等開催の際、あわせて保育・一時預かり等のセッティングサービスがあれば、気軽に参加(女性)できるのではないだろうか。そういった行政サービスをおおいにコマーシャルすることも大切である。しっかり伝わる、しっかり浸透する、しっかり周知するように。(50 代女性)
- 一人ひとりの人間が、生きがいを感じながら子育て、仕事、その他の家庭生活や地域での活動に取り組んでいけるような社会が実現できたら良いと思います。子育てには、経済的にはもちろん精神的にも余裕が必要だと思います。子育てする若い人達の気持ちを支え、激励してあげる場所(市内の交通の利便性の高いところに子育てセンター等)の充実を希望します。(60 代女性)
- 様々な講習会を町内会ごとに開催していただくことで参加しやすくなると考えますので、ご検討いただければと思います。(60 代男性)
- 市民一人ひとりが参加できる学習会や活動できるものを多く作っていただきたいと思います。(70 代以上女性)
- 福島市男女共同参画についてのPR事業が少ない。社会全体に賛同を求めるべきである。(70 代以上男性)

資　料　編

1　男女共同参画に関する意識調査票 173
2　男女共同参画に関する意識調査票の別紙 189

資料編

1　男女共同参画に関する意識調査票

あ な た の 声 を お 聞 か せ く だ さ い

『男女共同参画に関する意識調査』についてのお願い

日頃より、福島市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本市では、すべての市民が性別にとらわれることなく、個性と能力が発揮できる「男女共同参画社会」の実現をめざして、「福島市男女共同参画推進条例」を制定し、さまざまな施策に取り組んでいます。

このたび、令和３年からの男女共同参画に関する基本計画である「男女共同参画ふくしまプラン」を策定するにあたり、皆様のお考えや生活のあり方についてお伺いするための調査を行います。

お手数をお掛けいたしますが、ご回答にご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和元年７月

福島市長　木 幡　浩

※結果は統計的に処理し、他の目的に用いることはありません。

※今回のアンケートは市内にご住所のある方から２，５００人を無作為に選ばせていただきました。

ご記入にあたってのお願い

１．日常生活の中であなたが感じていることを、あなたご自身(封筒のあて名のご本人)がお答えください。

２．各質問のあてはまる番号に○をつけてください。なお、その他を選んだ場合と問36についてはご記入ください。

３．ご記入していただいた調査票は、同封の封筒により**７月３１日まで**に投函してください。**切手を貼る必要はありません。**

※お問合せ先

〒９６０－８０３５　福島市本町２－６

福島市総務部 男女共同参画センター「ウィズ・もとまち」

TEL ０２４－５２５－３７８４（直通）

【現在のあなたご自身についておたずねします】

問1　あなたの性別をおたずねします。（1つに○）

1　女性
2　男性
3　その他

問2　あなたの年齢は次のうちどれですか。（1つに○）

1　10代
2　20代
3　30代
4　40代
5　50代
6　60代
7　70代以上

問3　あなたのご職業をおたずねします。（もっともあてはまるもの1つに○）

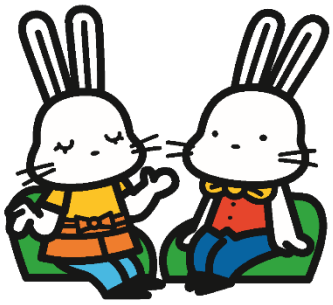
1　農林漁業
2　商工自営業
3　役員・管理職
4　専門技術職
5　事務職
6　労務・技能職
7　販売・サービス業
8　主婦、主夫
9　学生
10　無職
11　その他（　　）

問4　あなたは現在、結婚されていますか。（1つに○）

1　している　　→問4－1へ
2　していない

問4－1　問4で1と答えた方にお聞きします。あなたは共働きですか？

1　共働きをしている
2　共働きをしていない



【男女平等意識についておたずねします】

問5　あなたは、次の各分野での男女の地位が平等だと思いますか。
（ぞれぞれの項目ごとに、1つに○）

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	男女平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
1　家庭生活では	1	2	3	4	5	6
2　職場では	1	2	3	4	5	6
3　学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
4　地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
5　法律や制度上では	1	2	3	4	5	6
6　政治の場では	1	2	3	4	5	6
7　社会通念、慣習、しきたりでは	1	2	3	4	5	6
8　社会全体では	1	2	3	4	5	6

問6　あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。（1つに○）

1　女性は職業を持たないほうが良い
2　結婚するまでは職業を持つほうが良い
3　子どもができるまでは、職業を持つほうが良い
4　子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうが良い
5　子どもができても、ずっと職業を続けるほうが良い
6　その他（具体的に:　　）
7　わからない

問7　あなたが、次にあげる職業や役職で女性がもっと増えたほうが良いと思うものはどれですか。（3つまで○）

1　都道府県、市町村の首長
2　国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員
3　国家公務員・地方公務員の管理職
4　裁判官、検察官、弁護士
5　大学教授
6　小中学校・高校の校長・教頭
7　国連などの国際機関の管理職
8　企業の管理職
9　起業家・経営者
10　医師・歯科医師
11　労働組合幹部
12　農協の役員
13　新聞・放送の記者
14　自治会長、町内会長
15　その他（具体的に:　　）
16　女性が増えたほうが良いとは思わない
17　わからない

【家庭・結婚観、地域活動についてお聞きします】

問8　あなたは、結婚、家庭、離婚に関する次のような考え方をどう思いますか。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

項　　目	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成（そう思う）	どちらかといえば反対（そう思わない）	反対（そう思わない）	どちらともいえない
1　結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
2　男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
3　女性が仕事を持つのはよいが、家事・育児等と両立させるべきである	1	2	3	4	5
4　結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである	1	2	3	4	5
5　男性も育休を積極的にとるべきである	1	2	3	4	5
6　結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
7　一般的に今の社会では、離婚した場合、女性のほうが不利である	1	2	3	4	5

問9　あなたの家庭では、次にあげるような家事、育児や介護等を、主にどなたがおこなっていますか。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

	主に夫	主に妻	夫婦で	家族全員（夫婦と子ども）	その他の家族	該当しない
1　食事の用意	1	2	3	4	5	6
2　あとかたづけ	1	2	3	4	5	6
3　掃除	1	2	3	4	5	6
4　洗濯	1	2	3	4	5	6
5　日常の買い物	1	2	3	4	5	6
6　子どもの世話や教育	1	2	3	4	5	6
7　家族の世話や介護	1	2	3	4	5	6
8　地域の行事参加や近所とのつきあい	1	2	3	4	5	6

問10　今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1　男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2　男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3　夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4　年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
5　社会の中で、男性の家事、育児、介護、地域活動などについても、その評価を高めること
6　労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを普及させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7　男性の家事、育児、介護、地域活動などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
8　男性が家事、育児、介護、地域活動などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること
9　その他（具体的に：　　）
10　特に必要なことはない

問11　あなたは現在、職業以外に何かおこなっている活動はありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　特にない　　→問12へ
2　各種ボランティア、NPO
3　自治会、町内会の役員
4　子ども会、青少年グループの世話
5　PTA活動
6　各種女性団体の活動
7　消費者団体等の消費者活動
8　趣味、サークル、スポーツ等の活動
9　政治活動、労働組合活動
10　環境、美化、自然保護活動
11　国際交流、国際理解活動
12　その他（具体的に:　　）

問12　問11で1と答えた方にお聞きします。あなたが問11の活動に参加していない、
もしくは参加できない理由は何ですか。（1つに○）

1　仕事が忙しく時間がないから
2　出産、育児があるから
3　介護の必要な家族がいるから
4　家族の協力が得られないから
5　転勤や転居があるから
6　健康に自信がないから
7　やりたい活動がないから
8　魅力のある団体や仲間がいないから
9　活動の場がないから
10　活動の費用がないから
11　活動についての情報がないから
12　その他（具体的に:　　）
13　特に理由はない

【女性活躍の推進についてお聞きします】

問13　あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。（1つに○）

1　活躍している
2　どちらかといえば活躍している　　問14へ
3　どちらかといえば活躍していない
4　活躍していない　　問15へ

問14　問13で1または2と回答した方にお聞きします。活躍していると感じる理由は何ですか。（3つまで○）

1　産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている
2　女性の経営者や管理職が増えている
3　管理職でないが活躍する女性が増えている
4　女性の職域（研究開発、マーケティング、営業など）が広がっている
5　報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている
6　女性のキャリア意識が上がっている
7　長時間労働の慣習が改善されてきている
8　PTAや自治会の会長等、役職に就く女性が増えている
9　その他（具体的に：　　）

問15　問13で3または4と回答した方にお聞きします。活躍していないと感じる理由は何ですか。（3つまで○）

1　産休・育休などの支援制度が充実していない
2　産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい
3　女性の経営者や管理職が少ない
4　女性の職域が限定的である
5　女性のキャリア意識が向上していない
6　出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい
7　男性優位の考え方が変わっていない
8　長時間労働の慣習が改善されていない
9　PTAや自治会の会長等、役職に就いている女性が少ない
10　その他（具体的に：　　）

問16　女性が活躍するには何が必要だと思いますか。（3つまで○）

1　企業トップが女性の活躍促進に積極的であること
2　職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること
3　女性の育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること
4　男性が家事・育児に参加すること
5　企業内で女性の長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
6　男性の長時間労働をなくすこと
7　身近に活躍している先輩（ロールモデル）がいること
8　仕事が適正に評価されていること
9　職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること
10　キャリア形成のための研修制度があること
11　保育施設、保育サービスが充実していること
12　放課後児童クラブが充実していること
13　国や自治体など、行政による企業支援があること
14　地域社会が、自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること
15　その他（具体的に：　　）
16　わからない

【職業・就労についてお聞きします】

問17　仕事と生活について、あなたの考え方（理想）と現実（現状）にもっとも近いものを教えてください。（理想と現実それぞれ1つに○）

項　　目	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに両立	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を全てバランス良く行う	わからない
考え方（理想）	1	2	3	4	5	6	7	8
現実（現状）	1	2	3	4	5	6	7	8

問１８、１９は、現在働いている方におたずねします。

問18　今の職場で、仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思いますか。（1つに○）

1　男性が差別されていると思う　　→問19へ
2　女性が差別されていると思う　　→問19へ
3　そのようなことはないと思う
4　わからない

問19　問18で1または2と答えた方にお聞きします。それは、具体的にどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

1　賃金に差がある
2　昇進、昇格に差別がある
3　能力を正当に評価しない
4　結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある
5　その他（具体的に：　　）

問20　女性が働き続けるために必要なことは何だと思いますか。（3つまで○）

1　賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす
2　パート、派遣労働等の労働条件を改善する
3　労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする
4　セクシュアル・ハラスメント（セクハラ：性的嫌がらせ）のない職場をつくる
5　女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する
6　女性に対して昇進・昇格の機会を確保する
7　女性自身が意欲・能力を高める
8　育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する
9　保育施設、保育サービスを充実する
10　放課後児童クラブを充実する
11　介護施設、介護サービスを充実する
12　育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する
13　家族の理解や協力を得る
14　家事、育児、介護は女性がするものという社会の意識を改める
15　その他（具体的に：　　）
16　わからない

【子どもの教育についてお聞きします】

問21　あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。
お子さんがいらっしゃらない方、お子さんが既に学校を終えられた方も、
ご自分に女の子と男の子がいると仮定してお答えください。
（男の子と女の子それぞれ1つに○）

	中学校	高等学校	各種学校・専修学校	短期大学	大学	大学院	わからない
男の子	1	2	3	4	5	6	7
女の子	1	2	3	4	5	6	7

問22　次の世代を担う子どもたちに対して、人権や男女平等の意識を育成するために
重要だと思うものはどれですか。（3つまで○）

1　学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する
2　学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する
3　学校において、人権や男女平等に関する授業を行う
4　家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う
5　学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う
6　女性の校長や教頭を増やす
7　今のままでよい
8　その他（具体的に:　　）
9　わからない

【介護についてお聞きします】

問23　あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、家族が介護を
要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。
（理想と現実それぞれ1つに○）

項　目	行政や外部のサービスに頼らず、自宅で介護している（したい）	ホームヘルパーやデイサービス等の福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護している（したい）	特別養護老人ホーム等の施設へ入所し、介護サービスを利用している（したい）	わからない
考え方（理想）	1	2	3	4
現実（現状）	1	2	3	4

5　その他※理想（具体的に:　　）
5　その他※現状（具体的に:　　）

問24　自宅で介護する（している）場合、家族の中では主に誰が介護しますか（していますか）。（1つに○）

1　主に、自分が介護すると思う（している）
2　主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）
3　主に、その他の家族（女性）が介護する（している）
4　主に、その他の家族（男性）が介護する（している）
5　その他（具体的に：　　）
6　わからない

【人権についてお聞きします】

問25　次の言葉と意味について知っていますか。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

	言葉も意味も知っている	言葉は知っているが、意味は知らない	知らない
1　セクシュアル・マイノリティ	1	2	3
2　LGBT	1	2	3
3　レズビアン	1	2	3
4　ゲイ	1	2	3
5　バイセクシュアル	1	2	3
6　トランスジェンダー	1	2	3
7　カミングアウト	1	2	3
8　アウティング	1	2	3
9　SOGI	1	2	3

言葉の意味は別紙（ピンクの紙）で解説しています

問26　あなたは、次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことはありますか。
（それぞれの項目ごとに、1つに○）

	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない
1　セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）	1	2	3	4
2　モラハラ（モラル・ハラスメント）	1	2	3	4
3　パワハラ（パワー・ハラスメント）	1	2	3	4
4　マタハラ（マタニティ・ハラスメント）	1	2	3	4
5　パタハラ（パタニティ・ハラスメント）	1	2	3	4
6　ストーカー	1	2	3	4
7　DV（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3	4
8　セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）	1	2	3	4

言葉の意味は別紙（ピンクの紙）で解説しています

問27　問26で「自分が受けた」に○をつけたかたにお聞きします。
あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
（1つに○）

1　相談した
2　どこ（誰）にも相談しなかった　　→問28へ

問28　問27で「2どこ（誰）にも相談しなかった」に○をつけた方にお聞きします。
どこ（誰）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから
2　恥ずかしかったから
3　相談しても無駄だと思ったから
4　相談したことがわかると、仕返しされると思ったから
5　自分さえ我慢すればいいと思ったから
6　世間体が悪いから
7　自分にも悪いところがあると思ったから
8　相談するほどのことではないと思ったから
9　相談できるほど心に余力がなかった
10　その他（具体的に：　　）

問29　次の選択肢の中で性的少数者が感じている問題と思われるものはどれですか。（あてはあまるものすべてに○）

1　就職・職場で不利な扱いを受けること
2　経済的に自立していくことが困難なこと
3　病院や福祉施設等での看護や介護における処遇が不適切であること
4　住宅を容易に借りることができない場合があること
5　スポーツ・文化活動や地域活動の参加に支障があること
6　セクシュアリティを明かせないことで、精神的負担を被ること
7　テレビやインターネットの中で笑いの素材とされること
8　学校や職場でいじめにあう可能性があること
9　じろじろ見られたり、避けられたりすること
10　交流や交際など、日常生活における不利な扱いを受けること
11　異性との交際や結婚を強いられること
12　その他（具体的に：　　）

問30　次のことについて、あなたの考えやお気持ちにもっとも近いものはどれですか。（それぞれの項目ごとに、1つに○）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1　男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	1	2	3	4
2　女性のような男性には、違和感がある	1	2	3	4
3　男性のような女性には、違和感がある	1	2	3	4
4　男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい	1	2	3	4
5　男性が男性に恋愛感情を抱くのは違和感がある	1	2	3	4
6　女性が女性に恋愛感情を抱くのはおかしい	1	2	3	4
7　女性が女性に恋愛感情を抱くのは違和感がある	1	2	3	4
8　男性には女性のような服装をする自由がある	1	2	3	4
9　女性には男性のような服装をする自由がある	1	2	3	4
10　同性を好きになることも性の多様性として認めるべきである	1	2	3	4
11　同性との結婚も認められるべきだ	1	2	3	4

【防災についてお聞きします】

問31　大規模災害時の備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるために、日常的にどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで○）

1　防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり
2　福島市地域防災計画に、性別や年齢等に関わらず多様な市民の意見を反映させる
3　防災会議等の委員への女性の積極的な登用
4　防災に携わる職域等への女性参画の拡大や女性リーダーの育成
5　防災に関する学習機会の提供
6　男女がともに安心して利用できる避難所運営マニュアルの作成
7　災害時における女性の相談体制の整備
8　その他（具体的に：　　）
9　特にない

【男女共同参画に関する施策についてお聞きします】

問32　男女共同参画を進めるために、福島市は今後どのようなことに力を入れていくべきと思いますか。（3つまで○）

1　企業や団体等において、政策や意思決定の場への女性の登用を促進する
2　労働時間の短縮や保育・介護サービスの充実など、男女ともに働きやすい環境を整える
3　子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する
4　ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実する
5　男性の家事、育児、介護、地域活動への参加を促進する
6　DV・セクハラなど性暴力防止のための取り組みや被害者支援を行う
7　男女の身体的な違いに配慮し、生涯を通じた健康支援を行う
8　男女共同参画の視点からの防災対策を推進する
9　その他（具体的に：　　）
10　特にない
11　わからない

問33　あなたは、福島市の男女共同参画推進の取り組みについてご存じですか。
（それぞれ1つに○）

	内容までよく知っている	聞いたことはある	知らない
1　男女共同参画について	1	2	3
2　福島市男女共同参画推進条例	1	2	3
3　男女共同参画の推進に関する基本計画（男女共同参画ふくしまプラン）	1	2	3
4　福島市男女共生セミナーなどの講座の開催	1	2	3
5　おとう飯（はん）　※	1	2	3
6　男女共同参画情報紙「さんかくBook」	1	2	3

※、内閣府が進めるキャンペーンで、男性の料理参画への第一歩として、簡単で手間を掛けず、多少見た目が悪くても美味しい料理を「おとう飯」と命名し、広めていく取り組みです。

問34　あなたは、男女共同参画センター（愛称：ウィズ・もとまち）をご存じですか。
また、利用したことがありますか。（1つに○）

1　利用したことがある
2　知っているが、利用したことはない
3　知らない

問35　今後、「ウィズ・もとまち」に何を充実してほしいですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　セミナーや講座の充実
2　図書・情報収集、提供
3　相談機能
4　市民団体の交流、活動機能
5　その他（具体的に：　　）

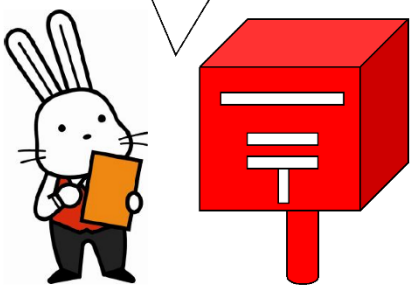
問36 「市民一人ひとりが個人として尊重され、性別により差別されることなく、自己の能力を発揮できる社会」へ向けて、あなたが日頃感じていることをお聞かせください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

切手をはったり、名前を書く必要はありません。

このまま同封の封筒に入れて７月３１日までに

投函してください！



お問合せ先

福島市男女共同参画センター
「ウィズ・もとまち」

〒９６０－８０３５
福島市本町２－６

TEL０２４－５２５－３７８４
（直通）

２　男女共同参画に関する意識調査の別紙

『男女共同参画に関する意識調査』（別紙）

※調査の回答後にお読みください

※この紙は返送の必要はありません

調査にご協力いただき、ありがとうございました。
問25と問26の言葉の意味について、解説します

※問２５の言葉の解説

1　セクシュアル・マイノリティ	ＬＧＢＴＱともいい、 ・自分の性別と同じ人を恋愛対象にする人 ・異性だけでなく、自分の性別と同じ人も恋愛対象にする人 ・「体の性」と「心の性」との間に食い違いがあり、自分の性別に違和感を持っていたり、異なった性別で生活したいと考えている人などです。 性的少数者の方々の中には、日常生活や現在の社会制度にさまざまな精神的苦痛を感じ、生きづらいと思っている方々もいます。
2　ＬＧＢＴ	レズビアン（Ｌ）、ゲイ（Ｇ）、バイセクシュアル（Ｂ）、トランスジェンダー（Ｔ）の頭文字を合わせた言葉で、性的少数者全体をいいます
3　レズビアン	女性の同性愛者（心の性が女性で恋愛対象も女性）
4　ゲイ	男性の同性愛者（心の性が男性で恋愛対象も男性）
5　バイセクシュアル	両性愛者（恋愛対象が女性にも男性にも向いている）
6　トランスジェンダー	「身体の性」は男性でも「心の性」は女性というように、「身体の性」と「心の性」が一致しないため「身体の性」に違和感を持つ人をいいます
7　カミングアウト	ＬＧＢＴであることを告白することをいいます
8　アウティング	本人の許可なく、性的少数者であることを他人に暴露することをいいます
9　ＳＯＧＩ	性的指向と性自認の略で、異性愛者を含むすべてのセクシャリティ（性的特質）を表す言葉です

福島市男女共同参画センターでは、すべての人が性別にとらわれず活躍できる社会を目指して、さまざまな講座や啓発事業、活動場所の提供を行っています
興味を持った方はこちらのホームページ↓からご覧ください

https://www.city.fukushima.fukushima.jp/danjokyodou/kurashi/kyodosankaku/kinou.html

福島市男女共同参画センター「ウィズ・もとまち」
〒９６０－８０３５　福島市本町２－６
℡０２４－５２５－３７８４（直通）

1

※問２６の言葉の解説

1　セクシュアル・ハラスメント	相手が望まない性的な意味合いを持つ言動のことをいいます
2　モラル・ハラスメント	無視などの態度や人格を傷つけるような言葉など、精神的な嫌がらせ・迷惑行為によって、巧妙に人の心を傷つける行為をいいます
3　パワー・ハラスメント	同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為をいいます
4　マタニティ・ハラスメント	職場において妊娠や出産を理由に行われる嫌がらせ、退職の強要、雇い止めなどをいいます
5　パタニティ・ハラスメント	職場において男性の育児休業を拒むなど、父性を発揮する機会を妨害することをいいます
6　ストーカー	同一の者に対し、つきまとい行為等を繰り返し行うことをいいます
7　ドメスティック・バイオレンス	殴る・蹴る、物を投げつける、暴言を吐く、無視する、相手が大切にしている物を壊す、外出を制限する、行動を監視する、生活費を渡さない、性行為を強要するなど、夫婦や恋人など親密な関係にあるパートナーからの身体や心への暴力をいいます
8　セクシュアル・マイノリティ	裏面の問２５の解説をご参照ください

差別、暴行、虐待、セクハラ、いじめ、体罰などの主な相談窓口

ま　ず　は、お　電　話　く　だ　さ　い

・ＤＶに関する相談窓口

○内閣府男女共同参画局「ＤＶ相談ナビ」０５７０－０－５５２１０

○福島市役所「女性相談員」　０２４－５２５－３７８０

・女性の相談窓口

○法務省人権擁護局「女性の人権ホットライン」　０５７０－０７０－８１０

○福島県警「性犯罪被害１１０番」　０１２０－５０３－７３２

・子どもの相談窓口

○福島県弁護士会「子ども相談窓口」０２４－５３３－８０８０

○法務省人権擁護局「子どもの人権１１０番」　０１２０－００７－１１０

○福島県警「いじめ１１０番」　０１２０－７９５－１１０

○福島県警「ヤングテレホン」　０２４－５２６－１１８９

○福島市役所「家庭児童相談員」０２４－５２５－３７８０

・人権に関する相談窓口

○法務省人権擁護局「みんなの人権１１０番」　０５７０－００３－１１０

○福島地方法務局「人権相談」　０２４－５３４－２０２１